

畫委員長クイブイシェフ氏の報告にもあ
る如く依然として重工業に重心を置き、
本年度の産業總投資額百二十億留の中、
實に九十二億留を重工業に充當してゐる
のである、而して本年度國民經濟の中心
は製鐵業、石炭業及び機械製造であるが

本年二月初旬開催のソ聯邦共產黨第十七
回黨會議の採擇せる本年度計畫の決議中
には製鐵業の生産高は鑄鐵九百萬噸鋼
鐵九百五十萬噸、銑鐵六百七十萬噸、良
質鋼鐵六十七萬六千噸、次に石炭業は石
炭採掘量九千萬噸、コークス一千三百
萬噸、之が爲めには全油田に亘り部分的
採炭機械化に留らず全作業行程を完全
に機械化すること、第三に機械製造業に
就ては本年中に國產機械の自給自足を以
て國民經濟基礎工事計畫の實行を保障し
得るよう、全國機械製造業を發展せしめ
ること、その内機關車輛製造計畫、製
鐵業及び石炭業用設備生産計畫の遂行に
は最大の努力を傾注することなど掲げら
れてゐる。
猶ほ三二年度の全聯邦發電所の計畫總

生産量は前年度の百六億キロ・ワット時
に對し百六十七億キロ・ワット時で、電
氣事業の擴張に前年度の豫算よりも八億
留の増額をする。

有色金屬では銅の生産高を前年度の五
萬三千噸から十萬噸に、亜鉛は一萬一千
四百噸から、二萬八千七百噸に、又、鉛
は一萬九千六百噸から四萬六千二百五十
噸に増産せしめる計畫で、有色金屬工業
に對する投資額は三一年度の三噸七千五
百萬留に對し六億留となるであらう。三
二年度の重工業發展計畫案中化學工業方
面には特別の注意が拂はれてゐる、これ
は化學工業は、農業、工業及び國防に密
接な關係があるからである、而して化學
工業に對する三二年度總投資額は前年度
の五億八千萬留に對し、六七千五百萬留
である。

三、輕工業實績

ソ聯社會主義再建の基礎たる重工業に
就いては前述の通であるが、輕工業も亦
相當の進歩を示してゐる。例へば一九一
三年に於ける全露のオーパシユニス生産

設費は四千五百萬乃至四千八百萬留、後
者は五千二百萬留である。

一九三二年に於ける映畫フィルム需
要量は八千五百萬米の豫想であるが、そ
の内四千四百萬米は國內で製造する計畫
である。計畫の發展費として二千五百萬
留を支出することになつてゐるがこれは
前年度の二倍半に相當する。

一般に輕工業第二次五ヶ年計畫に依れ
ば、日用品の生産高は之れを二倍乃至三
倍に増加することになつてゐる。その内
綿織物は二倍半、毛織物は五倍、麻織物
は六倍、絹織物は十八倍、石鹼は三倍、
靴類は三倍半といふのを大體の目標とし
てゐる。

電 化

一、電化の重要性と統制機關

ソヴェート聯邦の産業中革命前に比し
て最も長速の進歩を遂げ來つたものは電
化である。

レーニンは曾てソヴェートのやうに經
濟的技術的に遅れた國家を社會主義化す

高は二千七百萬足であつたが、三一年度
には五千三百九十萬足、即ち戦前の四倍
二五年の二倍強にあたる。靴は一三年八
百四十萬足、二五年八百萬足、三一年七
千六百八十萬足、即ち戦前より九倍、二
五年より九倍半となり、戦前手工業其他
に依り更に約八百五十萬足のを生産
してゐたとしても、その差は莫大なもの
である。而して今日の七千六百八十萬足
を以ても尙國內の需用をみたし得ない。
石鹼は、一九一三年九萬四千噸、二五
年八萬噸、三〇年十七萬六千噸、三一年
十八萬二千噸、紡績は一三年二十七萬噸
二五年二十萬八千噸、三〇年二十八萬四
千噸、三一年三十萬六千噸を示してゐ
る。

四、一九三二年度の輕工業

計畫

一九三二年に於ける輕工業の生産豫定
高は、前年度の増加率一二・二%に比し
二五・五%の増加である。これを各部門
別にすれば、綿織物二八%、亞麻織物の三
二%、皮革及び製靴の一三%、羅紗の四

る上に絕對必要な手段は電化であるとな
し、前國家計畫委員會議長にして、電氣
技師たりしクリヂヤノフスキー氏其他と
計り、一九二〇年ゴエルロ(國立電化委
員會)を組織し、同年十二月の第八回全
露ソヴェート聯邦において有名な電化十
年計畫を立案報告した。爾來電化は他の
産業部門に比しより急速なるテンポをも
つて發展し來つたが、現在この電化を組
織し統制する國家機關は左の如し。

電化の最高管理機關は聯邦國民經濟最
高會議幹部會であつたが一九三二年一月
同會議が重工業、輕工業、林業の三人民
委員部に分割再組織されてから、電化事
業は重工業人民委員部の所屬となり、同
委員部に燃料及動力部があり、之がエ
ネルゴツェントル(全聯邦動力經濟合同)
を監督し、エネルゴツェントルは電化事
業關係のトラスト及び地方事務所を統制
してゐる。之等機關の名稱及び所在地を
擧ぐれば次の如くである。

A 合同、エネルゴツェントル——モス
クワ、トラスト(一)エネルゴストロイ

六%、石鹼の一・二%等夫れ夫れ生産高
を増加することになつてゐる。輕工業の
労働者は百五十六萬六千人の豫定であつ
て、基礎建設費は前年度の二億一千二百
五十萬留に比し四億二千萬留に達する見
込である。

基礎建設の主なるものは、紡績業では
イワノゾオ・オズネセンスクに建設する
ことになつてゐる紡績工場、中央アジヤ
及びシベリヤに建設する豫定の大紡績工
場にして一九三三年七月一日迄には竣成
の見込みである。中央アジヤに建設され
る工場は専ら更紗と縴子を製造するもの
で、その能力は、錘數十萬紡織機械三千
五百臺にして一年に七千萬米の織物を製
造することになつてゐる。そしてその原
棉の消費量は八千二百五十噸、労働者の
數は五千人に達するであらう。シベリヤ
に建設する紡績工業は、錘數十萬紡績機
械二千三百五十臺を有し、三千五百萬米
を製造する見込である。そしてその原棉
の消費量は一萬三千三百屯、就業労働者
數は五千人に達する筈である。前者の建

—モスクワ、(二)ギドロエレクトロ
ストイ—モスクワ、

B 地方事務所(一)モグス—モスクワ

- (二)エレクトロトローク—レニングラ
- ード、(三)セフカフエネルゴウプラウ
- レーニエ—ドン河岸ロストフ、(四)
- ウラルエネルゴ—スウエルドロフス
- ク、(五)ドンエネルゴ—ハリコフ、
- (六)ザクエレクトロトローク—チフリ
- ス、(七)イワノヴオ・ウオズネセン
- コエエネルゴ—イワノウオ・ウオズ
- ネセンスク、(八)ニジエネルゴツエン
- トル—ニジニイ・ノウゴド、(九)ブ
- レス—ブリヤンスク、(十)ホグス—
- ハリコフ、(十一)ニジウオルエネル
- ゴ—サラトフ、(十二)ベルネエルゴ
- 白ロシア共和国、(十三)スレドネ
- ウオルエネルゴ—サマラ、(十四)ズ
- ウクエネルゴ—キエフ、(十五)ユジ
- ウクエネルゴ—オデッサ

二、電化事業投資趨勢
ゴエルロ計畫に依れば電化事業に總額
十二億金留投資さる、豫定であつた

四、新規建設中の発電所

發電所名	所屬合同	建設地方名	總額(百萬留費)
ドネプロストロイ	同	ウクライナ共和国キチカス	101.7
チエリヤビンスク國立地方發電所	同	ウクライナ共和国	135.0
スウエイリストロイ	同	レニングラード地方	130.1
ドウブフロスカヤ	同	同	101.1
ズエフスカヤ	同	ウクライナ共和国	75.0
ニジエゴロドスカヤ國立地方發電所	同	ウクライナ共和国	71.1
ケメロフスカヤ	同	ニジエゴロドスキイ地方	33.8
キゼロフスカヤ	同	西部	29.0
クズネーツカヤ	同	西部	33.4
ニワストロイ	同	レニングラード地方	30.0
リオンストロイ	同	後高加索共和国	28.3
ホブリニコフスカヤ	同	モスクワ地方	同
スレドネウラリスカヤ(スウエルドロフスカヤ)	同	ウララ	同
ユシスカヤ國立地方發電所	同	イワノウオ・ウオズネセンスク地方	60.0
イワノウオ・ウオズネセンスク國立地方發電所	同	同	33.6
マグニトゴルスク國立地方發電所	同	同	同
ヤロスラフスカヤ國立地方發電所	同	ヤロスラウリ市	20.3

産業

八五

が、エネルゴツェントルの資料に依れ
ば、ソ聯邦電化事業に對する實際の投資
額は次の如くである(單位千留)

一九一九—二〇年度	六五五
一九二〇—二一年度	二、六七七
一九二一—二二年度	五、八一六
一九二二—二三年度	四〇、〇二五
一九二三—二四年度	五二、六六二

三、一九三一年一月一日現在電化實績

順番	地方別國立地方發電所名	電力源	一九三〇年末現在の出カ	擴張中	建設中の出カ	一九三一年末の出力
1	A 白ロシア共和国	泥炭	—	—	三	三
2	B 白ロシア共和国	泥炭	—	—	三	三
3	C 後高加索共和国	石油及重油	—	—	—	—
4	セモ・アフチヤリスカヤ	石油及重油	—	—	—	—
5	クラスナヤ・ズウエズダ	石油及重油	—	—	—	—
6	クラシン名發電所(バック)	石油及重油	—	—	—	—
7	リオンスカヤ	水力	—	—	—	—
8	カナルキルスカヤ	水力	—	—	—	—

イシエフスク国立地方発電所	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
ギゼリドンスカヤ	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
ウオロネージュエレクトロセントラリ	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
サマラ国立地方発電所	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
カナキルスカ国立地方発電所	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
バグサンストロイ	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
カザンスカヤ(第一次工事)	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
サラトフ国立地方発電所	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
ベレルグ	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
北部ドネーツ国立地方発電所	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
ウラザウオストーク国立地方発電所	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
エゴルシンスカヤ	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
アツシヤロアハルツイスカヤ	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
ゾロゲトスカヤ国立地方発電所	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
チクメント国立地方発電所	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

五、擴大電化五箇年計畫

発電所類別	一九二〇年		一九二一年		一九二二年		一九二三年		一九二四年		一九二五年	
	十月一日現在の出力	十二月の出力	十月一日現在	十二月の出力	十月一日現在	十二月の出力	十月一日現在	十二月の出力	十月一日現在	十二月の出力	十月一日現在	十二月の出力
国立地方発電所	100,000	150,000	100,000	150,000	100,000	150,000	100,000	150,000	100,000	150,000	100,000	150,000
局地発電所(註一) 製造所・工場発電所(註二)	100,000	150,000	100,000	150,000	100,000	150,000	100,000	150,000	100,000	150,000	100,000	150,000
計	200,000	300,000	200,000	300,000	200,000	300,000	200,000	300,000	200,000	300,000	200,000	300,000

イシエフスク市	200,000	300,000	400,000	500,000	600,000	700,000	800,000	900,000	1,000,000
クバニ市	100,000	150,000	200,000	250,000	300,000	350,000	400,000	450,000	500,000
ウオロネージュ市	100,000	150,000	200,000	250,000	300,000	350,000	400,000	450,000	500,000
サマラ市	100,000	150,000	200,000	250,000	300,000	350,000	400,000	450,000	500,000
エリツク市	100,000	150,000	200,000	250,000	300,000	350,000	400,000	450,000	500,000
ナリチク市	100,000	150,000	200,000	250,000	300,000	350,000	400,000	450,000	500,000
カザン市	100,000	150,000	200,000	250,000	300,000	350,000	400,000	450,000	500,000
サラトフ市	100,000	150,000	200,000	250,000	300,000	350,000	400,000	450,000	500,000
白ロシヤ共和国	100,000	150,000	200,000	250,000	300,000	350,000	400,000	450,000	500,000
リユビモフスク村	100,000	150,000	200,000	250,000	300,000	350,000	400,000	450,000	500,000
浦潮斯徳市	100,000	150,000	200,000	250,000	300,000	350,000	400,000	450,000	500,000
エゴルシンスク市	100,000	150,000	200,000	250,000	300,000	350,000	400,000	450,000	500,000
バトウーム市	100,000	150,000	200,000	250,000	300,000	350,000	400,000	450,000	500,000
エリツク市	100,000	150,000	200,000	250,000	300,000	350,000	400,000	450,000	500,000
チクメント(カザクスタン)市	100,000	150,000	200,000	250,000	300,000	350,000	400,000	450,000	500,000

局地発電所(註一) 製造所・工場発電所(註二)	一九二〇年		一九二一年		一九二二年		一九二三年		一九二四年		一九二五年	
	十月一日現在	十二月の出力	十月一日現在	十二月の出力	十月一日現在	十二月の出力	十月一日現在	十二月の出力	十月一日現在	十二月の出力	十月一日現在	十二月の出力
計	100,000	150,000	100,000	150,000	100,000	150,000	100,000	150,000	100,000	150,000	100,000	150,000

国立地方発電所
局地発電所(註一)
製造所・工場発電所(註二)
電所(註一)
計

一九二〇年 一九二一年 一九二二年 一九二三年 一九二四年 一九二五年

十月一日現在 十二月の出力

出力(單位千KW)

国立地方発電所

局地発電所(註一)
製造所・工場発電所(註二)
電所(註一)
計

一九二〇年 一九二一年 一九二二年 一九二三年 一九二四年 一九二五年

十月一日現在 十二月の出力

出力(單位千KW)

農業

ソヴェート農業政策

由來露西亞は世界屈指の農業國として發達し來り、カナダと共に歐羅巴の穀倉と呼ばれて來た。従つてロシアにおける小麦の豐凶は、世界の小麦値段を支配するほど大きな影響をもつて來た。

然るに一九一六年以後ソヴェート革命の目標とする社會主義建設は、國家經濟の農業的基礎、換言すれば農主、工従を變じて、工主、農従の國家たらしむると共に、進んでこの農業の經營形態をも社會化することが絶對に必要であつた。

勿論一九一七年十一月の革命によつて、地主、教會その他に屬した土地を收奪して、これを農民に分ち與へ、土地革命を遂行した。然しながら、土地革命だけでは農業革命は遂行されなかつた。

産業

土地を分ち與へられた農民の間には何時の間にか、その主體的並に客觀的條件の相違に應じて貧農の懸隔が著しくなり、富農(クラター)、中農(スレズニヤク)、貧農(ベズニヤク)の三階層が発生した。一九二二年新經濟政策の採用によつて富農に或程度の經濟的讓歩が與へられるに至り、この三階層中最も有力となり來つたものは富農である。彼等は商品穀類の主たる生産者となり、ソヴェート經濟生活において不可欠の要素となつた。新經濟政策の持つ重要意義の一は、實にこの富農に讓歩して彼等の經濟的能力を有効に利用することであつた。其後一九二五年に至り、ソヴェート政府はトロツキー、ヂノウイエフ、カメネフ等反對派の反對を斥けて農村における土地賃貸の自由、農村勞働者雇傭の自由等を認め、いはゆる新々經濟政策を施行して、富農及び中農上層部への第二の讓歩を示した。

然るにかゝる讓歩の結果、富農の經濟力は高まり、その弊害も亦増大するに至つた。即ち彼等の投機性による穀物供給の逆調急速に發展する社會主義的大工業との矛盾の増大、貧農に對する榨取的傾向の増大、ソヴェート國內資本主義的殘存諸力の培養等は其主要なものである。

そこでソヴェート國家として農業を舊態のまゝとゞめておくことが不可能となつた。斷乎たる手段をもつて富農の榨取的傾向と闘ひ、之を清算して、農業革命を遂行することが當面の必要となつて來た。

一九二七年十二月の第十五回共産黨大會は實にこの農業革命への決定的轉向を指示した點で記憶すべき大會であつた。而してこの農業革命の手段としては從來極度に細分され半封建的生産の形態にとゞまつて來た農業を大農式に集團化し社會化することであつた。と共に行政的手段をも含めて富農の活動を削減し、進んで階級としての富農を清算し去ることであつた。一九二八年から着手の五箇年計畫は別項當該欄に掲載の通り、その主要目標をこの點においてゐたのである。

この新政策への轉換は然しソヴェート國內において重要な反對に逢つた。プハリリン、トムスキー、ルイコフ、ウグラーノフ等を中心とする共産黨の一部幹部は、がゝる急激なる農業革命の斷行に反對し、富農との協調持續を主張して、スターリン、モロトフ、カガノウイ等左翼幹部の前に脆くも敗れた。爾來、ソヴェートの農業は、史上にも會て見ない急激なるテンポをもつて、集

團化・社會化の道を急ぎ、一九三二年末第一次五箇年計畫の最終年度には全國貧中農の全部は基礎的に集團代を終るべきことがスターリン等によつて豫想されてゐる。以上がソヴェート政府農業政策變遷の概要である。

ソヴェート農業社會化趨勢

Table with columns: 項目, 單位, 絕對, 對比率, 前年ニ對スル比率年. Rows include 社會化部分の總播種面積, 社會化部分の穀物播種面積, 社會化部分の工業作物播種面積, and 聯邦工業用耕作物總播種面積.

農業の實績

一、農村の社會化過程

ソヴェート農業の急激なる社會化過程を表示すれば左表の如し。(但し本表に現れた一九三一年の數字は豫想を含むものである。)

Table with columns: 穀類, 棉花, 亞麻, 甜菜, 畜肉, 畜乳, 羊毛. Rows show production in 1927 and 1928 against 1927 levels.

二、ソウホス(國營農業)

一、一九二八年以來ソヴェート聯邦に於ける穀物ソウホーズ(粒穀國營農業)は年を逐ひて發達し其の作付反別は一九二八年の百萬ヘクタールより三〇年には三百九十萬ヘクタールに上り、一九

三一年における粒穀以外の作物をも含む作付反別總面積は一千二百三十萬ヘクタールに達した。此數字は今一九三二年において一千四百萬ヘクタールを豫想されてゐる。二、牧畜ソウホーズ並に工業原料作物

栽培ソウホーズも亦穀物ソウホーズに劣らざる發達を遂げ一九三〇年中在記諸トラストの組織を見た。

- (イ) スコトボオド(牧畜トラスト) ソウホーズ百四十を併せ土地二千萬ヘクタール及家畜百二十萬頭を有す
(ロ) スヴィノヴオド(養豚トラスト) ソウホーズ三百五十を併せ土地百二十萬ヘクタール及豚二十一萬八千頭を有す
(ハ) オフツェヴオド(養羊トラスト) ソウホーズ百五十を併せ土地一千三百萬ヘクタール及羊二百七十萬頭所有す
(ニ) マスロレスト(牛酪製造トラスト)
(ホ) 亞麻栽培ソウホーズトラスト
ソウホーズ五十六を併せ亞麻及大麻作付反別八千ヘクタール所有
(ヘ) 綿花栽培ソウホーズトラスト ソウホーズ十六を併せ綿花の作付反

別四萬五千ヘクター所有
右各トラスト所屬ソヴホーズが一九三〇年中國家に賣渡した各種生産物は總額二億留を突破した(其の中穀物七千二百萬布度、肉類百餘萬布度、甜菜一億八千萬布度、實綿六十七萬布度)

三、コルホス(集團農業)

ソヴェート聯邦の農業社會化運動は工業化運動と共に五箇年計畫の中心スローガンをなすものだけにその躍進振りには正に世界駭目の對象となるに至つた。試みに其主要形態たるコルホス(集團農業)を見るにその發達は

年加入農家數		全農家に對する%
一九二九年	一、一〇〇、〇〇〇戸	七六%
一九三〇年	五、五〇〇、〇〇〇戸	三三%
一九三一年	一五、〇〇〇、〇〇〇戸	六〇%

といふ趨勢で一九三二年には基本的に全農家の集團化を完了するといふのがスターリンを始め黨及政府首脳部の計畫となつてゐる。尙本年に至る五年間のコルホス、ソウホス組織による農業社會化運

動に對し國家の資金投下額を示せば左の如し。(單位千ルーブル)

新規投資額	一九二八年に對する増率	
一九二八年	一三、八〇〇	一〇〇%
一九二九年	二四、二〇〇	一八・五%
一九三〇年	六三、二〇〇	五三・二%
一九三一年	一、七四、八〇〇	一二三・三%
一九三二年	二、〇〇、〇〇〇	一、五四%

即ち一九三二年度は二十億八千萬留を投資し一九二八年に比し一、五六四%といふ激増を示すべき豫定となつてゐる。

四、一九三一年農業實績

一九三一年のソ聯邦農業實績については、本年鑑五箇年計畫欄において相當詳細に記述されて居るから、こゝには主要なる數字についてのみ表示することとする。

一、ソ聯邦播種總面積

一六、六〇〇、〇〇〇ヘクター

播種期別

A 春 蒔	七、四〇〇、〇〇〇ヘクター
B 秋 蒔	九、二〇〇、〇〇〇ヘクター

經營形態別

A ソウホズ	一三、三〇〇、〇〇〇ヘクター
B コルホズ	六、四〇〇、〇〇〇ヘクター
C 私 營	五、八〇〇、〇〇〇ヘクター

即ちソ聯邦播種總面積一億三千六百萬ヘクターで、これを一九三〇年と比較する時は一千二百三十萬ヘクターの増加である。社會化形態ではコルホズの進出目覚ましく八千八百四十萬ヘクターに達し、これにソヴホズの一千二百三十萬ヘクターを加へる時は、一九三一年末の社會化農場合計一億七十萬ヘクターの廣大面積を示して居る。播種總面積の中工業用耕作の内容左の如し。

綿花	二、一三七、〇〇〇ヘクター
亞麻	二、三三八、〇〇〇ヘクター
甜菜	一、三七六、〇〇〇ヘクター
其他	八、二二八、〇〇〇ヘクター
合計	一四、〇七九、〇〇〇ヘクター

五、一九三二年計畫

一九三二年度ソ聯邦農業計畫に就き具體的な數字を擧ぐれば左の如くである。一、一九三一年の春播作物の面積は九千七百四十萬ヘクターであつたが、本年は

ソ聯邦まで増大すること。

五、本年中農業に對する生産手段の配給は次の如くすること。

イ、國產トラクター百馬力以上

ロ、國產農業機械九億ルーブル、その大部分は取入機械とす。

六、機械・トラクター・ステーションの數を三千百箇所とし、トラクター・パークの設備能力を百十三六萬馬力とし、これがため新規機械・トラクター・ステーション千七百箇所を設置すること。

七、畜産聯合の飼育頭數を昨年の二百十萬頭に比し本年は二百九十五萬頭とすること、豚業聯合の飼育頭數を昨年の

百萬頭に比し二百九十萬頭にすること

羊業聯合の飼育頭數を昨年の四百七十八萬頭に比し七百三十萬頭にすること。

八、バター製造組合の飼育頭數を昨年の二十一萬六千頭に比し三十二萬頭に増大すること。モロコリホズツエント

ル(ミルク製造中央集團農場)の飼育場に於ける牝牛頭數を二百七十萬頭とし

豚業コルホズ・ツエントルの飼育場に於ける豚頭數を四百五十萬頭とし、羊業コルホズツエントルの羊頭數を九百萬頭とすること。

八、農業人民委員會の畜産同盟トラストが商品として引渡すべき肉類を十六萬二千二百トンとし、そのミルクを五十四萬三千トンとす。而して集團農業商

品牧畜農場は商品として肉類十八萬二千トンミルク百三十七萬五千トンを引渡すこと。飼料作物の最小限度を七百九十萬ヘクターとし、壓搾保存飼料作物の播種面積を百二十萬ヘクターとすること

九、農業への資本投下總額を四十三億六千萬ルーブルと決定する。(昨年は三十六億ルーブルであつた)

播種面積を一億二千萬ヘクター増大すること。綿花播種面積は昨年中二百十三萬七千ヘクターであつたが本年は二百四十三萬七千ヘクターに増大すること、亞麻は昨年の百六十四萬九千ヘクターに比し二百三十三萬ヘクターに増大すること。

二、越年作物は昨年中三千九百萬ヘクター播種されたが、本年は四千二百ヘクターに擴大すること。

三、ソフホーズに於ける春播及び越年作物の播種面積は一千四百萬ヘクターと決定すること。コルホーズの播種面積一億八百萬ヘクターと決定し、その内春播作物は七千六百萬ヘクター以上とする。機械・トラクター・ステーションの播種すべき面積は四千八百萬ヘクターとし、その内三千三百萬ヘクターはこれを春作物に當てること。

四、一ヘクター當りの收獲率を穀粒は八・五セントネル、甜菜は一四・五セントネル、綿花は八・七・セントネル、亞麻、大麻は二・六セントネル、日向葵は六セ

勞

働

勞働法

一、沿革

ソ聯邦に於ける勞働法はレーニンの所謂「働らざる者、食ふべからず」なる鐵則のもとに編成され、徹頭徹尾勞働者の利益を原則とし、一般雇傭勞働者（國家機關及び事業、公共及び個人の事業並びに機關、軍事上の機關勞働者は元より、家庭内の勞働者即ち女中の如きをも含む）に適用せられるものであつて、勞働法に規定する勞働條件より不利な勞働契約又は合意は總て無効なりと定められ、絶大な權利を勞働者に附與してゐる。

最初の勞働法は一九一八年ソヴェート政府樹立後間もなく發布されたものであるが、其後國內の經濟的事情變遷の結果殊に新經濟政策實施以後改訂の必要を生

じ、遂に一九二二年十一月十五日より改正勞働法の實施を見るに至つた。併し其後も猶ほ幾多の改訂（後章記載）を加へられて現在に至つてゐる。猶ほ現在の勞働法は「ロシヤ」社會主義聯邦ソヴェート共和國勞働法（クゾート）と稱し十七章百九十二條より成つてゐる。

二、雇傭

ソヴェート市民は勞働部の機關を通じて任意雇傭手續をとることが出来る。併し求職者が政治的の信頼あり、又は特殊の技能を有する場合には勞働部を経由しないで直接雇はれることがある、しかし此場合には雇傭契約成立後勞働部の當該機關に登録しなければならぬことになつてゐる。

三、義務勞働

天災又は重要な國家的事業遂行の爲め勞働力の不足を生じたる場合には、總て

約を締結したる職業組合の組合員たる否とに拘らず、當該企業若くは機關に於て勞働する總ての人々に之を適用するものである。

五、勞働契約

勞働契約は團體契約の有無に拘らず左の場合に締結するものである。

(イ)一ケ年を越えざる一定の期間を定める場合

(ロ)期間を定めない場合
(ハ)一定の仕事の完成に必要な期間の勞働

水續的性質の仕事の場合には雇入れ決定前、筋肉勞働者は六日以内、資格を要しない責任の軽い仕事に従事する従業員は二週間以内、又、責任の重い仕事の従業員に對しては一ケ年以内の試験期を設けてから勞働契約を結ぶことが出来るとしてある。

雇傭主は當初の契約に關係なき仕事並びに明らかに生命に危険ある仕事、若くは勞働法規の規定に適合しない仕事を要求することが出来ない、又、被雇傭者を

のソヴェート市民は人民委員會若くは其の委任を受けたる機關の特別命令に従つて義務勞働につかなければならないことがある。併し左に掲ぐる者は義務勞働を免除せられるとしてある、それは、

- (イ)十八歳未満の者
- (ロ)四十五歳以上の男子
- (ハ)四十歳以上の婦人
- (ニ)病氣若しは負傷の爲、一時的勞働不能者にして其恢復期にあるもの
- (ホ)妊婦（分娩八週間前後）
- (ヘ)乳兒を有する婦人
- (ト)勞働及軍事に依る傷病者
- (チ)他に扶養者なき八歳以下の子供を有する母親

四、團體契約

ソヴェート勞働法に云ふ團體契約とは被雇傭者を代表する職業組合と、他方雇傭主との間に締結せられる契約であつて個々の企業、經濟機關其他のため勞働及雇傭の條件を定め、且將來の個人的雇傭契約の内容を決定するものである。そして團體契約の條件は、其の人々が團體契

れたる場合、並びに被雇傭者が一ケ年以上に亘り逮捕收監せられたる場合

- (一)被雇傭者が相當の理由なくして一ケ月中に合計三日間以上作業に出頭せざる場合（一九二七年八月二十二日全露中央執行委員會議決定）
- (ト)被雇傭者が一時的に勞働不能となり、其時より二ケ月を経過するも猶ほ缺勤する場合、並びに妊娠中及分娩後の者は四ケ月の期間の外、更に二ケ月間復業し得ざる場合

六、勞働に對する報酬

勞働報酬は普通勞働時間（八時間―七時間）以下の場合時間拂とし、或は仕事の出来高拂となる。規定時間外の勞働に對する報酬は特に契約に指定しなければならぬ。此の場合最初の二時間に對しては普通報酬の一倍半又其以後は毎一時間の就業に對しては二倍以上、休日或ひは祭日の就業に對しては二倍以下たることを得ないとしてある。

仕事は恒久的性質を有する場合には二

週間に一回以上の割合を以て定期的に勞銀を支拂ふのである。

七、保障及び賠償

赤軍に召集せられたる勞働者及び從業員は召集の爲、退職の際向ふ二週間分の平均賃銀を受取る。

勞働時間中選舉權の行使を許されて居る場合には選舉權行使の爲めに要する時間中平均賃銀の支拂をうけることになつてゐる。又、働勞者及び從業員が雇傭者の用務の爲め出張する場合には、其の出張の全期間中地位を維持し、且平均賃銀の外、一日につき一ヶ月の賃銀額の三十分の一を下らざる日當を受けることができる。又、働勞者及び從業員が雇傭者の命令により他の地方へ移轉又は住所の變更を要する場合には實際賃銀のほか移轉による出費、滞在期間及び其後の六日間一日に就き一ヶ月の賃銀の三十分の一の計算により日當の支拂をうけることが出来る。

勞働契約の章の(イ)(ロ)(ハ)に規定したような理由で、期限付又は期限を附せ

ざる勞働契約が取消されたる場合には雇傭主は被雇傭主に對し二週間分の賃銀に相當する解雇手當を支拂ふか、又は二週間前に解雇通告を爲さなければならぬことになつてゐる。

一時勞働不能となつた勞働者及び從業員は病氣の場合は三ヶ月以内、又妊娠及分娩の場合は四ヶ月以内企業又は機關に於て現職に留まることになつてゐる。

八、勞働時間

標準勞働時間は一九二二年制定の勞働法では八時間であるが、一九二七年十月十五日の聯邦中央執行委員會の宣言書は七時間勞働の實施を決定し、一九三三年十月一日までに總ての工業、交通、通信勞働者に七時間制を徹底せしむべく意氣込んでゐる。それと同時に一週五日制を採用するに至つたが、該制度が所期の効果を收め得ない事實が明らかになつたので一九三一年十二月一日から再び六日制を實施する旨聯邦人民委員會議令を以て布告した。その内容左の如し。
『五日制連続生産週間に勞働制度の根

本的形式とする點は依然變りないが、連續生産制の實施中發生した缺點を是正する目的を以て來る一九三一年十二月一日以降、各種機關に對し、一時的に一週六日休日週制を採擇する。但し供給企業部門と直接關係ある各企業並びに消費組合、店舗、食堂、自治機關運輸等一般人民の文化的、物質的必要に應ずる各機關は依然無休週間を持続する。

一週六日休日制を採用する各企業は各月の六日、十二日、十八日、二十四日、三十日を以て一般的休日と定む、同時にこれら企業の勞働時間を六時間半から六時間に短縮する。』

猶ほ勞働法によると標準勞働時間を超過する職業は原則的に、十八歳以下の者は絶對に、又、遅刻によつて失ひたる時間を補ふ爲めの残業を禁止せられてゐる。

九、休 暇

總ての勞働者は毎週四十二時間より少なからざる連續的休暇を受くることにな

一、争議解決及び勞働に關する法規違反事件審理機關

勞働に關する法規違反事件並に雇傭勞働適用に關する總ての争議は(一)人民裁判所の特別法廷に於ける強制的手續(二)評價争議委員會、(三)調停委員會及び、(四)争議當事者の同數代表者に依り組織せられる仲裁々判所の仲裁手續により解決するものであるが、前記の機關は總て各特別の規程に基いて行動するものである。

(一)人民裁判所特別法廷

同法廷は勞働法、勞働に關する其他の總ての法規並びに團體契約の違反にして刑事手續に依つて追訴を受くべきものを取扱ふ。

同法廷の組織は議長たる人民判事及び委員二名を以て構成し、委員の一名は勞働部代表者とし、他の一名は職業組合團體の代表者である。

(二)評價争議委員會
評價争議委員會は團體契約及び勞働契

一〇、婦人及未成年者の勞働

五ヶ月半より短くない期間連續的に勤務したる者に對し、一月に一回二週間を下らざる定期休暇を受けることが出来る。又、十八歳未満の者の定期休暇は一ヶ月を下つてはならないことになつてゐる。

婦人及び十八歳以下の者を夜業に従事せしめ、又健康上有害なる作業及び地下の仕事に雇傭せしめてはならない、それから筋肉勞働に従事する婦人に對しては産前及産後各八週間、又、事務其他智識勞働に従事する婦人に對しては各六週間勞働を免除する。

授乳を要する母親には一般休憩以外に授乳のため餘分の休暇を與へ、且つ授乳の休憩は毎三時間半以内の間隔を置き、三十分以上繼續しなくてはならない。授乳時間は勞働時間に算入する。

十六歳未満の者は雇傭を禁止、特別の訓令を以て十四歳以上の未成年者を雇傭することを許可してゐる。

此他左記祭日には勞働に従事することを禁じられてゐる。

- (イ)一月一日(元旦)
 - (ロ)一月二十二日(舊露曆千九百五十五年一月九日記念日)
 - (ハ)三月十二日(獨裁政治顛覆記念日)
 - (ニ)三月十八日(巴里コムミュン記念日)
 - (ホ)五月一日(インターナショナル記念日)
 - (ヘ)十一月七日(無産階級革命記念日)
- 一九二七年以降は十一月七、八日の二日間休日)

休日及祭日の前日に於ける勞働時間は六時間を超過してはならないことになつてをり、此場合九一日の賃銀支給をうけて出來高拂の仕事では就業しない時間に對し相當等級の賃銀率に依つて割増手當を

約の適用に關し發生する爭議並びに特に本法に規定したる問題に限り審議するものであつて、評價爭議委員會では事件の解決は當事者双方の合意によるとしてあり、合意が成立しない時は該事件を上級裁判に移すことが出来る。

但し評價爭議委員會にとつて團體契約の本質に反する爭議、團體契約の一部廢棄の要求、團體契約に新たな條件若しくは補足の條件を挿入する要求はその權限外である。

(三) 調停委員會

當事者双方の同意に依り、事件を調停委員會に附することが出来る。事件を調停委員會にかけうる場合は右當事者双方の同意によるほか、爭議委員會に於て解決を見なかつた場合である、調停委員會における事件の解決も専ら兩當事者の合意によるものとしてある。

(四) 仲裁裁判

事件が調停委員會に於て審理せられたるものなると否とを問はず、當時者双方の同意により之を仲裁裁判に附することが

負擔をも課せられないのである。是れソヴェート社會保險法の最も顯著なる特色にして世界に比類なきものであるが、同法制定の精神に鑑みソヴェート・ロシアとしては當然の事なりとも謂ひ得るのである。

(一) 一時的勞働不能の期間賃銀全額の手當金を給與すること。

負傷又は疾病に因り若くは分娩前後の一定期間又は家族の病氣看護の爲に一時勞働不能の場合或は近隣に發生したる傳染病の爲め隔離せられて一時勞働不能に陥りし場合には賃銀全額の手當を支給せらるゝものにして是亦他國に類例なき一特徴と謂はねばならぬ。

(ホ) 社會保險機關が被保險者に依り經營せらるゝこと。

社會保險の全機關は被保險者が一定の順序方法に依り選出したる代表者に依つて管理經營せられつゝありて、他國の企圖し得ざる特徴なりと誇稱せられてゐる。これ革命前勞働者の高唱せし「社會保險機關は之を被保險者即ち勞働者の手

出来る、而して國家營造物及企業に於ける爭議の場合には勞働部の機關は職業組合の請求に依り仲裁裁判所を組織する。

社會保險

一、ソヴェート社會保險

概観

ソヴェート聯邦の社會保險法は勞働法典中の一章を成し、第七十五條より第九十二條迄全十八條の極めて簡單なるものである。今、其特徴と稱すべきものを列擧すれば、

(イ) 社會保險の總ての種類を網羅し、保險範圍の極めて廣汎なること。

雇傭勞働者に起り得る有らゆる生活上の事故、即ち疾病、負傷、出産、廢疾、老衰、死亡、失業は勿論傳染病に因る隔離、家族の病人看護等勞働の不能及び勞働機關の喪失に對する總ての場合を悉く網羅し、且其或ものに至りては被保險者の家族にも及べるは特徴の一に數ふべきである。

(ロ) 被保險者の範圍の廣汎なること。

に收めねばならぬ」との要求を容認したるものなれども、一面より云へば各種産業機關の大部分が國營であり、從て有力なる事業主なきソヴェート・ロシアに於て又政府當局自身が悉く被保險者たる關係より觀れば敢て異とするに足らざることにして、他に比類なき國情を有するもの、當然の結果とも謂ひ得るのである。

二、社會保險料

社會保險經營に要する全費用は保險料に依り支辨せらるゝのである。ソヴェート聯邦の社會保險料は被保險者の報酬に保險料率を乗じ算出するものにして賃銀比例主義によるものである。而して保險料率には二種類あつて、一は被保險者の從事する企業の種類、性質、即ち危險、有害の程度に應じて定むる正規料率で、四等級に分類せられ、特に保護を必要とする特殊企業を除きたる總ての私、國營商業、國營輕易工業、一般企業の從業者に適用せらるゝ正規の保險料率で賃銀の一六乃至二二パーセントである。

ソヴェート・ロシアの社會保險は強制保險にして、全部の被保險者に對し之を適用し、苟も他人に雇はれて報酬を受くる者は國籍、勞働の場所、種類、性質、期間及報酬の多寡、支拂方法等の如何を論ぜず、悉く被保險者である。強制保險なるを以て雇傭せらるゝと同時に當然被保險者たるものにして、被雇傭者の意志如何に依るものではない。又所謂筋肉的勞働者のみに適用するにあらずして智的若くは事務的勞働者等勞務に従事する被雇傭者一切を包含し、極めて廣汎に適用せらるゝものである。從つて被保險者の範圍の廣大なることは諸外國に其例を見ざるものである。

(ハ) 保險料金額が雇傭主の負擔なること。

社會保險の料率は業務の種類により差等あるも、其料率の高低に拘らず、又、雇傭主が個人たるも法人たるもソヴェート・ロシア政府自身たるを論ぜず、將又外國人たるを問はず、保險料の全部は雇傭主の負擔に屬し、被保險者は何等の

他の一は政策上保護助長すべき特殊企業に對し、負擔輕減の目的を以て特に規定する低率の料率、即ち特定料率であつて一〇乃至一四パーセントに過ぎないので、保險料金額を負擔すべき事業主にとつて尠なからぬ負擔輕減となるのである。特定料率を適用せられるのは國營金屬工業(一〇%)、電氣機械工業(一〇%)、交通省管理の各種運輸企業(一二%)、家庭勞働(保母、下女、乳母其他)(一〇%)等である。

勞働賃銀

一九三二年四月中旬開催された全聯邦勞働組合中央會議第九回大會に提出された同中央會議の報告中勞働者の賃銀と能率に關する部門は大要左の如くである。

一九二八年と一九三二年の一年平均賃銀を比較すると同期間中全國民經濟を通じ七〇二ルーブルより一、一〇一ルーブルに増額されたがこれは即ち五六・八%方の増大である。而して本年は一、二

○二ループルに増額する計畫である。全ソ聯邦労働組合中央會議は以前國民經濟諸部門に於ける賃銀を平準化する方針を取つてゐたが、これでは作業率に影響するので一兩年來各經濟部門間の賃銀を規

制調節し、この點に於て良好な結果を納めるやうになつた。今右報告によつて過去及び現在の各種産業部門に於ける賃銀動態を擧げると左の如くである。(單位一ループル)

一ヶ月平均賃銀	對する増額百分率	
	一九二八年	一九三一年
一、機械工業	九二・九四	一〇二・八七
二、復寫工業	九〇・三四	一〇九・〇〇
三、製靴工業	八六・七二	九六・五四
四、金屬加工	八五・八二	一〇三・八八
五、皮革及び毛皮業	八五・七〇	一〇八・四〇
六、化學工業	八二・〇九	九五・二五
七、石油精製業	八一・三〇	一〇二・四九
八、裁縫業	七九・七九	一〇一・五〇
九、石油探掘業	七七・九五	一一〇・九〇
一〇、製鐵業	七五・六一	一一八・九〇
一一、食品工業(砂糖を除く)	七五・六一	一一八・九〇
一二、製紙業	六七・〇四	一〇二・九四
一三、羊毛業	六三・七四	八七・九四
一四、石炭業	六三・二七	九一・一〇
一五、製材業	六〇・九八	七四・六六
一六、綿業	五九・八九	九三・九五
一七、亞麻加工業	四一・五八	八五・〇九
右一七部門平均	七〇・九四	七〇・〇一
右の如く賃銀はこの數年間に激増し本年の一年平均賃銀は五ヶ年計畫によつて定められた一九三三年度分平均賃銀より二〇・九%方多くなつてゐる。	一一・三三	一一・三三

労働組合

労働をもつて立國の大本とする現在のソヴェート聯邦に於ては、労働者の組合機關たる労働組合(職業組合)の規模は極めて廣汎なものがあり、その勢力も、亦、絶大である。レーニンはプロレタリア獨裁制下における労働組合の役割を評して「共產主義の學校」と云ひ、又、第二

一九三〇年四月一月現在全聯邦労働組合員數を示せば左表の通りである。

組合種類	總人數	就業者内	失業者内
一、農業及林業	六九・九	五五・六	一四・三
二、製紙業	四・九	四・一	〇・八
三、鑛業	五九・一	五六・七	二・四
四、木工	一九・三	一六・七	二・六
五、皮革	一六・五	一五・八	〇・七
六、金屬	一一・九	一〇・九	一・〇
七、印刷	二九・七	二五・四	四・三
八、食料	四〇・八	三〇・六	一〇・二
九、砂糖	九・一	七・六	一・五
一〇、紡織	八六・七	七二・七	一四・〇
一一、化學	三四・一	二九・四	四・七
一二、縫紉	二五・五	二〇・一	五・四
一三、建築	九四・八	六九・三	二五・五
一四、水上	一七・六	一〇・一	七・五
一五、鐵道	一〇六・二	九五・三	一〇・九
一六、海上運輸	一八・四	一五・〇	三・四
一七、郵便	二〇・七	一六・八	三・九
一八、藝術	四八・八	五・七	四三・一
一九、醫、衛生	五八・三	四八・七	九・六
二〇、教育	八五・五	七〇・二	一五・三

二、國營商業 一、二九・二 一、〇八・四 一、二〇・六
 三、公共事業 二六〇・八 一三七・五 一二九・三
 三、給養 三六・六 二二・九 一三・七
 合 計 二、七〇、一 八、八六、八 七六、三

上記ソヴェート聯邦労働組合全體の統一的中央機關は、全ソ聯邦労働組合中央會議であるが、一九三二年四月二十日モクスクワに開催の第九回全聯邦大會に於て選出されたる主なる幹部員氏名左の如し

一、幹部會員——シウエルニク、カガノウイツチ、ボスツイシエフ、ロゾフスキ等。(總數九十一名)

二、名譽幹部會員——スターリン、モロトフ、カガノウイツチ、カリニン、ウオロシロフ、オルヂョニキエ、アンドレエフ、キトロフ、コツシヨール、クイブイシエフ、シウエルニツク、ボスツイシエフ、ルズターフ、ミコヤン、マヌイルスキー、ピヤトニツキ、ロゾフスキー、スリモフ、ブリユエール、テールマン、ビーク、モンムツソ、エンメリツヒ。

三、書記長——シウエルニク。

同全露職業者組合に於て、「労働組合は新しき社會の主要なる建設者である。何となれば新社會の建設者は數百萬の大衆に外ならないからである」と云つてゐる。斯の如く労働組合の意義は重要である。然らば此労働組合は如何なる組織になつてゐるのであるか。労働組合は同一企業、若くは同一種の職業に従事する労働者により組織せられる所であつて、別表示すが如き二十三個の職業組合があり、各組合の最高機關は職業組合大會であつて、同大會に於て組合中央委員會を選出する該委員會は各組合の代表者として各國家機關、大會、會議等に出席する權利を與へられてゐる。而して全聯邦労働組合の最高機關は「聯邦労働組合中央委員會」である。

労働

外國貿易

外國貿易の組織

一、政府獨占事業たる外國貿易

ソヴェート聯邦の外國貿易は國家の獨占で、之は一九一八年四月二十二日附法律に依り初めて確定した。斯の如き經濟政策との變化して確立された外國貿易政府獨占の根本主義が其後變化なく今日に至る迄繼續して居る。

此獨占は外國貿易人民委員部の手中に在て、此委員部の許可なくして、又は特に勞働防衛會議に於て定めたる法律に依るに非ざれば、又人民委員會議の協賛を経たコンセッションを得るに非ざれば會社若は個人が政府と共同で、或は獨立して輸出入貿易に従事することは出来ない。此種の特權は極めて限られた關係者にのみ

み與へられるもので、多くは特殊の商品に制限されて居る。

二、外國貿易人民委員部

一九二五年に外國貿易委員部及內國貿易委員部の二を併合して設けた内外貿易委員部は、五年後即ち一九三〇年十一月二十二日の法律に依り再び元の二箇の獨立した機關に分立された。斯くして外國貿易委員部は再生したが、內國貿易委員部は給糧委員會と稱せられることになった。斯の如く監督權を分轄した原因は外國貿易及內國商業が夫々別々の方向に發展し、従つて之を統制する方法も獨立したものでなければならぬと云ふ所にある。內國商業にありては資本的要素は卸賣業に於て全く見られず、小賣業に於ても極めて限られた範圍に過ぎない。殊に産業化が一層進展し、其中心地に多數の人口が集まるに連れ、是等の人口に食

糧品其他の日常品供給は日に日に恐る可き數量に達する爲、之には特殊の政府機關が不斷の監督を行ふ必要がある。他方外國貿易は資本主義的要素を多分に含で行はれ、而も國際的の競争を避けることが出来ない。外國及內國貿易の兩者に關する問題は今や全く別箇のものとなり、之を同時に監督することは最早不適當と考へらるゝに至つた。

外國貿易委員部は一の全露委員會で、換言すれば國營主義の下に全ソ聯邦の外國貿易を統制し、國內及國外の如何を問はず、外國貿易に従事する凡べての機關の活動を監督するものである。

初の間は此委員部自ら實際の取引を行たが、漸次其直接保護の下に在る他の機關に委任するに至つた。

此外國貿易委員部が再開されてより半年を経過して居るにも拘らず、其定款は未だ正式の許可を受けて居ない。然し近き内に公布されるものと思はれるが、現在では一九二三年十一月十二日に定められた先の委員會の定款が用ひられて居る。

外國品輸入に關する改良方法の調査である。同會議の決議は委員會の承認を得て初めて効力を發生するものである。

三、委員部の内外代表機關

ソ聯邦内に於ては外國貿易委員部を代表するものは、各組合及自治共和國内の人民委員部若は必要と認められた團體に附屬の特別の派遣員で、外國に在てはソ聯邦の名に於て商取引を指揮監督する目的を以て設立された通商代表部が代表して居る。此等通商代表部は外國貿易委員會の支部であると共に、國外に於けるソ聯邦外交機關の一構成要素となつて居る。各聯合及自治共和國内の委員部代表派遣員の任務は、主として各地方の外國貿易機關が委員會の命令を實行するや否やの監督、輸出入貿易策の作成及地方に於ける輸出入原料品資源の開発である。

四、通商代表部

通商代表部はソ聯邦と條約若は協定を結ぶ總べての國々に設置され、各代表部の長としては人民委員會の任命する通

稅率を定め、關稅賦課其他に關する問題の決定に當る。

輸出部は輸出貿易に關する計畫を樹てると共に、從屬機關をして商品の市場搬出を行はしむる爲の計畫を定め、此等の計畫を委員會に提出し承認を求め、他方從屬機關が前記計畫を如何に實施して居るかを監督し、輸出商品の調製、包装、運搬に就ても指揮を與へる。輸入部は輸入貿易に於ける計畫及監督の任に當る。

國家監督局は輸出入商品の品質を監視すると共に、必要な標準の決定に當るのである。委員會の組織の中には又外國貿易會議なる機關があり、之は他の委員會の代表者及外國貿易に關する重要な經濟機關(國立銀行、全ソ聯邦商業會議所等)の代表者を以て構成されて居る。此會議は一九三一年二月に組織され、其目的とする所は、(一)海外市場向商品の數量増加を目的とする全聯邦内の輸出資源の調査及原料品の輸出入加工の新方法の調査(二)輸出品の品質改良法及其海外市場の要求に適應せしむる方法の調査、(三)

之に依る。該委員部の主要機能は、(一)輸出入貿易政策の確立、(二)自ら又は特に外國貿易を目的として結成された團體の手を通じて前記政策の實施の支配(三)關稅事務の取扱、(四)外國貿易を行ふ團體、會社の結成の四項で、此等の機能は各局部に分割され、各々の活動は外國貿易委員部の統轄する機關と協力して行はれる。此等部門の中主要なものは管理局、計畫部、貿易政策部、稅務部、輸出部、輸入部、通貨取扱部、外國貿易損失防止局、合理局、輸出品々質國家監督局である。

計畫部は毎年の統制表を作成すると共に、各種從屬的の輸出入貿易機關より提出する種々の計畫を基礎として、凡ゆる輸出入に關する計畫の作成に當る。

貿易政策部は各國との貿易上の主義、方法は勿論委員會の貿易政策に關する凡ゆる問題を決定し、外國との間の貿易若くは經濟的の協定を取極、此等の取極に基き義務の履行を監督する。

稅務部は全聯邦内の稅務機關を監督し

商代表が之に當つて居る。

各通商代表部は更に二の機關から構成されて居る。即ち(一)總括的事務を取扱ふと共に他の一機關の貿易事務を監督し併せて代表部の存在する國に於ける凡べてのソ聯邦會社及個人の經濟活動を監督する、(二)他の一は貿易機關では命ぜられた輸出入政策の實行範圍内で商取引を行ふものである。此商取引を行ふ機關は普通ソ聯邦内の重要輸出入機關の代表者を含み、又外國貿易を許可されたソ聯邦内商工業機關からの注文を手數料を徴收して代行するものである。英國に於ける通商代表部の任務は主として前記の(一)に該當するもので、商取引は會社法に基づき一九二〇年に登録されたアルコスが主として従事して居る。ソ聯邦とは未だ條約の締結されていない米國に在てはアムトルグ・トレイディング・コーポレーションなる特殊の會社が設けられ、同國內に於て外國貿易委員會の事業を行つて居る。最重要な通商代表部はベルリンにある。以上の外の無條約國に在ては貿易

代理部が設けられてある。

前記以外の會社及政府の各主要機關、例へば聯邦内の各共和國の經濟會議は勿論最高經濟會議も通商代表部に對し顧問の資格で代表者を派遣する權限を與へられて居る。

外國貿易に従事する目的を以て外國に駐在する政府主要機關及會社の全代表者は、各々の通商代表部に報告書を提出し進行の状態を知らしめる事を必要として居る。

前記アルコス以外に倫敦市場に於て若干の主要ロシア産物を取扱ふ目的を以て多數の政府補助有限責任會社が英國の會社法に從て設立されて居る。

五、外國貿易許可團體

外國貿易に従事することを許された團體の中最重要なものは(一)全聯邦輸出入組合(其各々が特に限られた商品の輸出入取引を行ひ得る獨占權を有す)、(二)若干の政府産業機關に附屬する特別の自治外國貿易事務局、(三)政府の参加の下に他の團體に依り外資若しくは共同出資を以て

組織された機關。

全聯邦輸出入組合及自治外國貿易事務局は夫々異つた經濟上の團體で、法人たる權利を有し、外國貿易委員會監督の下に活動して居る。是等は何れも獨立の資本を有し、其範圍内に於てのみ責任を負ふものである。然し其取引に對してはソヴェート政府は財政上の責任を負はないと共に、組合及事務局の側に於ても政府若しくは政府機關に對する責任を負擔することはない。

輸出入商品の各外國貿易機關間に於ける割當は、特殊の商品を取扱ふ此等機關の夫々の専門に從て居る。輸出の場合には今日迄商品の分配に困難を感じたことはないが、之は輸出商品の種類は未だ比較的少く、分類は極めて容易であることに基因する。輸入の場合には割當が錯雜し各種の輸入團體が取扱ふ可き商品の分類を決定するに特別の委員會が數箇月間努力した。此委員會の作成した分類表は二五〇〇種の商品を含み、夫々之を取扱ふ輸入貿易機關に對する割當と共に一冊の

本として最近出版された。一機關の取扱ふ可き商品を一冊に記すべき根本主義を定あるに當り、前記委員會は若干の例外を設ける必要を感じた例へば箇々の部分品に關しては夫々の取引團體の存在するが如き機械類を完全に商品として海外に注文するが如き場合に若し分擔困難の時は機械の主要部分に關係ある團體に因て全部の注文を發するものとされて居る。

六、輸出入貿易策

外國貿易人民委員部の活動を統制する根本の要素は毎年の輸出入策で之は全聯邦に關する一般經濟政策の一部分を爲すものである。此輸出入政策は關係年度内に於て輸出若しくは輸入さるべき商品の數量及等級を定めるもので、之が作成に際しては工業、農業、運輸、其他國家經濟の各種部門に互り其要求を十分に研究考慮することを必要として居る。先にも述べた如く此輸入政策は外國貿易に従事する各種の輸出入機關が提出した見込書に基づいて外國貿易委員會の計畫部に於て作

成するものである。更に之は國家計畫委員會に提出されるが、此所に於ては前記計畫は他の政府機關を考慮に入れて再び審議される。次で國家計畫委員會の承認を得た場合更に勞働國防會議の議に附せらるるのである。此毎年の計畫の外に詳細な四回の計畫が外國貿易委員會の計畫部の下に依て作成される。此中には世界市價の變動、輸出品の數量の變化、外國と政治的關係の變化に依り惹起された各種の調整、更が示され、斯くして變更された計畫は實施期間が非常に短い爲、年一回の計畫よりは一層實際に近いものとなることは云ふまでもない。外國貿易に關する國家の根本主義の一は出來得る限に貿易尻の不良を避けることである。輸入は慎重な統制を受け、其量も主として輸出貿易の數量に依り決定され、他方輸出貿易は住民又は國內産業の利益を害さない限り何等の制限をも受けて居ない。例へば食糧品の如き住民の過度の困難を及ぼす程ストツクを激減せしめることは出來得る限り避ける様に注意され

ねばならない。ソ聯邦輸入貿易の特徴は消費財の輸入を犠牲にしても生産材(例へば機械、トラクターの如き)の輸入量を増加することである。之は自己の産業に出來得る限り迅速に凡ゆる準備を與へんとするソ聯邦政府の希望が存する爲であるが、之に宛つ可き資金も十分でなく、加ふるに住民には適當の消費品を供給せねばならぬ。從て後者の輸入は全くの最小限度に制限されて居る。

七、貿易の許可

ソ聯邦の外國貿易は最大限度の保護政策に基礎を置いて居る。輸入貿易は國內産業と調和して統制され、海外への注文は國內に於て生産し得ない品物に限る様注意を拂つて居る。

周到な貿易の免許制度は國內農工業の保護を完全に行はしめて居る。輸出入貿易許可に關する手續は一九二五年四月十二日の人民委員會議令の中に定められてある。現行の制度の下に在ては外國貿易委員會が一般的の免許を各種の輸出入貿易

團體に與へ、輸出計畫に依て定められた範圍内に於て夫々振當られた特殊商品の輸出を許可して居る。更に此免許を得た團體は更に先の總括的免許を以て許された範圍内で夫々特殊の取引に對し別々の許可を與へて居る。輸入も亦輸出と同様の方法を以て行はれて居る。數箇の工場若は或場合には全工業を以て成立するトラストは其毎年の計畫に定められた制限内に於て國外より輸入を要する商品の見込書を適當な輸入貿易機關に提出する事更に後者の團體は是等の要求の全額に基づき自己の活動計畫を外國貿易委員會に提示して許可を求め、此許可が與へられた時は總括的免許が輸入機關に與へられ、更に此輸入機關は與へられた總括免許の範圍内で特殊商品の海外よりの輸入に對し箇々の免許を與へることになる。

ソ聯邦と條約を結んで居る外國の商船は相互主義に基づきソ聯邦諸港間に於て貨物及旅客の輸送に従事することを許可されて居る。

大小沿岸貿易に従事することを許可する權限は一九三一年一月に設けられたソ聯邦の水運人民委員部の手にあり、一九三〇年四月十六日締結英ソ暫定通商取極第三條に依り許與せられる最惠國待遇は大沿岸貿易に限られて居る。

全聯邦の聯合機關として Soufrachtan passport が設けられてゐるが、之は獨占主義を基礎とし、外國貿易委員會の監督の下にソ聯邦の外國貿易に關する各種の要求を満たすので、即ち運輸、運送、倉庫業、積込業、荷物積込、積卸、仲仕業及代理業等を爲すものである。

本國は聯邦内及外國に於て同地に在る外國に獨立の支店を設ける權能を與へられて居る。水運人民委員部の中には次に述ぶるが如き機能を有する特殊の會議が設けられてゐる。

海陸輸出入貿易に對する輸送計畫を調査決定すること、外國船計畫を調査決定すること、定期船に依る運搬貨物、特殊の商品及航路に對する税率及運賃の決定、輸出入商品輸送に際して聯邦及外國船の參加割合の決定、ソ聯邦及外國船の就航すべき定期航路計畫の決定、ソ聯邦内諸港に於ける荷物積込、積卸作業の形式決定、外國船及輸出入商品の運送に關し各團體間の紛争解決、各港灣使用に關する規定を決定する。

英國及獨逸並ソヴェート通商代表部内には儲船部なるものが設けられ、ソ聯邦及此等諸國との間の海運、運送に關し發生すべき各種の事務を取扱ふものである。

一九三〇年十二月の法律に依り莫斯科の全聯邦西部商業會議所内に海事調停委員會が設けられた。

之は海難審判若はソヴェートの船舶又はソヴェートの領海内で起つた海難救助等に關し、將來起るべき紛争はソヴェート聯邦内にては記委員會に於て解決

さるべきことを目的として設けられたのである。

九、税關手續及税率

輸出入商品は全部税關を通過し、此際貿易許可證若は免許證を提出せねばならない。現行の輸出入税は一九三〇年一月二十一日に中央執行委員會及人民委員會議の承認を経たものである。從來税率は時々變更され、現行のものは舊税率に比して非常に簡單である。税率は國際間の協定に依て變更されることがある。

一〇、特惠關稅

特種の税率を適用されて居る國々は伊太利、諾威、トルコ、ベルシア及ラトヴィアで、特惠通商條約の締結されて居るのはドイツ、リスマニア、アイスランド、丁抹、瑞典、及エストニアである。一九三〇年四月十六日英國との間に締結された暫定通商條約中には最惠國條款を含んで居る。

ムルマンスク港を通過する輸出入貿易には特殊の税率が規定されてあるが、之はムルマンスク港（北氷洋に臨むアルハ

外國貿易

ソガル沿岸地方）及ムルマンスク鐵道に依る運輸を一層盛ならしめんが爲である。

又東方諸國との貿易を助長する爲に裏海の諸港を經、若は黒海から東に蒙古及中華民國北部に至る間の亞細亞諸國との國境を越へて行はれる輸入貿易には特別の輸入税率が定められて居た。然るにトルコ及ベルシアと特別税率に關する協商が成立した結果、今日では此特別税率はアフガニスタン、蒙古、タンナ、トウヴァ（唐努烏梁海）外蒙古の一部）

各國駐劄ソヴェート通商代表

日本	駐劄	ア・エヌ・アサートキン
ドイツ	同	イ・ヤ・ウエイチエル
イタリ	同	エム・ア・レウエンソン
イギリス	同	ヤンソン
フランス	同	エム・ゲ・グレイウイチ
スエーデン	同	カムデラキ
ベルシヤ	同	イ・ベ・シェフツォフ
トルコ	同	ホドロフスキー

外國貿易の實績

最近數年間の外國貿易趨勢

一、輸出入概觀

一九二九・三〇年度（一九三九年十月一日・一九三〇年九月三十日）の總貿易高は二十億七千一萬二千留中輸出十億二百二十七萬留、輸入十億六千八百七十四萬二千留にて前年度約四千一百萬留の出超の後を承けて本年は六千六百四十七萬二

千留の入超に終つた。即ち貿易高に於ては前年の十一億一千三百八十九萬九千留

年次	輸 出
一九二六・二七年度	七七、五八一
一九二七・二八年度	七七、八四九
一九二八・二九年度	八七、五九八
一九二九・三〇年度	一〇〇、七四〇

近年各國共に貿易振はず年々萎縮の一途を辿つて居る。獨りソ聯邦のみが左の

如く増加し居るは同國の制度、政策と關聯して如何に大なる努力が此方面に向けられてあるかが窺はれる。殊に貿易就中輸出は同國の産業政策と密接なる關係を有し、事業の成績は直ちに輸出に反映し延て又外國品買付資金の多寡に影響するを以て此方面に於ける關心は一層大である。國內全生産高は一九一三年に比し一四五%に増加し、輸出高は年々此一二%

に比し約二〇%増加であつて最近數年間の趨勢は左の如くである。(單位千留)

年次	輸 入	總貿易高	前年に対する増加率
一九二六・二七	七二、六三三	一四三、三三五	—
一九二七・二八	九五、五三二	一七三、三〇〇	一六・一%
一九二八・二九	八六、四〇三	一七三、八九九	(一)〇・五%
一九二九・三〇	一〇六、七三三	二〇三、一〇一	一七・八%

ソ聯邦の總生産高及輸出高

年次	總 生 産 高		輸 出 高	
	金額(戰前の百)	一九一三年に對する比	金額(戰前の百)	一九一三年に對する比
一九一三年度	100,000	100	100	100
一九二一・二二年度	八八、五〇〇	四四・二	八二	〇・九
一九二二・二三年度	一一、八七〇	五九・二	一〇六	一・七
一九二三・二四年度	一三、三三〇	六六・四	一〇六	一・七
一九二四・二五年度	一五、四〇〇	七六・四	一〇七	一・七
一九二五・二六年度	一九、三三〇	六六・五	一〇七	一・七
一九二六・二七年度	二一、一三〇	一〇五・四	一〇七	一・七
一九二七・二八年度	三三、三三〇	一一一・五	一〇七	一・七
一九二八・二九年度	四二、二二〇	一三三・〇	一〇七	一・七
一九二九・三〇年度	一五二、一〇〇	一五二・一	一〇七	一・七

X註、現今の價格による。一九一三年に對する比は各年の留價に依る。數量に比較する時は一九二九・三〇年度は一九一三年年度の三分の二以下なるも、地域上の變化を考慮する時は

は現今のソ聯邦地域よりする輸出の三分の二に當る。(一) 國民收入の二〇%増として計算。

貿易上の五ヶ年計畫は一九三二・三三年度に於て輸出一六五%輸入八〇%増加(一九二七・二八年度を標準として)を目標とし、此期間内に輸出七十億留、輸入六十二億留、結局輸出超過八億留に達せしむるのである。而して本年度は其第二年目であるが、輸出は前掲の如く二九%増、輸入一三%増にて計畫通り増加し居るも、貿易差額は反對に六千六百萬留の入超にて前年の出超と通計するも尙二千五百萬留の入超高を示し、八億の計畫數に及ばざる事程遠い。悲觀論者は之を以てソ聯邦の計畫の失敗、財政的窮乏の結果最近各國に對しクレヂット協定を漁る所以なりとなし、樂觀論者は資源開發に全力を盡して居るソ聯邦としては其計畫當初に於ては機械設備の輸入を必要とし之に依て資源の總動員をなし漸次出超に轉すべきものであるから一時の入超は當然と見て居る。其孰れが正確を得たるかは別問題として、結果よりせば計畫は副

はず而も最近各地にクレヂットの協定又は借入期間の延長をなすに徴し前説にも相當の傾聴すべきものありと云はねばならぬ。

二、主要品種別貿易

今貿易品を左の通り食料品、半製品、家畜、製造品に大別して前年度と比較すると次表の通りであつて、輸入に於ては製造品が非常に増加して居ることが目立

つ。前年度の二億九千七百留より五億四千九百萬留に激増し、全輸入額に對する比は三四%より五一%に増加して居る。之即五年計畫達成の必要上機械其他の設備品の輸入増加に因るものである。之と反對に原料品及半製品の輸出高が五一%より三八%に減少して居ることも注目し値する。輸出に於ては金高に於て夫々増加して居るが、相互の比率に於ては前年と殆ど大差ない。

品 種	一九二八・二九年度		一九二九・三〇年度	
	金額(千金留)	%	金額(千金留)	%
(輸入)				
食 料 品	七、〇九一	八一	九、八七三	八・七
原料及半製品	四五、八六七	五・九	四二、六二七	六・六
家 畜	一一、一一二	六・〇	一三、八二七	一・三
製 造 品	二九七、三三三	三三・〇	五四九、四四五	五・四
計	八三六、三〇三	一〇〇	一、〇六八、七四一	一〇〇
(輸出)				
食 料 品	二五、六六九	二四・〇	二七、四一四	二七・四
原料及半製品	五五九、二六七	六三・〇	六五、四三一	六・五
家 畜	三、三九一	三・〇	一、〇〇三	一・〇
製 造 品	九九、三三九	一〇・〇	一〇一、五五一	一〇・〇
計	八七五、九六六	一〇〇	一、〇〇一、一四〇	一〇〇

三、輸出貿易

一九二九・三〇年度の輸出は一九二八・二九年度に比し一四%の増加、戦前に比し僅に其六六%に過ぎないが、内容に於ては根本的の變化がある。即ち輸出は國內にて有利に處分出來ざる生産過剰の農産其他の天産物を外國市場に捌く結果ではなくして、必要な輸入品を購入する資金たらしむるを目的として居る、從て輸出品の決定には(一)其商品が國內消費及國民經濟に何等影響なきこと(二)世界市況を考慮して最も有利に販賣し得ることとを標準として居る。

輸出品を農産品、其他の生産品に大別する時は左記の表の如くあつて、一九〇九年より一九一三年に至る間の平均は前者七割に後者三割の割合である。斯く農産物輸出割合の大であつた理由はアムテルグ員 J. M. Budish 氏の言を引けば戦前ロシアの農民多大の年貢、公課等の負擔を負ひ其義務を果す爲めに農作物の大部を市場にて販賣又は直接地主に現物

納付をなさねばならず、之等の物が輸出品となつた。然るに革命後は状態一變し土地の大部は國有となり、貴族及大地主の土地は農民に委ねられ、農夫は三分の一以上は租税を免ぜられた。此結果は農民は自己生産品の大部を消費し、農民の消費高増加は人口の増加と相俟ちて愈々農産品及其他の生産品の全輸出に對する比率

市場に出すべき數量を減じ、從て又輸出すべき餘剰を減少したのである。此結果最近迄は農産物の輸出割合は減少し一九二七・二八年度には五〇%、二八・二九年度には三八%に減じ、之に反し其他の天産品は四九%、六一%と増加して居る。即ち之を表示すれば、

納付をなさねばならず、之等の物が輸出品となつた。然るに革命後は状態一變し土地の大部は國有となり、貴族及大地主の土地は農民に委ねられ、農夫は三分の一以上は租税を免ぜられた。此結果は農民は自己生産品の大部を消費し、農民の消費高増加は人口の増加と相俟ちて愈々農産品及其他の生産品の全輸出に對する比率

市場に出すべき數量を減じ、從て又輸出すべき餘剰を減少したのである。此結果最近迄は農産物の輸出割合は減少し一九二七・二八年度には五〇%、二八・二九年度には三八%に減じ、之に反し其他の天産品は四九%、六一%と増加して居る。即ち之を表示すれば、

Table with columns for '農産品' (Agricultural Products) and '其他の生産品' (Other Products), showing values for 1913, 1929, and 1930.

Main table listing various export categories such as '油', '油脂', '鶏卵', '肉類', '魚類', '皮革', etc., with columns for '数量' (Quantity) and '金額' (Amount).

Table titled '木材及木材製品輸出高' (High of Wood and Wood Product Exports) showing data for 1913, 1929, and 1930.

一九二九・三〇年度

②七、三五六、六四二 △一八〇、一九五

註 □ 最近此價額ヲ二二七、三〇〇千
留ト訂正發表シ居ルモノアリ。

△ 或書ニハ一七八、七五六千留ト
發表シ居レリ。

- (1) 中木 材 二、〇九一、六六九噸
ベニヤ板 四七、〇五九噸
其他 二、六二七、二一五噸
- (2) 中木 材 二、七六七、六六五噸
ベニヤ板 五九、六〇五噸
其他 四、五二九、三七二噸

四、輸入貿易

一九二九・三〇年度は輸入貿易に於ても特色を發揮して居る。戦前全輸入の三分の一乃至五分の二に日用消費品(Consumers' Good)であつたが、一九二八・二九年度に於ては僅に八分の一に下つた。之に反し生産用品(Producers' Good)は戦前の三分の二より八分の七に迄増加して居る。之は明かにソヴェートの工業化及農業の集團化の結果、機械、設備品の輸入、トラクター、農耕器具の購入を促

進せることを表すものである。

工業 運送及電氣用機械其他の輸入は一九一三年には全輸入の一二・五%に過ぎなかつたが、昨年は二五%に、本年は三五%に増加して居る。生産用原料品の輸入高も一九一三年の二五%より、本年度は四三%に増して居る。最後に農業用機械及トラクターも戦前には全輸入の僅に四%に過ぎなかつたものが、一九二八年度には六%、一九二九・三〇年度には一一%に増加して居る。之等は凡て工業化及農業の集團化を如實に語るものである。

主要輸入品明細 (單位千留)

生産者用品、合計 (1) 工業、運輸及電氣設備 (2) 原料	一九一三年度		一九二九・三〇年度	
	金額	%	金額	%
金	八四、四六	六四・四	七九、九五	六六・七
鐵	一七、二五	一三・五	一〇六、二七	八六・六
鐵以外ノ金屬	三、三二	二・五	三、四一	二・七
鋼	一四、〇一	一〇・八	一三、七六	一〇・九
羊毛	六〇、〇二	四五・七	六九、三九	五六・八
棉花	五、三三	四・〇	二九、三六	二三・五
皮革	二五、〇八	一九・八	四、六七	三・七
其他	一、一八	一・一	三、九七	三・一
合計	一三二、五八	一〇〇	一三二、五八	一〇〇

る。之に反して半製品及燃料は非常に輸入減少された、即ち戦前の二二%より一九二八・二九年度には一二%に減少して居る、之等も炭業の成績如何を語るものである。其他昨年度と比較して變化あるものに、食料品中の砂糖、練、原料品の棉、其他化學製品等がある。砂糖は國內産を、練は國內肉類の不足を反映して居る。同様に又棉の輸入減は國內の増作の爲めにて、化學品の減少は自國內にて幾分自給し得ることを示すものである。今之等を表示すると左の通りである。

本年度は米、獨、英より輸入増加し居ることは左の數字にて明かにて、英、獨兩國共輸出保證制度の爲めに増加した、ことは言ふ迄もない、伊太利も亦同一施設をなして居るのも注目に値する。

輸入相手國別比率

國名	一九二九・三〇年度 度ノ割合	一九二九・三〇年度 度ノ割合
米	二六・二	一八・三
獨逸	二二・九	二二・五
英國	七・四	五・三
ベルシヤ	四・四	七・六
ポーランド	三・三	二・〇

一方輸出に於ては英獨米に對しては増加し、伊、白に對しても亦増加して居る。併し各國別の比率よりすると獨逸は前年の二二・八%と云ふ第一位より二二・四%に下り、英國に第一位を譲つた。即ち表示すれば

輸出相手國別比率

國名	一九二九・三〇年度 度ノ割合	一九二九・三〇年度 度ノ割合
英國	二二・八	二二・九
獨逸	二二・四	二二・八
ラトヴィア	七・〇	八・〇
ベルシヤ	六・九	八・四
伊太利	四・七	三・四

雜品	雜品	雜品	雜品
(ハ) 半製品	八七、五九七	六・四	二七、〇四三
紙及ボード	一一、一五〇	一・五	九七、六八一
塗染材料	一五、五三三	二・一	八、五三三
タンニン材料	一四、七三〇	一・一	一〇、九九〇
雜品	一七、七九	〇・六	五、七三三
(ニ) 石炭	一八、九四三	一・〇	八、二四三
(ホ) 農業機械及附屬品	九、三三四	〇・六	六、四一七
農具、トラクター	五、三三〇	〇・四	三、四四四
消費者用商品、合計	四、〇三六	三・六	四、七五三
(イ) 食料品	三九、九六一	二・八	一〇七、〇七一
米	三六、一三六	一・九	七、九六九
茶	一三、〇九	〇・九	一三、一三九
鮮魚	一三、一六	〇・九	二九、三九
橙及レモン	二、三三七	一・八	二、五二四
砂糖	一一、〇九	〇・八	四、四六一
(ロ) 工業消費者用商品	三三	〇	三、八八六
輸入合計(右分類ニ入ラザルモノヲモ含ム)	一、三七四、〇四三	一〇〇	八、八三、三〇三

五、國別貿易狀況

ソ聯邦の貿易相手國は非常に其數多く、玫馬、エーメン、爪哇其他獨逸、英領、葡領殖民地に迄涉り廣く通商して居る。

之は國策として仲介者を介せず直接生産者又は消費者と取引せんとする半面を表すものである。カイロに於ける代理店、ヴェノスアイレスの代理店の如き皆之直接取引を目的として居るからである。

國別貿易高 (單位百萬留)

國名	一九三〇年度		一九三一年度	
	輸出	輸入	輸出	輸入
濠洲	—	三三九	〇二	一三四
英太	八二	二〇七	五二	一七三
英	一九二・五	四四三	三三六	七八九
シブラルター	—	—	一五三	—
海峽殖民地	—	—	—	—
セイロン	—	—	—	—
其他ノ英殖民地	—	—	—	—
アルゼンチン	—	—	—	—
白耳義	一六〇	二六九	三三六	三三六
ブラジル	—	—	—	—
ハンガリ	—	—	—	—
獨逸	二〇八・五	一八八・四	—	—
和蘭	—	—	—	—
瓜哇	—	—	—	—
其他ノ蘭領東印度	—	—	—	—
其他ノ蘭領	—	—	—	—
希臘	—	—	—	—
丁抹	—	—	—	—
ダンツィヒ	—	—	—	—
エジプト	—	—	—	—
イエメン	—	—	—	—
印度	—	—	—	—
スエーデン	—	—	—	—
瑞	—	—	—	—
エストニア	—	—	—	—
ユーゴスラヴ	—	—	—	—
南阿聯	—	—	—	—
日本(臺灣)	—	—	—	—
アフガニ	—	—	—	—
西那	—	—	—	—

六、中間期間の貿易

來十月より九月に至る會計年度を一九三一年より曆年と合致するやうになつた。此爲め一九三〇年十月より十二月に至る三ヶ月を特別期間と呼び貿易上に於ても亦此期間丈の數字を發表して居る。

此期間中輸入は一億九千六百八十五萬留、前年同期は二億五百五十七萬留、輸出は前年同期二億二千五百五十一萬七千留に對し二億三千七十八萬八千留であつて、出超額は三千三百八十八萬留であつて、好成績を擧げて居る。

一九三二年の對外貿易實績

一、一九三二年貿易の特質

ソヴェト聯邦の外國貿易は、ソヴェト聯邦對外關係の全般的悪化、資本主義諸外國における未曾有の經濟恐慌等に影響されて、昨一九三一年には例年になく不振を極め、歐米諸國ではソヴェトの對外支拂能力に疑義を挾むが如き情報すら流布され、我國でも對露取引業者の間は大なる不安を與ふるに至つたが、この支拂能力問題は本年鑑「日露關係の部」[「外交關係」中の昭和七年の日露關係中に詳述されてゐる通り、一部の單なる豫測乃至反ソヴェト的逆宣傳であつて、ソ聯邦が何等今日まで支拂義務を停止した

る如き事實は存しない。

昨一九三一年十二月間の外國貿易實績についてソヴェト聯邦商業會議所の發表せるところ左の如し。

今、一九三一年度ソ聯邦輸出貿易の實績を見るに數量に於て一九三〇年度の二千四百八十八萬六千三百九十五噸に對し二千七百七十七萬八千九百〇六噸、價額に於て一九三〇年度の十億三千三百三十七萬一千留に對し八億一千二百二十一萬留である。

即ち數量に於て前年度に比し二十九萬二千五百一十一噸(二分三厘)を増加した代り價額に於て二億二千五百十六萬一千留(二割一分七厘)の減少を示した。左表は一九三一年度及び一九三〇年度の主要輸出品の比較數字を示すものである。

品名	一九三〇年度	一九三一年度
蒙	九・九	一三・三
タルシ	七四・〇	六三・七
タスマ・トヴァ	二・三	一・〇
土耳古	一七・四	一一・一
其他	八・七	四・五
計	八七・五	八六・三

アスベスト	一三、三三九	二、四八五	一五、七四九	四、四七
鹽	六四、三〇〇	六五〇	七四、九一八	六八一
石炭無煙炭	一、六四、八二	一四、一八二	一、八五七、七五三	一六、七八八
コークス	一五、一八五	五六三	一八、八九九	九四八
菱苦土石	五、二四、三〇一	一、一五、六六三	四、七二、七五七	一五、〇五三
石油類	四、七五九	二、一五七	二、三、六三三	九八
ハルメイ	四、七五九	二、一五七	二、三、六三三	九八
其他礦産物	七五、六〇五	一、七二七	七四、七六二	四、五四六
曹達	五、三三九	四、四八	三、四八七	二、九五六
香料	四七六	五一	二九	四〇八
燐寸	五、九五	一、三六六	一三、〇一九	三、八三二
セメント	四、七三三	六四七	七、〇五四	一、三三五
松脂	一八、〇一六	四四七	一七、二〇二	八〇二
ゴム製品	一、六六五	三、五五九	二、九三二	七、八六
織物類	一六、六七〇	四、三七五	一四、三六	四九、三三
麻類	一一、三三	九七三	二、五九	一、七六七
粗麻	五九	三、六八二	二、七四	三、四七九
手藝品及手織布	五二六	一、四〇一	七六七	二、三三
電氣金屬製品	一四、〇六一	八、五〇二	一〇、六二五	六、六六八

金屬未製品	二、七六六	二、二五	一九、二七	四、一九五
金物	一、〇、二三八	五九	一〇、三七	七三
古着	一九、六八	二〇五	五、三六七	六、三七八
骨膠骨粉	七、一九六	一、三七	一五、二〇九	一、六〇〇
グリセリン	一、五八八	三五七	三、二五	一、八〇一
コキ麻コキ屑	二、九八一	四、七八〇	六、七七七	四、三三
糸類	四九八	一、七二〇	一、六四	三、七〇九
獸皮製膠	一、三三六	三九九	一、一四二	四、五九
麻糸	一、三〇六	七二〇	三、三八	三、三〇九
陶磁器硝子	一三、五四	四、三五八	九、〇九八	四、七九二
ポタシユ	一、五七	七七	五、〇八七	七二
コークベンゾール工業産物	二、〇八二	二、三三	一、七五四	二、三二
化學製品及藥品	二、九六四	二、二五五	二、二七九	二、五二
骨董及寶石	一〇五	二、六七五	五七〇	六、二七八
映畫フィルム	一	四四	五	九五
其他の工業品	二九、二八一	一九、〇五四	六五、八六	二四、四九五
工業輸出品合計	一六、一〇八、六三三	四六、八、九五五	一六三、三八、八七四	六〇、一、八〇五
輸出合計	二、七七八、九〇六	八二、二〇、二〇二	四八六、三九五	一〇、三六、一三七

一九三一年度のソ聯那への輸入總額は、數量に於て一九三〇年度の二百八十五萬五千九百噸に對し三百五十六萬四千三百五十二噸、金額に於て一九三〇年度の十億五千八百八十二萬五千留に對し、十一億五百〇三萬四千留である。斯の如く一九三一年度のソ聯那輸入貿易は前年度に比し、數量に於て七十萬八千四百五十二噸、即ち二割四分八厘の増加、金額に於て四千六百二十萬九千留、即ち四分三厘方の増額である。一九三一年度ソ聯那への重要輸入品目を三〇年度のそれと對比して示せば左表の如し。

三、ソ聯那主要輸入品目

品目	一九三一年度		一九三〇年度	
	(單位噸)	(單位千留)	(單位噸)	(單位千留)
米作品	四九、一八三	九、九〇	五七、一七	一三、一七〇
乾實	五、四三三	一、一三	一五、六七	三、九四
木の實	一、一〇	一、一七四	三四二	三〇四
香料	三九四	三三	四七	四五六
コーヒー	一、一七八	六三	五〇	三六
ココア	四、一九八	一、一一	二、七〇	一、一八三
茶	一一〇、七〇八	一三、六三	一四、二七	一〇、六一

外國産ゴム	一、六九六	一、七六一	一、六五〇	二、一四二	錫	四、四八六	五、一三三	四、九〇六	七、八八八
精製ゴム及粗製ゴム	二六、二〇〇	一三、八七六	一六、四〇八	一三、六九二	鉛	四、九四五	五、八四四	五〇、一〇一	一〇、〇一八
ゴム製品	五九七	八八	二四七	四九二	亜鉛	三、六六〇	三、七九〇	四〇、〇三〇	八、二六九
硫黄及硫黄華	三三、三六六	一、二九七	二〇、六三七	一、三六四	他の非含鐵金屬	四七	二二五	三九	一七五
化學製品	八六、五〇三	一四、一三三	四三、三六六	一八、五五二	銅製品	八六九	二、一五九	五九三	一、三四四
人造肥料	四三、五五九	二、七五二	二一、一四〇	五、四四五	鉄鐵及鋼鐵製品	二四三、三五二	二、八七〇	一三六、五五五	六、六九四
サルベトレ	二、三三〇	四七	四、七五三	四、五二二	錫製品	一、八四〇	一、五二〇	一、四七七	九〇
沃度	一七	二七七	一四八	二、〇七	電線	三六、五九九	九、一三三	一五、九七七	五、一三三
薬用品	五	五五	一一	一一	電線製品	五、二七七	二、五〇〇	二、二七七	一、五二〇
植物油	四、二六一	九四	二、二五七	八三四	手工業用道具	四一〇	一、〇三四	五〇八	一、七二七
エーテル	一五	二〇七	六三	一、一八八	農業用器具	三	四	四	二八
鞣皮用材料	七六八	三七二	三七、二二	六、八五二	機械及器具	一七、四三三	二四〇、七二五	一四二、四七七	一七三、五八〇
染料及着色材料	一、九七一	一、三三三	四、七五五	三、八四七	農業用機械	一七、九〇七	五、〇五七	五二、〇五七	三〇、一五九
含鐵金屬	一、四七、九三二	二四、五〇〇	六〇、七三三	七〇、七七七	機械部分品	七三、六六一	九〇、四七七	五二、一六六	七、〇四九
銅	二五、二五三	一〇、五七三	一〇、七一〇	一一、九五五	農業用機械部分品	一六、八七七	八、三六〇	一四、四八一	八、一六八
ニッケル	三、八四〇	六、三三〇	二、九〇七	四、三八八	トラクタール	七六、一三四	六九、〇四七	六三、四九八	五六、七八八
アルミニウム	二〇、三七二	一五、六五六	一〇、〇一五	九、〇七八	トラクタール部分品	六、二二三	一〇、五八〇	一一、〇〇〇	一四、七七七
ソウダ	一、九六四	一、八五三	七二二	一、一〇一	自動車	八、二八五	二、三三九	一一、一五六	一四、三九八

自動車及自動車自轉車部分品	三九	八九	一一	三六	羊毛	一一、一四六	三、二六八	八、五八六	三、九八五
自轉車	二六、五一一	二四、九八二	九、七九九	一一、七四五	綿	四〇八	六三六	五四二	一、四二二
眼科及化學用器具	七〇	一五	二七	四一〇	撚生糸其他	一	四	六七	三三三
醫療機械	一、五八八	一四、七九九	一、三六五	一三、六五二	梳かれし羊毛及羊毛糸	三五	八三	二、五六六	七、四九七
電氣機械及部分品	六	七	二九	二八〇	木綿織物	六六	四八〇	三六	一、一五七
時計用材料	三五、九〇二	五、四八一	二五、六九九	四八、七二二	大麻及リンネル製品	七、二五五	四、四九二	四、五一	五、九三五
製紙用バル	六	三九四	一〇	五三三	絹及半絹製品	四	一六	〇	四
厚紙	六、三六三	二、四八三	七五、四七七	五、七五	織物及毛織品	三〇五	一、九九二	三三三	三、〇八六
紙	三三六	二二七	三〇三	二四四	特種織物	一八三	五四	一八六	一、〇〇九
綿花及ケナ	二八、六八〇	三、三四七	六九、八九〇	九、二一八	編物及眞田紐製品	一〇	一一五	六二	六三二
黄麻	五、七四九	四、五六八	七、八七六	五、九九二	ダイヤモン	一	六	〇	二、一〇八
繭	二四、五〇一	三、五八九	二九、九七七	七、七七	セルロイド	三	一七	一〇	二八
生糸	一三八	八六七	三五	一三九	鉦	一	一	一四	三六六
羊毛	一	四〇	五二	一、三六三	其他製品	四九、三四八	六六、四一七	二四八、八九二	五九、七三三
總計	三〇、七三〇	三、一〇一	三三、七三二	四二、一六四		三、五六四、三五二	一、一〇五、〇三四	二、八五五、九〇〇	一、〇五六、八三三

一九三一年の主要通商協定

外國貿易

一、ソ獨クレチツト新協定

ソ聯邦最高國民經濟會議の代表委員と

ドイツ實業家代表者との間に、一九三一年四月十四日締結された協定は次の如くである。

一、ソ獨貿易擴張の爲、ソ聯邦最高國民經濟會議は、一九三二年四月十五日から同八月三十一日迄の期間内に平常の取引額以外に總額約三億馬克の追加注文をドイツ商會に提供する。これらの注文は、納入の技術的諸條件、價格及び期限に關する相當の協定が納入すべき商會の締結されたる後、本協定に含まれてゐる諸條件に基きソ聯邦最高國民經濟會議これを行ふ。

二、本協定に基きて提供された注文は一九三一年八月三十一日迄に、その専門の商會に割り當てられなければならない。

三、ソ聯邦内で工業上の注文の決定權を有するソヴェート機關と締結された注文契約は、可及的短期間に在獨通商代表部に依つて副署されなければならない。在獨通商代表部は、一九二五年十月二十五日附のソ獨經濟條約第九條に基き、これらの契約に相當する保障を與へる。

四、本協定に基きて一九三一年八月三十一日迄に提供される注文の爲に、次の條件のもとに注文を提供すべき義務を有してゐる場合には、それらの義務と條件は本協定に依つて破壊されるものではない。

七、駐獨ソ聯邦通商代表部に依て既に署名されたる凡ての契約は、其締結された時日の如何に拘らず、本協定との關係に於て何等の變更を來すものではない。併し本協定の效力發生後、即ち本年の四月十五日から八月三十一日迄の間に締結される凡ての取引契約は本協定の效力に従ふものである。

八、若しドイツの商會が注文を割當てるソ聯邦の諸機關と受渡しに關する契約を締結する際に裁判上の審問地をベルリンに指定することを契約中に要求せる場合には、注文を割當てる當該機關及駐獨通商代表部は、本協定の範圍内で締結される契約に關する限り右の如き規定を契約中に挿入することに對し異議を有しないであらう。

九、ソ聯邦最高國民經濟會議は、注文割當に際し商館の選擇には完全の自由を

諸條件は有效である。

信用と勘定の條件

イ、從來十二ヶ月のクレヂットを供提されてをつた注文に對しては、二〇%は、注文を發する際、前渡金として物資受渡しの時から向ふ十三ヶ月の期限の手形を發行する。五五%は物資受渡しの際十三ヶ月の期限の手形を出す。二五%は、物資受渡しの際十七ヶ月の期限の手形を出す。これらの注文に對するクレヂットの平均期限は十四ヶ月となる。

ロ、從來十八ヶ月のクレヂットを提供されてをつた注文に對しては、二〇%は、注文を發する際、前渡金として物資受渡しの時から向ふ二十ヶ月期限の手形を出す。五五%は、物資受渡しの際二十ヶ月の期限の手形を出す。二五%は、物資受渡しの際二十四ヶ月期限の手形を出す。これらの注文に對するクレヂットの平均期限は二十一ヶ月となる。

保留す。ドイツの各商會も、本協定の諸條件に依る注文を如何なる程度に引受くべきかを決定する自由を有す。

一〇、ソ聯邦通商代表部は、一九二七年十一月九日に規定された受渡しに關する一般條件を新に整理すべき問題に關し資格あるドイツ經濟機關と近く交渉を開始する。其時迄は、駐獨ソ聯邦通商代表部の受渡しの現行條件に依る。

本協定は、ソヴェート側からはピヤタコフ、リュビエーモフ、ピトケル、ドイツ側からは實業家クレメル、ケツトゲン、レイテル署名した。

二、ソ伊クレヂット新協定

伊太利政府は、自國の對ソ聯邦輸出の爲年額三億五千萬リラの保障クレヂットを提供することに關し伊ソ協定を締結し一九三一年四月二十八日午後五時羅馬に於て調印を了した。

ソヴェート政府側よりは在伊ソ聯邦通商代表レヴェンソン氏、伊太利政府側よ

提供されてをつた注文に對しては、二〇%は、注文を發する際、前渡金として物資受渡しの時から向ふ二十ヶ月期限の手形を出す。四〇%は物資受渡しの際二十七ヶ月期限の手形を出す。三〇%は、物資受渡しの際三十三ヶ月期限の手形を出す。これらの注文に對するクレヂットの平均期限は二十八ヶ月となる。

ニ、利子は四期毎に支拂ふ、支拂は注文者の都合で現金或は六ヶ月の引受手形で行ふ。

注文者は、凡ての引受手形の爲に、ドイツ國立銀行の割引利子以外に二%の利子を支拂ふ。前渡金として提供されたる引受手形は、期限内の最初の三ヶ月間無利子とする。國立銀行の割引利率は、引受手形の提示の日の利率に依る。

五、引受手形は、契約に規定されてゐる期限内に手交されて勘定されねばならぬ。

六、若し本協定の效力發生當時存在してゐる一般契約が、一定の數量と一定のりは大藏大臣モスニコ氏及び組合大臣ボツタニ氏が調印した。調印の席には、駐伊ソ聯邦大使クルスキー氏、伊太利外務、大藏、組合各省の顯官連が臨席した。右協定の大要は次の如くである。

ソ聯邦政府と伊太利政府との間に左記の如く規定する。

一、伊太利政府は、ソ聯邦より在伊通商代表を通じて一九三一年中に伊太利に於て發せらるべき金額三億五千萬リラの限度内に於ける伊國工業製品の注文に對し一九二八年六月十四日に改正の上法律となりたる一九二七年六月二十六日附勅令第一〇四六號に示せる國家保障を輸出に提供すべきことを茲に契約する。右三億五千萬リラはソ伊兩國政府間の協定に依り増額することを得る。右契約は左記の一般的及び部分的條件に従ふものである。

イ、保障の目的物は、伊國製品のソ聯邦への輸出に對するクレヂットである。ロ、個々の輸出に對する伊國政府の保障額は、一九三〇年八月二十三日附勅令第

一四〇四條に依り、各輸出額の七五%と規定する。

二、前記ソ聯邦通商代表部の注文は、本協定附録第一表に示されたる各品別に割り當てられる。但し、船舶及び船舶用品の注文は一億リラを超過することを得ない。

三、ソ聯邦の支拂は分割を原則とする各輸出品に對する支拂の最大期限及平均期限は、本協定附録第一表に明示されてゐる。而して船舶を除ける二億五千萬リラの金額に對する各品注文の平均支拂期限は、現金引渡の日より二十五ヶ月とする。若し船舶に對する注文が一億リラの金額に達せざる場合と雖も、二億五千萬リラの金額に對する二十五ヶ月の平均期限は前記の如く有効とするが、船舶の注文に割當てられたる最大限額と實際の注文額との差額は、上記二十五ヶ月の平均クレヂットに關係なく、第一表に示されたる支拂期限を以て他の種類の品物の注文に利用することを得る。本協定に規定されたる品物に對する支拂期限は、伊國

大藏省と駐伊ソ聯邦通商代表部との協定に依つて更に規定する。

四、提供さるべき保障に對する毎年の料金は、本協定附録第二表に示されたる額と規定する。

五、本保障に關する質疑問合せの回答は、申し出の日から二十日以内に申し出商會に通告する。

六、駐伊通商代表部は輸出業者の選擇に完全なる自由を保有する。

七、本協定に依る注文は、所要物資の技術的及び商業條件に付いては他國の等該品と比較して同等なる條件のもとに伊太利市場に於て之を行ふ。

八、伊太利政府諸機關は、ソ聯邦の工業機關及び企業に對し技術的援助をなすべく自國の關係商會及び企業に之が獎勵をなすであらう。

九、一九三一年に於て效力を有する本協定は、若し期限終了三ヶ月に本協定の破棄を聲明せざるときは、更に一年間更新されたるものと認むるを得。破棄聲明に要する期限經過と雖も若し同年度内に

- 八、飛行機、同發動機、三二六〇二二
- 九、計量器及び眼鏡、二八〇二〇。
- 一〇、化學製品及び染料、一二二一一。

- 一一、肥料、一二二一一。
- 一二、各種金屬、一二二一一。
- 一三、特殊鋼鐵、二四二二四。
- 一四、鋼鐵線、一五二一五。
- 一五、硫黃、九〇九。

第二表 保障に對する一年の利率

最大限二十四ヶ月拂の取引には一%
 最大限三十六ヶ月拂の取引には一・二%
 最大限五十四ヶ月拂の取引には一・二%

本協定に、ソヴェート政府側からは駐伊通商代表レウエンソン氏、イタリー政府側からは大藏大臣モスコニ氏、組合大臣ボツタニ氏が署名した。

三、ソ佛通商對立關係の解除

於て通商代表部の注文が第一條に示されたる金額の七五%に達せざる場合には、伊太利政府は假令其の年度末に於ても本協定を破棄することを得る。一九三一年一月一日より四月二十日迄の間に於て發せられたる注文は、三億五千萬リラの金額中に含まるものである。然しこの場合には一九三〇年八月二日附協定の諸條件が適用される。而して八月二日附協定によつて完全に代行されるものであると認めらる。

附 錄

第一表 引渡日より起算せる支拂期限。

(上の數字は最大限月數、下の數字は平均月數)

- 一、船舶、五四〇四二。
- 二、機械の托架、三六二二四。
- 三、機械及び設備品、三六二二九。
- 四、電氣設備品、三六二二四。
- 五、化學工業機械、三六二二四。
- 六、其他の工業部門の機械、三〇二二。
- 七、自動車、三二二二二。

三日附の命令を廢止するに至つたから、従つて同年十月二十日附ソ側命令は佛國に對し適用すべき根據を失つた譯である。これが即ち今回外國貿易人民委員の命令の公布されるに至つた所以である。

四、英國の對ソ輸出補償成績

英國の對外貿易は世界經濟恐慌の影響を受けて著しい低落を示し、殊に世界財界に大衝動を投げかけた金本位制停止後は一層萎微沈滞を極めてゐるが、對露貿易のみは例外を示し、一般物價の著しい値下りにも拘らず殆んど影響を受けず、一九三一年度上半期の英露取引額は一億二千五百三十二萬七千留其中、

英國より露國へ 九二七六、〇〇留
露國より英國へ 三、〇五、〇〇留

に達したが其後の英國對露輸出は依然として衰へず一九三一年末英國議會にて商務省貿易局長が一議員の質問に對して答辨せるところによれば一九三一年一月より十月に至る十箇月間に英國が露國に設

定せるクレヂット總額は一億二千七百七十萬留(一千二百七十七萬二千四百二十二ポンド)に達したが此中、

英國政府貿易局にて保障せる分

八二、四九二、四三〇ポンド

英國政府貿易局にて保障せざる分

四三、八九三、一三〇ポンド

即ち總額の約三分の二は政府保障の下に設定せるものにて従つて此額は英國貿易局が露國以外の諸國に對して設定せる保障額の二、三倍に達し日本政府の對露保障が他國に對するそれを概ね著しく超過せると軌を一にしてゐる。

補遺

ソ聯邦輸出會社名

一、アンチクワリアト 骨董寶玉類の輸出

モスクワ・ツウエールスカヤ街二十六番地ノ三號

二、エクスポルト・マシーナ(機械輸出株式會社) 機械類の輸出
モスクワ・スツレシニコフ横町一

三、コウエルクスト・エクスポルト 手藝品及絨氈類の輸出
モスクワ・イリイナ街六番地

四、レクテスイリヨ(全聯醫療藥品原料販賣輸出供給株式會社) 上記名稱の如し
モスクワ・ビメノフスキー横町十六番地

五、ノウオエクスポルト 新規輸出商品の輸出
モスクワ・ミヤスニツカヤ街四七番地

六、ブロードエクスポルト 菓物青物等の輸出
モスクワ・ミヤスニツカヤ街一六番地

七、ラズノ・エクスポルト 動物的副產品各種商品の輸出
モスクワ・ミヤスニツカヤ街四七番地

八、ルドエクスポルト 鑛石の輸出
モスクワ・クツネーツキーモスト二二番地

九、ルイヴコンセルヴエクスポルト 罐詰の輸出
モスクワ・ツウエールスカヤ街二〇番地

一〇、ソユーズ・ネフエクスポルト(全聯石油輸出株式會社) 石油の輸出
モスクワ・ミヤスニツカヤ街二〇番地

一一、ソユーズ・フロドクスポルト バター、チーズ、卵、家畜類の輸出
モスクワ・ルビヤユスキー大通三番地ノ十三號

一二、ソユーズ・プロムエクスポルト 工業品の輸出
モスクワ・ツウエールスカヤ街一番地 二十一號

一三、ソユーズブシナ(全聯邦毛皮事業本部) 毛皮の輸出
モスクワ・ミヤスニツカヤ街二七番地

一四、ソユーズグレ・エクスポルト 石炭
モスクワ・ツウエールスカヤ街一番地 二十一號

交通

交通運輸概観

歐亞兩大陸に跨がり、世界陸地の六分の一といふ擴大なる領土を有するソヴェート聯邦に於ては、交通運輸は殊更重大な意義を持つて居るが、しかも帝政時代より此方面で極めて貧弱なる遺産を受けついでことゝ、世界大戰、内亂等のためその貧弱なる運輸機關を更に極度の荒廢に歸せしめたことゝはソヴェートの交通運輸を一層困難なものとした。

新經濟政策に入つて、交通機關の復舊に大なる注意が向けられたが、資金の不足と技術の幼稚とは十分にその成果を収むるに至らなかつた。

其後一九二五、六年頃から其復舊のテンポも増加し、陸上交通の方面では一九二六、七年に至り遂に戦前の水準にまで復活するに至つた。即ち一九一三年の鐵道貨物輸送總額一億三千二百萬噸に對し

一九二四・二五年度には八千四百噸に過ぎなかつたか、一九二五・二六年度には一億一千七百萬噸に増加し、二六・二七年度には一億三千四百萬噸となつて、一九一三年の水準を超過すること二百萬噸を示した。

然るに其後五箇年計畫の時代に入つて廣大なるソ聯邦の各地に社會主義的大工業の諸企業が發達し、一方コルホズ化運動のテンポ増進によつて農業の改造目覺ましく、生産諸力は廣き戦線を敷いて展開され、建設の増大、消費の増加は、種々なる貨物の輸送に對する需要を著しく高めるに至つた。

しかも陸上、水上共運輸の實情は、この増大せる需要に應ずべくあまりに遅れてゐたため、ソヴェート爲政者の間には交通運輸の社會主義的大改造といふ新しいスローガンが提出さるゝに至つた。

日本鐵道技術家の招聘による運輸機關修繕技術の日本化運動も、一九三一年における水運人民委員部の新設も、同年秋の聯邦共產黨中央委員會總會における運輸問題の大討議も、交通人民委員部長ルヒモウイチを罷免して、有能の聞え高き黨中央の統制委員會議長アンドレーフ氏を同部長に新任したのも、交通運輸の大改造を一九三二年の大課題としてゐるのもすべて此事を語るものである。

ソヴェート聯邦における鐵道運輸實績趨勢左の如し。

一九一三年度	一三三,〇〇〇,〇〇〇屯
一九二四・二五年度	八四,〇〇〇,〇〇〇屯
一九二五・二六年度	一七,〇〇〇,〇〇〇屯
一九二六・二七年度	三三,〇〇〇,〇〇〇屯
一九二七・二八年度	一五,〇〇〇,〇〇〇屯
一九二八・二九年度	一七五,〇〇〇,〇〇〇屯
一九二九・三〇年度	一三三,二四二,〇〇〇屯
一九三一年度	二五〇,九〇〇,〇〇〇屯
一九二四・二五年度	二二,八五〇,〇〇〇人

一九二五・二六年度	二六、六六、〇〇〇人
一九二六・二七年度	二五、一九、〇〇〇人
一九二七・二八年度	二六、〇〇、〇〇〇人
一九二八・二九年度	三三、二九、〇〇〇人
一九二九・三〇年度	五〇、〇〇、〇〇〇人

三、ソ聯邦鐵道運輸收入趨勢

一九二四・二五年度	五五、七二、〇〇〇留
一九二五・二六年度	一、三六、五二、〇〇〇留
一九二六・二七年度	一、〇六、〇〇、〇〇〇留
一九二七・二八年度	一、八〇、〇〇、〇〇〇留
一九二八・二九年度	二、二九、一七、〇〇〇留
一九二九・三〇年度	一、〇〇、〇〇、〇〇〇留

四、建設中の新鐵道

ソヴェート聯邦に於ける運輸事業は一般經濟の發展テンポと比較して著しく遅れ居り、スターリンの如き、運輸の意義は全國民經濟に取つてのみならず、國防に取つて最も重大であるから一意専心これが改善及び發展に努力しなければならぬとなし、今や運輸問題殊に鐵道問題は一九三一年より引續き一九三二年の中心スローガンとなつてゐる。そこで一九三二年度に於ける鐵道建設のプログラム及

これが實現状態を見ると、大體左の如くである。

ワラルの首都スウェドルスクとクルガンを結ぶ鐵道が目下建設中であるがその延長三四四キロメートル中二四四キロメートルは既に軌條を敷設したから、本年秋には竣成されるであらう。竣成の曉はシベリヤの穀物は直通を以てワラルに行きワラルの鐵、鋼、石炭はシベリヤへ直送されるやうになる。

ヤール驛より燐礦産地へ向ふ一八七キロの鐵道は既に敷設され、この六月開通の筈。クズネツク製鐵所との間の鐵道も近く竣工の筈。

ノウオシビルスク・レニンスク鐵道二九五キロは既に敷設され、又クズネツク・テリベツク線にも新しいレールが光つてゐる。本年末には兩線とも開通の見込である。

一九三二年はオカ河とドネプルー河を繋ぐ二つの鐵橋が造られることになつてゐる。その一はニジニ・ノヴゴロツドに他の一つはニジニ・ドネプロフスクに架

けられる。オカ鐵橋の工費は一千七百萬ルーブル、ニジニ・ドネプロフスク鐵橋の工費は一千一百万ルーブルである。是等の外地方的意義を有する諸線が多數建造されつゝある。北部には木材輸送用の二七五キロの鐵道を敷設中であり、モスクワの周圍には四三九キロの大モスクワ環狀線が建設中である。

尙ほヴォルガ河にはニジニとサライトフに二大鐵橋が架設中である。カラガンダの石炭其他の富源を運ぶカラガンダ・コウンラド線五〇七キロ、極北のエニセイスクと本線を繋ぐエニセイスク・アチンスク線一一二キロも目下工事進捗中である。次に一九三二年四月十五日より一、二〇〇キロのモスクワ・ドンパツス幹線も着工するがその竣工には十五ヶ月の日子を要する筈。

水運

一、ソヴェートの水運概観

ソヴェート聯邦は北はバルチック海白

海北氷洋、南は裏海、黒海、東は太平洋に面し、その海岸線三萬九千軒に達してゐる。かく海岸線は長大であるが、その大部分は冬季結氷し、航運の便を缺いたため、外國貿易の大半を海運によるにも拘らず、ソヴェート聯邦の水運は比較的發達してゐない。殊に歐洲大戰内亂の打撃深刻で、その所有船舶は非常に少いたため、大部分外國の船舶に仰いでゐる。バルチック海、黒海、極東等には造船所を有してゐるが、諸外國に比し、可なり造船技術劣つてゐるため、この方の活動も大して見るべきものがない。

主なる港名左の如し。

一、白海及北氷洋——オルハンゲリスク港
 二、バルチック海——レーニングラード港
 三、黒海及オゾフ海——オデッサ港、ニコエラフスク港、ノウオロシースク港、パツーム港、マリウポリ港
 四、太平洋——浦潮斯德港、ニコラーエフスク港、アレクサンドロフスク港、

ベトロバウロフスク港、
 五、裏海——アストラハン港、バクウ港

ソヴェート聯邦は一方その廣大なる領土内にヴォルガ、ドン、ドネプルー、ド Weiner、アムール、レナ、オビ、エニセイ等世界的大河を擁する關係上、河川運輸も、亦重要意義を有して居る。

之等海上及河川運輸は、現在ソヴェート聯邦水運人民委員部によつて指導統制されてゐるが、直接の經營機關中最大なるものは、ソウトルグフロト(ソヴェート商船隊本部)で、これはソヴェート聯邦の海運中、裏海を除く黒海、バルチック海、太平洋北氷洋等の航運に従事し、その輸送貨物數量は、一九二五年一六六萬七千噸であつたものが、一九二八年には二百一十一萬四千八百一十一噸に増加してゐる。

ソウトルグフロトに次ぐ大水運經營企業は國營裏海汽船會社で、これも一九二五年の貨物輸送數量二百一十一萬四千噸に對して、一九二八年には五百八十一萬噸に増加してゐる。各ソ聯邦内の各種木材

企業、ツェントロ・ソユーズ等もそれぞれ自身に所屬する諸船舶を有してゐる。例へば「セーウエルザップ・レス」(西北木材)は二十七隻の汽船と其他船舶七百五十隻を有し、「カレル・レス」(カレリ共和國木材)は各種船舶百六十五隻を有してゐる。ツェントロ・ソユーズは汽船十四、其他三十九隻を有してゐる。

尙ソヴェート政府が、最近に至り特にこの水運方面を如何に重大視して來たかは一九三一年における水運事業實際投資額三億一千二百萬ルーブルに對して今一九三二年には四億二千萬ルーブルの投資を豫定してゐる事實によつてもこれを知ることが出来る。

二、一九三二年の水運計畫

一九三二年の航行期間を通じソ聯邦は河川水路に依り貨物六五、九(百萬噸)乗客四六(百萬人)を輸送する計畫になつてゐる。即ち國內に縱横する河川を以て、石油九〇五(百萬噸)、穀物四、七(百萬噸)、木材九(百萬噸)、石炭一(百萬噸)等々を低廉なる河川輸送を以て輸送し、

以て鐵道運輸の逼迫を緩和せんとしてゐるわけである。右の水路輸送計畫は昨一九三一年の實際輸送成績に比し貨物二八〇七%、乗客三九%の増大である。

一九三二年度に於ける水路運輸は船舶修繕の遅延労働の組織不備等の原因に依り七二%しか遂行されなかつた。中央アジア諸水路に於ける一九三二年の航行開始は三月十五日からであり、ドネーブル河、ヴォルガ河等は四月半ばよりであるが、船舶修繕はこの航行開始期までに十分には間に合ひさうもない。次に海運方面を見ると、一九三二年全聯邦諸港灣の貨物輸送計畫は六八、二六二(千噸)、國營船舶の貨物輸送計畫は二一、一七七(千噸)と決定され、これを昨年と比較すると、その仕事の量は濠洲貨物輸送四二%増、國營船舶貨物輸送四九%増である。而してこの計畫を實行するには二六四隻の船舶を修繕し、四八隻を根本から改建しなければならぬ。現在水路運輸は牽引力一四、二四四噸、石油タンク船の積載噸數一九、一二七噸不足してゐる。

一九三一年に政府は此の機關に一億五千萬留を支出した。

二、一九三一年航空實績

一九三一年二月上旬の第十七回ソ聯邦共產黨會議に於ける討論中全ソ聯邦民間航空事業合同の代表ゴリツマン氏は民間航空事業發展の必要を力説して大要左の如く言明した

一九三一年中民間航空事業は一九三〇年に比し大なる飛躍をなした。一九三一年中新設された航空路の數は前年度に比し六〇・三%増加し、輸送旅客數は五六・四%、輸送郵便物の數量は一七六・三%増加した。この事は民間航空事業の方面即ち輸送航空事業の方面に於て我々が何れの資本主義國をも凌駕する發展テンポを有することを示してゐる。だが、無論、これではまだアメリカに迫つたとは言へない。我々はまだ恐ろしくアメリカに遅れてゐるから、極く短期間にこの遅れを克服するやう晝夜兼行で働かなければならぬ。農業航空事業即ち専門に林野塵

然るに造船業の注文履行テンポは尙ほ遅々たるものあり、一九三一年の全航行期を通じて造船業は新規汽船、重油船牽引力三九、八〇〇噸、河川非蒸汽船積載量一一〇、九六〇噸を建造したのみで、これは所期計畫の約半ばにしかなかつた。而して一九三二年の船舶建造注文履行成績も昨年と似たり寄つたりで今尙ほ著しき進捗は示してゐないやうである。

民間航空

一、民間航空沿革

ソ聯邦に於ける民間航空の創始は一九二三年からであつて、同年「ドブロレス」(ロシア義勇航空界)が組織され、ドイツより數臺の飛行機を買入れたのが始である。一九二四年には、ソ聯邦に於ける最初の航空路がモスクワ—ニジニイ・ノヴゴロド間(四百二十軒)に開設された。然し、飛行場の設備が不完全であつたを間もなく閉鎖された。

一九二五年には、ソヴェート民間航空界は六臺の飛行機を以てモスクワ—北京

間を突破した。中央アジアには二航空路が開設され、又飛行寫眞測量の實驗飛行も行はれた。

一九二六年は、「ウクルゾオズドフブーチ」、「ドブロレス」等の民間飛行協會の發展期であつた。一九二七年には「ドブロレス」はイルクツク—ボダイボーヤクツク間の飛行路を開設した。從來この間の陸上輸送には二十日乃至三十日を要したが、飛行機に依る様になつてから二三日に短縮された。

一九二八年には民間航空界の活動範圍が擴大されて、飛行機の數も増加した。一九二九年には航空界の組織替と勢力の中央化が行はれ、「ウクルゾオズドフブチ」は「ドブロレス」に合併された。モスクワ—イルクツク間(四千七百五十軒)大航空路の開設も此年である。

一九三〇年には民間航空界が改造された。聯邦政府は「ドブロレス」を廢止して之の代りに「全聯邦民間航空事業合同」を組織し、以て今日の任務に適應せしむるに至つたのである。

おいても決定的な進歩が見られた。即ち一九三〇年度末に於ける民間航空總延長二萬九千三百軒に對し、一九三一年度末には四萬九千六百六十二軒に達した。これをその重要性に依つて各級線別に分類すれば左の如し、

- A、第一級定期航空線—一六、五九一軒
- 一、モスクワ—レニングラード線(六四四軒)
- 二、モスクワ—ハリコフ—アルテモフ—スタ—ロストフ—アルマウイル—ミナルヌイエ—ウオドウイ—マハチ—カラーバクウ—チーフリス線(三、〇二五軒)
- 三、バクウ—ペフレウイ線(三九〇軒)
- 四、モスクワ—ペンザ—サマラー—オル—ブルグ—チエルカール—クズイ—オルダ—タシケント線(三、〇五〇軒)
- 五、タシケント—スタリナバド—テルメズ—カブル線(九〇〇軒)
- 六、モスクワ—カザニ—スウエルドロ—フスク—オムスク—ノウオンピル

スクークラースノヤルスクーイルク
トツク線(四、六〇八籽)

七、イルクーツクウエルフネウーヂ
インスクーチタールフロウオーハ
バロフスクーウラヂイウオストク線
(三、四三四籽)

八、ウエルフネウヂインスクーウラ
ン・パートル線(五四〇籽)

B、第二級定期航空線

一、レニングラードーペトロザウオド
スク線(三六五籽)(線名略)

二、スエミバラツインスクーカラガ
ンダースタナイ線(一、三四〇
籽)

三、クースタナイーマグニトゴールス
ク線(二六〇籽)

四、イルクーツクウイーツイムーヤ
クーツスク線(二、七〇六籽)

五、ウイーツイムーボダイボ線(二八
八籽)

C、第三級定期航空線

一、アルハンゲリスクーゴーツラス
スクイテウイウカル線(九三〇籽)

六、エリスタアストラハン
七、クラスノウオドスクーチャルチュ
イ
ータシケント(今夏新線にて一、六
五〇籽)

八、マグニトゴルスクースタナイ、セ
ミパラチンスク(今夏新線にて一、二
〇〇籽)

九、ヤクーツクーネサメーツヌイールフ
ロラ(今夏新線にて一、二〇〇籽)

一〇、ヤクーツクウイリユイスク(今
夏新線にて五〇〇籽)

一一、クラスノウオトスクーズギンスコ
エー(同一、六〇〇籽)

一二、ウイチュムーホダイホ(同三八〇籽)

一三、クズネツクーミスシンスクークイ
ズイル(同七〇〇籽)

一四、アルハンゲリスクーコトラスー
イクツイワル(同九三〇籽)

一五、アルハンゲリスクーチリマ河口
イジマ(同五八五籽)

一六、モスクワースモレンスクーミンス
クーブリヤンスクーキーエフ(七九〇籽)

一七、カザンーウフアーマグニトゴル
ス

交通

等級は第一級線に属する)

三、一九三二年航空計畫

ソ聯邦民間航空事業合同では最近に至り今一九三二年度の定期航空計畫を立案決定した。が夫れによると一九三一年度には大小四十八線の空路が開かれ、その總延長においても世界無比の壯觀を呈する事となつた。今夏真先に開かれるモスクワー浦潮線始め主要航空線左の如し。
一、モスクワースウエルドロフスクーノ
ーウオシビルスクーイルクーツク
フロラー浦潮斯德(八、〇四二籽)
二、モスクワーベルリン線

(註)以上二線によつて西ヨロッパは完全に極東と連結される)

三、スウエルドロフスクータウダーノ
ーウイ・ボルト(今夏新線にて二、〇〇〇
籽)

四、モスクワーミネラリヌイエ・ウオズ
イーバクウ

五、モスクワーストフ・ナドニーソ
ーチフリスキーバクウ(今夏新線にて
一、四五〇籽)

二、アルハンゲリスクーウステイ・ツ
イリマーイージマ線(五八五籽)

三、アルテモーフスクースターリノ
マリウボーリーベルジヤンスク線
(二四〇籽)

四、アルテモーフスクーガンスクーシ
ヤハツウイ線(二二〇籽)

五、アルマウイルーエリスターアスト
ラハーン線(五八〇籽)

六、タシケントーサマルカンドーテル
メース線(七七〇籽)

八、マリインスクーアレクサンドロフ
スク線(二八〇籽)

九、ニコラエフスクーオホーツスクー
ノラエウオーハイルユズオーウオ
ーペトロパウロフスク線(二九七一
籽)

D、其他國際線

一、モスクワーリガーケニグスベルグ
ーベルリン線

二、レニングラードータルリンリガ
(註)該線はソ獨合辦航空會社「デル
ルフ」の經營にかゝるもので、其

ク(七二〇籽)
一八、モスクワウオロネジースターリ
ングラード(同九四五籽)

一九、モスクワーレニングラード(六
四四籽)

二〇、レニングラードーペトロパウロ
フスク(三六五籽)

二一、ペンザーサラトフ(一九〇籽)

二二、(マリンスクーアレクサンドロフ
スク(北樺太二八〇籽)

二三、ドネプロベトロフスクーシムフェ
ロポリ(四三五籽)

二四、バクウークラスノウオドスク(二
九〇籽)

二五、タシケントーウラチユベースター
リンナバド(三二〇籽)

消費組合

一、ソヴェート消費組合

概観

消費組合は、社會主義的計畫經濟の分配・消費の方面を擔當してゐるものであるだけに、ソヴェート聯邦では國家がこれを進んで援助支持してゐる。従つてソヴェート國家における消費組合網は都市及農村、鐵道、水運等の特殊企業等に亘つて世界一の發達を遂げてゐる。

消費組合に關するソヴェートの法令要項左の如し。

一、ソヴェート共和國全市民は自己の消費並に生産の必要を充たす目的をもつて、消費組合を組織することを得。

二、國民が消費組合に加入し、又同組合より脱退することは自由である。

三、消費組合は、その目的實現のため左の權利を有す。(イ)農産物、手工業製品及工業製品の販賣、(ロ)委託の方法

鐵道従業員、水運従業員の四種に分たれてゐるが、之等の中央機關となつてゐるものは、ツェントロ・ソユーズの名によつて知らるゝ消費組合中央同盟である。更に消費組合の構成を行政區劃によつて分類する時は左の如し。

- (一) 農村消費組合、労働者(都市)消費組合及其他。
- (二) 區消費組合同盟、州消費組合同盟支部。
- (三) 州消費組合同盟、自治共和國消費組合同盟。
- (四) 共和國消費組合同盟。
- (五) ソヴェート聯邦消費組合中央同盟。

二、消費組合發展趨勢

次にソヴェート聯邦消費組合の最近數年間における發展趨勢を表示すれば左の如し。

ソ 聯邦消費組合發展趨勢

項 目	單 位	年 初 に 於 け る 状 態					絶 對 數 に 於 け る 年 増 加		
		一九二六年	一九二九年	一九三〇年	一九三二年(計畫)	一九三三年(計畫)	一九二六年	一九二九年	一九三〇年
一、都市の組合網									
都市成年住民數……………	(百萬人)	一九・五	二〇・二	二二・五	二二・〇	〇・九	一・二	一・四	一・四
都市の組合員數……………	(千 人)	六、九七一	九、八四〇	一三、八八一	二〇、〇〇〇	二四、〇〇〇	二、八六九	四、〇四一	六、六一九
其中 a 都市住民……………	(千 人)	六、三三七	八、八九四	一二、七〇五	一八、〇〇〇	二二、四〇〇	二、七三七	三、七二一	六、一九五
都市成年住民に對する割合……………	(%)	三三・六	四四・三	五八・一	八二・三	九二・〇	—	—	—
b 農村住民……………	(千 人)	七〇・四	八五・六	一、一七六	一、六〇〇	一、八〇〇	一五三	三三	四二四
出 資 總 額……………	(百萬留)	四七・九	一〇二・七	一八九・九	三五八・七	五八・七	八七・二	一六八・八	一七〇・〇
平均一人當出資額……………	(留)	六八七	一〇、四四	一三、六八	二二・五	三五七	三・二四	三・九二	四・三五
二、農村の組合網									
農村成年住民數……………	(百萬人)	七二・二	七二・二	七五・七	七七・〇	一・元	一・五	一・三	(・三)
農村の組合員數……………	(千 人)	一一、六一	一四、八〇	二二、八三	三九、二〇	五二、〇〇	九、〇九〇	一五、三六	二二、二〇〇
都市成年住民數に對する割合……………	(%)	一六・三	二〇・一	三三・〇	五二・九	六九・二	—	—	—
出 資 總 額……………	(百萬留)	四・一	一〇・〇	二七・〇	五四・八	八七・八	三・五	六・五	一〇・〇
平均一人當出資額……………	(留)	三・八	七・七	一三・五	二四・七	三三・一	—	—	—
三、全組合會									
全體系出資額……………	(百萬留)	九一・七	二二・七	四六・九	九〇・五	一、三〇二・五	一一〇・七	一五二・二	四六・六

三、消費組合擴張計畫

ツェントロ・ソユーズ幹部會は一九三一年十一月下旬モスクワにおいて一九三二年度に於ける各種事業の擴張計畫案を審議決定した。殊に消費組合商店網の擴張問題に大なる注意を拂つた。

この説明に依れば、都市の労働者地區及び工場地區には、一九三一年の秋までに一萬餘の新しい雜貨店を開所する。野菜、パン、煙草類販賣の商店を五萬戸以上新設する。労働者の多數居住してゐる大家屋には、パン及び砂糖販賣のため一萬餘の屋内配給所を開設する。

又消費組合の農村商店網を擴張して、一九三二年度中に五千餘の商店を増設する。各小管區消費組合聯合は、受待管内の配給を圓滑ならしめるため、十以上の移動商店を組織する。

尙ほ労働者に配給する食料資源を擴大するため、一九三二年度内に消費組合附屬の菜園面積を四十三萬ヘクタールに増加し、所屬牧場の乳牛と牝豚を夫れ夫れ二十萬頭宛増殖する。

社會營養企業網の擴張は新に六十ヶ所の炊事工場の操業を開始することである。

パン焼の機械化は、大都市及工業中心地に於ては一九三二年末までに、モスクワ、レニングラード、ドンバツス、ウラルに於ては、一九三三年末までに終了する。これに要する費用は一億五百萬留の豫算である。一九三二年度の機械製パン能力は機械化に依り一晝夜に一萬二千噸に増加する豫定である。

ソヴェート聯邦ツェントロ・ソユーズは一九三二年度に於ける消費組合經營企業の新建設に對し五億留を新規投資することとなつたが、之を各共和國別に示す時は左の如し。

一、ロシヤ	四三、一〇〇、〇〇〇留
二、ウクライナ	五、〇〇〇、〇〇〇留
三、ザカウカズ	一六、〇〇〇、〇〇〇留
四、白ロシア	一〇、〇〇〇、〇〇〇留
五、ウズベク	四、八〇〇、〇〇〇留
六、タジク	一、〇〇〇、〇〇〇留

文

教育

一、教育の根本方針

革命によつて一舉ソヴェート政權を樹立したボリシエウイキヤは、新秩序の樹立、經濟の建設、國家の發展の爲、更には世界唯一の労働者農民の國家を形成して、聯邦憲法に所謂「有産階級を抑服し人による人の搾取を廢止し、並に階級の實現する爲、プロレタリアの獨立を保障するには此の目的のための教育を必要とする」ことは當然である。而して是等の目的を貫徹するには、

第一、革命の成果及びソヴェート政權を擁護し、共產主義社會に至る道程として社會主義を建設することを要し、教育を以て之が實現の具となすべく、ブルジョアの手段化を防止しなければならぬ

化

此の目的のために

- イ、教育の中央集權
- ロ、教育及學問の政治化
- ハ、教育の解放、殊に労働者及農民の優先權

第二、從來後れてゐた國民文化の程度を大に向上せしめることを要する、此の爲には教育の奨励、就中普通教育の普及其内容の變更及無學者並に一般民衆の教育を緊急とするが故に

- イ、労働學校の制度を定め、この職業教育と連絡せしめ、普通教育の内容を生産的勤勞に結びつけ、宗教と絶縁せしむ
- ロ、普通教育の義務的國民皆教制度を實施し、教育を無料とすること
- ハ、被服學用品等を官給し
- ニ、無學者を教育して國民皆教の實を擧げ年少浮浪者收容教育を行ひ

ホ、校外教育機關を設けるなどの諸方針が生じる。

第三、經濟建設の根本問題たる工業化及農業の發達に必要な技術及技術者を養成することを要する、これ故に

- イ、實用を主とし、普通教育と調和せる職業教育を興すこと
- ロ、高等教育を専門職業教育化するの方針

第四、婦人を解放し、其啓發を圖ることを必要とするが故に

- イ、學齡前の教育を發達せしむ
- ロ、男女を共學とし、教育上男女を平等とする

第五、國家文化の發達及經濟建設を基礎として、國內多種の異民族の開發を要するが故に

- イ、小數民族の教育を興し、
- ロ、諸民族をして教育上、自主權を有せしめ、就中各母語により、教育を行ふの自由を認めるの方針となつて居る。

二、教育行政組織

教育行政を司る聯邦全體の機關は未だ組織せられて居ない。各聯邦共和國及是を構成する自治共和國に二十五の教育人民委員部があつて、教育行政の中央機關をなし、州、縣、管區、又は郡の教育部が地方機關となつてゐる。中央機關としては

各共和國教育人民委員部

各共和國人民教育部の權限は國家的意義を有する學術研究機關、博物館、藝術機關及高等教育機關に關しては當該共和國全土に亘り、其他の教育機關に關しては自治共和國を除きたる範圍に限られてゐる。

地方機關としては州、縣、管區、郡の執行委員會に屬する教育部であり、區又は郷に於ける教育事務は執行委員中の一人が司る。

各教育部の任務は社會的教育及職業教育に關する指導監督、未成年者の保護、其の社會的援助及び後見、教職員の任免及資格の向上、教育上の計畫、報告統計の作成、未成年者××主義運動の援助

以後に始まり、翌年六月に終る。

(一) 中等專門學校「テフニクム」

中等專門學校は一、生産諸部門の技術者、即ち技手、機械師、助手。二、商工勤務員、計算、記録、商事、コペラチヅ、銀行等の勤務員。三、農事指導者、林業水産技師、四、労働學校第一科教員及其程度の教育關係者、醫務員、即ち藥局師、産婆、看護婦、五、藝術家、即ち俳優、舞臺監督、音樂家、藝術家等總て中級の資格ある者を養成し、一方高等教育に必要な準備智識を授ける事を目的とする。

修學年限

修學年限は二年半(例へば看護婦養成中等專門學校)乃至四年(例へば中等經濟專門學校)、通常は三年である。年齢は十五歳乃至二十歳であるが、地下工学、皮革工業及身體に有害な工業に關する中等專門學校に於ては十八歳以上三十歳迄。

(二) 高等教育機關

高等教育機關には大學、アカデミー、高等專門學校(インスチット)があるが

××××の宣傳、著作物に關する主義上の檢閲及博物館其他校外教育機關の維持指導等に在る。

三、社會的教育機關

學齡前の教育に關する制度

三歳迄の兒童に對する施設は保健人民委員部の司る處であつて、この時代の教育は親の手に委ねられるが、三歳乃至八歳の者の教育に關しては、教育人民委員部の所管に屬する學齡前の教育機關がある。學齡前の教育機關の目的は労働民衆の子女の保育を行ひ、婦人の労働又は社會的勤勞を容易にし、又兒童をして學校教育を受ける準備をなさしめるにある。

學齡前の教育機關には

- イ、幼稚園は一日六時間保育を行ふ
- ロ、托兒所は「爐」と稱し、親が勞務に従事してゐる間、即一日八時間乃至十時間保育する
- ハ、子供の廣場は夏季の運動保育機關である、尙保護者のない學齡前の兒童を收容して養育するものに幼年館がある。幼稚園及托兒所を利用し得

何れも同一程度である。是を專門學科によつて大別すれば、農工、社會及經濟、教育、醫、藝術の諸科とする。

修學年限は四年半乃至五年であつて

工、農、醫の諸科は五年である。年齢十七歳以上の者を入學せしめる。

四、労働者講習所

労働者講習所(略稱ラブファーク)は學校に於て正規の教育を受けず、又は初等の教育を受けたるに止り、實際労働に従事し來り、又は現に従事する成人の労働者及農民に對して九年間學校程度の社會的教育を施し、高等教育機關入學の準備をなし、以て労働民衆に對する高等教育解放の實を擧げることとす。是はソ聯邦教育制度上の一特色を爲すものである。

修學年限

労働者講習所には晝間のものと夜間のものがある、晝間の労働者講習所は一定年數以上労働に従事せる者のために、夜間のものは現に労働に従事せる者をして勉學せしめる爲めに設けられる、修學

者の順位は第一に母が労働者である兒童、第二に孤兒、労働者、赤衛軍人及貧農の子、第三、其他。

四、學 校

(一) 單一労働學校

最下級の學校は之を「單一労働學校」と稱す。社會的教育の基本的機關たる學校を労働學校と名づける理由は一、學校が生産的勤勞生活に入る一般的準備教育を施す處なる事、二、學校の教授方法が實際的、體験的であつて教師の指導の下に兒童をして實驗體得の方法により智能を養はしめるに在るとする事にある。

修學年限

労働學校は之を二科に分ち、第一科を四年間、第二を五年間とし、第二科を二年間に分ち、第一科を三年間、第二科を二年間とする。第一科及第二科第一科を併せたものを七年學校と云ひ、第一科及第二科を併せたものを九年學校と云ふ。

兒童の就學年齢は滿八歳を以て原則とし、地方の状況に應じて一年だけ早め、又は遅らせることが出来る。學年は九月

年限は共に四年である。講習所の終了者は無試験で高等教育機關に入學する權利を有つてゐる。

五、労働大學

労働大學は工場の社會的事業勤務員、工場委員會、「クラブ」、行政機關等に勤務する者の普通教育の程度を高め「マルクス」主義世界觀を深め、且資格の向上を助けることを目的とし、其の名稱に拘はらず職業的傾向を有する中等程度の普通教育機關である。

修業年限は普通二年、外に一年の豫科を置く、夜間毎週十六時間授業を行ひ、本科は工業部と社會、經濟部とに分れてゐる、工業部には農業、機械、電氣、化學、紡績等の分科があり、社會經濟部には行政事務、コペラチヅ、職業同盟、ソヴェート事業、新聞、法律等の諸科がある。

六、共產大學

×××の最高教育機關であつて主として、×××員を收容し、その目的は縣又は州の黨機關、ソヴェート其他の行政機

關の勤務員、ソヴェート×學校教員、政治啓發員等を養成するにある。修學年限は通常三年、教育方面のものは四年、又五年迄は延引し得る規定である。入學資格としては一、通常三年を下らない年数の間共產黨の籍に在る事（青年共產黨員其他の者の入學し得る場合がある）。二、生産的労働又は黨の事業に従事した經歷ある事三、黨機關等から派遣される事、四、母語、ロシア語、算術、政治知識地理に就いてソヴェート黨學校第二科修了程度（下級の黨務員養成機關、修業年限二年）の學力を有する事を必要とする。

七、スターリン東方労働者共産大學

東方後進民族出身者に政治教育を施し、夫等の民族間に××せしめる事を目的とし學生は約五十の東方民族より集る、修學年限は四年であつて、學部及學科は左の通りである。

- 一、レーニン主義部（レーニン主義科、共產黨史科、××インタナショナル、政策及計畫、黨職業及同盟建設

一九三二年のソ聯邦における各種學校就學者の數は著しく増大する筈である。大衆的型の教育機關における就學者の數を前年と比較すると次の通りである。

Table with 2 columns: School Type and Student Count. Rows include 初等學校, 中等學校, 學齡超過者學校, 幼稚園, 文盲清算學校, and 合計.

右のうちで本年就學者の減少するのは、學齡超過者學校と文盲清算學校であるが、前者は學齡期に就學しなかつた様な若者は大體收容しきつたので、だん／＼減少するのであり、文盲清算學校も、一九三一年で全部清算される豫定だから減少するのである。この二つの事實は共にソヴェート聯邦の文化事業の進歩を語るものである。

一九三二年の計畫は特に農村住民の文

科

- 二、經濟學部（經濟學科、經濟政策科）
三、史學部（ロシア史科、西歐史科、自然科學科、語學科）
四、唯物史觀部
五、ソヴェート建設部
六、國外東方學術部
猶ほ授業は出身者の母語によるといふ規定あり。

クループスカヤ共産黨大學
本大學は共產黨員及青年共產黨員より國民教育、××××教育及黨教育方面の有資格教育を××することを目的とし、左記の三學部及一講習會を有し、收容定員一千人である。

- 一、兒童共產主義教育教員養成部
二、社會政治科教員養成部
三、學校組織者及視學部
一、二學部の修學年限四年ケで、三は二ケ年である。

此外に一年修業の講習會を附設し、ソヴェート黨學校社會知識科教員（歴史科及經濟科の教育）の補習教育を行ふ。

化水準の向上に留意してゐる。これは都市では既に一人も文盲者がな程文化の水準は高められてゐるが、農村にはそれに至らないからである。本年の在學數五千五百萬人のうち四千五百萬人は農村住民である。

また大學專門學校、技術學校、労働者大學豫備校の就學は次の通りである。

Table with 2 columns: School Type and Student Count. Rows include 大學專門學校, 技術學校, 労働者大學豫備校, and 合計.

この外一九三二年に工場徒弟學校在學生は百六十九萬人に達する。

學術

一、科學研究の新任務

ソヴェート聯邦の科學研究機關は、社會科學に屬するものも、自然科學に屬するものすべて例外なく五箇年計畫によ

八、文盲撲滅の現状

「字の讀めない人は政治のラチ外にある人である。まづ第一になすべきことは、その人にイロハを教えることである」レーニン。

十月革命の際にはロシアの全人口の六割七分が無學文盲であつた、従つて文盲退治は黨の最も重要な事業の一つであつた、併しながらソヴェート政府が樹立した頃には文盲退治は餘り好成绩をあげることができなかつたことは事實である。五ヶ年計畫が開始され、國家が堅固な經濟的基礎の上になつて以來、文盲退治はすばらしい勢ひで全國に向つて手がのばされた。

一九三一年の計畫によると、ソ聯邦の二千二百萬人が讀み書きを教へられることになつてゐる。革命第十四週年記念日まで一千五百萬人以上のものが既に教育された。一九三二年迄にはソ聯邦では無學文盲は一人もなくなるであらうと。

九、一九三二年の國民教育

つて具體化されつゝある社會主義建設の嵐の如き躍進的現段階において、それぞれの特種職能の上に新なる任務を附與され、もしくは遂行しつゝある。

この任務の外に立つが如き機關は、例へその外見が直接それと縁故のないやうに見へたとしても、今日ではぜつたいに存しない。

マルクス主義農學者第一回全國大會（一九二九年十一月二十七日）に於て、スターリン氏はソヴェート國家に於ける農業集團化運動の偉大なる進撃を指摘した後、ソヴェート現段階に於ける理論學（術）究の意義について次の如く述べてゐる。

『併しながら我々が、社會主義建設の實踐的方面に於ける成功を誇りうる根據を持つてゐるとしても、一般的には經濟的分野において、特殊には農業經濟の分野において、我々が同じ程度の成功を理論的方面に於ても收めてゐると斷言するのは誤である。否、寧ろ理論的方面に於ける活動は、實際的方面のそれに追隨して

居らず、又我々は實踐的方面の成功と理論的思想的發展との間に多少の間隙をさへ持つてゐると言はなければならぬ。ところが、理論的活動はたゞに實踐的活動に追従することをもつて能とすべきでなく、それを追ひ越し、實踐家をして社會主義の勝利のための鬭争に武装せしめるやう仕向けてゆく事が必要である。

都市及び農村に於ける社會主義經濟建設のポリシエヴイキ的テンポによる成功は、學術研究の方面における發達のテンポよりも著しく進んでゐるため、スターリンの指摘したやうなギャップが生じたのであつたが、爾來一年ソヴェート聯邦の全科學研究機關はこのギャップを埋め、進んで實踐を追ひ越して進むために、凡ゆる努力を拂ひ、すでにその分野で相當の實績をすら示しつつある。

二、科學研究機關

現在ソヴェート聯邦における各種科學研究機關の数は約一千に達してゐるが其中には(一)國家豫算によるもの、(二)國家の補助を受けるもの、(三)獨立せるもの

の研究、實驗、研究機關の統一等を行ふ)

G、其の他の委員會

- 「常設地震委員會」、「常設北極委員會」、「バイカル湖研究委員會」、「學術探險委員會」、「熱帶國研究委員會」、「プーシキンル及ツルゲネフ著作出版委員會」、「スラブ研究委員會」、「國立考古學委員會」、「常設歷史委員會」、「露西亞ヴィザンチン歷史辭典委員會」、「東洋學者委員會」、「露西亞語辭典出版委員會」、「方言表作成委員會」、「舊露語研究委員會」

H、博物館は左の五つ

- 「植物學博物館」、「動物學博物館」、「地質礦物學博物館」、「人類學・人類學博物館」、「亞細亞博物館」

I、「プーシキンの家」(博物館の一種)

- 「植物生理試驗所」、「動物學試驗所」、「生理學試驗所」

K、セヴァストポール生物學研究所、太陽研究國際同盟支部

文化

の三種があり、之を研究の種目別に分てば、(イ)物理、數學研究機關、(ロ)自然科學研究機關、(ハ)人文科學研究機關(ニ)教育研究機關、(ホ)各地方を研究する機關、(ヘ)藝術的圖書館、(ト)藝術研究機關等である。

之等機關の中其組織、内容、任務等において第一位に推されるのはソヴェート同盟科學アカデミーで、同盟人民委員會議(ブルジョア國家の閣議)に直屬しレーニングラードに存在する。比較的我國に知られてゐないその組織内容について左に紹介する。

A、ソヴェート聯邦科學アカデミー

一、目的

- A、新なる發見及び新なる研究方法によつて科學を發達せしむること
- B、國家の自然的資源を研究し、その利用に便すること
- C、科學的研究の結果を工業、經濟及文化の上に應用せしめる事を目的とし、之に附帶して科學的發表並

L、圖書館(藏書二百五十萬卷)書庫、出版部

M、以上の外「天文觀測所」、「水理學研究所」、「國立ラヂオ研究所」

三、會員

- 科學アカデミーは、A、正會員、B、名譽會員、C、準會員、D、學術勤務員の四種より成る。
- A、正會員
ソヴェート聯邦の市民にして重要な發見をなし學術上に貢獻したる者より選舉す
- B、名譽會員
ソヴェート聯邦市民又は外國人にして世界的貢獻をなした者から選出す
- C、準會員
科學界に名聲ある學者中から科學アカデミーが之を選び、アカデミー會員總會の承認したる者
- D、學術勤務員
有功なる研究又は實驗をなし、或は専門學識を以て有名なる者にして科學アカデミーの事業に參與す

に出版を行ひ、直接科學者を養成する。

二、組織

科學アカデミーを物理、數學部と、人文科學部とに分つ、人文科學部は史學、言語學、經濟學、社會學等を含む。科學アカデミーはそれ自身に直屬する研究所(インスチテュート)、博物館、實驗所、委員會等の科學研究機關(一九二七、八年現在四〇を算せるも遙かに増加せる筈)を有し、又將來之を必要に應じて新設することが出来る、附屬研究機關の主なるものは左の如し。

- A、物理數學研究所(理論數學、應用數學、機械學純正物理學、實驗物理學、地球物理學の研究)
- B、化學研究所
- C、高架索歴史考古學研究所
- D、チノリス言語學研究所
- E、露西亞及隣接國人種調査常設委員會
- F、ソヴェート聯邦自然生産力研究常設委員會(ソヴェート聯邦自然富源

一九二九年一月補缺選舉の結果になる正會員の數左の如し。

- A、物理學部 三一人
- B、人文科學部 五四人

四、管理

科學アカデミー常任委員會は研究上管理上の最高權を有し會長一人、會長代理二人(任期五年)、幹事、會員、各部書記より成る。

現在科學アカデミー會長は著名の地質學者アレクサンドル・ペトロウイチ・カルピンスキー教授にして、氏は一八八六年すでに科學アカデミー(舊稱「ロシア帝國學士院」)の會員に選舉された。會長代理はクリヂャノフスキー氏及コマロフ教授である。

科學アカデミーの總會(月一回)及部總會(月二回)は常任委員會の召集によつて開かれる。特別總會は主要なる事件の發生に際して及び毎年二回開かれ正會員は正會員關係部會に出席の義務を負ふ。

五、其他

科學アカデミーは其郵税無くして郵便物の發受を行ふことを得、且つ其發受する印刷物手寫物は檢閲を要せぬ様特權を有す。

尙ほ一九三〇年にはアカデミー會員の人的構成に變動あり、新にレーニン未亡人クルプスカヤ女史を名譽會員に選舉し、準會員には左の人々を選舉した。

數學及び自然科學部には

- ポールアドリエン、モリス・ダリク (イギリス)、チャルリズ・パルソン (イギリス)、エス・イ・ワウイロフ、ア・ウエ・ボライ・コシツ教授、エム・ア・シヤテレン教授、エヌ・エス・ストレレツキイ、エ・ウエ・ブリツケ教授、エム・ア・ホンチ・ブルエウイチ、イ・ア・ラツボ・ダニレフスキイ、ゲ・ウエ・コロソフ、エル・イ・ブラソポフ。

社會科學部には

- エフ・チルレル、エワ・チエルティン、ダレン(ドイツ)、エ・ノルデン、エ

し、六、出版を行ふ。

(2) 構成

共産アカデミーは八部、三研究學院、若干の委員會及研究會より成り、出版部及圖書館の外に附屬の三學術協會がある。

共産アカデミーの八部と是に附屬する委員會等は左の通りである。

- 一、經濟部 附屬の經濟地理會及「ソヴェート」國民經濟「セミナリ」あり。
 - 二、農業部 農民革命研究委員會之に附屬す。
 - 三、「コーペラチヴ」部
 - 四、法律及國家原理部 東方民族研究委員會之に附屬す。
 - 五、國際婦人運動理論及實際研究部
 - 六、方法論及歴史研究部
 - 七、自然科學及數學部
 - 八、哲學部
 - 九、文學及美術部
- 因に從來の科學方法論部は一九二八年より廢せられ、自然科學及數學部と哲

フスキーである。

共産主義アカデミーは幾多の研究所(哲學、ソヴェート建設史、世界政策等)及びセクションに岐れてゐる。共産主義の學術的研究及自然科學の唯物史觀的研究の中心である。

B、共産アカデミー

組織

(1) 目的及事業

共産アカデミーの目的は一、「マルクス」主義及「レーニン」主義に關する問題の研究。二、「ブルジョア」の「マルクス」主義破壊に對する防衛。三、社會科學及自然科學に「マルクス」主義を入れ、且理想主義を排除する事にありその事業としては一、總ての學問に就き研究を行ひ。二、國內及外國の「マルクス」主義研究機關及研究者の協力を計り。三、「マルクス」主義及「レーニン」主義の理論及實際に關する高級資格ある研究者を養成し、四、是等の主義の民衆に對する普及を圖る爲め講演、討論等を催し、五、調査隊を派遣

三、マルクス主義學術特別研究機關

此他聯邦科學アカデミーに準すべき同種の機關は、革命後キエフ(ウクライナ科學アカデミー)及びミンスク(白露科學アカデミー)の二箇所にも設置せられ、當該共和國における學術上の最高權威機關となつてゐる。

マルクス主義學術研究施設の最高峰はソ聯邦中央執行委員會附屬の共産主義アカデミーである。一九一八年の創立にかゝり、一九二三年まで社會主義アカデミーと稱されてゐた。會員は悉くマルクス主義の一流理論家で、會長はエム・ボクロ

學部に分屬せしめることとなつた。

研究學院には左の如きものがある。

- 一〇、ソヴェート建設研究學院
 - 一一、世界經濟政治研究學院
 - 一二、最高神經作用研究學院
- 右の外

一三、黨建設研究會

一四、宗教思想研究會

附屬學術協會には

- 一五、「マルクス」主義統計學者協會
- 一六、「マルクス」主義歴史學者協會
- 一七、物質主義生物學者協會

(3) 會員

共産アカデミーは正會員、準會員、學術專門家及研究勤務員を有する。一、正會員は其の「マルクス」主義及「レーニン」主義思想に就き令名あり、又は、學術的研究を發表し、若くは實際的活動をなせる者より選舉せられ、共産アカデミーの機關の事業に與り、學術勤務員及研究員の研究を指導する。二、準會員は「マルクス」主義及「レーニン」主義に就き著名な學問的研究を發表し

たるものより選舉せられる。三、學術勤務員は學問的研究により著名な者より選ばれる。

C、マルクス・エンゲルス研究學院

一九二三年の創設にかゝり、聯邦中央執行委員會に屬し、モスクワに所在し科學的社會主義の發達の研究、同主義者及其先覺者の著述の研究及出版を目的とし、理論及歴史の研究室、圖書保管部、圖書館、博物館及出版部を有つてゐる。此の學院は藏書の豊富を以て名聲あり、その獨逸史研究室だけでも四萬五千部を有し、斯の如く多數の獨逸革命運動史の資料を蒐集した處は他にその類例なしと稱されてゐる。此の學院の主要なる事業は、「マルクス」及「エンゲルス」全集ドイツ語版(全四十卷)、同ロシア語版(八卷)、其他プレハロフ、カウツキイ其他の全集である。此他「レーニン」研究學院(一九二三年三月創立、共産黨中央委員會附屬)、ロシア社會科學研究學院聯合、聯邦東方研究

學術聯合、國立物質文化史學院、經濟研究學院、經濟要素研究學院、國際農業研究學院等がある。

出版界

一、出版界の傾向

全聯邦共産黨第十六回大會は「社會主義建設大衆動員の武器」としての出版物が一九三一年度に於いて如何にその種類及び部数を増加し、且つ内容が改善されたかの報告を發表し、猶ほ今後におけるその質的改善と、その社會主義完成の役割の昂揚に關する方策の採用を決議してゐるが、本年度における出版界の主なる傾向としてはソ聯邦建設事業の缺點を大膽に曝露してゐる點、左右兩翼の日和見主義者に對する鬭争に於て黨の爲めに多大の貢獻をなしたる點、産業及び農業經濟問題に關し出版界の傾向が著しく具體的、徹底になつた點などを擧げることが出来る。

社會主義建設の進展、労働階級の文化

的政治的進歩、出版界そのものの質的改善は自然出版物の著しき數的增加を促した。

二、新聞發行部数の増加

全國における新聞總發行部数は一九二五年十月一日調査によれば七百六萬二千部、一九二七年八月一日七百六十八萬四千部、一九二九年六月一日一千二百六十三萬五千部であつた。

中央諸新聞發行高増加

新聞名稱	一九二八年	一九二九年	一九三〇年六月
プ	六一九、〇〇〇	六六一、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇
イ	四二六、〇〇〇	四四一、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇
ザ	二一、〇〇〇	六三、〇〇〇	一五〇、〇〇〇
（工）	—	二一、〇〇〇	六三、〇〇〇
ツ	八二、〇〇〇	一〇五、〇〇〇	一六七、〇〇〇
ム	三一六、〇〇〇	三一五、〇〇〇	四一七、〇〇〇
ラ	四〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	一〇五、〇〇〇
ク	一六七、〇〇〇	二四〇、〇〇〇	三四五、〇〇〇
コ	—	—	一七、〇〇〇

行部数より多いものがある。例へば「クラスマイ・トレウゴリニク」(日刊)の如き、又、「クラスマイ・プテロウエツ」(五日に二回發行)の如き共に一萬七千部、「ハリコフ汽罐手」(日刊)は六千部を發行してゐる。

コルホーズ、ソフホーズ新聞發行高増加の傾向は最近のことで、一九二九年末から三〇年冒頭にかけてのことである。

一九三〇年四月一日におけるコルホーズソフホーズ新聞の数は三百種、約九十萬部であるが、コルホーズ新聞の平均發行高は未だ餘り多くなく、三千部で、一ヶ月五回發行である。以上數字は新聞の種類と其の發行部数の増加を如實に示すものであるが、こゝに新聞界にとつて障害となるのは紙の不足である、これかため新聞の大きさを小さくする必要に迫られてゐる。

左の數字は紙の需給關係を示すものである。

一九三〇年における新聞用紙の需要と實際生産高

發行所需要高 實際生産高 供給高
單位千噸 單位千噸 %
一八〇 一三七 七六・一一

紙の不足は、新聞が休刊を廢したことに原因してゐる。普通新聞のほか壁新聞の生長も著しいものがある、現在では總ての機關、總ての企業、俱樂部、農業小舎圖書館、赤軍内に壁新聞は發行されてゐる。一九二七年度壁新聞の数は四萬種、一九二八年末には八萬種、現在では二十萬種にも達してゐる。

三、一九三二年の新聞發行狀態

一九三二年五月五日の出版デーを期して發表された一九三二年一月一日現在のソヴェート聯邦新聞数は五千六百種に達し、之を戦前のロシア帝國新聞數八百五十九種に對比する時は正に六倍半の増加であるが更に全新聞の發行部数は三千五百萬部に達し戦前の十倍に相當する。其他戦前との重大なる變化は戦前全新聞の二〇%がベトログラード及びモスクワに於て發行されてゐたが、今日では兩大

都市に於けるそれは僅か全新聞の二%に過ぎず。九十八まではソヴェト聯邦の各地方に於て發行されてゐる事でこれはソ聯邦工業化並に民族文化の發展が地方新聞發行の巨大なる推進力となつたものであると説明されてゐる。殊に一九三二年におけるソ聯邦新聞網の發達、就中地方管區新聞並に工場新聞の創刊は多數に上り同年中に新聞數は約倍増するといふ

一九二八年
一九三二年一月一日
一九三三年一月一日

四、労働農民通信員

一九二八年十一月(第四回全聯邦労働農民通信員會議)迄の労働農民通信員の數は約五十萬人で、一九三〇年前半期における計算によれば該通信員の數は百二十萬人を下らない。

一九三〇年度一月二十五日附決議において全聯邦共產黨中央執行委員會は經濟計畫遂行問題に關する諸新聞の態度を難詰してゐるが、中央執行委員會は二月附書面の形式をもつて經濟建設の特殊指

活況を示した。一ウクライナに於ける新聞數が戦前全露のそれと匹敵し而もその發行部數に至つては却つて六〇%を凌駕するといふ有様である。尙五千六百種の新聞中ロシア語によるものの約四千種、残り一千六百種は八十三を以て數ふるソ聯邦内大小各民族の民族語によるものである。ソ聯邦新聞の一日發行部數趨勢を示せば左の如し。

八、八〇〇、〇〇〇部
三五、〇〇〇、〇〇〇部
四、〇〇〇、〇〇〇部 (計畫數字)

導法に關聯して新聞界の決定的立直しを要求してゐる。この指令は新聞界立直しの重要な動機となり、新聞界においても自己批判が益々活潑となり、一九二八、二九年度新聞界自己批判で最も指標的な課題となつたのは所謂スモレンスク、アストラハン、アルテモフスク事件であつた。そして一九三〇年度の特色的な自己批判の對照は産業財政計畫、播種カンパニヤ、漁獲、木材買附等の成績に關するものであつた。

一九二八、二九年 二一、五百萬枚
一九二九、三〇年 五〇百萬枚
後コーカサス共和國

一九二七、二八年 三五、五百萬枚
一九二八、二九年 四二、五百萬枚
一九二九、三〇年 五五、五百萬枚

ソ聯邦諸民族中央出版所にかゝる出版物數は一九二八年度の千七百萬枚に對し、七千五百萬枚に達してゐる。ウクライナ共和國における技術關係書籍は二八、二九年度に比較し、二九、三〇年度には六倍の増加である。

五、ロシア共和國における書籍發行高

書籍發行部數は激増したにもかゝらば、需要が著しく減少した。國立出版所刊行物の平均發行部數は一九二八年度の二萬八千部から一九二九年度には四萬八千五百部に増加した。一九二九年末二萬部を印刷したマルクスの「資本論」は二ヶ月で賣切れ、十萬部増刷したスターリンの「レーニン主義の諸問題」には五十萬部刷つて之を完全に賣盡してしまつた。技術

二、九%職業組合から轉じたもの三、二%、經濟機關からのもの〇、四%コペラチヴからの者〇、九%と云ふ割合である。それから記者二千六十九人の中千九百七十四名(九五、四%)は實に再準備教育未終了者であつた。従つて現在の重要問題は新聞從業員の選擇、登用、準備教育、再教育の問題である。

一九三〇、三一年度の學年期からマルクス主義講座内に新聞部が開設され、多くの共產黨高等學校内にも新聞記者養成及び再教育講座が議せられてゐる。一方新聞社内機關の「清掃」と、各機關へ労働者を登用することなども問題になつてゐる。

四、書籍及び雜誌

國內工業化、農業集團化、社會主義建設問題の解決、文化事業の發展等の結果書籍、雜誌の需要は著しく増加した。書籍發行數の増加率は各民族共和國及び州において殊に顯著で、書籍種類及び用紙の増加は次のような數字を示してゐる。白ロシア

多くの新聞の根本的な缺陷を擧ぐれば政治的誤謬、輕跳、陳腐、煽情的、問題究明の不徹底、編輯機關改造の遲疑逡巡、社會主義建設遂行過程の報道不充分、社會主義展開の新條件下における労働農業通信員運動に對する指導の不足等である。是等の缺陷は黨籍記者連の缺陷並びに現業地における黨指導の不徹底さを暴露するものである。新聞紙、殊に職業組合新聞紙の檢査並びに「清掃」を斷行してゐることが判つて大問題になつたことがある。新聞從業員の主要な缺陷は政治教育の未熟、ジャーナリストとしての經驗淺きことなどを擧げることが出来るが、又、黨籍にある者三三、九%、労働者出身一六、二%といふような割合をも考慮に入れなければならぬ。それから從業員の頻繁な交迭もソヴェト新聞界の大なる缺點である。例へば同一新聞を一年未滿で退社するもの六〇%からあり、そして事務的職業から新聞界に轉じたもの三一、一%、黨の仕事から轉じたもの一

關係及び大衆向書籍の賣行きも亦素晴らしく、例へば一九三〇年三月に出たアチンスキイの「フォルドゾン・トラクター」(第四版四萬部)、「インターナショナル・トラクター」(第三版六萬六千部)の如きは僅々一ヶ月間に十二萬部の注文を受けた。第十六回黨大會決議は百萬部、一九二九年中央執行委員會十一月幹部會議決議は百五十萬部、スターリンの有名な論文でパンフレットになつた「成功からの眩暈」は實に千二百萬部を賣盡したのである。大衆向政治叢書「コペイカ叢書」は百五十萬乃至三百萬部出る。

全國の雜誌發行部數はさう急激な増加を示してゐないが、最近一年半乃至二年間に出版された雜誌の種類は殆んど技術農業、政治關係のものに限られた感があり、一九三〇年の技術雜誌は一九二九年の二倍で一億三百萬枚、政治雜誌は雜誌中の首位を占め二億七千七百枚(印刷全紙)である。雜誌の生産が新聞、書籍に比して振はないのは用紙の不足や、小雜誌の廢刊や、最近の傾向として大衆向書

籍の洪水などが原因であらう。いれにしても書籍、雑誌に對する需要増加は出版事業五ヶ年計畫の立直しを必要とするに至るだらう、一九二九、三〇年度の雑誌及書籍の生産高豫想は五ヶ年計畫になれば三十二億枚(印刷用全紙)、産業財政計畫案一九三一年度分は三十八億四千萬枚であるが、此の數字では未だ需要の六〇%だけしか充足してはゐない。

五ヶ年計畫案による一九三〇、三一年度生産高は四十億枚であるが、現在ロシア共和國及びウクライナ共和國だけでも最小限度の需要高は八十二億枚に達してゐる。左に掲げる數字は主要なる發行所の生産費を示すものである。(書籍校正刷一枚の生産費)

一九二七年	一九二九年	値下率
ロシア共和國立出版所	七、五、八一	二五%
農業國立出版所	一〇、九、九、一六	一六%
「教育労働者」出版所	二、五、七、九、一	二七%
技術國立出版所	二、三、六、二〇、八	一一%

是等の出版所が莫大な損失を蒙つたのはさう舊いことではないが、現在では中

央諸出版所(新聞、書籍)出版物蓄積額は千三百五十萬留と稱へられてゐる。但し印刷界で惱みの種は印刷機械及び紙の不

足である。第十六回黨會議前の印刷機械數は左表の通りである。

植 字 機 械	聯 邦		ドイツ
	一九二八年	一九三〇年	
平盤印刷機	五、三、四〇	三、五、五二	五五二
輪轉印刷機	一八二	一八二	一八二
印刷機械の不足は從來ソ聯邦國內で製作せず、殆んど全部輸入品に仰いでゐるからである。而して用紙の不足、殊に新聞用紙は一九三〇年全需要の七一、六九%だけしか充足してゐないが、最近紙の内地生産増加により輸入紙は漸次減少の傾向がある。			

宗 教

一、宗教の現状

宗教の自由に付てはロシア社會主義聯邦ソヴェート共和國憲法の保障するところである。之れ社會主義に在りては民衆を社會的連帯以外の一切の羈絆より解散

し、個性の完全なる自由を保障せむことを理想となすに由るものと認む可きところ、革命當時以來無神の宣傳及反宗教運動の行はれて來たのは元來超自然力の存在を前提とする宗教的信仰が唯物史觀に即する科學的社會主義の理論に反するものであると共に、在來の宗教を以て搾取階級の傀儡と墮し一般民衆の奴隸的服従を強制する一方便と化せるものなりとし社會主義化せられた社會の施設には民衆を經濟的に解放すると共に、マルクスが宗教は人民に對する阿片であると説ける所に從ひ、宗教的迷信を打破し以て民衆を精神的にも解放するを要するとの觀念に基礎を置くものと認む可く、而して右に

付ては共產黨綱領中に於て反宗教運動は科學的宣傳の啓蒙に依るの外暴力を用ひて妄に民衆の反感を買ふ可からざるを戒め、又黨の決議に於ても村落に於ける節度なき反宗教運動が、却て所期の目的に反するものであることを戒めて居る。然るに不拘最近年を逐つて反宗教運動が熾烈となり、大規模の宣傳および多數の宗教的建物の閉鎖除去が行はれ又對人的壓迫例へば「セクタント」に對する峻烈なる壓迫を見るに至るのみでなく、一九二九年四月開催せられたる第十四回全露ソヴェート大會に於てロシア共和國憲法第四條は改正せられて「労働民衆ニ眞ノ良心ノ自由ヲ保障スル爲メ國家ト教會並學校ト教會トヲ分離シ又信教宗教的宣傳ノ自由ヲ、人民ニ認ム」とせられ、信教の自由は依然認めらるるも從來反宗教的宣傳と共に認められてた宗教的宣傳の自由は保證せられざることとなつた。

此の一九二九年四月八日發布の新法律は一九二八年一月二十三日附の國家及學校と教會分離に關する根本法に其淵源を

有するものであるが、特に本法律を發布したのは一九二八年に發布せられたる右根本法の施行細則及其後の法令が過渡期の規則であつて現時の要求に適さないのに鑑み、之に代らしめやうとするものであり、本法律は右諸法令と甚しく其の内容を異にしてゐる。今其の主なる點を擧ぐれば、

先づ第一に本法律は一九一八年の根本法は凡ゆる名稱の祭祀聯合に適用せらるべきを定め(第一條)以て其施行法が其適用の範圍を詳細に定めたるも、尙且適用を受けざる者あるべきを防ぎ、人員の多少を問はず、苟くも團體又は集團を組織する宗教的結合は凡て登記しなければ何等の活動を爲すを得ざることとし(第二條、第三條、第四條)且宗教團體團體員及其の各種機關の構成人員を届け出づるの義務を負はしめ(第八條)團體の執行機關の人員中個々の者を忌避する權利を留保し(第十四條)又許可を得て開かれたる宗教大會に其の執行機關の名簿と共に大會の資料提出の義務を負はしめ(第二十條)

二、反宗教運動

斯の新しい法律の發布された一九二九年より一九三〇年にかけて、宗教彈壓運動は其の頂點に達し、爲めに各國宗教團體の注意を喚起するに至り、殊にローマ法王は一九三〇年二月教書を發表してロシア基督教徒の爲めに全世界に呼びかけ、次でカンタベリー大監督が之に應じて世論の喚起につとめた。此の結果、西歐及びアメリカの反ソヴェートの感情が非常に激發されるに至り、ソ聯官憲は形勢の重大なるを感知し、三月十五日附の共產黨中央委員會の指令にて政策緩和の意を發表した。それによれば人民の社會的、任意的希望を無現したる行政處分による教會堂の閉鎖行爲を斷然中止し、實際に農民の絶對多數による場合には州執行委員會の承認を経てのみ教會堂閉鎖を

設可することを公布した。此の指令によつて幾分表面の彈壓的態度は緩和された如くであるが、地方、共産黨の反宗教政策とゲ・ベ・ウの反宗教的活動があつて、憲法并に法律を空文化させてゐる事實は見逃すことが出来ない。特に「ゲ・ベ・ウ」の活動は潜行的にして、而も最も凄じき勢力を有してゐる。此の本部には「秘密活動部第六課」なるものがあつて、對宗教方針は細大洩らさず此處で處理せられてゐる。如何にゲ・ベ・ウの活動が猛烈であるかは、學校教員にして教會に行く者を監視し、發見するときは立ちに解職し又學生でも教會へ行つたのを發見すると上級の學校に入學する特權を剝奪される此外、政府の運動ではないが、民間の義勇的、有志者な反宗教運動として「戰闘的無神論者同盟」といふのがある。創立以後既に六年であるが、今日では勞働者農民及一般勞階級を含んだ三百五十萬人の會員を有してゐる。この團體の活動に就てはローマ法王はその宗教的反動性によつて、「道德及び文化の退歩」である

と絶叫し、海外の白系ロシア人と各國の反動勢力とは結びついて宗教防禦の十字軍を起させやうとしたことがある。

猶ほ反宗教運動のため、専門の反宗教學校、反宗教學科、反宗教雜誌、書籍、反宗教示威運動、假裝行列等を行ひ、特に反宗教的出版物に力を注いでゐる。反宗教運動が年々如何に發展し行くかは、反宗教運動専門の新聞雜誌中、最も勢力のある新聞「ベズボジニク」が、一九二七年度の發行部數六萬二千五百十四部から一九三〇年度には三十七萬五千部に激増してゐる事實を知れば充分である。

赤色スポーツ

ソヴェエト・スポーツ概観

一、革命前のスポーツ

革命前まではロシアに於けるスポーツ體育方面の運動は、充分の發展をとげてゐなかつた。モスクワ、昔のベチルグルダ、ハリコフ、ロストフ・ナ・ドン、キエフ

その他數ヶ所の都市に於て小規模の體育團體があつたが、それとても加盟者は數十人に過ぎず、主として中等學校の生徒と知識勞働者が之に参加してゐる。

参加人員が少ない結果これ等の團體でやるスポーツの種類も從つて、非常に制限されたものであつた。その當時廣く行はれた競技は、スケート、スキー、フットボール、體操跳躍等であつた。當時の大衆はスポーツの發展に注意を向けることが非常に少なかつた。むしろ正確に言ふならば、大衆には競技が殆んどなかつたか、または全くなかつた。そうでなければ大衆はかうした競技を見ることを好まなかつた。

二、革命後のスポーツ

國內戰が終り、全工業や農業が復興しはじめてからは廣汎な大衆の状態は非常に幸福になり、青年達の間には暇な時間を文化的に過さうと云ふ希望があらはれて來た。と同時に單獨競技又は綜合競技のスポーツの團體が組織されはじめた。

この運動は日と共に隆んになり、廣汎な青年層をとらへた。それは一つの中央部から發せられるところの組織的な毎日のコーチを要求した。そして一九二三年の六月七日全露中央執行委會幹部會の決議に基づき、常任委員會の權限をもつて全露中央執行委會幹部會附屬の最高體育委員會が組織された。委員會の構成メンバーは人民の體育事業に關係ある機關の代表者であつた。またこの委員會には教化人民委員部保健人民委員部、勞働組合および他の機關代表者も参加した。

洲、縣、郡、地方の中心地には同じ様な體育委員會が設けられた。最高體育委員會および地方の體育委員會は、體育運動の發展と教化のために豫算から特別支出をする權利をもつてゐた。これ等の支出は體育講師の養成、スタヂオ、競技場スケート場、スキー小屋(ヒュツテ)および他の施設のために使はれ、また體育に關する通俗的並に科學的文献の發行に使はれた。

最高體育委員會の組織と共に體育運動

の指導と統制は國家の手中に握られることになつた。

下級の體育機關は次の如くである。工場、製造場、鐵道區、水運機關その他に附屬する體育團體は、當該産業の勞働組合の指導下にある。體育團體には選舉によつた五人の委員からなる體育部がありそれは事業を指導する以外に有給の體育指導者を備つてゐる。體育事業に要する費用は、事業の體育資金中から支拂はれる。體育團體の代表者は當該組合の洲又は管區の體育部の構成メンバーとなり、後者の代表者は勞働組合評議會の體育部の構成メンバーとなる。體育團體の體育部は、任期は一ヶ年である。仕事がうまく行かない場合は、體育委員會は任期以前にやめさせられることすらある。

學校内の體育は多數の指導者網もつてゐるところの、教化人民委員部諸機關がこれを指導する。學校の體育は生徒の必須科目であるが、生徒は一應醫師の許可をうける。

保健のための諸機關には大きなしかも

責任ある任務が課せられてゐる。それは勞働組合の體育團體のみならず學校内の體育に従事してゐるあらゆる人々に對して醫學上の統制をしてゐる。この目的のために醫學統制部をもつてゐる。この任務は體育部從業者の健康状態を監督し統制することにある。この外保健機關は休息所、サナトリウム、および療養所の體育事業の指導をもする。斯界の權威に乞ふて體育の講習を開くこともある。

コルホーズおよびサフボーズ内體育は勞働組合體育團體の援助を受け、體育委員會がこれを指導する。勞働組合體育團體は、その多數が農村體育團體の後援者となつてゐる。

手工業コオペレーションの會員間の體育事業は勞働組合内のそれに準じてゐる。

現在體育團體に加盟し正規的に仕事をしてゐるものは四百萬人以上ある。この尨大なる數字は、それでもまだ體育機關を満足せしむることは出来ない。そこで現在では五ヶ年計畫の終り頃に一千萬人

を體育事業に引込む計畫がたてられてゐる。

三、赤色スポーツの特色

ソヴェエトロシアのスポーツマンは過去のロシアのスポーツマンや現在外國に於けるスポーツマンと、非常に異つてゐる。ロシアのスポーツマンから唯一つの競技種目に對する専門化や完成は要求出來ない。スポーツマンはそれこれのレコードを作つたりまたはその競技のチャンピオンになつたりすることは要求されない。

ソヴェエトのスポーツマンに要求するところは廣汎な社會性であり各スポーツマンは泳いだり、走つたり、とんだり、スキーをやつたりすることを要求される。またモーターを動かしたり、初歩の衛生規則を覺えたり、生産の過程に、または

労働の生活に、體育を應用し各種の企業や諸機關に於て優秀な生産者となることを要求される。これ等の要求をスポーツマンは實行する以外にその競技の達成を計るのである。

四、主なる競技の種類

右の外に外國の選手がソヴェエトロシアにやつて來たり、ソヴェエトのスポーツマンが競技のため外國に行つたりしたところの國際的性質をもつ競技の種類も多くある。ソヴェエトロシアで普及してゐる競技を左に述べて見やう。

トルコの派遣選手との最近の試合に一九三〇年の夏にモスクワで行はれたがロシアの選手は三對一で勝利を得た。また一九二四年トルコの派遣選手との試合は同じくロシアに有利な様に終つた。下部

種目	レコードホルダー	年號	記録
六〇米	コルニエンコ	一九二九	六秒八
一〇〇米	同	同	一〇秒七
二〇〇米	同	一九二八	二二秒

種目	レコードホルダー	年號	記録
四〇〇米	ホドガエスキー	一九二六	五〇秒二
一、〇〇〇米	エス・デニソフ	一九二六	二分三四秒八
一、五〇〇米	同	一九二六	四分〇八秒八
五、〇〇〇米	マリヤウエフ	一九二五	一五分三二秒
一〇、〇〇〇米	マクスーノフ	一九二六	三二分三四秒

立 幅 飛	ミエロウイチ	一九二九	三、〇四米
走 幅 飛	バルフエアノウイチ	一九二九	六、九五米
双手圓盤投	セルゲーエフ	一九二七	七三・五八米

女 子

六〇米	シヤマノヴァ	一九二六	七秒八
一〇〇米	同	一九二六	一二秒八

自轉車競走

一〇〇〇米	ミローノフ	一九二六	一分一三秒六
自轉車マラソン			
五〇キロ米	カズロフ	一九二六	四一分八秒八
競技場外競走(普通の街路による)			
一〇〇キロ米	ミヘーエフ	一九二〇	三時間四分

五〇〇米	ヤーメリニコフ	一九二〇	四五秒
------	---------	------	-----

五、赤色スポーツ競技場

かつては體育團體がごく小規模の競技場しかもつてゐなかつたが、今ではモスクワ、レニングラード、ハリコフ、ロストフ等の大都市で言葉通り最新式の技術によつて作られた十萬人の收容能力のある競技場をもつてゐるのは勿論のこと、リヤザン、ツィラ、ヴォログダ、アルハ

ンゲリスク等の小都會でもあらゆる競技に適用し得る競技場をもち、一、二萬の見物人を收容し得る觀覽席もある。競技場やプールや他の體育諸設備を計畫的に建設するために體育委員會に附屬して常任委員會が設置されてゐる。體育委員會の最優秀な建築技師や美術家や技師等體育委員會の建設者と指導者がこれ

に参加する。常任委員會の任務は建築の場所を選定すること、案を立てること、體育的設備の正しいしかも合理的な建設に關する他の問題の處理等である。大工場や綜合工場に附屬して建てられる新しい都市は、これ等都市民衆に完全に奉任する處の競技場をもたねばならない。

體育運動に於ける最近の大きな事件は五ヶ年計畫の完成を記念するために、體育及び藝術のあらゆる形によつて全世界オリンピック大會を行ふと云ふ政府當局の決定である。

赤色オリンピック大會は一九三三年モスクワで開かれることになつてゐる。このために政府の決議によつて十三萬人を收容する競技場の設立が計畫されてゐる。この競技場建設敷地も既に決定し、事業の完成期もきまつたのみならず一切の競技種目を行ふ赤色オリンピック大會のプログラムを作製するために特別の委員會が設置された。オリンピック大會開催日まで世界的リレーレースが決勝を争ふことになつてゐる。

以上が今日のソヴェートに於ける體育運動の大略である。

赤色スポーツ・インテルン

赤色スポーツ・インターナショナルといふ國際的組織があることは今日よく知られてゐるが、その加盟人員数は明確にされてゐない。兎に角現在四百五十萬人以上五百萬人に達する赤色スポーツマンを包擁してゐることはたしかでソヴェートのスポーツ五箇年計畫では、その最終年度即ち一年繰り上げでは今年中にソヴェート労働組合體育團體が中心となつて、コルホズ及びソフホズ體育團體、學校内體育團體協力の下に一千萬人を體育事業に引込むことが豫想されてゐる。

ラヂオ

ソヴェート・ラヂオ概観

一九二七年四月一日開催の第十五會黨大會召集直前の登録ラヂオ聴取器總數は十五萬七千個であつた。しかし當時はまだラヂオ器械製作工業の發展テンポが遅れてゐたら此數の五二%までは自製の聴取器であつた。然るに第十五會黨決議はラヂオ器械製作工業の生産再建と其の發展を命じてからラヂオ事業は一轉換期に入り、一九三〇年一月一日の第十六會黨大會には既に登録聴取器數は五十八萬八

文 化

られてゐる。これは更めていふまでもないが、最近特にブルジョア階級支配の極めて重要な武器として登場してゐるブルジョア・スポーツに對抗し挑戦して、××的プロレタリアートを國際的に組織したものである。一九二一年三月、新經濟政策へ一大轉換の頃ソヴェートのプロレタリア・スポーツ・インターナショナルとの協同戦線を厥つて、モスクワに赤色スポーツ・インターナショナルの創立大會を開催したものである。昨一九三一年はちよつとその十週年目に當るので、八月一日の赤色デー記念を兼ねモスクワに盛大なる赤色スポーツ・インターナショナル第十週年記念國際スポーツ大會が開催された。當時のモスクワ新聞によると、この大會には、ドイツ、イギリス、フランス、スエーデン、ノールウェー、チェッコ・スロウキヤ、エストニア、トルコ、ブルガリヤ、アメリカ、リトワニヤ、フィンランド等世界各國の左翼プロレタリアスポーツマンが多數出場し、各種の陸上水上競會において、種々新しい記録をつ

千個に激増した。聴取網の擴大と、もにラヂオ講演度數も著しく増加した。左表はこれを示すものである。

ラヂオ講演時間總數	ソ聯邦全土	モスクワ地方(註)
一九二六年度	二六、〇〇〇時	一
一九二七年度	六七、〇〇〇	四七、四
一九二八年度	一〇三、〇〇〇	九八、四

ラヂオ講演の種類は、	一九二六年	一九二七年	一九二八年
政治に關するもの	二〇時	三〇時	四〇時
農業に關するもの	二九	一五二	四二〇
教育に關するもの	二三	一七五	三三〇
社會生活に關するもの	二二六	三五六	四七七
藝術に關するもの	四九	五五	四七
註一労働組合關係放送局を除く。			
猶は一九二八、一九二九、一九三〇年			
一月より三月に至る講演延時間數は左の通りである。			

講演時間總數	一九二六年	一九二七年	一九二八年
講演一日平均時間數	二〇	一七	二五

くつた由である。大會は八月一日から六日にかけて行はれたが、最終日の六日には「赤の廣場」で、四萬人の各國労働者スポーツマン参加の下に、壯大な體育行進が行はれた。この行進にあつて、ソヴェートの指導者スターリン氏や、最高體育委員會長アンチポフ氏などか祝辭と激励の辭を述べたといふことも報道されてゐた。

この赤色スポーツ・インター加盟人員は、一九三一年の記録によると、

ソヴェート聯邦	四、〇〇〇、〇〇〇人
チエツコ・スロヴァキヤ	一〇、〇〇〇人
ノールウェー	二五、〇〇〇人
フランス	八、〇〇〇人
イギリス	五、〇〇〇人
エストニア	三、〇〇〇人
ポーランド	二、八〇〇人
ブルガリヤ	一、五〇〇人

右の外ドイツ、オランダ、デンマーク、ラトヴィヤ、アメリカ合衆國、リトワニヤ、フィンランド、ベルギー、ユーゴスラヴィヤ、トルコ其他の諸國が参加し

「ラヂオ新聞」の爲め放送時間の約二〇%を割いてゐる。現在ラヂオ新聞は三百紙位ある有様で放送をうける工場ラヂオ新聞は百七十九紙で、此他コルホズ・ラヂオ新聞が百ばかりある。

ラヂオ講座も盛んに普及され一九二九年度全聯邦を通じラヂオ講座で勉強した者の數は六萬人に達し、モスクワだけでもテキストを注文した登録學生數は二萬八千五百人であつた。五ヶ年計畫が需要する高級及び中級専門家中四〇%を校外教員によつて養成することが出來るとすれば、ラヂオ講座は校外教育機關中最重要な役割を演ずるものである。

一九三〇年未にはソ聯邦を通じ、四二〇キロワット以上の總能力を有する放送局五十七ヶ所に於て講演を開始することになつてゐる。講演に要する資金支出額は引續き増加し、二七・二八年度には二百五十萬留であつたが、二八・二九年度には三百萬留、二九・三〇年度には六百五十萬留となつた。三一年度地方放送局の要求額は三百四十萬留である。

全國民經濟再建事業の進行に伴ひラヂオ講演は益々重要視されるに至り殊に講演の政治化が叫ばれるやうになつた。これに刺戟されてラヂオ關係者の「ラヂオ講演戦線労働者協會」入會者が増加した。此協會の宣言要項を左に掲げてみよう。

「ラヂオ講演におけるプロレタリア・イデオロギー擁護のため政治的文盲と闘争することはラヂオ戦線における基本的戦略である。これと密接なる關聯においてラヂオ放送を社會主義闘争のための黨略に利用し、數百萬の大衆を運動に誘引し講演の平易化をはかる爲めに吾人はラヂオ講演の創作的方法に關する各種の問題を解決しなければならぬ」

一九三一年黨中央委員會及びソ聯邦中央執行委員會はラヂオに關し極めて重要な責任的課題を與へてゐる。それは黨大衆及びソヴェート建設労働者のための講座を組織し、黨大衆をしてマルクス主義レーニン主義の理論的武器ならしめることである。同年度一月一日から此の黨啓發全線にわたる運動が開始されてゐる。

民族文化

民族文化概観

一九一七年の十月革命は帝政時代極度に抑壓されたるソヴェートの少數民族即ち大ロシア以外八十有餘を以て數ふる民族の解放をもたらし、爾來今日までソヴェート諸民族の文化的水準は著しく高まつて來た。

而してソヴェート政府の民族文化に對する指導政策は、形式においては民族的、内容においては××主義的といふにある。即ちその使用する文學の如きはその民族自身の固有のものを使用せしむるが、しかもそこに、盛る内容はプロレタリアートのインターナショナルリズムに基づくものである。

少數民族の文化水準向上を示すものは彼等の間における教育網の擴大と普及である。この點で最も進んでゐるのはジョルジャ及びアルメニアで、一九三〇年度前者においては全學齡兒童の九七・七

%、後者においては八一・四%が就學するに至つた。

最も廣汎な民族經濟並に行政的活動諸部門の幹部教育は凡ての民族共和國や洲において非常なスピードで進んでゐる。一九二八年には四九の言語で出版される百三十の雑誌と二〇一の新聞とがあつたが、一九三〇年には五八の言語で書かれる三五七の雑誌と三四九の新聞とがあつた。この比率は今日更に著しく進んで來てゐる筈である。殊に少數民族語労働者新聞の發行部數は一九三〇年すでに二年前の七倍以上に上つた。各共和國には民族語の本を出すため國立出版所が設けられてゐる。

民族藝術の發展も著しく殊に一九三〇年夏モスクワに全ソヴェート民族藝術オリムピックが開催され十八の民族代表劇團と十の民衆劇團、九つの民族映畫會社が參加して互にその藝術的達成を競ひ合つて以後、民族藝術の發達には柏車が加へられた。

藝 術

文 學

一、ソヴェート文學概観

革命の十四年間、ソヴェート・ロシアは政治的闘争と經濟的建設に灼熱した激動の中にありながら、藝術の全戦線においても亦、多彩で夥しい、そして世界的尺度において高く評價さるべき數多くの成果、優れたる作品を生み出した。

プロレタリア革命は藝術を破壊し、藝術の存在と相容れないとしたブルジョアジーの見解、又鐵の獨裁時代にはプロレタリアートの階級的藝術は花開かないとするトロツキー、ウオロンスキー一派の見解は實踐において完全にくつがえされた。今日世界のどこにもソヴェートほど大衆の生活に深い有機的連繋を持ち、創造的活力に溢れた文學的活動を華々しく展開してゐる國家はない。そこでは文學

で著しく強化され、擴大されてきたのである。

だがこの素晴らしい發展のかけにも勿論そこには尙さまさまの缺陷や弱點は潜んでゐる。例へば今日のソヴェートにおける社會主義經濟建設の嵐のやうに急激な發展テンポに比する時は、文學運動の發展テンポが尙著しく立ち遅れ跛を引いてゐること、藝術的技術が擴大されたテーマを十分に藝術化するまでには進んでゐないこと作家のマルクス・レーニン主義的意識が十分に作品に浸透してゐないこと、作家の生活と労働社會の生活との間にギャップがあること等は最も代表的なものであると見なしてゐる。だがこれらの殆んど全部は成長するものに特有な云はゞ己むをえない弱點であり、缺陷であつて、いつかは清算さるべき性質のものである。否現に時と共に清算が急がれより高い完成へと進みつつある。だからこれを例へば資本主義諸國のいはゆるブルジョア文學に見るやうな、致命的などうしやうもない缺陷や弱點と同視すること

とは出来ない。資本主義諸國において吾々の現在見てゐるものは、その經濟的政治的矛盾の成熟につれて益々深化し、擴大されゆく藝術文化の危機である。反動化である。いわゆるエロ、グロ、ナンセンス的傾向への完全なる顛落である。それはすでにその歴史的使命を終り、進歩的役割を疾うの昔喪失してしまつた。

階てソヴェト文學といつても、それは單色ではない。そこにはプロレタリア文學を先頭に、農民文學、同伴者文學、新ブルジョア文學 種々の文學的分派や潮流が混在し、著るしく多様性を帯びてゐる、そして現在それらの分派の主要な特色を示すならば、

- 一、プロ文學とブルジョア文學の中間に介在する同伴者（正確には革命の文學的同伴者）の益々急激化された分裂の過程
- 二、同伴者の右翼の轉化による新ブルジョア文學の結成
- 三、同伴者の左翼並に農民文學のプロレタリアートへの接近

ソヴェトに於ける階級的敵即ちブルジョアの各種の部隊は、ソヴェト政府並に黨の社會民主主義的變質及び資本主義の復活に希望をかけ、プロレタリアートと農民の同盟の決裂に期待し、富農に味方して國の工業化と農業の社會化に反對し、且つソヴェト政治を抑壓專制の政治と化して、自らのために政治的自由を獲得しやうと努めてゐる。

文學作品の中にこの階級的敵のイデオロギーを反映したものが、新ブルジョア文學である。

近く日本に再遊を豫報されてゐるボリス・ピリニヤークが、國外亡命露人の出版機關を通じて一九二九年に發表した小説「赤い樹」はその典型的なもので、ソヴェトの經濟政策は都市においては革命前から残存したものを消耗したに過ぎず農村においては中産農民や手堅く維持されて來た百姓生活を貧農に振り落しただけである。ソヴェト・ロシアには何等の社會主義的建設もない。新經濟政策への轉換は「社會主義的試驗」の落第であ

- 四、プロレタリア文學の質的量的成長と文學戦線のボリシェヴィキ化
- 五、新ブルジョア文學とプロレタリア文學との階級闘争の尖鋭化

二、右翼同伴者並に新ブルジョア文學

同伴者の名稱は四五年前迄非プロレタリア的ソヴェト文學の殆んど全部の層を引つくるめて包含してゐた。従つてこの中にアレクセイ・トルストイからピリニヤーク、マヤコフスキーに至る全部の文學層はつらねられ、ソヴェト文學の藝術的指導者は完全に彼等の手に握られてゐた。然るに今日ではこの名稱はすでにソヴェト作家の大きな層を引つくるめて總稱するに不適當となつた。何故なら舊同伴者の大部の者がプロレタリア革命の進行と反比例して時と共に右傾化しすでに革命の同伴者ではなくなり、或者はその作品において階級的敵の陣營に移行してしまつたからである。

革命の事業が先に破壊された個所を恢復する段階、即ち新經濟政策の初期の段

階にあつては、極端な政治的反動でない限り、殆んど大部の作家が同伴者であり得た。現に黨の文藝政策に關する一九二五年の全露共産黨中央委員會の決議はソヴェト社會をイデオロギー的に反動化しやうとするスメナウエヒ（目標轉換派）型の作家をすら、未だ同伴者の中に加へてゐた。

しかし現在はずでに變つて來た。社會主義建設事業が進み文化革命が進行しつつある段階においては、スメナウエヒはすでに同伴者ではない。かゝる段階においてはたゞかゝる段階の必要に應じ、文學的活動を通じて社會主義建設に何等かの寄與をなしうる者のみが同伴者の名をもつて呼び得る。この種同伴者も相當存在するにはするがこれはいづれ後述することとして、前者即ち革命に同伴することをやめ、いづれかの驛で途中下車して以來時と共に右傾し反動化した作家は今如何なる文學的活動をしてゐるであらうか？ 新ブルジョア文學の結成がそれである。

つた」といふのがその主要な内容をなしてゐる。これはその内容が極端に反ソヴェト的であり、その發表の形式が全く反革命的であると云ふので、ソヴェト文壇並に社會のうがうたる非難攻撃を受け、これを動因として、ピリニヤーク等を中心とするソヴェト文壇最右翼の作家團體「全露作家組合」は一九二九年十二月大會を開き、「文學的活動によつて社會主義建設に参加する作家のみ本組合員たるを得るものなり」と全組合員の前に政治的要求を提出し、且つその名稱も「ソヴェト作家同盟」と改稱され、一聯の反動作家を列外に放り出して再組織を行ふに至つた。

ウエシニコフの小説「デコリテ」の中には、富農と貧農とが如何にその世帯を取り換えたか、しかも怠け者の貧農が辛棒人の富農の世帯を衰亡に導いたかを書いてゐる。ウエシニコフによれば人間は互に階級的利害によつて異なるのではなくて、辛棒と知恵の程度によつて異なることになつてゐる。ピリニヤークの報告文學

「中部黒土州」は全部社會主義的工業化への反對を内容として居り、「ヴォルガは裏海に注ぐ」は最近東京朝日の「オベリスク」欄、讀賣の文藝欄等に彼が依然ソヴェトの文學的同伴者たることを示してゐる云々と紹介されてゐるが、事實は全く然らず、これは前記「赤い樹」の換骨脱腿したもので、アウエルバッツ始めソヴェトのプロレタリア批評家はいづれもこれを典型的な新ブルジョア作品なりと評してゐる。

更に女流作家セイフリーナの作品「自慢」フセワロド・イワノフの「邸宅」レオノフの「ソーチ」、ザミヤチンの諸作、ブルガニコフの戯曲「紫の島」其他はいづれも富農もしくはネツプマン乃至反動ブルジョアジのイデオロギーを内容としてゐる。

セルゲフツェンスキーの「孔雀」はボリシェヴィズムといふ意地悪のみづくが、舊ロシアのインテリゲンツィヤといふ華麗な孔雀を喰ひ殺したといふ極めて見え透いた象徴的比喩が盛られてゐる。

若し是等に加ふるにエフ・クリエエフや、エヌ・クルイニコフの詩のやうな露骨に富農のイデオロギーを盛つたものや一九二八、九年から現れかけたブルジョア通俗小説の復興をあげるなら反動的傾向が相當に強く舊同伴者作家の可なり廣汎なる層を捉へてゐることを知り得るであらう。後者の例としてはハジムラート・ムグエフ描くところの通俗小説「火の前足」が挙げられる。

この小説の中で、佛蘭西の通俗小説家ヘ・ベヌアのよく描く、上流社會の主人公流の位置を占めるものは「崇高な」英雄—革命家である。

舊同伴者の多くの作家—特に反動化した作家は、テーマを現代から離れて過去の世界に求めてゐる。又或作家例へばピリニヤークの如きは作家にとつては何を描くか？ が問題ではなくて、如何に描くかが問題の全部であると相變らず古い題目を繰り返してゐる。ところでこゝに皮肉なことは政治否定論者ピリニヤークの「赤い樹」や、「ヴォオルガはカスピ海に

注ぐ」の中に作家の明確な反プロレタリア的政治意識が無花果の葉の蔭から蔽ひがたく露出してゐることである。又一部の作家は時代と融和しがたい英雄的孤獨者、一個人主義者とその作品の中に理想化し、プロレタリアートの集團主義と明確な對立を示してゐることである。これらの諸傾向はいづれもソヴェート現社會の否定、それからの離反と逆行、捨てられた戀人のやうにブルジョア社會の古巢に對する愛着を曝露してゐるものに外ならない。

三、左翼同伴者の文學

だが政治と文化の戦線における二面的プロセスの進行は今日のソヴェート・ロシア、即ち五箇年計畫による社會主義的改造期のロシアの特色である。即ち舊同伴者右翼の反動化、新ブルジョア化と並んで、その左翼は益々意識的にプロレタリアートに接近し、社會主義建設事業に参加せんとすの衷必の希望を表示してゐる。彼等の中の或者—例へば構成派に屬する作家團—は同伴者の名を肩とせず。

プロレタリア共同作家(サブプロレタリアスキー・ピサーチェリ)の名を以て呼ばんことを要求し、又或者—例へば未來派其他—はラツプ(ロシア・プロレタリア作家同盟)に加盟してプロレタリア作家の陳列中に加はらんことを要求してゐる。否すでにラツプの同意を得て同伴者からプロ作家團に轉じたもの少くない。然し勿論これらのことは右翼同伴者がプロ作家に轉化してしまひもしくは解消し去つたことを意味しない。右翼同伴者—否これこそ眞の同伴者である—は依然として存在し、活動をつゞけてゐる。これらの中には「吼えろ、支那！」で我國にも有名なトレチヤコフ、名戯曲「ラズロム」(巡洋艦「ザリヤ」の名で邦譯あり)の著者ラウレニヨフ、ニコライ・チーホーフニコライ・ニキーチン、マルインキン、スロニムスキー、セリヴィンスキー、アグニヨフ、オレン及び構成派の大部分、舊未來派の大部分の作家を擧げることが出来る。

左翼同伴者の作品中傑作として知られ

てゐるものにスロニムスキーの「中通り」(歴史的に運命づけられた町人社會が如何に頭を擡げやうとしてゐるかを書いた小説)前記ベラウレーニヨフの「木彫のグラヴィヤ」(プロレタリアートに有意義な藝術創造の問題)ニコライ・チーホーフの小説集「冒險好きの男」、ア、マルインキンの小説「セバストポール」、ユー、オレンの小説「羨望」とそれを戯曲化したソヴェート劇壇の新しい收獲たらしめた「官能の陰謀」、ニコライ・ニキーチンの小説「スパイ」、エヌ・アグニヨフの長編小説「ニクベトーチの結果」(高等學校におけるコースチャ、リヤツエエフ)及び「カレリーヤ・リブスカヤの三つの測定」、エム・カザコフの「前屈みに歩く人間」(猶太人排斥に關するもの)、女流作家シヤギーニヤンの小説「キーク」、イ・セリウインスキーの詩「毛皮會社」及び同人の悲劇「第一派遣軍」、ウエー・マヤコフスキーの戯曲「南京蟲」等々。

此の同伴者左派の特徴はプロレタリア革命に接近しプロレタリアの建設事業に

四、農民文學の位置

参加せんとする心からの希望である。然し此の派も専門上の危険も誤謬も持つて居る。此のグループの作家の大多数にとつて基本的の誤謬は工業技術の役割を法外に吹聴して、イデオロギー及び政治の重要性の評価が足らず、尙之に關聯してソヴェート・インテリゲンツィヤ主として技術インテリゲンツィヤの役割を誇張して居ることである。イデオロギーの役割に對する無理解の點がレレ派全部(今では崩壊)の特徴であつた。「毛皮會社」に於て、セリヴィンスキーはソヴェート・インテリゲンツィヤの問題を提出して、冷静にプロレタリア、インテリゲンツィヤに對照せしめて居る。斯くして、レーニンのスローガン「誰が誰を」は現在ソヴェート文學にも完全に適用される。何故なら今ソヴェート、ロシアではプロレタリア文學と新ブルジョア文學との間に眞の同伴者作家を獲得する爲めの鬭争が熾烈に行はれて居るからである。

五、プロレタリア文學

だがソヴェート文壇最大の特徴を形成せるものは、プロレタリア文學の著しい質的量的成長である。それはすでに初期

の幼稚な稽古の段階から脱出した。そして社會主義建設の現段階を最も有機的客觀的に描寫するためプロレタリア・レーリズムの道を掘り深めつゝある。それは自己の流派とスタイルの形成のために、そして藝術的ヘゲモニー確立のために戦つてゐる。

ソヴェート文學の全體系中に於てプロレタリア文學の占むる比重は著しく増大した。現實のテーマの範圍は擴大し、だゞに著名作家の頭數ばかりでなく、若い作家の人數も著しく増えた。又それはマルクス・レーニン主義を武器として藝術的方法論の問題の更により高い討究を遂げた。

プロレタリア文學の質的成長の當然の結果として、労働者讀者の數も亦激増を示し、労働者讀者の側からの、より高い藝術作品提供に對する需要——所謂社會的註文が發せられつゝある。イリイッチ工場労働者のプロ作家に對する宣言（後述）の如きそれを證するものである。最近におけるプロレタリア文學作品中に

熱と元氣——これこそプロレタリア作家の取り上げべきテーマである。』

マルクス主義批評家ベスパーロフ氏はプラウダ紙上で、このイリイッチ工場労働者の宣言の正當さを裏付けると共に一方プロレタリア作家の今日取り上げべき題材の中に労働階級の國際的闘争の問題農村の社會主義的改造の問題、階級としての富農清算の問題等を加ふべきことを指摘してゐる。

イリイッチ工場労働者の宣言は、今日プロレタリア作家の生産する文學作品と進歩的労働者讀者大衆の側からの文學的要求とが尙著しいギャップをもつてゐること語るものである。

六、ソヴェート報告文學

此の最も困難な課題の解決にプロレタリア文學は漸く着手しかけて居るに過ぎないが社會主義建設の新段階を藝術に上せよと云ふ社會的註文の履行に對する慾求は一方報告文學乃至藝術的素描の形式を大いに發達させやうとして居る。此の形式は大きな形式例へば長篇小説等が

は次の如きものがあげられる。ア・フアデーエフの小説「ウデゲからの最後の者」

ユー・リベデンスキーの「轉換」、最近出版されたエム・シヨロホフの「靜かなるドン」の終編、イワン・カタエフの「心臓」ダイ・レヂエフの「淺瀬を渡りて」カー・エルドベルグの「支那物語」、コーチンの「乙女等」アー・ノウイコフのリボーイ、ゲー・ニキーフオロフ、エフ・グラートコフ其他の純文藝作品、若き作家の作品の一斑（ベー・ゴルバトフの「細胞」、エム・コロソフの短篇、イ・ブラージニンの「飛躍」ヤ・シウエードフの「エルバザール」プラトシキンの「道路」等プロレタリア作家の劇作の一斑を挙げれば、ウエー・キルシヨーフの「風の町」、リベデンスキーの「高味」、カラワエフ、ピル・ベロツエルコフスキー、グレボフ其他の戯曲、勿論以上のもの全部が全部優秀な作品であると云ふわけではない。然し最近一、二年間におけるプロレタリア作家の收穫として何等かの意味でソヴェート文學に感銘を與へたものと云

讀者に與へ得ないものを讀者に與へやうとするのである。殊にソヴェート文學の發展のテンポが、經濟戦線に於ける社會主義建設の嵐の如き發達テンポに著しく遅れてゐる今日此の形式が創造され、要求されてゐるのは極めて自然であると思ふことが出来る。

報告文學の代表的なものとしてはスターフスキーの「コザツク村」を擧げることが出来る、北コーカサスに於ける穀物買上、イスバーフの「銃と書物を以て」（現在の赤軍兵營生活）ガールン及びウイシネフスキー共働労働「作業室にて」（労働者の生活）ジীগ其他である。

プロレタリア作家は報告文學の新しい生きたテーマを掴むため各都市の大工場地方の社會化農場等に群をなして視察見學に赴きつゝある。

例へばウエ・ガジン、ウエ・ルゴフ、エス・グロマン・ミナエフ等プロ作家の一行は、一九二九年夏金屬労働組合中央委員會の委任を受けて、ウラル、スターリングラード、ロストフ、チルチ等の大

ふことが出来る。

然しプロレタリア文學は尙その題材の方面で又藝術的技術の方面でさまざまの缺陷をもつてゐる。これについてつい先頃イリイッチ工場の労働者が宣言の形式で次の如く今日のプロレタリア文學を評してゐるのは意味深長である。

「プロレタリア作家は労働階級の生活、その社會主義建設戦線に於ける闘争について書いてゐるけれども、彼等は未だ労働者とその習俗、その生活、その闘争を十分に知らない。何故なら彼等はそれ（労働者の生活）から遠く隔り、それに密接せず、その興味、要求と溶け合はず、多く自分の閉ざされた個人主義的生活の中に生きてゐるからである。』現在書くべきことは何であるかと云ふに、労働者が今では變つて以前と別のものになつてゐるといふことである。其の生活、習俗社會主義建設における役割及び重要性、工場に於ける社會主義的労働の新形式と方法、突撃部隊及び社會主義的競争による生産、社會主義のための闘争における

金屬工業地帯に旅行し労働者たちに文藝講演、詩の朗讀等種々の働きかけをなすと共に、工場労働生活から、必要なさまざまな題材を吸ひ取つて、これを幾つもの報告文學の形式に發表した。

又一九三〇年、國立出版社は數萬ルーブルの資金をプロレタリア作家左翼同伴者並に農民作家團體に提供しそれらの團體中から約一百名の作家を選んで地方の大工場、集團經營農場等に派遣しその視察見學の結果に成る作品を、國立出版社から刊行しつゝある。それらの中に作家數名の共働労働になる報告文學が、ぞく／＼創られつゝあることも特記しなければならぬ。

七、突撃部隊の文學

突撃部隊は、今日の嵐のやうな社會主義建設時代のソヴェート・ロシアを最も生き生きと特徴づける労働の社會主義的形式である。これはその外形に基いて、「コムミュン突撃部隊」「集團經營突撃部隊」「貫通突撃部隊」「合理化突撃部隊」等にわかれてゐる。突撃部隊はこれも今

日ソヴェート・ロシアの生産労働を特徴づける「社會主義的競争」と時を同じうして生れたものではあるが、當初にあつてはそれは必しも社會的競争の基礎的な形態でもなければまた支配的な形態でもなかつた。

しかしながら突撃部隊の擴張と鞏化につれ、社會主義的競争と突撃部隊とは同一の形態の両面となるに至つた。

突撃部隊に組織された労働者は、労働規律、サボタージュの清算に關し、又労働能率——製品の一定規格の遂行と品質に關して義務を負ふことになつてゐる。

今日突撃部隊に屬する労働者は一萬人以上に達し、都市及び集團經營農村等に於てのみならず、カムチャツカの沖に蟹取る蟹工船に至るまでこの突撃労働部隊を編成していはゆるポリシエヴィキの擲を營みつゝある。

ロシア・プロレタリア作家同盟ラツプの當面のスローガンは、「この突撃労働部隊に面を向けよ！」である。即ちソヴェート労働者の精鋭分子を文學の世界に、

誘引して、彼等に創作を書かせ詩を創らせると共に、又鑑賞の方面からも文學作品に親しませることである。これについてはソヴェート・プロレタリア文學運動の指導理論家アヴェルバツフ氏が最近次のやうに書いてゐるのを見てもわかる。

『今日においてはすでに「ラツプは工場へ」といふだけでは不十分である。今日においては「突撃部隊に面を向けよ」といふスロガンがラツプが労働者化するための鍵鎖とならなければならぬ。社會主義工業化の中心形態から論ずるならば彼はプロレタリア文學運動の中心形態にならなければならぬし、又なるであらう併し文學への突撃隊員の誘引は只單に新しい作家に對する機をなしてゐるばかりではない。それは最も重要な任務をなしてゐる。その解決にはラツプは進んで手段を講じなければならぬ。』

ラツプのかゝる働きかけによつて、労働者突撃隊員の文學への誘引彼等の文學的活動が始められつゝある。勿論その文學的活動は質においても量においても

藝出版界の一角を賑合してゐた「作家と讀者」と稱する新聞はトロツキー、ウオロンスキー的傾向や種々の偏向を示してゐたが先頃遂に廢刊となつた。

映 畫

一、映畫の目的

映畫はソ聯邦においては他の藝術の中で、勤勞者の生活に最も深く浸透してゐる藝術部門である。ソ聯邦では映畫は労働者及び農民に對して如何に働き、如何に新らしき技術を利用すべきかを教育する道具であり、氣象及び技術上の文盲を撲滅すべき手段として利用されなければならぬものとされてゐる。

二、産業の一部門として の映畫

一九二九、三〇年度には既にソヴェート映畫事業は産業の特殊部門として現はれ、單にフィルム、映畫劇場の問題ばかりでなく、映畫用各種機械の生産、寫眞化學工業の問題とも結びつき國內の映畫

未だ現在のところ幼稚な段階にとどまつてゐる。然しそれが明日の文學の中心形態とならうとしてゐる事實は見逃してはならない。特にこゝに一項を割いて紹介する所以である。

八、文藝出版界

廣汎な讀者大衆特にプロレタリア大衆の眞正なる藝術的文學に對する需要は異常に増大した、此の需要の現はれば、廣汎な讀者大衆はプロレタリア作家の優れた作品を提供することに成功せる『小説新聞』(ローマン・ガゼータ)の發行と、國立出版所が古典及びプロレタリア作家のものを廉價に提供する『廉價文庫』出版計畫成功の事實の中に看取される。文學雜誌の數も、其の發行部數と共に増えた。『十月』は三千から一萬に、『若き親衛隊』は六千から一萬一萬二千に、『星』は三十四千から九千に、然かも發行部數の増加したのは文壇右翼を目ざしてゐる雜誌(『赤い處女地』や『新世界』の如き)ではなくて、正にプロレタリア作家及び左翼同伴者を主として居る雜誌である

化を妨げる外國製品の驅逐策にも多大の關係を有つに至つたのである。

映畫事業の中心機關を確立するために組織の變更を必要とするに至り、一九三〇年十一月十三日附ソ聯邦人民委員會法令を以て總ての映畫事業は其の藝術的・イデオロギー的指導方針は從來の如く聯邦共和國教育人民委員會の監督下に置くが、その他の方面は總てソ聯邦國民經濟最高會議の所管に移すこととなつた。總ての映畫及び寫眞工業、並びに映畫の貸附、經營事業を統一した全聯邦映畫合同「ソユーズ・キノ」を組織し、これによつて從來の不統一を清算し、映畫事業を國民經濟最高委員會の一般産業指導方針に置くことが出來た。

昨年度の業績に徴するに、映畫事業發展のテンポは國民經濟發展のそれに比較して劣勢にある。國內に於ける生フィルム生産組織が不完全な状態にある限り、映畫事業の廣汎な發展を期待し得られない。映寫機械の製作方面も農業經濟社會化部分における文化運動の躍進と共に農

新しい雜誌も生れた。例へば農民作家團體の機關誌『ソヴェートの土』一九二九年未から出てるラツプ(全露プロレタリア作家同盟)の大衆向雜誌がそれである。全ソヴェート・プロレタリア作家同盟總聯合に統合されたるソヴェート同盟各地方のプロレタリア作家も亦、印刷用紙の拂底にも拘らず自己の機關誌を刊行して、プロレタリア文學の新しい處女地を開拓しつゝある。その中には『西伯利の火』及び『純正』(以上西伯利)、『昂揚』(ドン河畔ロストフ市)、『ガールト』、『チエルランヌイ・シリヤフ』、『文學定期市場』、『新種族』、『前衛』、『プロレタリアート』、『赤い言葉』(以上ウクライナ)、『若者』、『火焰』及び『ウズウイシヤ』(以上白ロシア)等がある。

尙最近に至つて、ラツプは、「ラツプ」と稱する年六回の定期刊行雜誌を發行し出したが、これは「文學哨所」など、共に、ソヴェート・プロレタリア文學の理論的指導機關として、相當高く評價されていゝ雜誌である。長い間ソヴェート文

村における映畫網の需要を充すに足りず、殊に機械部分品の供給不足によつて農村の映畫化に支障を來してゐる。

一九二九、三〇年度に於て映畫フィルム製作所の新設を開始し、既に建設を終つたものもある。そして既に操業を開始した製作所はキエフ市の「ウフフク」、チフリス市「ヂョルジャ国立映畫工業」、タシュケント市「ウズベク・ゴスキノ」等がある。映畫都市「ソヴェート・ホリウツド」、モスクワのボツィリフ映畫製作所は未だ完成に至つてゐない。

映畫製作所のテンボが社會主義建設のテンボに比して遅れてゐる他の原因は映畫脚本の拂底と、映畫製作における合理化操作の行はれてゐないことである。生産費の昂騰した割合に、製品は依然として質的に改善されてゐないのである。政治教育方面の映畫の製作も頗る不振である。映畫製作に對する産業資金計畫案が實施されなかつたことが映畫脚本危機を産んだ客觀的原因ではないやうである。最大の原因は映畫脚本家の養成不足と、

によつて優秀品として折紙をつけられたものは總計八點で、「兵器廠」「舊きものと新らしきもの」、「成吉思の後裔」、「帝國の斷片」、「還らざる幻」、「大地」、「大工場」「トルクシブ」であつた。

藝術映畫の製作費は一本平均九萬六千留に達した。計畫案では七萬五千留であつた。フィルムの藝術的・イデオロギー的内容の改善、生活費の引下、生産テンポの促進等、これらは一九三一年度に於て映畫事業の當然爲すべき課題である。

四、映畫五ヶ年計畫

これは新文化五ヶ年計畫案中の重要な位置を占めてゐる。ソ聯邦における映畫發展のテンポと文化建設の新テンポと一致したことは著しく事業上活動のテンポ促進を要求した。一九三〇・三一年度新映畫劇場計畫數は百六十、此他、新らしき労働者俱樂部、新建設物内の映畫化計畫がある。

一九三〇・三一年度大ソフホーズ、コルホーズ、集團化地方中心地は悉く映畫化が行はれる豫定である。此の目的の爲

プロレタリア作家及び労働通信員を此方面に利用することの不成功などを教へることが出来る。

映畫網の發展は農村においては未だ大したことはないが、然しフィルムの生産數に追いつき、貸附基金の不足を訴へるほどであつた。

それにもかゝらず一九二九・三〇年度に於てはこの映畫網は大飛躍をなし、二八・二九年度に比し一七二%の増加であつた。一九二七・二八年度ソ聯邦全土における映畫配置數は八千三百組、此中四千六百組は都市で、三千七百組は農村、大部分は移動映畫であつた。一九二八・二九年度には映畫の配置數は一萬一千八百に増加した、此中都市五千三百、農村六千七百、五ヶ年計畫による一九二九・三〇年度の豫定配置數は二萬七百で、此中都市五千七百、農村一萬五千であつた。しかし現在のところ、映寫機の不足から一千だけ配置不能である。

以上記す通り、一九二九・三〇年度には、農村における配置數の増加により、

め農村に猶ほ五千の常設映畫場を新設する。三〇年十月一日の農村映畫常設場は三千であつた。人口百人から一千人位の部落には移動映畫隊が巡廻する。かくして映畫は五ヶ年計畫終期にはソ聯邦の僻村僻隅にまで普及されるであらう。

一九三〇・三一年度計畫では文藝映畫(無聲)百二十五本、同トーキー二十九本、政治映畫(無聲)三百四十四本、同トーキー十九本、ニュース(無聲)四百八十五本、同トーキー二十六本と豫定してゐる。此の計畫ではトーキーに比較的重心を置くこの年度はトーキー大量製作のトップを切るであらう。

猶ほ三十二年以後の無聲映畫の製作計畫數は左の通りである。

一九三二年度	三二〇本
一九三三年度	六六〇本
一九三四年度	九五〇本
一九三五年度	一、一五〇本
一九三六年度	一、五五〇本
一九三七年度	一、九〇〇本

一九三二年映寫機の使用豫想高は三萬

都市との權衡がとれてきた。

三、映畫の種類及製作數

如何なる種類の映畫が製作されてゐるか、上映委員會本部の報告によると、一九二八・二九年度の製作數百十本の中、國際革命運動を取扱つたもの八、ロシアにおける革命運動のもの五、農村もの一八、歴史史二、社會主義建設一五、ニュースもの三五、社會主義教育もの八、ソヴェート・インテリゲンツィヤの生活を取扱つたもの六、國防もの三、其他一〇となつてゐる。

一九二九・三〇年度には前年度製作の文藝物の大作を配給してゐる、例へばエイゼンシュテインの「舊きものと、新らしきもの」、エルムレルの「帝國の斷片」、トウリンの「トルクシブ」、ドウジェンコの「大地」(これは農村に於ける階級戰の課題を充分に捉えてゐないといふ非難がある)、ロームの「還らざる幻」等であつた。

二八・二九年度製作品(一部は二九・三〇年度に上映)の中、上映委員會本部

八千本である。

ソ聯邦のトーキーは技師シヨリン及びターゲルの方式によるもので、前々年までは未だ試験的製作時代を出でなかつたが、二九・三〇年度には既に大量製作時代に飛躍してゐる。三〇・三一年度にはトーキー専門製作所が數ヶ所建設され、既に完工したのものもある。

技術上の進歩としてはデ・ヴェルトフ製作の音響「ドンバスのシムフォニー」は自然音の採入技術に於て一大成績を挙げたものとして注目されてゐる。

一九三〇・三一年度の音畫製作計畫本數は「ソユーズ・キノ」五十本、「メジエラ」ブボムフィルム」十三本の豫定で、フィルム總製作數の三〇%に當る。

演 劇

一、革命初期の演劇

ソ聯邦では政治における演劇の役割が如何に重要視されてゐるか特殊の興味を喚起する。ソ聯邦では現在所謂純藝術

主義はその支持者を益々失ひつゝある。是等の簡単な、判りきつた眞理さへソ聯邦演劇關係者がこれを體得するまでには容易でなかつた。しかし次のことを想起するならば敢て驚くに足りない十月革命以前の演劇は舊貴族、地主及ブルジョア文化の零圍氣中に生長し、基礎を固め來つたので、これが直ち十月革命を體得するには非常に困難な事であつたのである。劇場及びその關係者は全ロシアのインテリゲンチヤと藝術家達と共に演劇のソヴェート化を行つたのである。演劇は文學が通つてきたと同様の道程を辿つてきた。しかし文學に較べては遙かに遅れてゐた。演劇インテリゲンチヤの間に行つた運動の最も特徴的なものはモスクワ藝術座であつた。後期のナロードニキ運動を取扱つたような(トレネフの「ガチーフ反亂」)白軍擁護の(トルビン時代)、革命により壓迫せられた小人物への同情(レオノフのフウンチロフスク)等の如き過程を経由して「敵意」ある中立的態度にその色彩を塗り替へ、ソヴェートの題目

タリヤ・タルボワ、「面目を忘れて」の如きかゝる傾向の代辯者であつた。

偉大な工業化の成功は労働階級の文化的慾求を著しく昂揚せしめた。演劇の問題は現在では廣汎なプロレタリア大衆の切實な問題である。彼等は最早單なる觀客ではない。演劇への組織的影響を與へんとする觀客である。彼等は單なる藝術の慾求者ではなく、生産者である。何となればプロレタリア大衆は演劇が社會主義建設の協力者であることを要求してゐるからである。又、集團化しつゝある農村は演劇に對して全く新しき慾求をもつてゐる。

しかし現在のところ演劇はこれらの原因は一體何處にあるのか？ 社會主義改造の演劇となるためには單に善良なる意志と、「ソヴェートのプラットフォームに於て」だけでは決して満足とはいへない。世界觀の再建が必要である。演劇及びその關係者が眞に今日の再建期に歩調を合せんとするならば、單に教科書的意義における政治教育者といふばかりでなく、

〔装甲列車〕、「封鎖」、「我が青春」に轉向したが、この過程は總ての舊演劇關係者にとつては驚異的なものであつた。

プロレタリア獨裁の鞏化、その經濟組織の成功、これと關聯して技術的インテリゲンチヤの急速な分解作用と、他方藝術インテリゲンチヤの革命的、急進的分子の生長とは舊演劇をして新らしきソヴェート式軌道への轉向を速かならしめた。

二、一九二七年以後の演劇

一九二七年黨會議に於て演劇に關する問題を討議し、ソヴェート演劇今後の發展に就き次の點を決定した。即ちソヴェート演劇は舊文化の遺産を批判的に咀嚼し、時代性への適合を求め、左翼演劇運動を援助し、プロレタリア戯曲の生長を奨励し、労働階級に敵意を有するイデオロギーとの闘争を行ふことであつた。以上は一九二七年の演劇黨會議規定の大意である。

一九二七年冬のシーズンには恰も十月革

プロレタリアートの哲學、マルクス主義的世界觀獲得の意味における政治教育者とならなければならぬ。従つて演劇に於ける創作法の問題も、文學に於けると同様、演劇の實在に關する問題となるのである。

四、演劇労働者の進出

演劇の「政治性」、プロレタリア世界觀の爲めの闘争のほかに、創作的衰耗を克服しなければならぬ。演劇に對するプロレタリア的影響を鞏化せしめる手段は極めて多いが、先づ次のようなものである。キルシヨン、アフィノゲノフ、グレボフ、ベズイミョンスキー、ビリ・ペロツェルコフスキー其他のプロレタリア劇作術に従ふこと、演劇への労働者の進出を旺んならしめること、工場をして各劇場を主宰せしめること(これは最近漸く始まつた)。

職業的劇場が非常に特權的待遇をうけてゐながら、獨立の労働者及び農民劇團體が最近まで冷遇されてゐたのは、此の方面における文化事業に以前の職業組合

命第十周年に相當し、劃期的シーズンであつた。メイエルホリド劇場、革命劇場モスクワ州労働組合會議劇場等の新鋭の左翼劇場は云ふまでもなく、舊劇場ですらその上演目録中に「装甲自働車」、「リユボーウィ・ヤロフヤ」等を加えたのであつた。併し現在のところ演劇はソヴェート文化戰中未だ進出の遅れてゐる部門であることを否むわけに行かない。演劇は社會主義建設のテンポに追はれてゐない。その程度は文學の領域におけると全く同様である。

三、工業化と演劇

ソ聯邦をして工業化せしめ、農業國から、一躍工業國に轉向せしめた偉大なる過程が舞台藝術の上に何等の反響をもたらしなかつた。劇界の歩みは誠に遅々たるものがあつた。そればかりではない。一九三〇年には藝術主義の舊イデオロギー復活の徴候さへあつたのである。しかも此年には舞臺の上にトロツキー、半トロツキー的、或は右傾的氣分さへ看取されたのである。例へば戯曲「黨員章」、「ナ

指導者の日和見主義的傾向が反映されてゐたことを示すものである。現在大衆的藝術に對して職業組合も藝術事務局も大した注意を拂つてゐないのは遺憾とせられてゐる。

等閑視された分野に民族劇場がある。一九三〇年夏モスクワに開催されたソ聯邦諸民族演劇及び藝術オリンピアードはレニンの民族政策が民族藝術の上に如何に大きな功績を齎したかを證明した。十四ヶ國語をもつて十七劇場が幾多の劇を上演し、それらの多くはいづれもモスクワ舊劇場をして羨望せしめるに充分であつた。

大衆の爲めの藝術といふ問題は、即ち演劇を社會主義建設擔當者の隊列に参加せしめるといふ問題は必然演劇の技術的再建の必要を意味する。「トラクトロ・ストロイ」、「ドネプロストロイ」等の大工業工場は、それらの建設者に相應しい劇場をもつてゐない。

藝術の五ヶ年計畫案中に含まれてゐる通り、數千人を收容する新劇場の建設(ロ

ストフ市において此種の大劇場建設が開
始された)や、工場地方、コルホーズ、
ソフホーズ地方における劇場の適宜配置
や、プロレタリア新演劇指導者の養成等
が當面の問題となつてゐる。

美術

一、ソヴェート畫壇概観

ソヴェート・ロシアの『造型藝術』は、
文學に見られるやうな大きな遺産をもつ
てゐない。造型藝術、特に繪畫について
言へば、この國は過去の巨匠として、僅
かにレーピン、セロフ、ウルーベリ、カ
ロヴィン、スリコフ、の名を誇りうるに
過ぎない。

十年革命に先行する時代、即ち二十世
紀初頭におけるこの國の繪畫は、西歐畫
壇の諸々のイズム——セザンヌ主義未來
派立體派表現派——の内容、形式、技術
を攝取しようとする努力のなかではぐく
まれた。この時代の畫家で、現在もソヴ
エート畫壇に活躍しつゝある二三名をあげ

が、三二年には最早、かうした多彩な雰
圍氣は影をひそめてゐた。言ふまでもな
く、かうした推移、變化は五ヶ年計畫の
直接的な影響であつて、畫家達もまた、
五ヶ年計畫の諸事業のために動員され、
彩管を携へて、工場、農村、鑛山地に赴
き、それら『主題』を搜み、所謂報告畫
のために全精力をたゞきこまねばならな
い。私は、昨春、『クズネツキイ・モスト』
の美術學校跡で、報告畫展覽會を観たが
變角的な、巨大な製作に對しては全く壓
倒された。中でも、カツツマン、レンツ
ウロフ、ペトロフ・ヴオヅキン、等の作
品は一きは光彩を放つてゐた。

最近『オスト』はその總會で解散を決
議したとのことであるし、『オムフ』『四美
術』等も漸次に解體現象を現しつゝある。
これは五ヶ年計畫の成功的遂行に伴ひ、
美術團體の内部において、左翼、右翼間
に内部的鬭争が尖鋭化し左翼の勢力の著
しい増強が齎した結果である。

マルクス主義藝術學の進歩に準じて、
繪畫においても創作方法の諸問題が議題

げるならば『生活』派の名譽會長であり、
『最高美術技術專門學校』教授の要職に
ある、ペ・コンチャロフスキーと、『四美
術』社の統率者であり、好んで東洋風の
作品をもつるベエ・クズネツコフに指
を屈すべきだらう。

十月革命——戰時共產主義の時代——
新經濟政策の時代——かうした標識を以て
刻印づけられる十年に近い歲月には、『美
術界』のみならず、社會のあらゆる方面
を不安な混沌が支配してゐた。美術家達
も、甘美なる『純藝術』の殿堂にあつて
陶酔的雰圍氣を樂むことは出来ないで、
『工業藝術』の仕事に動員され、ポスター
描き、裝飾等に従はねばならなかつた。
従つて、『記念碑的な製作』が生れなかつ
たのは當然なことであつた。

しかし革命後十年を経た頃には、ソヴ
エート畫壇も、堅固な、明快な指導的線
——純粹な『リアリズム』の上に立ち、
積極的な、本格的な建設方面に進むに至
つた。

一九二六年頃には、『アフル』、『四美

に上り、映畫壁畫との關聯が共に検討さ
れてゐる。

音楽

一、革命と音楽

音楽もまた他の藝術諸分野と同様、一
九一七年十一月の變革によつて始めて、
一億の勞農大衆の前に解放された。グリ
ンカ、チャイコフスキー、リムスキー、コ
ルサコフ、スクリヤピン、ボロヂン、ム
ツングスキイ等世界的に傑出した多數の
作曲家樂人をもその國土に有しながらも、
帝政治下の壓しつゞされた重苦しい條件
の下でロシアの大衆は完全に音樂の世界
から閉め出されてゐた。チャイコフスキ
ーを享樂し得るのは文化的な貴族層かブ
ルジョア化したインテリゲンツィヤか兎
に角少數の限られたる特權社會層の間に
おいてのみであつた。従つて舊ロシアに
おいては偉大なる音樂藝術の生産をもち
ながらしかもそれに對する廣汎なる需要
(聴衆)を缺いてゐるといつたやうな變則

術『オスト』『ブイチイヨ』『ジャル・ツウ
エト』『マコヴェツ』等の美術團體が存在
してゐた。そしてその後、『クルイロ』『ツ
エフ・ジチアプースツエフ』『オムフ』等の
團體が発生した。

『アフル』は後に『アフル』と改稱し
たが、この團體は『プロレタリア・リアズ
ム』を主唱し、『藝術を大衆の中へ』な
る標語をかゝげ、一九二八年五月の第一
回聯合總會における宣言でかう言つてゐ
る。——『最も廣汎な勤勞大衆に解る、
リアリスチックな形式で、眞の革命的現
實を美術的に變形し、その美術的、社會
的仕事によつて社會主義的建設に能動的
に參與する義務が、われわれプロレタリ
ア革命の美術家の上にあるのだ。』

尙、同總會に萬國の革命的美術家の統
一的組織たる『インテル・アフル』の建設
を宣言した。

二、今日の繪畫界

二九年度には優秀なる作家の個人展や
各團體の展覽會が絶間なく開かれ、畫壇
は華々しく躍動してゐるのが感じられた

的な片ちんばな状態に置かれてあつた。
ところがプロレタリア革命はこの關係
の上に鋭い一線を劃した。一億の勞農大
衆が素朴な耳を持つて生れたばかりの新
しい聴手として音樂の世界に登場した。

だがこの音樂が、解放から創造へのコ
ースを取り始めたのは藝術の他の部門、
少くも文學や演劇よりもおくれであつた。
四百萬を擁するソヴェート勞働組合、就
中工場勞働者の團體が、音樂の修得をそ
の議事日程に上したのは一九二二、二年
頃であつた。勞働者や農民の子弟が積極
的に音樂學校に入學するやうになつたの
は、それよりも更におくれて一九二三年
であつた。だがその後現在に至る比較的
短年月にソヴェートのプロレタリア音樂
は、その質の上において、又その量の上
において如何に目覚ましい發展を遂げた
ことだらう。

二、勞働者音樂團の成長

今日では都市金屬工の組合も、坑山に
炭掘る坑夫の組合も、否それらに所屬す
る工場といふ工場、鑛山職場といふ職場

— 苟も労働者の四、五十人以上集中する、組織の中で「ムジカリーヌイ・クルジヨク」(音楽サークル)を最少一團持たないものは存しない。多いものは三團四團も有し、團員の如きも一個宛最少十何人から最大二百、三百を擁してゐる。是れ等の音楽サークルの人員を全ソヴェート同盟において總計すれば、すでに今日四十萬人以上に達してゐると云はれる。その種類は、

- 一、合唱團(總數の大半を占めてゐる)
- 二、吹奏樂團
- 三、民族樂器合奏團(各種の民族樂器による)
- 四、手風琴合奏團
- 五、管絃樂團
- 六、オーケストラ

等極めて簡易なるものから始めて今日では音樂の殆んど全部にわたつてゐる。彼等は概ね職業的な専門の指揮者(モスクワ、レニングラード等の大都市においては往々にして一流大家をその中に含めてゐる)を、そのグループに随時招いて

また一方、演奏する樂曲(例へばワグナーの曲の如き)によつては九十五人以上の樂員を必要とする場合が起る。この場合には百四十人でも百六十人でも自由にこの國立劇場のオーケストラから組織することが出来る。また一夜に一方で國立劇場のオペラ乃至バレエの上演を行ひながら同時に別の場所では交響樂の演奏會も開ける譯である。

かうした伸縮自在の巧妙な組織をもつオーケストラは、文化事業のすべてが殆ど國家の手で統一實踐されつゝあるソヴェートの生活組織にしてはじめて實現し得るものである。モスクワには、右の外に放送局交響樂團がある。これは二三年前に組織されたもので、やはりソヴェート第一流の大管絃樂團である。

この樂團はベルスインフアンスの創立者として提琴家として有名なツェイトリン教授を中心として約百名の優秀な樂人によつて組織され、ラヂオ放送を第一の目標とし、普通の演奏會にも出演してゐる。

日曜祭日は勿論、晝休みの時間、終業後をも利用して熱心に、「インターナショナル」、「赤い旗」、ソヴェート民謡(レニンを歌つたもの、労働を讃へたものなど特に多い)を合唱する。

労働者樂團の技術の進展につれ、その合唱し、もしくは演奏する主題の内容も次第に藝術的に高級となり、複雑化してゆく。シュートベルトの「軍隊行進曲」グリークの「インフォルクトン」からチャイコフスキー、スクリヤピン、プロコフエフストラビンスキー、モツアルト等のやゝ複雑なもの、又、ベートヴェンの第一から第九に至るシムフォニーの演奏等に進み、彼等の手でオペラを上演するまでに至つた。

三、モスクワの交響樂團

モスクワに於ける最大の交響樂團は、國立大劇場のオケストラである。これは實質的に全聯邦最大の樂團であり、世界第一流のスインプオニーオーケストラであることは、毎年ソヴェートに招かれる外國の著名指揮者達のひとしく言明して

る。以上の他、指揮者サラヂェエフの指揮するスクリヤピン音樂技術學校のオーケストラ、及び世界的に有名なベルスインフアンス(指揮者無し)の交響樂團もあるが、その組織に就いてはこゝでは略す。

四、レニングラードの交響樂團

レニングラードには古い歴史をもつたフィルハアモニー協會がある。これは國立アカデミック・フィルハアモニー・オーケストラとして數年前までは大作曲家グラズーノフ以下スーク・ニコライ・マリユ、ガウク、ベルジャエフ、ドラニシニコフ等を指揮者として、普通の演奏會や労働者のための演奏會を豫約演奏制度で繼續的に行つてゐた。

現在ではグラズーノフは外國旅行中でガウクが首席指揮者として専ら活動してゐる。國立フィルハモニーは、その歴史が古

ゐる通りでその總人員は二百八十五名、何れもソヴェート第一流の樂人を網羅してゐる。

この二百八十五名の樂員は、九十五宛三つのグループに別たれ、一つのグループが休めば二つのグループがオペラやバレエや交響樂演奏のために活動することの出来るやうな組織になつてゐる。これは國立歌劇場の上演や演奏會が夏のシーズン中を除けば年中一日も休むことなしに繼續せられることに備へて考案された組織である。

即ち、ソヴェートの民衆には一年中五日間の國家的休日(祭日)がある外、平素は五日毎に一日の休日をもつことになつてゐる。しかもこれは各職業組合毎にそれ／＼休日をもたれるやうに日が別たれてゐるから、全體から見れば、毎日どの組合かの休日があることになる。だから大衆がその休日毎にオペラを觀、演奏會を聴くとしても、歌劇場や演奏會場はそのシーズン中は無休で仕事を續けなければならぬ。

場、練習所、事務所等を含む建物をもちレニングランド樂壇の中心的勢力を占めてゐる。

レニングランドにはこの他に、國立歌劇オーケストラ、國立音樂學院交響樂團があるが、従前から西歐文化との交流の激しい土地柄だけに、毎シーズン外國の著名な指揮者や獨奏家の客演も多く、モスクワに劣らぬすばらしい伎倆をもつてゐる。

近年レニングラードに招かれた世界的指揮者としては、オット・クレムペラー、ヘルマン・アペンドロット、フリーツ・ステイツドリ、ブルノ、ワルター・フェリツクス・ワインガルトナー、エリツヒ・クライバー、フリツ・ブツシュ、オスカール・フリード等の獨逸系の人達をはじめ、ピエル・モントウ、アレクサンデル・ツェムリンスキー、アルバート・コッツ等々、殆ど世界第一流の指揮者がシーズン毎に客演してゐる。

婦

人

一、革命初期の大事業

勤勞階級の政府としてのソヴェート政府は、その成立後數ヶ月にして、早くも婦人の地位に關する法律の大改革を行つた。現在のソヴェート共和國の法律では婦人の地位を徵塵も男子の從屬的な者と認めてゐないのである。共和前の法律の如き婦人を弱者と見做して特別の權利を與へる代り、男子との對等權を認めず、結婚によつて産れた子供の處置、並びにその扶養に關し、子の父に對する婦人の裁判權を認めてゐる舊離婚法の如きを却つて婦人を侮蔑するものと稱してゐるのである。

斯る觀點からソヴェート政府は勤勞大衆にとつて不正なものと稱する舊結婚法を廢棄して、世界最初の絶対男女平等權を確立したのである。この男女平等權の確認こそソヴェート國家にとつて最初に

して、又最も重要な事業の一であつた。歐洲に於て最も進歩せる國々ですら、家庭のデモクラシー、男女同權を口に唱えてゐるものゝ、離婚、其他婦人の法律的地位については依然として婦人は男子の從屬的立場にあるのに、文化の低き、加之、數年來の歴史を有する男子專制の舊ロシアに、突如として絶対男女同權の法律を布いたことは、直接人間性の核心に觸れる問題だけに、ソヴェート政府にとつて大革命事業の一つであつたには違ひない。従つてソヴェート當局者が他の革命的達成に比してこの結婚法（親族法の一を爲すもの）の確立を誇負して止まないのも周囲の事情より首肯しうるのである。

二、工業界に進出する婦人

一九二〇年レーニンの爲した有名な演説に「ソヴェート政府は此の經濟建設に

合の激増である。

一九三〇年

一九三一年

地方	一九三〇年 労働者總數	一九三一年 労働者總數
モスコイ地方	五五六、六四九、二三八、〇二九	六〇〇、七九六、二九一、一五六
レニングラード地方	三三四、六二七、一三一、〇四四	三九四、九八一、一四八、一八一
北コーカサス地方	一一〇、二〇九、二二二、〇〇二	一三三、七三九、三九、一二三
カザクスタン地方	七、九一八	九、六五四、三、七五四
キルギージャ地方	一、二〇九	一、四二一、三五五

ソヴェート工業界に於ける婦人の進出は其の數字の増加を以て之を證し得るのみならず、その質的生長によつても顯著なものがある。社會主義的生産に於ける婦人の参加は社會主義の創造的活動に對する婦人の参加を意味するものと云はれてゐる。

革命前のロシアに於ける婦人工場労働者は數百乃至數千人に過ぎなかつたが、それも婦人労働者の賃銀が男子に比して低廉であるからであつた。そして婦人労働者に困難な仕事に最低賃銀を與へるのが當時の女性労働者に對する態度であつた。當時の見解では、女性は下等な存在物であり、責任のある、創造的仕

事には不適當なものとされてゐたのである。

女性に對する長い間の壓迫は自然女性自身をして家事勞務だけしか適しないものと諦めさせるに至り、且つ一般社會も女性はその生理的特殊關係上社會的活動の不適性を口にして來たのであるが、實際は斷えず女性をして困難な勞務に従事せしめたのであると、そこでソヴェート政府は女性の智的不平等を破棄したが女性の生理的特殊を忘れず、特に嚴密な制限を加えた、それは工業に従事する婦人に對しては、分娩四ヶ月の休暇、即ち分娩前二ヶ月と、分娩後二ヶ月の休暇を與へてゐるのである、女性に對して決し

方つて總ての勤勞者を有たねばならぬ。黨員も、非黨員も、男も、女も。ソヴェート權力によつて開始された此の方針は數百人ではない、數百萬人の女性が此の事業に参加することによつてのみ、初めてその前進を見るものである」と言ふのである。此のレーニンの言葉は現在實踐に移され、ソヴェート聯邦の社會主義建設の進展につれ、婦人大衆が新らしき工業の中心に浸潤しつゝある現状を看過するわけには行かない。一九三一年の計畫によれば、百萬人の女性を國家經濟の各部門に吸引するといふのであつた。（工業及び建設方面に八十萬人）

三、少數民族女性の勞働界進出

此の事業は各少數民族地方に於ては、その民族的傳統、其他の條件で可なり困難なものがあつた。左に簡單乍ら一九三一年に於て生産勞働に於ける女性の進出が、三〇年度に比して如何に増加したかを示してみよう。尙ほ左表に於て注目すべきは少數民族地方における女性進出の

て彼女等の負擔以上を課してゐないと稱する處にその特色が認められる。

四、婦人大衆の智的向上

ソヴェート女性の智的發展の成果を見るも、亦、生産に於ける熟練の度合をみるも決して男性に劣る者でないことを當局者は精細な數字を以て明らかにしてゐる。一九三一年度に課せられた問題は婦人の大衆の工業方面への吸引をより大規模に行ふことである。勞働人民委員會は工業界の如何なる部門にも熟練女性を必要とするものなることを決定したのである、茲に於て革命前には夢想だにしなかつた女性の分野が拓かれたのであつた。即ち電氣技術者として、鑛山技師として金屬工業における彫刻家として、旋盤工として、其他の専門技術家として、又、化學、織物、食料工業の熟練工として活躍してゐるのである。斯くて熟練労働者婦人より技師、工場支配人に至るまで社會主義建設の道が拓かれた譯である。又、高等専門學校及び工場學校に入學を許可された婦人大學生の數も極めて多

く、一九二七—一九二八年度に於ける女學生の男學生に對する比率は二八・八%、一九三〇年度の一月一日には三〇・二五%、一九三二年度には婦人大衆の工業吸引策と關聯して五〇%までの入學者を見たのである。

工業界の責任事務に婦人を進出せしめることはソ聯邦に於て極めて重要視されてゐる。労働婦人は關係機關から職長、助役、支配人の地位を與へられる、労働婦人は斯してソヴェト政府によつて彼女に與へられたる希望の現實を保證せられたものと言はれてゐる。労働婦人は工業における熟練労働者となりつゝあるばかりでなく、ソ聯邦建設に指導的部分を占めつゝあるのである。

五、婦人の社會主義競争參加

今、所謂「社會主義競争」に参加した各産業専門に於ける労働婦人の割合を示せば、

金屬工業 四四%
化學工業 五四%

織維工業 五七%
製紙工業 五九%

婦人の突撃隊も組織され、多數の婦人労働者がソ聯邦の名譽勳章たる「赤旗章」を授與された。

婦人を積極的、創造的役割につかしたことは急速に女性一般の心理を一變せしめた。帝政ロシア時代には、婦人労働者の幸福と言へば家庭内の仕事に従事することであつて、彼女等の生命を縮めることゝの恐ろしい工場から足を洗ふことであつた。併し現在では彼女等は生活の基礎を生産、殊に効利的労働に見出してゐるのである。例へば彼女等は共同住宅事業に、托兒所に、公衆洗濯工場に、又婦人を家事や不生産的な労働より解放するの新しい生活條件創造のために活躍しつゝあることは事實として承認しなければならぬ。

六、男女關係

ソヴェト法では男女の絶對々等權を認めた結果、男女關係にも多大の變革を齎らし、婚姻制度は世界無比の自由解放

主義となり、婚姻及び離婚の自由を認められてゐる。即ちソヴェトの結婚法では事實上の夫婦關係を以て、これに登記婚と同一の法律的效果を賦與し、又、離婚の場合には單に口頭又は書面を以て離婚登記を要求することが出来て、別に裁判所の手續を必要としない。そして配偶者は一方的屈出によつて離婚をすることが出来る。此場合登記所は其の相手方に對し婚姻の終了を通告するだけでいゝのである。姓の如きも當事者の選擇主義を採り登記の場合には配偶者の一方の姓を共通に名乗ることも出来るが、事實婚の場合には別に規定がないから、各々従來の姓を名乗つても差支ひないことになつてゐる。問題になるのは出生子の扶養であるが、若し父親と認定されたものに就て問題の起る時は裁判所は止むを得ず幾人かの相手方男子中の一人を父と認定して扶養の義務を負はせることになつてゐる。

前駐露日本大使館參事官 酒匂秀一氏著

ロシヤはどうなる?

〔本文百八十頁〕

定價壹部 壹圓參拾錢

送料 市内八錢 内地十二錢 領土十八錢

斷然！群書を壓倒した名著

ソヴェト・ロシヤは如何なる國か？ それは今何處へ行きつゝあるか？ 社會主義へか、資本主義へか？ 光明へか、暗黒へか？ これは今日と明日の世界の運命を決定する眞剣な問題だ。此の疑問は今百パーセントに水解答された。俊叙篤學なる外交官として定評ある著者の滯露五箇年に亘る詳細なる實見と調査の全成果は、こゝに洩れなく此一書に輯録された。素通りの、成心的、色眼鏡的ロシヤ觀に食傷した人々について本書を見よ、新ロシヤに關し貴下の求むる一切を本書から汲み取ることが出来るであらう。

東京市麹町區丸の内三ノ二三三二一號館

日露貿易通信社

電話丸之内(23)四六四四・四六四五 振替口座東京四三〇一五番

昭和七年七月十五日印刷 昭和七年七月三十日發行

日露年鑑

定價金五圓(送料 市内六錢 内地十二錢 領土十六錢)

發行兼 編輯者 東京市麹町區丸の内三丁目二番地 日露貿易通信社

右代表者 東京市麹町區丸の内三丁目二番地 上田 森 治

印刷者 東京市芝區仲門前町三丁目十五番地 上田 森 治

印刷所 東京市芝區仲門前町三丁目十五番地 松田刷司寮第二工場

不許複製

大賣捌所

發行所

東京市丸の内二丁目二番地三三二一號館 日露貿易通信社 電話丸之内(23)四六四四・四六四五 振替東京四三〇一五番

- 東京市京橋區合資 東海堂
銀座西六ノ二會社 東原堂
東京市日本橋通三丁目 株式 東京堂
東京市神田區錦町三丁目 株式 東松堂
東京市神田區保町 株式 東松堂
東京市日本橋通二丁目 株式 大東館
東京市日本橋元數寄屋町 株式 大阪屋書店
神田通神保町 株式 上田屋書店
電話神田三三二一號館

Впоследствии Общество также часто устраивало разные вечера, которые оказали большие заслуги в деле дружественного сближения японского и советского обществ.

Воспользовавшись случаем возвращения в Токио из поездки в СССР японского композитора К. Ямада, общество устроило в честь последнего вечер в аудитории здания газеты „Асахи“. На этом вечере г. Ямада выступил с обширным и интересным докладом о СССР.

В октябре того же года, Общество приступило к изданию роскошного иллюстрированного журнала на японском языке.

В программу деятельности о-ва также входит издание книг, организация курсов русского языка и т. д.

Осенью 1931 г. в Осака и Киото были созданы отделения о-ва, при участии адвокатов, писателей, известных общественных деятелей, представителей деловых кругов и друг.

В то же время в Токио был открыт женский отдел о-ва, по инициативе Х. Хасегава, Н. Кавасаки, Я. Ногами, Ю. Чудзио и И. Юаса.

В настоящее время женский отдел о-ва насчитывает 40 членов.

Несмотря на слишком краткий срок своей деятельности и скудные средства, все же „О-во Друзей СССР“ оказало крупные заслуги в деле японо-советского культурного сближения.

8. ДРУГ. ЯПОНО-СОВЕТСКИЕ ОТНОШЕНИЯ.

Помимо „О-ва Друзей СССР“, созданного в 1931 г. на поприще культурной деятельности вступила новая организация, под названием: „О-во Изучения Советской России“.

Это общество с апреля м-ца 1931 г. выпускает свой периодический орган вначале называвшийся „СССР“, а впоследствии переименованный в журнал „Знания об СССР“, кроме этого журнала о-во иногда издает литературные произведения, касающиеся СССР.

Излишне говорить о том, что Японо-Советское О-во „Ничиро Киокай“, являющееся одним из самых крупных органов культурной связи между Японией и СССР, пользуясь своим социальным влиянием и располагая крупным фондом, уже издавна работает для укрепления дружественных отношений между Японией и СССР и выпускает 3 раза в неделю печатный бюллетень о СССР.

Между прочим необходимо упомянуть о том, что в 1930 г. при правлении ЮМЖД создан особый Комитет по изучению СССР, который с прошлого года выпускает ежемесячный журнал „Материалы для изучения СССР“ и кроме этого периодического органа, Комитетом составлен и выпущен в свет „Ежегодник о СССР для японцев“.

Помимо всего вышесказанного было бы недопустимо промолчать о факте обостряющегося внимания и проявлении живейшего интереса во всех кругах Японии по отношению к СССР. При этом фактическими данными, свидетельствующими о существовании такой тенденции являются: открытие целого ряда вечерних курсов русского языка и издание таких специальных журналов, служащих руководством к изучению русского языка, как „Русский язык“ и „Изучение

русского языка“.

17 апреля 1931 г. Полпредством СССР в Японии и представительством ВОКС'а в Японии в Токио в здании Полпредства был устроен банкет, на котором присутствовало несколько сот приглашенных гостей, имеющих ту или иную связь с СССР и занимающихся освещением положения в нем.

Банкет, устроенный 7 июля о-вом „Друг СССР“ в честь советского посла, послужил как-бы ответным на данный-Полпредством и Представительством ВОКС'а.

Полпредство СССР в Японии 8 ноября 1931 г. по случаю исполнившейся 14-ти летней годовщины революции устроило вечер, на который было приглашено свыше 350 чел. гостей из представителей разных кругов Японии. На этом вечере, состоявшемся в помещении Полпредства для гостей демонстрировались новейшие советские кинофильмы и был устроен концерт.

Профессор Е. Г. Спальвин, занимавший довольно продолжительное время пост Представителя ВОКС'а в Японии, оказал много заслуг в деле установления японо-советской культурной связи.

9 ноября 1931 г. профессор Спальвин будучи назначен на ответственный пост на КВЖД, был вынужден оставить Токио и выехать в Харбин.

После отъезда профессора Спальвина на пост Представителя ВОКС'а был назначен М. Г. Галкович молодой советский ученый-авторитет по тихоокеанским вопросам, занимающий одновременно пост 1-го секретаря Полпредства СССР в Японии.

Раньше только такие из крупнейших японских газет, как „Токио Ничи-Ничи“ и „Осака Майничи“ имели своих корреспондентов в Москве, но в 1931 г. по их примеру и газета „Токио Асахи“ откомандировала своего корреспондента в Москву. Все это лишний раз свидетельствует о нарастающем интересе в среде всех слоев японского общества к СССР.

Наряду с беспристрастным освещением истинного положения в СССР, очень часто выпускались и издания, помещающие умышленно и заведомо ложные сведения о СССР, которые в большом количестве проникли во все читательские круги.

Взамен выпускавшихся до сих пор антисоветских изданий, помещавших, главным образом, громкие статьи о развале и банкротстве советского народного хозяйства, неспособности и неумелости большевиков руководить массами и всеми строительными работами, а также о неорганизованности красной армии, представляющей якобы какое-то сборище и стадо скота, за последнее время на рынке появились издания, характерной чертой которых является преувеличенное описание успешного выполнения 5-ти летнего плана и мощности красной армии. Эти факторы, по мнению авторов такой литературы, служат главной причиной охватившего весь мир кризиса, представляя из себя как-бы врагов мирового спокойствия. Такая тенденция, нельзя сказать, чтобы ограничивалась только японскими издательскими кругами, а наблюдается во всех капиталистических странах, где ведется усиленная анти-советская пропаганда, призывы к организации кампаний против „демпинга“ и „рабского труда“ в СССР являются одними из преобладающих в анти-советской литературе.

В СССР также выпускается целый ряд изданий о Японии, посвященных ее политике, народному хозяйству, литературе и науке. В особенности, в области литературы в последнее время, большой интерес уделяется японским пролетарским произведениям и следующим романам, переведенным на русский язык: „Улица без солнца“ писателя Сунао Токунага, „Плавучий краболовный завод“, принадлежащий перу известного пролетарского писателя Такедзи Кобаяси, „15 марта 1928 г.“, того-же автора и т. д.

Молодым японоведом Горбштейном написана содержательная статья о литературном движении в Японии, под заглавием: „Японская пролетарская литература“.

6. НА ТЕАТРАЛЬНОМ ФРОНТЕ.

Говоря в общем, в области советского театра за данный период времени не наблюдалось того оживления, какое было в 1927 г., во время празднования 10-ти летней годовщины Октябрьской революции. После расцвета театрального движения в упомянутое время, мы не имели особых достижений в этой области, кроме улучшений в техническом отношении. Конечно, мы не должны предавать забвению формальные и идеологические достижения „ТРАМ'а“, что же касается театральных трупп, то они ище не накопили достаточно сил

для дальнейшего продвижения вперед.

Выполнение „пятилетки“ при сопровождающемся колоссальном развитии социалистического хозяйственного строительства, требовало также соответствующих темпов в проведении социалистической реконструкции театра.

В 1931 г. театральное движение, организованное по левой идеологии, не вызвало того оживления, какое было в 1929 и 30 г. г., что обуславливается застоєм театрального движения в СССР за это время.

Из советских пьес, поставленных на сценах Токийских театров новыми японскими труппами „Син Цукидзи Гекидан“ и „Саюку Гекидзо“ (театр левого крыла), являются следующие:

„Город ветров“ - Биль-Белоцерковского,

Труппа „Сюджуза“, возглавляемая известным талантливым актером Энносукэ, создавшим свой театр в противовес театральному тресту „Сиочику“, поставила в программу своих выступлений, в первую очередь, переделанную в пьесу, советскую кино-фильму „Потомок Чингис-хана“.

7. СОЗДАНИЕ „ОБЩЕСТВА ДРУЗЕЙ СССР“ И ЕГО ДЕЯТЕЛЬНОСТЬ.

Как одно из важнейших событий, происшедших в области японо-советских отношений за 1931 г., считаем своим неременным долгом отметить создание „Общества Друзей СССР“, ставящего своей задачей укрепление культурной связи между обеими странами.

В состав вновь созданного о-ва вошли представители почти всех слоев японского общества.

Цели о-ва заключаются в следующем:

1. Выпуск периодических журналов, посвященных освещению народной жизни и культуры СССР.
2. Организация выставок, концертов, кино-вечеров, дискуссий, клубов, курсов, для желающих изучить русский язык и лекций о советской культуре и науке.
3. Издание брошюр о СССР, путеводителей; переводов, сборника советских картин и т. д.
4. Составление коллекции материалов о советской науке и культуре (организация библиотеки).
5. Установление культурной связи с СССР. (Обмен фото-снимками, книгами и др. материалами, приглашение советских культурных работников и командировка в СССР японск. культурных работников).

27 июня 1931 г. на организационном собрании в президиум вновь созданного о-ва в качестве председателя был избран У. Акита и членами президиума: Н. Хасегава, проф. Д. Исихара, проф. К. Оцука, д-р Т. Ясуда и друг., всего 10 челов.

По открытии своей деятельности, в первую очередь, о-вом был дан банкет в честь Полпреда СССР в Японии г. Трояновского 7 июля в помещении ресторана „Рейнбо-гриль“. На этом банкете присутствовало свыше 100 приглашенных гостей.

заслуживает большого внимания, т.-к. заинтересованные японские власти, в общем, относятся отрицательно к импорту в Японию советских фильмов. И этот случай, тем более знаменателен, если принять во внимание, что фильма „Турксиб“ сама по себе производит довольно внушительное впечатление на зрителей капиталистической страны, служа наглядным пособием по ознакомлению с успехами социалистического строительства в СССР согласно пятилетке, через своеобразное кино-искусство в монтаже. Но мотивировка рекомендации Мин-ва Нар. Просвещения, безусловно, заключается не в том, что „Турксиб“ является показателем процесса производящейся социалистической стройки в СССР, а в том, что преодоление природы человеческим гением, его силами и методы ударной работы, изображенные в этой фильме, имеют большое значение для капитализма.

Из продукции не советской кино-промышленности, за этот период времени, мы имели возможность ознакомиться с двумя германскими фильмами, ввезенными в Японию фирмой „Сан-эй-ша“:— „Тройка“ и „Братья Карамазовы“, рисующими жизнь в дореволюционной России.

4. ПРОЦЕСС СБЛИЖЕНИЯ ЯПОНИИ И СССР ПРИ СОДЕЙСТВИИ ЯПОНСКОЙ ТЕХНИКИ.

Наряду с музыкой и кино, техника тоже сыграла большую роль в деле дальнейшего сближения Японии и СССР.

Группа ж. д. инженеров и техников в числе 12 чел., во главе с инженером Н. Като была приглашена правительством СССР в 1930 г., в целях проведения японских методов ремонта подвижного состава на советских жел. дор. Эта группа ж. д. специалистов, проработав с большим успехом и добившись введения японских методов ремонта подвижного состава на всех советских жел. дор., в 1931 г. возвратилась на родину.

На страницах газеты „Экономическая Жизнь“ от 12 июля 1931 г. была помещена большая статья, посвященная перечислению и оценке достижений японской жел. дор. техники, под заглавием: „2 года японских методов ремонта“. В начале этой статьи было отмечено, что японские методы ремонта подвижного состава основаны на планомерности работы, точном ее исполнении и на правильных деталях диаграмм операций. Эта статья была закончена словами: „Японские методы ремонта подвижного состава являются образцовыми во всем мире“.

Кроме ознакомления с японской жел. дор. техникой, СССР немало интересовался гидроэлектрической промышленностью Японии, ее шелководством и чайной промышленностью, стремясь к усвоению японской техники, для применения ее в этих областях своей промышленности.

Для ознакомления с постановкой японской техники в области шелководства и чайной промышленности, еще 2-3 года тому назад СССР прислал в Японию своих специалистов.

В области гидроэлектрической промышленности, в 1931 г. советское правительство обратилось с предложением к японскому правительству о командировании в пределы СССР 2-3 инженеров по электротехнике, но к сожалению, этот вопрос до сих пор остается откры-

тым. Данное предложение, советским правительством, повидимому, сделано в связи с проектом постройки самой мощной в мире в 22.000.000 киловатт-гидростанции „Ангарстрой“ на реке Ангаре в Вост. Сибири. Сооружение этой мощной гидростанции предусматривается второй „пятилеткой“ и работы по предположениям начнутся в 1932 г. Для сооружения этой гидростанции потребуется большое количество машин и оборудования, при этом учитывая достижения японской техники в деле постройки гидростанций, советская сторона, очевидно, возлагает большие надежды на помощь японских инженеров.

И в области крабовой промышленности, СССР ежегодно применяет японские методы, отвечающие последнему слову техники. Но японская сторона учитывая, что применение японской техники, дает возможность советской крабовой промышленности успешно конкурировать, с японской на зарубежных рынках, не дает в последние годы разрешения на наем со стороны японских рабочих для крабовой промышленности, даже в половинном размере, требуемого со стороны числа рабочих.

Отказ японской стороны в предоставлении для советских крабовой промышленности японских рабочих, надо сказать, в основном противоречит дружественным отношениям между Японией и СССР.

5. ИЗДАНИЯ, ПОСВЯЩЕННЫЕ СССР.

Наблюдающийся в последнее время подъем интереса в японском обществе к изучению своеобразной культуры СССР, естественно, вынудил произвести выпуск целого ряда изданий, посвященных СССР. То же самое, приблизительно, можно сказать и о СССР в отношении Японии. Несмотря на то, что в 1931 г. японские издательские предприятия переживали небывалый кризис, но литература, посвященная СССР выходила на свет сплошь и рядом, что представило исключительное явление при тяжелом положении в Японии издательского дела.

По данным международного объединения революционных писателей, по количеству изданий, посвященных СССР—Япония занимает одно из первых мест в мире и даже Германия в этом отношении уступает Японии. Это положение относится не только к книгам, но и к журналам и газетам, в особенности в течение 1931 г., мы были свидетелями выпуска целого ряда, следующих журналов:

„СССР“—, издательство „Совето Кенкию-шо“—Токио.

„Обозрение СССР“, издание Информационного Бюро „Ничиро Цусин“, Токио.

Иллюстрированный журнал „Друг СССР“ — издание „Совето но томо“, Токио,

Журнал для изучения русского языка—„Русский язык“—издание „Тачибана Шотен“, Токио.

Крупнейшие политическо-экономические и литературные журналы, как напр. „Кайдзо“—(„Реконструкция“) и „Чуо корон“ („Центральное Обозрение“), тоже уделяли большое внимание СССР и откомандировали своих коореспондентов в пределы СССР, для снабжения своих изданий правильными сведениями об истинном положении в СССР.

Через некоторый промежуток времени, по инициативе газеты „Асахи“ и японского симфонического оркестра „Нихон Кокио Гакудан“, во главе которого стоит г. Ямада, был устроен большой концерт этого оркестра под управлением г. Ямада. В этом концерте также принял участие виконт Коноэ, раньше г. Ямада совершивший музыкальное турне по СССР.

Помимо выступлений с обширными докладами, по возвращении на родину, г. Ямада было написано много статей на тему о грандиозном развитии советской музыки, для японских газет и журналов.

При этом необходимо отметить, что г. Ямада возвратился на родину, вместе с молодым талантливым басом Хадзиме Макки, также совершившим гастрольные поездки по Европе и СССР.

В связи с наблюдающимся сближением Японии и СССР при посредстве музыки нельзя не упомянуть факта устройства по инициативе Полпредства СССР в Японии, в Народном Доме Токио в парке Хибия концерта, посвященного 50 летней годовщине смерти великого русского композитора Мусоргского. Перед началом этого концерта, вступительная речь была произнесена выступившим Полпредом СССР в Японии г. Трояновским.

В концерте также приняли участие советский музыкант г. Крейн, под управлением которого симфонический оркестр „Син-кокио Гакудан“ исполнил несколько выдающихся произведений Мусоргского и супруга г. Крейна, известная японская певица г-жа Сакаэ Китазава, исполнила с большим успехом несколько песен—из произведений Мусоргского.

3. ИМПОРТ СОВЕТСКИХ КИНО-ФИЛЬМ.

Как в области музыки, так и в области кино, советские фильмы пользовались большим успехом в Японии. По своей технике и форме советское кино-искусство привлекло усиленное внимание японских соответствующих кругов, после появления советских картин на экранах Японии.

На экранах Японии демонстрировались следующие фильмы советской продукции: фильма „Потомок Чингисхана“, ввезенная осенью 1930 г., а затем „Турксиб“. В течение 1931 г. целый ряд наиболее известных советских кино-фильм был ввезен в Японию, но некоторые из них не были допущены цензурой к демонстрации. Наиболее выдающимися советскими кино-фильмами, ввезенными в пределы Японии являются следующие:

„Города и годы“ — 6 част., „Электрофикация деревни“ — 6 част., „Курс на север“ — 6 част., „Гость с неба“ — 2 част., „Земля“ — 6 част., „6-я часть света“ — 6 част. и „Праздник св. Иоргена“.

Из числа названных, фильм „Курс на север“ был приобретен фирмой „Ямани Иоко“, а фильма „Земля“ была ввезена фирмой „Чиода Иоко“. Обе эти фильмы после предварительного просмотра, цензурой были допущены к демонстрации, но другие или не были разрешены цензурой, или не были реализованы, вследствие значительного расхождения в условиях купли-продажи между Торгпредством и покупателями.

Кроме перечисленных в Японии демонстрировались, ввезенные фирмой „Чидзю Эйгаша“ кино-фильмы „Генеральная линия“ („Старое и новое“) и „К весне“, пользуясь небывалым успехом среди интеллигентных кино-любителей.

Впоследствии владелец фирмы „Ямани Иоко“ М. Катаяма выехал в Москву для ознакомления с последней продукцией советской кино-промышленности и закупки наиболее выдающихся советских фильм. Во время пребывания в Москве г. Катаяма был заключен договор на покупку говорящей Фильмы „Путевка в жизнь“, при этом им было уделено исключительное внимание на приобретение чисто художественных кино-фильм, отражающих художественные дарования и дух русского народа, избегая закупки фильм, выпущенных в целях пропаганды социализации деревни или посвященных ознакомлению с ходом строительных работ в СССР.

В результате детального ознакомления с продукцией советской кинопромышленности г. Катаяма были избраны следующие фильмы:

1. „Страсть“ („Симфония Донбасса“) — режиссера Вертова. Звуковая и говорящая фильма.
2. „Тихий Дон“ — постановка режиссера Преображенской.
3. „Бабы рязанские“ То же.
4. „Человек с камерой“ — Вертова.
5. „Последний позор“ — режиссера Доронина, фильма для детей.
6. „Битва за жизнь“ — постановка Королевича.
7. „Незнакомая женщина“ — режиссера Быльева.
8. „Закройщик из Торжка“, комедия.

Конечно, весьма сомнительно, что все эти фильмы пройдут благополучно через цензуру. По прежним опытам, мы имели возможность убедиться, что японская цензура очень осторожно относится к советским фильмам, поэтому часто бывают случаи „урезки“ фильм или наложение запрещения на их демонстрацию. Редкое исключение составляют фильмы, проходящие через цензуру не подвергаясь „урезке“. Одно из редких исключений цензурой было допущено в отношении „Турксиба“, не подвергнув эту фильму „урезке“.

Кроме перечисленных, фильма „Пятилетка“, знакомящая с грандиозными строительными работами в 3 году выполнения пятилетнего плана СССР, прибыла в порт Иокогаму через САСШ 13 ноября 1931 г. Эта говорящая фильма была приобретена фирмой „Тайкоша“ и со середины марта 1932 г. начала демонстрироваться на экранах Токио.

Между прочим, 8 ноября 1931 г. в помещении Полпредства в Токио, для специально приглашенных гостей демонстрировалась антирелигиозная фильма „Иуда“ в 8 частях.

Переходя дальше необходимо подчеркнуть, что из целого ряда ввезенных в Японию советских кино-фильм — „Турксиб“ и „Курс на север“ были одобрены Министерством Народного Просвещения и рекомендованы широкой массе, как одни из наиболее научных произведений кино-искусства, при этом Мин-во Нар. Просвещения не преминуло признать и художественную сторону этих фильм. Это событие

Гор. Цуруга.
Цуруга 25-й банк Банк, на основании закона о правительствен. гарантии на экспорт учитывает векселя, выпущенные Торгпредством СССР в Японии.

Гор. Симоносеки.
Симоносекское отделение Чосен банка Банк, на основании закона о правительствен. гарантии на экспорт учитывает векселя, выпущенные Торгпредством СССР в Японии.

Гор. Хакодате.
„Хоккай Такушоку банк“, Хакодатское отделение Банк, на основании закона о правительствен. гарантии на экспорт учитывает векселя, выпущенные Торгпредством СССР в Японии.

Транспортные Общества и фирмы.

Акц. О-во „Кита Нихон Кисен“	Сдача во фракт судов.
„ „ „Ямасита Кисен“	„ „ „ „
„ „ „Кавасаки Кисен“	„ „ „ „
„ „ „Кокусай Кисен“	„ „ „ „
„ „ „Тейкоку Кисен“	„ „ „ „
„ „ „Тосима Кайдзи Бозэки“	Судовой брокер, экспорт и импорт.
Тов-во „Таицу Шокай“	„ „ „ „
Какитани и Ко	„ „ „ „

ИТОГИ ЯПОНО-СОВЕТСКИХ КУЛЬТУРНЫХ ОТНОШЕНИЙ ЗА 1931 Г.

1. ФАКТОРЫ РАЗВИТИЯ КУЛЬТУРНОЙ СВЯЗИ.

В культурных отношениях между Японией и СССР в 1931 г. наблюдалось такое же оживление, какое проявлялось в течение нескольких предыдущих лет, в особенности в области кино, музыки и техники.

Достаточным подтверждением значительного продвижения культурных отношений между Японией и СССР в течение 1931 г., могут служить нижеследующие факторы:

1) Успешно развертывающееся выполнение пятилетнего плана в СССР и соответственно стремительными темпами развивающееся культурное строительство, вызвали большой интерес и тягу к изучению советской культуры среди японского пролетариата и пролетаризованной интеллигенции.

2) Живой интерес и настойчивое желание ознакомиться с культурными достижениями всего мира, проявляемые советским пролетариатом, стоящим на новом этапе культурной революции и в особенности заострение им своего пристального внимания к японской культуре, для усвоения с критическим к ней подходом.

Приведенные факторы уже издавна служили основными в японо-

советских отношениях, не представляя из себя единичного явления за названный период. Эта тенденция усиливалась с года на год и особенно в 1931 г. она достигла своей кульминационной точки.

При этом нельзя оставлять в стороне того факта, что в особенности в данном году проявляемая тенденция вызвала большое усиление интереса к обмену культурными достижениями между обеими странами и тягу в японском обществе к изучению СССР.

2 УКРЕПЛЕНИЕ ВЗАИМООТНОШЕНИЙ ПРИ ПОСРЕДСТВЕ МУЗЫКИ.

В первую очередь считается необходимым отметить особенное укрепление дружественных отношений между Японией и СССР в 1931 г. при содействии музыки.

Виконт Х. Коноэ, дирижер нового симфонического оркестра „Синкокио Гакудан“, приглашенный на гастроли в СССР по инициативе ВОКС'а в январе 1931 г. дал несколько концертов в Москве и Ленинграде и по радио с большим успехом, дирижируя советскими симфоническими оркестрами. Вечером 7 февраля на устроенном по инициативе ВОКС'а музыкальном вечере в зале Дома Ученых, на котором присутствовали японский посол в СССР г. К. Хирота, зам. Наркоминдела СССР г. Карахан и друг. высшие советские деятели, также состоялось выступление г. Коноэ, под управлением которого советским симфоническим оркестром было исполнено несколько номеров. Перед началом этого концерта вступительная речь была произнесена председателем ВОКС'а. Этот концерт представил собой своего рода вечер по укреплению японо-советских дружественных отношений.

После выступлений виконта Коноэ, сопровождавшихся громадным успехом, г. Косаку Ямада, учитель Коноэ и известный японский композитор-дирижер, проездом из Парижа, куда он был приглашен на гастроли в июле 1931 г., дирижировал крупными советскими симфоническими оркестрами, дав 4 концерта в Ленинграде, 9 концертов в Баку, 3 концерта в Тифлисе и 2 концерта в Москве, всего 18 концертов.

Репертуар концертных выступлений г. Ямада состоял из следующих выдающихся произведений:

1. а) Синее пламя; б) сотворение человека.

2. Японский ансамбль.

3. Пролог „Черного корабля“.

4. Незаконченная симфония Шуберта.

5. Тангейзер—Вагнера.

Что касается техники и творчества г. Косаку Ямада, как дирижера и композитора, то такие выдающиеся критики Москвы, как напр. Брандо, Букославский и Ленинградский композитор Шестакович, дали самые лучшие и лестные отзывы.

Косаку Ямада возвратился в Японию 16 сентября 1931 г. „Общество Друзей СССР“, возложившее на г. Ямада выполнение первой миссии по сближению японской и советской культур, по возвращении г. Ямада из СССР чествовало его торжественным банкетом, на котором был заслушан подробный доклад о поездке по СССР.

Оно Сакузаемон и Ко	Экспорт рыболовных сетей и рыболовных принадлежностей.
Акц. О-во „Хирата Сеймо“	” ”
Акц. О-во „Амикан Сеймо К. К.“	” ”
Товарищество „Миэ Сеймо“	” ”

Префектура Ямагучи.

(г. Симоносеки)

Акц. О-во „Хаяси Кане“	Экспорт рыбопродуктов.
------------------------	------------------------

Префектура Фукуй.

(г. Цуруга)

Хакасе и Ко	Экспорт, импорт и транспорт.
Саката и Ко	” ”
Транспортн. контора „Овада Кайсотен“	Таможен. экспедиторы и транспортное дело.
Накадзима и Ко	Импорт лесоматериалов.

Префектура Тояма.

„Тояма кен Баияку Генроо Кобай Рио Кумиай“	Импорт сантонина.
Асада и Ко	” ”
Хори Мацутаро и Ко	Импорт химических товаров.
Такаянаги Гиичи и Ко	Экспорт рыболовных сетей и рыболовных принадлежностей.

Префектура Хиого.

(г. Кобе)

Акц. О-во „Киосин Иоко“	Импорт хлебных продуктов.
Акц. О-во „Хасегава“	Импорт железного лома.
Акц. О-во „Танака Иоситен“	Экспорт бумаги.
Акц. О-во „Хонда Сиотен“	Экспорт моторов.
Такасе Сабуро и Ко	Экспорт и импорт.

Префектура Ниигата.

Акц. О-во „Нозавагуми“	Импорт лесоматериалов.
Яо и Ко	” ”
Сисини и Ко	” ”
Акц. О-во „Хокурику Мокузай“	” ”

Префектура Осака.

Акц. О-во „Тоио Сейяку Бозэки“	Экспорт разн. товаров, импорт сантонина и каустическ. соды.
Акц. О-во „Сумитомо Денсен Сейдзиошо“	Экспорт труб, электрич. проводки и т. д.
Акц. О-во „Такеда Чиобей“	Импорт сантонина.
Акц. О-во „Атака и Ко“	Импорт лесоматериалов и марганцевой руды.
Акц. О-во „Ивай“	Экспорт и импорт разн. товаров.
Акц. О-во „Сима Бозэки“	Экспорт химическ. товаров.
Акц. О-во „Даидо Иоси“	Экспорт бумаги.

Префектура Киото.

Тани Гензо и Ко	Импорт тополя и друг. лесоматериалов.
Лесопильн. завод „Фукада“	Импорт лесоматериалов.

Гор. Хакодате.

Акц. О-во „Нихон Сейкан Кабусики Кайша“	Экспорт жестян. банок и деревянных ящиков.
Акц. О-во „Хакодате Сеймо Сенгу Кабусики Кайша“	Экспорт рыболовн. сетей и судовой арматуры.
Акц. О-во „Нихон Гиомо Сенгу Кабусики Кайша“	” ”
Акц. О-во „Хакодате Гому“	Экспорт резинов. изделий.
Окамура и Ко	Импорт лесоматериалов.
Завод Симамото	Экспорт моторов и машин.
Камасиге и Ко, Хакодатское отдел.	Экспорт сол. веревок, рогожи и т. п.
Окамото Иосахачи и Ко	” ” ” ”
Киодо Гиомо и Ко	Экспорт рыболовн. сетей.
Терай и Ко	Экспорт разных товаров.
Завод акц. о-ва „Ариэ“	Экспорт каботажн. судов.
Асаока и Ко	Экспорт рыболовн. сетей и рогож.

Гор. Отару.

Акц. О-во „Хоккай Сейкан Соко“	Экспорт жестян. банок и деревянных ящиков.
Аратани и Ко	Экспорт разн. товаров.

Гор. Саппоро.

Ичиянаги и Ко	Экспорт срдовой арматуры.
---------------	---------------------------

Концессионные общества, фирмы и банки.

Название общества: Род концессии:

Префектура Токио.

Акц. О-во „Кита Карафутто Секию Кайша“	Нефтяные концессии
Акц. О-во „Кита Карафутто Когио Кайша“	Каменноугольные концессии.
Акц. О-во „Чосен банк“	Банк, на основании закона о правительствен. гарантии на экспорт учитывает векселя, выпущенные Торгпредством СССР в Японии.
Акц. О-во „Июкогама Спешу банк“	Т о ж е.
Акц. О-во „Дайичи Гинко“	Различн. банковские операции.
Националь Сити банк	” ” ”

Гор. Кобе.

Акц. О-во „Чосен банк“	Банк, на основании закона о правительствен. гарантии на экспорт учитывает йекселя, выпущенные Торгпредством СССР в Японии.
------------------------	--

Акц. О-во „Асано Буссан“	Импорт железного лома.
Акц. О-во „Ниигата Теккоджио“	Экспорт разных моторов и машин.
Торговое Т-во „Сумитомо“, Токийское отделение	Экспорт медной проволоки, железн. труб и электр. машин.
Акц. О-во „Икегаи Теккоджио“	Экспорт дизель-моторов.
Акц. О-во „Хитачи Сейсакуджио“	Экспорт электрич. машин.
Акц. О-во „Оки Денки“	Экспорт электро-технич. машин и их принадлежностей.
Акц. О-во „Хансеатик Моторо“	Экспорт моторов.
Акц. О-во „Симидзу Боэки“	Экспорт разн. машин и машинного оборудования и импорт советск. продуктов.
Акц. О-во „Тобата Имоно“	Экспорт моторов и разн. машин.
Акц. О-во „Тоио Когю Иохин“	Экспорт разн. моторов и машин.
Акц. О-во „Танака Шотен“	Импорт платины и друг. драгоцен. металлов.
Акц. О-во „Токио Сейко“	Экспорт канатов.
Акц. О-во „Фукусима и Ко“	Экспорт материалов для изготовления консервн. банок.
Акц. О-во „Токио Газ-Денки“	Экспорт станков и машин.
Акц. О-во „Нихон Азбест“	Импорт азбеста.
Торговая фирма „Бунка Боэки“	Импорт азбеста.
Торг. Т-во „Томода Госи Кайша“	Экспорт и импорт химических и фармацевтических товаров.
Акц. О-во „Торий“	Импорт сантонина и экспорт химических товаров.
Акц. О-во „Кониси“	Импорт сантонина.
Акц. О-во „Танабэ“	Импорт сантонина.
Акц. О-во „Тоио-Хатабако“	Импорт табачных изделий.
Торговая фирма „Ямани Иоко“	Импорт кино-фильм.
Торгов. Т-во „Ничибей Шодзи“	Экспорт и импорт разн. товаров.
Завод „Сигибаяси“	Импорт марганцевой руды.
Акц. О-во „Нозава Гуми“	Экспорт и импорт разных товаров.
Акц. О-во „Умеда“	Экспорт и импорт разных товаров.
Акц. О-во „Ничиро Дзицугио“	Экспорт и импорт разных товаров.
Акц. О-во „Тейкоку Сейма“	Импорт льна.
Акц. О-во „Дайнихон Энгио“	Импорт соли.
Акц. О-во „Нихон Иод“	Экспорт иода.
Акц. О-во „Нихон Трускон“	Экспорт стальных строительных материалов.
Акц. О-во „Кадокура“	Экспорт соломен. веревок, рогож и т.п.
Фабрика „Маеда“	Экспорт масляных красок.
Акц. О-во „Омура Гозаэмон“	Экспорт парусного полотна.
Акц. О-во „Гиомо Сенгу“, Токийское отделение	Экспорт рыболовных сетей и снастей.
Торгов. фирма „Нагаянаги“	Экспорт пробковых изделий.

Акц. О-во „Фукуока“	Экспорт резинов. сока.
Торгов. фирма „Сасакава“	Импорт жестяных обрезков.
Торгов. фирма „Тоа Шокай“	Экспорт рыболовных принадлежностей и машин.
Телеграфн. агентство „Ренго“	Агент газетн. реклам.
Телеграфн. агентство „Денцу“	Агент газетн. реклам.
Акц. О-во „О-во „Токио Годо Унсо“	Таможен. экспедиторы и транспортное дело.
Торговая контора „Исида“	Импорт лесоматер., комиссионер.
Акц. О-во „Фуджи“	Экспорт электро-технич. машин.
Фирма „Нисикава и Ко“	Экспорт дели для рыболовн. сетей.
Акц. О-во „Хаяси Теккоджио“	Экспорт машин для консервного производства.
Т-во „Таннин Боэки“	Экспорт красильных материалов для рыболовных сетей.
Префектура Канагава.	
Акц. О-во „Иокогама Докку“	Судоостроительство, машинное оборудование.
Акц. О-во „Иокогама Уэки“	Экспорт семян и оранжерейных растений и импорт химическ. продуктов.
Транспортная контора „Братья Херм и Ко“	Таможен. экспедиторы и транспортное дело.
„Иокогама Синко Соко“	Складское предприятие.
Акц. О-во „Урага Докку“	Судоостроительство, машинное оборудование.
Префектура Сидзуока.	
Акц. О-во „Тенриу Сейзай Кабусики Кайша“	Импорт лесоматериалов.
Акц. О-во „Симидзу Мокузай“	Импорт лесоматериалов.
Лесопильн. завод „Иокояма“	„ „
Торгов. фирма „Хатакеяма“	„ „
Торгов. фирма „Мочидзуки“	„ „
Хираока и Ко	„ „
Акц. О-во „Фуджи Сейча“	Экспорт зеленого чая.
Фирма „Нихон ча Юсюцу Кумиай“	Союз экспортеров японского зеленого чая.
Фирма „Хонма“	Экспорт зеленого чая.
Братья Курита и Ко	„ „
Зигфрид и Ко	„ „
Акц. О-во „Ирвин Гаррисонс Витней“	„ „
Торгов. фирма „Хелия“	„ „
Акц. О-во „Хаттори и Ко“	Экспорт хлопчатобумажн. пряжи.
Префектура Миэ.	
Торг. фирма „Тоио Гиомо Шокай“	Экспорт рыболовн. сетей и рыболовных принадлежностей.
Торгов. фирма „Ямамото Дзюдзиро“	„ „

Представительства Лесного отдела: в Токио, Осака, Нагоя, Корея
Дайрене.
Уполномоченные Внешторгтранспорта в Хакодате и Кобе.

Список ответственных сотрудников.

а) ГЛАВНАЯ КОНТОРА.

Торговый Представитель СССР (Торгпред) Асаткин, Александр Николаевич

Секретарь Торгпредства Лемешко, Григорий Иванович

I. Экспортный отдел.

Заместитель Торгпреда, Директор Экспортного отдела и Уполномоченный Экспортхлеба СССР

Коммерческие агенты:

Бродский, Виктор Михайлович
Табаков, Павел Яковлевич
Воронин, Вячеслав Васильевич
Вардуть, Фридрих Николаевич
Бобкова, Ольга Дмитриевна.

II. Лесной отдел.

И. о. II-го Заместителя Торгпреда и Директор Лесного отдела

Старший бухгалтер
Коммерческие агенты:

Пивоваров, Андрей Трофимович
Клебанов, Макс Абрамович
Перцев Петр Федорович
Козыро, Иван
Бухарцев, Георгий Николаевич

III. Импортный отдел.

Директор Импортного отдела
Зам. Директ. Имп. отдела
Коммерческий агент
Уполномочен. Судоипорта

Шумов, Николай Николаевич
Королев, Сергей Сергеевич
Букин, Михаил Александрович
Трофимов, Козимир Дмитриевич
Тюрин, Алексей Петрович
Байкин, Алексей Климович

Уполномочен. Станкоимпорта

IV. Чайный отдел.

Директор чайного отдела
Ти-тестер

Лившиц, Борис Григорьевич
Шенинг, Федор Эмильевич

V. Представительство „рыбоконсервэкспорт“

Уполномоченный „Рыбоконсервэкспорта“

Черников Федор Аристархович

VI. Представительство Союзнефти при Торгпредстве.

Уполномочен. Союзнефти

Суходольский, Павел Васильевич

VII. Представительство Совфрахта.

Уполном Совфрахта Тассавайнен, Карл Иванович

VIII. Финансовый отдел.

Главный Бухгалтер Годин, Ефим Маркович

IX. Экономическая часть.

Экономист Бреман, Ян Петрович
Референт Павлычев

б) ОТДЕЛЕНИЯ.

Уполномоченные Торгпреда:

В Осака Шумилов, Александр Матвеевич
В Хакодате Журавский, Петр Федорович
В Дайрене Никольский, Н. В.
В Сеуле (Корея) Локтин, Афанасий Никитич

Уполномоченный Внешторгтранспорта:

В Кобе Калинин
В Хакодате Филимонов

Представители Лесного отдела:

В Осака Кипасто, Рудольф Минович
В Корея Громов, Александр Васильевич
В Нагое Лепешко
В Дайрене Чернявкин, Дмитрий Семенович

СПИСОК ЯПОНСКИХ ФИРМ И ОБЩЕСТВ, ИМЕЮЩИХ СВЯЗИ С СССР.

(Японские рыбопромышленные О-ва и фирмы, имеющие свои предприятия на территории Советского Д.В. в настоящий список не включены, за исключением тех из них, которые имеют непосредственные торговые связи с СССР).

Торговые о-ва и фирмы.

Название о-ва или фирмы:

Род предприятия:

Префектура Токио.

Акц. О-во „Ничиро Гиогио“	Экспорт и импорт разных рыбопродуктов.
Акц. О-во „Момияма и Ко“	Импорт рыбопродуктов
Акц. О-во „Хокко Суйсан“	Импорт рыбопродуктов
Люри и Ко	Экспорт и импорт рыбопродуктов.
Акц. О-во „Мицуй Буссан“	Экспорт и импорт разных товаров.
Акц. О-во „Мицуй Козан“	Импорт цинковой руды.
Акц. О-во „Мицубиси Сиодзи“	Экспорт и импорт разных товаров.
Акц. Ово „Оокура Сиодзи“	Экспорт и импорт розных товаров.
Акц. О-во „Фурукава Денки Когио“	Экспорт медной проволоки и кабелей.

представить этот законопроект на обсуждение очередной сессии парламента, но в декабре 1931 г. ввиду ухода в отставку кабинета Минсейто, данный вопрос до сего времени остается открытым. Но если этот вопрос не будет разрешен, то надо думать, что размер заказов СССР на японском рынке будет весьма ограничен и это неизбежно приведет к дальнейшему сокращению японо-советских торговых оборотов.

Импорт в Японию, хотя и не связан непосредственно с кредитом, но при таких условиях, не имеет шансов на развитие, т.-к. СССР, является купцом, принадлежащим к особой категории и тем, более тогда, когда экспорт из Японии в значительной степени ограничивается.

Вопрос о кредите не новый, до сих пор он имеет большое и решающее значение по отношению к экспортной торговле Японией, но можно сказать, что этот вопрос не имел такого серьезного значения, как в этом году, когда объективное положение в японо-советских отношениях, выдвинуло в обостренной форме этот вопрос.

Если японо-советские торговые отношения очутились в большом тупике в 1931 г., то причина этого должна быть объяснена неразрешенностью вопроса о кредите, который недавно принял явную форму.

Все это является характерным моментом в японо-советских торговых отношениях в 1931 г. и из этого исходит резкое сокращение вывоза рыболовных сетей и снастей, составляющих главную статью в номенклатуре экспорта из Японии, задержка в помещении заказов на зеленый чай и возникновение друг. затруднительных вопросов, связанных с экспортной торговлей Японией.

3. ТЕНДЕНЦИИ И СОБЫТИЯ

Из всех явлений, наблюдавшихся в японо-советских отношениях в 1931 г., одними из особенно ярко бросающихся в глаза, нужно считать следующие: в связи с финансовыми затруднениями в области экспортной торговли с СССР, мелкие и средние японские фирмы были вынуждены оставить арену торговли с СССР и их место заняли такие крупнейшие в Японии фирмы как Мицуи и Мицубиси, поставив своей целью монополизацию японо-советской торговли; фирма Окура тоже не уступила этим обеим фирмам со своим крупным капиталом и активной силой. Кроме того интересно отметить, что в июне м-це 1931 г. были вывезены тяжелые машины для железно-дорожного строительства. Экспорт этих машин был произведен Токийским газово-электрическим техническим акц. о-вом „Токио Гасу-Денки Когиро Кабусики Кайша“. Экспорт в СССР тяжелых машин для железно-дорожного строительства был в общем рекордным для японской машиностроительной промышленности.

Резкое сокращение ввоза советского леса, являющегося одним из главных советских экспортных товаров в Японию, вызвано общим экономическим кризисом и обложением пошлинами советских лесоматериалов при ввозе в Японию.

При этом необходимо отметить одного прискорбное событие, как связанное с японо-советскими торговыми отношениями, а именно покушение на жизнь Торгпреда СССР в Японии П. В. Аникеева, оказавшего большие заслуги в деле развития японо-советской торговли за истекшие 5 лет. Покушение на г. Аникеева произвело большую сенсацию в среде японской и иностранной общественности. При возникновении слухов об отзыве г. Аникеева в СССР, все японские фирмы, работавшие с Торгпредством СССР в Японии организовали совместное движение за оставление его на старом посту, но несмотря на это, г. Аникеев был отозван из Японии и во временное исполнение обязанностей Торгпреда вступил г. Фрейман, приехавший из СССР.

В конце декабря 1931 г. на пост Торгового Представителя СССР в Японии, вместо отозванного в СССР г. Аникеева был назначен бывш. председатель Далькрайисполкома А. Н. Асаткин.

Обострение вопроса о кредитах, проект посылки особой миссии из представителей японских промышленников для ознакомления с актуальным положением в СССР и объявления Торгпредства об установлении нового порядка в отношении скрепления вторыми подписями всех деловых бумаг-все это явления, представляют характерные черты в японо-советских торговых отношениях в 1931 г.

ТОРГОВОЕ ПРЕДСТАВИТЕЛЬСТВО СССР В ЯПОНИИ.

(Сокращенно: Торгпредство СССР в Японии).

Торговое Представительство СССР в Японии учреждено 1-го января 1926 года. Торговое Представительство является единственным органом осуществляющим все торговые операции между Японией и Советским Союзом.

Все сделки по импорту и экспорту товаров производятся Главной конторой Торгпредства в Токио, его отделениями в Осака и Хакодате или агентством в Дайрене.

Деятельность Торгпредства сводится в основном к организации и осуществлению закупочных операций для нужд хозяйственных организаций Советского Союза и реализации продукции этих организаций на японском рынке.

Главная контора	Токио, Сайвай Чоо Итчоме № 3, Осака билдинг, 4-й этаж. Тел. Гиндза-от 2102 до 2104
Отделения:	Осака: Тосабори Дори, Даидо билдинг, тел. Хакодате: Суэхироо Чоо № 16, тел. Дайрен: Ямагата Дори № 18, тел.
Агентства:	Корея, Сеул-Кендзео.

ный Минторгпромом был представлен Минфину для получения согласия последнего. По поводу этого проекта многократные переговоры велись между обоими министерствами и в конце концов этот проект очутился на пороге к разрешению, сопровождаемый оптимистическими настроениями и вызвал в заинтересованных кругах надежду на близкое осуществление. Между тем уход в отставку г. Татенси-Н-ка Внешнеторгового департамента Мин-ва Торговли и Промышленности, бросил тень на перспективы этого вопроса, кроме того отношение совстороны к ген. Ма-цзян-шань—главе Цицикарского провин. правительства, привлекло серьезное внимание японских властей.

Хотя еще слабо, но в отдельных кругах высказывались мнения пессимистического характера в отношении решения этого вопроса, говоривших, что при таких обстоятельствах было-бы трудно питать надежды на благоприятное разрешение данного вопроса в парламенте и было-бы лучше не представлять законопроект в предстоящую сессию парламента.

Таким образом пока остается неразрешенным вопрос о представлении законопроекта о расширении размеров правит. гарантии на экспорт в СССР на обсуждение предстоящей сессии парламента, открывающейся в 1932 г. Поэтому в настоящее время остается неизвестным, что предпримут японские соответствующие круги для урегулирования данного вопроса.

II. Вопрос о кредите.

1. ЯПОНО-СОВЕТСКАЯ ТОРГОВЛЯ В ПЕРЕХОДНОМ ПЕРИОДЕ.

Одним из характерных изменений, происшедших в японо-советской торговле за 1931 г. является значительное сокращение торгового оборота, как в экспорте, так и в импорте Японии, не говоря только об общем торговом обороте, проявлявшем до тех пор неизменную тенденцию к дальнейшему повышению. Такое изменение, появившееся в 1931 г. не наблюдалось до тех пор в японо-советской торговле, после восстановления дипломатических сношений между Японией и СССР, т.-к. до этого времени японо-советская торговля с год на год повышалась как в экспорте, так и в импорте.

Мы не должны оставлять без внимания тех характерных имманентных моментов, которые имели место в процессе японо-советской торговли за 1931 г. Одним из таких имманентных моментов является вопрос о кредите (т.-е. увеличение размеров правительственной гарантии на экспорт), остающийся до сего времени неразрешенным.

Застой в японо-советской торговле в 1931 г. не может быть приписан к появлению каких-то ненормальных феноменов в основных принципах экономических отношений между Японией и СССР, а той причине, что установление кредита для торговли с СССР не разрешается, хотя этот вопрос является основным моментом для дальнейшего развития японо-советской торговли. Вот в чем заключается вся причина застоя.

2. ВАЖНОСТЬ ВОПРОСА О КРЕДИТЕ.

Собственно говоря, внешняя торговля старой России опиралась на продукцию сельского хозяйства, являвшегося базисом народного хозяйства. Такая характерная постановка экономики страны отразилась на системе импортной торговли, ведшейся всецело на долгосрочных кредитных началах, ставших торговым обычаем.

Под властью СССР такая обстановка тоже не изменилась, хотя надо отметить те факты, что СССР требуется колоссальный капитал для коренной перестройки народного хозяйства и индустриализации страны тогда, когда все капиталистические страны без исключения блокируют финансирование СССР. Вследствие этого, аккредитивы по импортной торговле, было решено заменить внешними займами, но этому проекту не суждено было осуществиться. В результате, кредиты требуются по возможности долгосрочные, за то СССР в некоторых случаях не отказывается уплачивать, за свои счета, проценты в известном размере. Для СССР, безусловно, необходимы умеренные условия в цене и качестве, товаров, но наиболее важным является вопрос о продлении срока кредитов. В данное время это условие является центром тяжести при помещении заказов за границей.

При желании успешно работать с советскими торговыми организациями абсолютно необходимо предоставление долгосрочных кредитов последним. В этом отношении, надо принять во внимание, что в 1931 г. Германия и Италия установили аккредитивы для экспортной торговли с СССР в несколько десятков миллионов марок или лир, под гарантией своих правительств. Но в Японии еще не принято такое решительно важное мероприятие.

Закон об установлении правительственной гарантии на экспорт, опубликованный в августе 1930 года, без сомнения, касается торговли с СССР, но размер гарантируемой правительством суммы весьма ограничен и не пользуясь большим успехом в широких кругах не мог оправдать возложенных на него надежд.

Между тем, в связи с развертыванием пятилетки на Дальнем Востоке, и возрастающей с каждым днем необходимостью средств, СССР предложил Японии продлить срок кредитов, при условии помещения в Японию заказов на разные товары в сумме 50.000.000 иен. Это предложение подняло большой шум в заинтересованных кругах, при чем по поводу этого вопроса высказывались различные мнения, отрицательного и одобрительного характера. Это предложение не могло тоже не отразиться на кругах рыбопромышленников и даже впоследствии превратилось в политический вопрос.

Промышленники и круги Министерства Торговли и Промышленности, почти без исключения одобрили предложение СССР, учитывая дальнейшее развитие японской экспортной торговли путем расширения размеров правительственной гарантии на экспорт и при бывшем кабинете партии Минсейто Внешнеторговый департамент Министерства Торговли и Промышленности составил законопроект об увеличении размеров правительственной гарантии до 36 млн. иен, предполагая

**ТОРГОВЫЙ ОБОРОТ МЕЖДУ ЯПОНИЕЙ И СССР ЗА 9 МЕСЯЦЕВ
1931 Г. ПО ДАННЫМ ТАМОЖЕННЫХ УПРАВЛЕНИЙ ЯПОНИИ.**

Выше мы изложили общее положение японо-советской торговли. При этом будет интересно ознакомиться с положением японо-советского торгового оборота, по данным таможенных управлений: Иокогама, Хакодате, Осака, Кобе, Моджи и Нагасаки. Общий оборот японо-советской торговли за 9 месяцев с января по сентябрь 1931 г. выразился в сумме 29.560.214 иен, из которых 10.041.196 иен падают на долю экспорта и 19.150.018 иен—на долю импорта, в результате превышение импорта над экспортом выразилось в 8.739.822 иен. По сравнению с соответствующим периодом предыдущего года экспорт показывает сокращение на 12.967.421 иен или на 55%, импорт—на 3.741 иен или 16%, таким образом сокращение общего оборота достигло—16.709,196 иен (расхождение между приведенными цифрами проистекает от того, что они обоснованы только на данных таможенных управлений Японии).

Теперь попробуем проделать анализ японо-советской торговли по отдельным портам Японии за указанный период.

Порт Нагасаки, имевший ничтожные цифры в экспорте—около 48.000 иен в предыдущем году, в прошлом году как в экспорте, так и в импорте не имел абсолютно никаких цифр, хотя это почти не оказывает никакого влияния на общий оборот, но экспорт и импорт через все остальные порты, за исключением Осаки, увеличившего общий оборот свыше 240.000 иен в текущем году, сплошь и рядом показывают сокращение. Это бросило до некоторой степени тень на перспективы торговли в последнем квартале.

Сокращение торгового оборота через остальные 4 порта, выражается в каждом по отдельности в следующих цифрах: Хакодате—43%, Моджи—43%, Кобе—31% и Иокогама—23%. Последовавшее резкое сокращение экспорта через Хакодате почти на 10 млн. иен, вызвано тем, что в 1931 г. закупка рыболовных сетей и снастей советскими организациями в Хакодатском районе выразилась только в сумме 400 тыс. иен, тогда как в предыдущем году достигла 7 млн. иен с одной стороны и с другой стороны тем, что изменился порт экспорта, так напр. через Цуругу, вместо Хакодате. При этом необходимо заметить, что в 1931 г. почти все закупленные советскими организациями товары были отправлены во Владивосток и последовательно все отправки производились через порт Цуругу.

Данные о экспорте и импорте по отдельным таможням, представляются в следующем виде:

Таможня Хакодате.			
	1931 г.	1930 г.	
Экспорт	7.157	17.111	*9.953
Импорт	9.953	13.435	*3.482
Итого	17.110	30.546	*13.436
Сальдо	2.795*	3.675	

Примечание: * означает превышение или понижение.

Таможня Иокогама.

Экспорт	1.917	4.457	2.540*
Импорт	4.816	4.384	431
Итого	6.733	8.842	2.108
Сальдо	2.899	72	—

Таможня Осака.

Экспорт	709	275	433
Импорт	2.419	2.611	192*
Итого	3.128	2.887	241
Сальдо	1.709	2.335	

Таможня Кобе.

Экспорт	363	1.168	805*
Импорт	1.668	1.792	124*
Итого	2.031	—	—
Сальдо	1.305*	624*	929*

Таможня Моджи.

Экспорт	262	316	53*
Импорт	293	667	374*
Итого	556	984	428*

Таможня Нагасаки.

Экспорт	—	48	48*
Импорт	—	—	—
Итого	—	48	48*
Сальдо	—	48	—

Общие итоги торгового оборота через все таможни Японии.

Экспорт	10.410	23.377	12.967*
Импорт	19.150	22.891	3.741*
Итого	29.560	46.269	16.709*
Сальдо	8.739	485	

При этом нельзя не отметить, что японо-советская торговля, проявлявшая тенденцию к повышению с года на год, в 1931 г. неожиданно изменив картину своего роста, стала постепенно сокращаться. При этом было бы неправильным и весьма ошибочным приписывать сокращение японо-советской торговли только влиянию мирового экономического кризиса. Почему именно темп развития японо-советской торговли, который должен был продолжаться быстро и крепко, поскольку СССР не откажется от выполнения своего пятилетнего плана, замедлился, как вышесказано?

На это можно ответить, что не установление вопроса о правительственной гарантии на экспорт, как говорят, является камнем преткновения. Министерство Торговли и Промышленности, некоторое время тому назад приняв решение о внесении улучшений в существующую систему предоставления гарантий под экспорт в СССР, путем выпуска госзаймов, стремилось к расширению размеров правительственной гарантии на экспорт в СССР и соответствующий проект, разработан-

Генконсульство Японии в Хабаровске.

Зам. Генконсула — Сессей Коянаги
 Делопроизводитель — Теидзи Мурасе
 ” — Такехиса Симидзу

Консульство Японии в Одессе.

Консул — Бун'ичиро Танака
 Делопроизводитель — Сидзуо Митани

Консульство Японии в Благовещенске.

Зам. Консула — Кендзо Идзуми
 Делопроизводитель — Хидебуми Манива

Консульство Японии в Петропавловске.

Консул — Сигеру Симата
 Делопроизводитель — Риухей Хонда
 ” — Хисаси Мичимаса

Консульство Японии в Новосибирске.

Зам. Консула — К. Накамура

ИТОГИ ЯПОНО-СОВЕТСКИХ ЭКОНОМИЧЕСКИХ ОТНОШЕНИЙ ЗА 1931 Г.

I. Итоги японо-советской торговли.

Экономический кризис, разразившийся с небывалой силой над всем миром отразился резко и на японо-советской торговле. Статистические данные служат наглядным доказательством этого факта.

По данным Министерства Финансов Японии, торговый оборот между Японией и СССР, за время с января по сентябрь 1931 г., выразился в следующих показателях:

Экспорт	15.317.650 иен
Импорт	26.190.822 „
Итого	41.508.472 иен

По сравнению с соответствующим периодом предыдущего года, экспорт сократился на 26.782.664 иены, импорт — на 4.978.760 иен, а сокращение общего оборота достигло 16.443.774 иен.

Нижепомещенные цифры наглядно иллюстрируют сокращение японо-советской торговли:

	За 9 месяцев		Сокращение
	1931 года	1930 года	
Экспорт	15.317	26.782	11.465
Импорт	26.190	31.169	4.978
Итого	41.508	57.952	16.443

Судя по этим данным, торговый оборот за 9-м-цев 1931 г. между Японией и СССР в области экспорта сократился на 42% с лишним, в области импорта — на 15% с лишним и в общем обороте — на 28%

с лишним. Главные причины сокращения торгового оборота заключаются в уменьшении количества заключаемых сделок в общем с одной стороны и в падении цен на все товары с другой стороны, так напр. в экспорте цены на муку пали на 57%, на веревки и подобные им товары — на 35% и рыболовные сети на 30%, а в области импорта цены на платину упали — на 47%.

Если присмотреться внимательнее к помещенной ниже таблице, служащей показателем главных товаров, являвшихся объектом экспорта и импорта в 1-м полугодии 1931 г., станет вполне понятным, как они отразились на состоянии торгового оборота между Японией и СССР.

Экспорт из Японии.

	За 1-е полугодие 1931 г.		За 1-е полугодие 1930 г.	
	Количество	Сумма в иенах	Количество	Сумма в иенах
Общие итоги за 1 полугодие	—	13.170.415	—	21.171.342
Мука	7.256 шк.	26.661	3.612	30.860
Чай	—	1.621.110	—	3.610
Иод	—	—	12.493	116.424
Веревки	—	1.493.311	—	1.245.363
Рыболовн. сети	4.354.373 кин	2.959.890	5.677.156	5.589.159
Резинов. обувь	1.314 дюж.	20.197	3.753 дюж.	123.675
Европейск. одежда	—	48.783	—	63.206
Кам.-уголь	14.065 англ. тонн	215.741	18.438 англ. тонн	300.485
Железо и железн. изделия	—	—	—	—
Пароходы	5	34.100	166	1.073.303
Другие суда	—	565.972	—	1.964.414
Котлы (включая их части и принадлежн.)	172.003 кин	64.010	1.081.832 кин	343.190
Машины	—	542.693	—	980.636
Соломен. рогожи	—	269.899	—	637.259
Дерев. изделия	—	230.886	—	522.213

Импорт в Японию.

	Количество	Сумма в иенах	Количество	Сумма в иенах
Общие итоги импорта за 1 полугодие	—	5.401.161	—	4.548.794
Рыба	—	1.064.860	—	1.039.589
Нефть и мазут	—	333.706	—	68.762
Каустическ. сода	44.014	345.081	26.781	224.373
Кам.-уголь	30.030 тонн	327.800	272.320	363.300
Платина	341.300 гр.	694.911	158.193	616.954
Лес	—	1.271.082	—	1.687.171

Примечание: В связи со включением в эту таблицу транзитных товаров, по сравнению с данными Торгпредства СССР в Японии, цифры Минфина Японии приведены в более преувеличенном виде.

В. В. Железняков	—1-й Секретарь
П. А. Панов	—Пом. Воен. атташе
П. Г. Ромашев	—Зав. Финчастью
В. В. Лозинский	—Референт
А. Л. Клетный	—Референт
Е. Г. Айзенштадт	—Референт
Н. П. Ермаков	—Секретарь Морск. атташе
А. А. Лейферт	—Переводчик Морск. атташе
В. М. Константинов	—Секретарь Военного атташе
Е. А. Константинова	—Переводчик Военного атташе
М. И. Лайне	—Переводчик
Н. С. Соловьев	—Делопроизводитель
С. И. Синейкин	—Зав. Канцелярией
Н. Н. Беляев	—Зав. Канцелярией
М. А. Пляцковский	—Зав. Канцелярией
О. В. Анцыферова	—Машинстка
Е. И. Жуйкова	—Машинстка
И. А. Ермакова	—Зав. Хоз. частью.
Н. В. Бобылев	—Студент-практикант

Генконсульство.

Н. А. Дубравин —Управляющий генконсульством

Генконсульство СССР в Кобе.

Н. Гончаров —Генконсул
В. Борисов —Секретарь

Генконсульство СССР в Сеуле.

Тодаймон, 15.

А. Иткин —Генконсул
В. Кузнецов —Вице-консул

Консульство СССР в Хакодате.

Г. Тихонов —Консул
П. Рыжов —Секретарь

Консульство СССР в Цуруге.

И. Белов —Консул

Вице-консульство СССР в Отару.

..... —.....

Консульство СССР в Дайрене.

Хигаси Коэн-чо, 1.

И. И. Журба —Консул

ЯПОНСКИЕ ДИПЛОМАТИЧЕСКИЕ ПРЕДСТАВИТЕЛИ В СССР.

Японское Посольство.

г. Москва, улица Герцена, 42.

Состав Посольства.

Чрезвычайный и Полномочный посол	—Коки Хирота
Советник	—Эйдзи Амо
1-й Секретарь	—Кацусабуру Сасаки
2-й Секретарь	—Сейдзи Огата
”	—Мияо Фунакава
3-й Секретарь	—Гирио Андо
”	—Шодзи Огата
Торговый секретарь	—Козаэмон Каватани
Кандидат в дипломаты	—Кацусиро Нарита
Переводчик 2-го ранга	—Сигета Абурахаси
Делопроизводитель	—Нобундо Тераока
”	—Хидео Оота
”	—Иосимицу Хасунума
”	—Нобору Такасуги
Военный Атташе	—Масанао Цудзи
”	—Юкио Касахара
Пом. Военного Атташе	—Мицутаке Ямаока
Морской Атташе	—Минору Маэда
Пом. Морского Атташе	—Сутедзи Ямагучи

Генконсульство Японии во Владивостоке.

Генконсул	—Таметаро Ямагучи
Делопроизводитель	—Генкичи Сакабе
”	—Масао Такао
”	—Нагафую Катаока
”	—Икута Ясуки
”	—Риозо Такаяма
Переводчик	—Дзюзо Хаяси

Генконсульство Японии в Александровске.

Генконсул	—Сейго Сасаки
Делопроизводитель	—Дзиро Ний
”	—Иосибуми Касивая
”	—Каору Накасида

Отделение Генконсульства в Охе.

Делопроизводитель (Заведующий)	—Суэо Симомура
”	—Сей Тагая
”	—Кан’ичи Оно

Представитель СССР в Японии г. Трояновский посетил г. Инука й, занимавшего в то время пост премьер-министра с совмещением поста Мининдела, в целях продвижения данного вопроса.

По поводу посещения г. Трояновским премьер-министра Японии г. Инукай, телеграфн. Агентство „ТАСС“ сообщило следующее:

„В беседе, состоявшейся между Полпредом СССР в Японии г. Трояновским и премьер-министром Японии г. Инукай, помимо вопросов, касающихся подготовки русских белогвардейцев к политическим и военным выступлениям против СССР, главным образом, обсуждался вопрос, связанный с заключением пакта о ненападении, поднятый г. Литвиновым в Москве при свидании с г. Иошизава—новым Мининделом Японии, на пути возвращения последнего из Парижа в Токио.

Между прочим, во время беседы г. Трояновский изъясил желание выслушать личное мнение г. Инукай о возможности заключения Японо-Советского договора о ненападении.

На предложение г. Трояновского, премьер-министр г. Инукай подтвердил заявление японского прав-ва о том, что оно не имеет ни малейшего желания нарушать интересов СССР на КВЖД; что же касается вопроса о заключении пакта о ненападении, то он тоже ничего определенного не сказал под предлогом, что он не успел еще обсудить его с остальными членами кабинета“.

ОТКЛИКИ ПРЕДЛОЖЕНИЯ СОВЕТСКОГО ПРАВИТЕЛЬСТВА В ПРАВИТЕЛЬСТВЕННЫХ КРУГАХ ЯПОНИИ.

Предложение Советского правительства Японии о заключении пакта о ненападении произвело большую сенсацию среди японского общества.

Все японские газеты посвятили свои передовые статьи данному предложению Совправительства, и оживленно комментировали его на своих страницах.

Мнение большинства газет, судя по передовым статьям, сводилось в общем к отсутствию пока необходимости в заключении такого рода пакта, или же заявлялось о том, что заключения такого рода договора не допускает пока текущий момент.

Говоря в общем, общественное мнение всей страны отнеслось отрицательно к идее заключения японо-советского пакта о ненападении.

Между прочим необходимо отметить, что японское правительство воздержалось высказать свое мнение о данном вопросе, но вышесказанное мнение печати можно считать отражением атмосферы, царившей в то время в японских правительственных кругах.

К уже сказанному следует сообщить дополнительно одно характерное мнение японской стороны, касающееся данного вопроса:

Обращение Совправительства к Японскому с предложением о заключении Японо-советского пакта о ненападении, мотивировано следующими соображениями:

1) Приобретением удобств для себя путем заключения пакта о ненападении, чтобы обеспечить успешное выполнение намеченной экономической политики в пределах страны, на время пока не будет завер-

шен пятилетний план развития народного хозяйства, являющийся главной осью государственного строительства.

2) Стремлением добиться во-чтобы то ни стало улучшения советско-маньчжурских отношений, путем заключения такого договора с Японией, под влиянием опасений о возможности полной потери своих прав и интересов в Маньчжурии, в силу свержения старой Мукденской власти.

Япония не питает никаких замыслов не только о посягательстве на целостность советской территории, но даже о нарушении прав и интересов советской стороны в Сев. Маньчжурии, связанных с КВЖД и друг. Отсутствие у Японии каких-либо враждебных замыслов против СССР, ясно излагалось в неоднократных официальных заявлениях японского правительства. Помимо этого лишним доказательством искренности позиции Японии по отношению к СССР могут послужить действия японских войск, во время ведения ими боевых операций против войск ген. Ма.

К тому же при существовании международного договора о ненападении (пакт Келлога), отпадает какая либо необходимость в заключении однородного договора, имеющего своей целью предупреждение возникновения войны.

Если СССР искренно желает избежать вооруженного столкновения, то ему прежде всего надлежит принять основательные меры к сокращению своих вооружений.

К тому же в то время, когда Америка и все государства Европы относятся подозрительно к положению в Маньчжурии, Японии невыгодно удовлетворить предложение Советского правительства, в противном случае, это могло-бы привести только к усилению подозрительности других держав.

ДИПЛОМАТИЧЕСКИЕ ПРЕДСТАВИТЕЛИ СССР В ЯПОНИИ.

Полномочное Представительство СССР в Японии

г. Токио, Азабу-ку, Мамиана-чо, 1.

Телеграфные адреса:

Полномочного Представительства—Полпред Токио.

Генеральных консульств—Совгенконсул Токио, Кобе и Сеул.

Консульств—Совконсул Хакодате, Цуруга, Дайрен и Отару.

Состав Полпредства.

А. А. Трояновский	—Полпред
А. Н. Асаткин	—Коммер. Советник (Торгпред)
И. И. Спильванек	—Советник
А. А. Бологов	—Морской атташе
М. Г. Галкович	—1-й Секретарь

вплоть до Имяньпо, а в случае необходимости даже до Хайлина.

Через некоторый промежуток времени, а именно 29 февраля Министерством Иностранных Дел Японии была неожиданно опубликована телеграмма генконсула Японии во Владивостоке г. Ямагучи, адресованная представителям иностранной печати в Токио о том, что около границ Маньчжурии сконцентрированы крупные силы советских войск. Эта телеграмма, как впоследствии выяснилось, была составлена на основании сведений, полученных названным консулом от одного иностранца.

Опубликование этой телеграммы вызвало громадную сенсацию среди правительственных кругов и населения СССР и в номере газеты „Известия“ от 3 марта появилась резкая статья, полная упреков по адресу Японии. Статья эта была помещена под заглавием: „Япония и СССР“. В этой статье помимо резких выпадов против Японии, автор призывает обратить внимание на то, что вопреки неоднократным заверениям японского правительства о признании им факта строжайшего нейтралитета СССР, в пределах Маньчжурии продолжают поощряться анти-советские интриги и телеграмма генконсула Японии во Владивостоке о концентрации советских войск в количестве 100 тыс. чел. около границ Маньчжурии, имеет свою специальную цель.

Между прочим в своей статье, автор отмечает, что некоторые ответственные круги Японии деятельно обсуждают вопрос о захвате Приморья и Забайкалья.

После появления этой статьи, в Министерстве Иностранных Дел Японии, представителю Информационного Бюро „Ничиро-Цусин“ было заявлено примерно следующее:

„В последнее время СССР слишком скептически относится к действиям и намерениям Японии в Маньчжурии. Такая скептическая концепция, по нашему мнению, создалась на основании легкомысленных и вымышленных сведений.

Но японское правительство не имея абсолютно никаких замыслов, не имеет ни малейшего намерения предпринимать какие либо враждебные действия против СССР. Сейчас, подозрительное отношение СССР к Японии, постепенно, в порядке сомотека, по мере выяснения истинного положения вещей, на основании засвидетельствованных фактов, начинает рассеиваться.

Помимо этого слухи об использовании японским командованием русских белогвардейцев и существовании якобы между ними теснейшей связи, ни в коей мере не соответствуют действительности и являются с начала до конца сплошным вымыслом.

Конечно, при этом вполне возможно, что русские белогвардейцы стремились похвастать тем, что якобы они имеют теснейшую связь с японским командованием, учитывая создавшееся положение в Маньчжурии, желая этим как-бы рекламировать свою роль.

Кстати необходимо указать, что все сведения о концентрации на границах красной армии поступали и продолжают поступать, главным образом, из района Владивостока, тогда как из Благовещенска и Харбина никаких сведений об этом не поступало и не поступает“.

ОБРАЩЕНИЕ СССР К ЯПОНИИ С ПРЕДЛОЖЕНИЕМ О ЗАКЛЮЧЕНИИ ПАКТА О НЕНАПАДЕНИИ.

При проезде из Парижа в Токио через СССР, 31 декабря 1931 г. в Москве в честь вновь назначенного тогда на пост Мининдела Японии г. Иошизава, Наркоминделом СССР г. Литвиновым и его заместителем г. Караханом был дан банкет, на котором присутствовал японский посол в Москве г. Хирота.

При состоявшемся свидании г. Литвинов подтвердил заявление советского правительства о сохранении советской стороной строжайшего нейтралитета в Маньчжурских событиях и вместе с тем обратился с серьезным предложением к г. Иошизава, свидетельствующим продвижение вперед дальнейшего развертывания японо-советских дружественных отношений.

По сообщениям ТАСС'а г. Литвинов во время имевшего место свидания заявил г. Иошизава о необходимости заключения пакта о ненападении между Японией и СССР, для дальнейшего укрепления дружественных отношений между обеими странами, в тот самый момент когда часть заграничных военных кругов легкомысленно высказывала уверенность в возможном обострении японо-советских отношений, под влиянием целого ряда плетущийся сети интриг вокруг этих отношений и распространения вымышленных слухов.

Данное предложение со стороны Советского прав-ва сделано Японии, повидимому, по случаю заключения пакта о ненападении между СССР и соседними государствами: Персией, Турцией, Литвой и Афганистаном, подписания предварительного договора с Францией и успешного хода переговоров о заключении аналогичного пакта с Польшей, Финляндией, Латвией и Румынией.

При свидании г. Литвинов подчеркнул, что из целого ряда дружественных стран одна Япония является государством не заключившим пакт о ненападении с СССР, которая к тому же не выразила даже желания вступить в непосредственные переговоры с Советским правительством по поводу заключения такого пакта.

Придавая важнейшее значение данному вопросу г. Иошизава воздержался высказаться о нем определенно и дать свой тот или иной ответ.

После свидания с г. Литвиновым, г. Иошизава немедленно выехал из Москвы дальше, направляясь на родину.

Между тем, вследствие разразившихся Маньчжурских событий, Сов-правительство уделяя особый интерес предполагаемому повороту японо-маньчжуро-советских отношений, в одно время, кажется считало целесообразным продвинуть вопрос о заключении договора о ненападении с Японией.

До приезда г. Иошизава в Токио 12 января 1932 г., Полномочный

скими войсками, в результате чего жизнь и имущество японского населения стали подвергаться громадной опасности.

Создавшееся в результате этого столкновения положение в Харбине, вынудило японское командование отправить свои войска в этот район и использовать для переброски туда японских войсковых частей линию КВЖД. Предварительно японской стороной велись переговоры с администрацией КВЖД, по поводу перевозки японских войск по линии этой дороги, но принимая во внимание серьезное значение для советского влияния в Сев. Маньчжурии ввод японских войск в Харбин, советские члены правления КВЖД, вначале было отказались дать согласие, сделав в то же время соответствующие распоряжения по линии о сосредоточении всех локомотивов с южной ветки в Харбине и таким способом стремились пассивно задержать переброску японских войск в Харбин. Но в конце концов г. Рудый — управляющий КВЖД, учитывая всю серьезность данного вопроса запросил инструкций Москвы.

В Москве тем временем между г. Хирота и г. Караханом начались переговоры по данному вопросу с 29 января. Советское правительство, учитывая положение КВЖД, находящейся в совместной эксплуатации Китая и СССР, под влиянием создавшегося в Харбине положения, в результате переговоров с г. Хирота, выразило согласие через Полпреда СССР в Японии г. Трояновского и г. Рудого на перевозку японских войск по линии КВЖД.

Благодаря данному согласию со стороны, наступление японских войск прошло без каких-либо препятствий и было закончено благополучно. По прибытии в Харбин, японские войска немедленно восстановили порядок в этом районе.

Впоследствии в конце февраля в районе ст. Имяньпо на восточной линии КВЖД, отступившие из Харбина под натиском японск. войск в беспорядке старо-гиринские войска, находящиеся под командованием ген. Дын-чао начали совершать бесчинства, оказывая вооруженное сопротивление, только что создаваемой новой Маньчжурской власти и японским войскам.

В связи с выступлением войск ген. Дын-чао, стали распространяться слухи о массовых убийствах ими повсеместно японцев и корейцев и учинении насилий над последними в районе восточной линии КВЖД.

Под влиянием бесчинств, учиняемых старо-гиринскими войсками, поджогов и поголовного разграбления имущества мирного населения, командование японских войск в Маньчжурии выразило пожелания о том, чтобы КВЖД разрешила переброску японской из Харбина до Имяньпо и Пограничной, с предоставлением 15% скидки с существующего тарифа за перевозку японских войск и бесплатно для жел. дор. охраняемых частей.

Советская сторона придавая серьезное значение продвижению японских войск к советским границам, в особенности под влиянием распространившихся слухов о возникновении активного анти-советского движения среди русских белогвардейцев в Маньчжурии и Монголии, зорко следила за положением в Маньчжурии и Монголии.

После начавшегося продвижения японских войск к Пограничной и наличии слухов о существовании тесной связи между японским командованием и русскими белогвардейцами, 24 февраля зам. Наркоминдела СССР г. Карахан заявил послу Японии в Москве г. Хирота примерно нижеследующее:

„Вопрос о перевозке японских войск по восточной линии КВЖД, может вызвать нежелательные осложнения в политических отношениях, т.к. он может повлиять серьезно на существующую японо-советскую конвенцию и китайско-советское соглашение“.

Между прочим г. Карахан во время этой беседы коснулся вопроса об усиливающейся активности русских белогвардейцев и о существовании подозрений об оказании помощи последним со стороны японских войск, что по мнению Совправительства в основном противоречит заверениям, сделанным г. Хирота г. Литвинову.

На это заявление, японское правительство, вручило Наркоминделу СССР ответную ноту приблизительно следующего содержания, в результате ознакомления с содержанием заявления сделанного г. Караханом японскому послу г. Хирота в Москве:

1) В Сев. Маньчжурии, граничащей на большом протяжении с СССР, имеется довольно большое японское и корейское население.

В последнее время японцы и корейцы, проживающие в Маньчжурии очутились в крайне опасном положении, вследствие выступления старо-гиринских войск под командованием ген. Дын-чао, учиняющих грабежи и насилия над мирным населением, японское правительство, не нашло иного выхода из создавшегося положения для спасения корейского и японского населения, кроме отдачи распоряжения о выезде всего японского и корейского населения в пределы СССР из зоны действий деморализованных войск ген. Дын-чао, а также обращения к советскому правительству с просьбой о принятии всех японских подданных, перешедших советские границы, под свою защиту.

Что касается военных сил, отправляемых на восточную линию, то они, безусловно, не превышают пределов, необходимых для защиты жизни и имущества японского и корейского населения, находящегося в сфере влияния бандитствующих шаек.

Помимо обеспечения личной и имущественной безопасности японского и корейского населения, отправкой своих войск в район восточной линии КВЖД, японское правительство не преследует никаких целей.

2) Слухи о деятельности русских белогвардейцев в Маньчжурии, якобы имеющих связь с японским командованием, распространившиеся в последнее время не имеют под собой абсолютно никакой почвы. Если имеются какие-либо сведения по этому поводу, то надо полагать, что такого рода безответственная пропаганда исходит от некоторых кругов русских беженцев для использования их в своих собственных интересах.

По получении исчерпывающего ответа от японского правительства, правительство СССР, повидимому было удовлетворено им и изявило согласие на продвижение японских войск по восточной линии КВЖД

рией и Монголией, а также если учесть громадные интересы СССР в Сев. Маньчжурии, связанные с КВЖД.

Успешное выполнение пятилетнего плана и экономический кризис охвативший все капиталистические страны, вызвали усиление враждебности и ненависти в последних к СССР. Исходя из этого, советской стороной стали высказываться мнения о надвигающейся опасности войны против СССР со стороны капиталистических стран и Маньчжурские события, якобы служат главным проводом к началу этой войны. Поэтому советская сторона не преминула принять позицию, доказывающую, что она не желает возникновения каких-бы не было конфликтов в Сев. Маньчжурии, или, если раз уже события возникли, то чтобы они не расширялись. Потому что в случае возникновения войны против СССР, которой опасаются некоторые советские руководящие круги, она может затормозить развертывание социалистического строительства, создав даже угрозу существованию революционной пролетарской власти.

Принимая во внимание все такого рода соображения, Совправительство сочло наиболее благоразумным и целесообразным, ведение политики абсолютного невмешательства, чтобы избежать этим вовлечения себя в конфликт.

Между тем в первых числах ноября 1931 г. был осуществлен поход японских войск в Цицикар. В это время, вследствие вступления японских войск в пределы Сев. Маньчжурии, распространились слухи о нарушении советской стороной нейтралитета и снабжении Хейлунцзянских войск снаряжением и вооружением и наличии в их рядах советских военных руководителей, в силу якобы заключенного ею тайного соглашения с Китаем. Одновременно с этими, муссировались слухи о мобилизации красной армии и т. д.

Под влиянием такого рода слухов, в некоторых кругах Японии стали говорить, что не исключена возможность возникновения вооруженного столкновения между Японией и СССР.

Учитывая создавшееся положение Наркоминдел СССР 14 ноября, через японского посла в Москве г. Хирота, обратился с официальной нотой к японскому правительству, в которой коснувшись вопроса о подготовке японских войск к выступлению, через полосу отчуждения КВЖД в северные районы Маньчжурии, обращал внимание Японии на недопустимость перевозки японских войск по линии КВЖД.

На это обращение Наркоминдела 19 ноября через японского посла г. Хирота, Советскому правительству была вручена ответная нота.

В этой ноте японское правительство заявило, что поскольку Хейлунцзянские войска не будут пользоваться КВЖД для своих военных нужд, японское правительство ни в коем случае не намерено нарушать интересов этой дороги о принятии им со своей стороны решительных мер, к обеспечению интересов последней. В том же случае, если вопреки всем усилиям Японии, администрация КВЖД разрешит перевозку китайских войск, то японским правительством, упоминалось в ноте, доля ответственности за последствия этого шага и могущие

возникнуть новые несчастные события, будет возложена на администрацию КВЖД.

Но этот ответ, повидимому, не удовлетворил Советское правительство. Вечером 20 ноября Наркоминдел Литвинов в ответ на последнюю ноту японского правительства, вручил г. Хирота—японскому послу в Москве ноту, в которой заявлялось, что вследствие расширения зоны военных операций японских войск со дня на день усиливаются опасения за возможность нарушения интересов СССР в Сев. Маньчжурии, что крайне нервирует и тревожит Советское правительство.

Между прочим в этой ноте г. Литвинов еще раз подтвердил, что советская сторона придерживалась и придерживается строжайшего нейтралитета в японо-китайском конфликте.

В связи с операциями японских войск в районе Цицикара, Совправительство опубликовало ноту, примерно следующего содержания:

„19 ноября товарищ Министра Иностранных Дел Японии г. Нагаи посетил вр. исп. об. Полпреда СССР в Японии г. Мельникова и во время имевшей место беседы, сделал точные разъяснения о том, что в силу создавшихся обстоятельств, японские войска вынуждены продвигаться на север в район Цицикара, пересекши линию КВЖД. При этом г. Нагаи заверил г. Мельникова в том, что японские войска воздержатся от нанесения каких-либо повреждений или ущерба интересам КВЖД, при переходе через линию КВЖД в направлении Цицикара и заявил при этом о том, что немедленно по восстановлении порядка и спокойствия в районе Цицикара, японские войска будут оттуда немедленно эвакуированы.

Дальнейшее продвижение японских войск в направлении Цицикара, перейдя в известных пунктах через линию КВЖД и распространение усиленных слухов об оказании состороной помощи китайским войскам, вызвали своего рода „дипломатическую борьбу“ между Японией и СССР.

Между тем, японские войска, согласно декларации своего командования, при переходе через линию КВЖД не причинив ни малейших повреждений и не нанеся никаких ущербов КВЖД, сохраняя образцовый порядок вошли в гор. Цицикар, что дало возможность опровергнуть все версии и слухи о нарушении состороной нейтралитета, путем оказания военной помощи китайским войскам.

Таким образом, в конце концов, истинные намерения, обеих сторон начали разясняться и японо-советские отношения, в одно время принявшие крайне-напряженную и сложную форму, стали входить в нормальное русло.

С декабря 1931 г. до конца января 1932 г., все маньчжурские операции, главным образом, были сосредоточены в районе Цзин-чжоу-фу и все дипломатические вопросы, связанные с Маньчжурскими событиями были перенесены в Европу, в особенности в САСШ, в результате чего вопрос о дипломатических отношениях между Японией и СССР стал терять свою остроту и начал приобретать второстепенное значение.

В то же время, приблизительно в конце января в Харбине произошло вооруженное столкновение между старо-гиринским и ново-гирин-

VI. новые дипломатические переговоры о рыболовных вопросах.

Приняв во внимание, повторяющиеся ежегодно трения между японскими рыбопромышленниками и советскими соответствующими органами, вокруг рыболовных вопросов, а также хронический характер этих трений, японское правительство опасаясь к тому же возможности оказания неблагоприятного влияния их на японо-советские взаимоотношения, стремилось к урегулированию существующих разногласий.

По мнению японских правительственных кругов, основные причины возникновения частых конфликтов, кроются в неправильном толковании некоторых фраз в различных статьях японо-советской рыболовной конвенции и своеобразном применении на практике этих фраз, а также в недостаточном освоении духа последнего. Исходя из этого, японское правительство, 22 июня 1931 г. выслало по телеграфу инструкцию послу Японии в СССР г. Хирота об обращении к советскому правительству с предложением о вступлении в переговоры для разрешения разных остающихся открытыми вопросов и толковании спорных фраз в ст. ст. конвенции. Вначале советское правительство хотя и уклонилось от вступления в такого рода переговоры, но ознакомившись с подробным докладом Полпреда СССР в Японии г. Трояновского, сделанным им лично по прибытии в Москву в августе, в конце того же месяца, через г. Хирота, уведомило японское правительство о готовности вступить в переговоры.

В связи с этим японское правительство немедленно вызвало в Токио советника японского посольства в Москве г. Амо, чтобы снабдить его соответствующими инструкциями при ведении переговоров с советским правительством.

Прибыв в Токио и получив инструкции в соответствии с мнениями и пожеланиями заинтересованных японских организаций г. Амо немедленно возвратился к месту своей постоянной службы в Москву. В результате, между полномочными представителями Японии г. Хирота и СССР—г. Караханом открылись переговоры, посвященные установлению нового толкования спорных фраз в ст. ст. конвенции. После открытия, хотя переговоры несколько раз прерывались, под влиянием возникновения серьезных вопросов, но возобновившись продолжают до сего времени, и в них пока не достигнуто никакого соглашения.

С другой стороны между представителями японских рыбопромышленников и надлежащих органов СССР велись переговоры по урегулированию всех спорных вопросов.

МАНЬЧЖУРСКИЕ СОБЫТИЯ И ЯПОНО- СОВЕТСКИЕ ДИПЛОМАТИЧЕСКИЕ ОТНОШЕНИЯ.

Из целого ряда вытекших, в результате возникновения Маньчжурских событий, дипломатических вопросов, одним из наиболее серьезных и сложнейших является тот из них, который связан с Японо-Советскими отношениями, имеющими территориальное, политическое и экономическое значение, т.-к. из-за разразившихся событий в Маньчжурии, равновесие в отношениях между Японией, Китаем и СССР, было нарушено, приведя к резкому изменению существовавшей обстановки.

Из этих изменений, в первую очередь, как на совершившийся факт, нужно указать, на создание нового Маньчжурского независимого государства, порвавшего всякую связь с собственно Китаем, а вместе с этим и на обеспечение законных прав и интересов Японии в Маньчжурии, по заключенным в свое время соответствующим договорам, а также на всестороннее проникновение японского влияния в Маньчжурию в политическую, экономическую и военную области.

Вот именно эти то основные политические изменения не могли не отразиться на политических и экономических отношениях между Японией и СССР.

Прежде всего, остановившись на происхождении маньчжурских событий, постараемся осветить процесс японо-советских дипломатических взаимоотношений, в связи с возникновением упомянутых событий.

В связи с возникновением памятных событий, японское правительство пришло к решению о необходимости принятия самых действительных мер против расширения и ухудшения положения, создавшегося в Маньчжурии, о чем и не преминуло опубликовать надлежащее официальное заявление, как в пределах страны, так и за границей. Основываясь на этом, правительство задержало отправку японских войск в Харбин и через своего посла в Москве г. Хирота, сделал подробное заявление правительству СССР, о причинах происхождения частых конфликтов в Маньчжурии, довело до сведения последнего о принятии им надлежащих решительных мер для предупреждения возможного расширения событий и ухудшения положения в Маньчжурии, заверив при этом о ненарушении интересов СССР в Маньчжурии.

На это заявление со стороны советского правительства последовал ответ о сохранении им строжайшего нейтралитета и принятии им позиции абсолютного невмешательства в японо-китайский конфликт.

Впоследствии судя по последовавшим заявлениям, Совправительство, повидимому, придавало серьезное значение возникшим событиям, не уступавшим ни в чем, имевшему место в 1929 г. советско-китайскому конфликту, что, конечно, вполне понятно, если принять во внимание, что территория СССР на громадном протяжении граничит с Маньчжу-

для взноса неустоек должен быть установлен по соглашению сторон).

2) Что касается уплаты неустойки, сумма которой еще не установлена, при первом требовании, после соответствующего судебного решения, Союз Рорио Суйсан Кумиай обязуется принять немедленные меры к взносу полностью всей суммы неустойки.

3) Совсторона делает немедленное распоряжение о снятии ареста с рыбопродукции японских рыбопромышленников на промыслах.

V. Японское рыболовство в открытых водах северных морей.

Японское рыболовство в Дальневосточных северных водах в настоящее время состоит из нижеследующих 7 видов:

1) Рыболовство в пределах 3 мильной зоны Дальневосточных территориальных вод СССР.

3) Краболовство с использованием плавучих заводов.

4) Ловля кеты и горбуши с использованием судов, служащих базами.

5) Лов трески.

6) Рыболовство с использованием тральных судов.

7) Китоловство при помощи китобойных судов.

Из перечисленных видов японской рыбопромышленности пятый, шестой и седьмой еще далеко не развиты, хотя им и предсказывается блестящая будущность. Валовая продукция этих видов японской рыбопромышленности исчисляется в 90.290.000 шт. (голов), а в ценностном выражении — в 60 млн. иен, в том числе — кета и горбуша 60 млн. шт., селедка — 90 тыс. шт., крабы — 9 млн. шт. и треска — 1.200.000 шт.

Из этих 7 видов рыбопромышленности, за исключением рыболовства в пределах 3 мильной зоны, все остальные производятся вне пределов 3 мильной зоны, в открытых водах, а поэтому в территориальном отношении отличаются от так назыв. вида рыболовства в водах СССР. Рыболовство на этих промыслах, благодаря устранению довольно многих препятствий, в силу необходимости и жизненных интересов японского населения, доведено до нынешнего уровня.

Между тем, рыбопромышленность СССР за последнее время сильно развилась, как во внутренних, так и в открытых водах и число плавучих заводов, состоявшее из 2 единиц в 1928 г., когда это дело началось, теперь уже доведено до 10 и число тральных судов также достигло 10 единиц. Помимо этого пятилеткой СССР предусматривается развитие тресколовства. Таким образом японская рыбопромышленность, которая почти монополизировала открытые воды северных морей, благодаря решительному выступлению совстороны принуждена была сдать частично свои позиции и подвергнуться серьезным изменениям. Интересы японской и совстороны, работающих на одной базе и одном источнике, как в рыбопромышленности в пределах советских территориальных, так и в открытых водах, стали в дальнейшем постепенно сталкиваться. В особенности, вместо установленной международными законами 3 мильной зоны территориальных вод, совсторона стала на-

ставать на установлении 12 мильной зоны со включением пространства необходимого для производства надзора. Такими путями совсторона претендовала на признание ее прав на рыболовство в пределах 12 мильной зоны, начиная от берега, объявив эти пределы территориальными и стремилась к установлению надзора за японскими рыболовными судами в пределах этой зоны.

Такой подход советской стороны к делу не мог не вызвать конфликтов между сторонами. Но впоследствии, благодаря категорическим протестам японского правительства, советское прав-во было вынуждено отказаться от претензий на установление 12 мильной зоны и согласиться на признание 3 мильной зоны. Тем не менее вопросы, осложнившиеся после наложения арестов соввластями на японские краболовные суда и шхуны, точно также, как и раньше, т.-е. до признания 3 мильной зоны, возникали почти ежегодно и служили причиной конфликтов. Хотя, в некоторых случаях, конфликты возникали по вине японских судов, ошибочно попадавших в пределы 3 мильной зоны территориальных вод СССР, но нередко происходили случаи когда советские власти считали открытые воды территориальными, в целях вытеснения японских рыбопромышленников.

В отношении рыболовства в открытых водах и обработки рыбопродукции, японская техника стоит на должной высоте, а советская рыбопромышленность в этом отношении, наоборот, значительно отстала. Вследствие этого для обслуживания краболовной промышленности совсторона нанимает ежегодно большое количество японских квалифицированных рабочих и при содействии японской рабсилы и техники, госпредприятия СССР кое-как выполняют план краболовства.

Считая серьезными конкурентами советские госпредприятия, японская сторона была вынуждена принять меры к ограничению числа японских рабочих, нанимаемых ежегодно совгоспредприятиями для нужд краболовства и в последнее время разрешает производить наем не более половины, того числа, которого требует совсторона. В последнее время во имя осуществления лозунга пятилетки „догнать и перегнать“ передовые капиталистические страны, совсторона поставила задачу воспитать свои квалифицированные кадры, поэтому ожидается коренное изменение положения СССР в отношении распределения квалифицированной рабочей силы в своей краболовности. Конкуренция в открытых водах, без сомнения не выгодна, как для японской, так и для советской стороны, в особенности необходимость в устранении конкуренции ощущается при сбыте крабokonсервов на экспортных рынках, настоятельно требующая заключения того или иного соглашения, т.-к. это будет полезно и с точки зрения установления контроля для предотвращения истребления крабов и этим сохранения их запасов. Но между сторонами пока отсутствует какое-либо конкретное соглашение по этому поводу, хотя в некоторых заинтересованных кругах Японии и СССР существует план о достижении и заключении того или иного соглашения.

4. ВОПРОС О РУБЛЕ.

А) Мининдел г. Шидехара на поднятый депутатом Т. Накатани вопрос на общем собрании членов госбюджетной комиссии парламента, состоявшемся утром 13 марта, дал нижеследующий ответ:

„Советское правительство представило нам ответную ноту с указанием, что оно выпускает госзаем, приобретая облигации которого со скидкой, японские рыбопромышленники могут вносить арендную плату и друг. следуемые с них платежи советской стороне.“ Как наше правительство смотрит на выпуск такого займа и на гарантии советского правительства за выпуск этого госзайма?

Б) Поскольку обменный курс соввалюты на иену пока еще не установлен, что в настоящее время служит объектом соответствующих переговоров между правительствами Японии и СССР, взнос налогов, подлежащих уплате, в настоящее время задерживается, поэтому нам кажется, что в таком случае постановления или правила, касающиеся наложения штрафов не должны применяться.

Как относится к этому вопросу правительство?

Вышеупомянутые 4 вопроса имеют теснейшую связь с конвенцией, т.к. они не только нарушают интересы японской империи, но и наносят непоправимый ущерб государственному престижу Японии.

Если совправительство не изменит своего отношения к Японии, какие мероприятия предполагает принять японское правительство?

5. ОТВЕТ ПРАВИТЕЛЬСТВА.

I. Вопрос о 18 рыбоучастках, упомянутых в пунктах „А“ и „Б“ служит объектом переговоров с совправительством, т.ч. правительство пока лишено возможности дать тот или иной ответ.

Что касается вопроса „В“ то он выяснится только тогда, когда будет полностью разрешен вопрос о 18 рыбоучастках. О вопросе-же „Г“ правительством теперь ведутся переговоры с совправительством, чтобы оно обратило должное внимание на свои незаконные действия, поэтому в настоящее время трудно дать положительный ответ на этот вопрос.

II. Что-же касается вопроса об обложении пошлинами предметов необходимости при ввозе на промысла, имевшими место до 1929 г., то только недавно в результате многократных переговоров, удалось добиться продвижения этого вопроса. Вопрос об обложении пошлинами предметов необходимости при ввозе на промысла за 1930 г., возник недавно, т.ч. он находится пока в стадии исследования.

III. Считая ненужным и неправильным, как согласно конвенции так и условий аренды, внесение изменений в конструкцию „татэ-ами“ и ограничение количества употребляющихся краболовных сетей „саси-ами“, японское правительство ведет переговоры с советским прав-вом о полном отказе совстороны от требований об изменениях и ограничениях.

IV. А) Вопрос о „рубле“ теперь находится в стадии переговоров.

Подробные условия о взносе арендной платы пока еще не установлены, т.ч. поднятие вопроса о гарантиях совправительства за госзаем пока преждевременно.

Б) Правительство Японии ведет переговоры с совправительством в таком направлении, чтобы власти СССР не применяли постановлений о наложении штрафов.

У) Что касается всех вышеупомянутых вопросов, то правительство Японии прилагает все свои усилия к их благоприятному разрешению.

IV. Осложнение вопросов при послесезонной эвакуации японских рыбопромышленников.

Из-за целого ряда несчастных событий, возникавших в 1931 г., как напр. наложения ареста соввластями на японские шхуны и в свою очередь арест японскими властями советского трального судна „Буревестник“, зашедшего без надлежащего разрешения в закрытый порт одного из Курильских островов, нижеследующие события настоятельно требовали разрешения дипломатическим путем между Японией и СССР.

Советские власти потребовали от японских рыбопромышленников внесения неустоек на месте, по заявлению тех-же соввластей, накопившихся с предыдущего сезона до сего времени, и в противном случае угрожали подвергнуть аресту всю продукцию японских рыбопромышленников. В результате переговоров, ведшихся в течение 10 дней, по данному вопросу между японским и советским правительствами 11 сентября 1931 г. было достигнуто соглашение, приведшее к благоприятному разрешению этого вопроса. Данный вопрос был разрешен следующим образом: Вследствие наложения ареста на рыбопродукцию принадлежащую японским рыбопромышленным фирмам „Тохо Суйсан“ и товариществу „Хатакеяма“, произошел напрасно 20 дневный простой их пароходов, прибывших из Японии на промысла для погрузки этой продукции. Благодаря непредвиденной задержке пароходов, ограниченный запас продовольствия стал подходить к концу и все рабочие оказались в весьма серьезном положении. Поэтому тов. Мининдела г. Нагаи, Начальник Внешнеторгового деп-та Мининдела г. Такетоми, секретарь Мининдела г. Симада и представитель Союза „Рорио Суйсан Кумий“ в 8 час. вечера 10 сентября совместно посетили г. Мельникова-зам. Полпреда СССР в Японии, имея целью достижение какого-либо соглашения. В присутствии г. Подольского 1-го секретаря Полпредства все названные лица вели переговоры до 7 час. утра следующего дня и в конце концов достигли соглашения на нижеследующих условиях:

1) Японская сторона вносит предварительно 120 тыс. иен в счет причитающейся с нее неустойки в депозит Торгпредства СССР в Японии и обязуется произвести окончательный расчет по полном достижении соглашения об установлении обменного курса соввалюты на японскую. (Ранее достигнутое соглашение об установлении обменного курса в 32 с пол. сены за 1 руб., по заявлению совстороны, подлежит применению в отношении арендной платы за рыбоучастки, а обменный курс

1. АНКЕТА, ПРЕДСТАВЛЕННАЯ ДЕПУТАТОМ Г. СУНАДА.

О советских госпредприятиях.

А) По рыболовной конвенции, вопрос о 18 рыбоучастках, из числа тех, которые в настоящее время эксплуатируются госпредприятиями СССР, при их арендовании, должен быть согласован с японским правительством, но правительство СССР, еще не получив удовлетворяющего ответа нашей стороны о упомянутом вопросе, выдвинутом со стороны, разрешило своим госпредприятиям принять в аренду эти участки.

Данный поступок нужно считать нарушением существующей конвенции, почему и японское правительство незамедлительно предъявить надлежащий протест правительству СССР.

В том случае, если правительство СССР будет продолжать игнорировать наш протест, то какие мероприятия намерено принять правительство?

Б) Хотя правительство СССР выражает желание о предоставлении в эксплуатацию госпредприятиям рыбоучастков без торгов по заключительному протоколу „Б“, „2“, но пока вопрос, касающийся 18 участков и требующий толкования упомянутого пункта „А“ остается открытым. По нашему мнению, японское правительство должно уклониться от вступления в переговоры или дать свое согласие на это. А как само правительство смотрит на этот вопрос?

В) Просим дать сведения о числе рыбоучастков и норме улова в них, эксплуатирующихся в настоящее время, согласно рыболовной конвенции. Эти участки считаются эксплуатируемыми закономерно с согласия японского правительства.

Г) Мы располагаем фактическими данными, что в 1930 г. госпредприятиями эксплуатировались краболовные участки на острове Путь в Западной Камчатке без ведома и согласия японской стороны и в том-же году этими госпредприятиями построены „полувечные“ заводы на 2 рыбоучастках в Кишке за №№ 202 и 215, из числа 5 участков незаторгованных во Владивостоке в 1930 г. и эти заводы уже поступили в эксплуатацию.

Эти факты служат явным доказательством нарушения советским правительством конвенции.

Несмотря на ведшиеся японским правительством ответственные переговоры и заявление категорического протеста, что именно намерено предпринять наше правительство, в случае отклонения советским правительством японского протеста?

Д) В связи с вытеснением японских рыбопромышленников, в результате незаконного выступления частных рыбопромышленников СССР, получающих субсидии от госорганизаций, японское правительство уже обратило серьезное внимание совправительства на недопустимость такого рода выступлений, продолжая делать непрерывные замечания.

Мы хотя полностью одобряем эти действия правительства, но какие именно меры намерено провести последнее, при продолжительном игнорировании со стороны замечаний японской стороны?

2. О ПОШЛИНАХ.

А. О ввозе.

1) Согласно пунктов 3 и 4 ст. 9 японо-советской конвенции, необходимые предметы для служащих и рабочих на промысла, подлежат ввозу без особого на то разрешения. Предметы первой необходимости, ввозимые на промысла освобождаются от обложения налогами и сборами. Номенклатура предметов первой необходимости с указанием количества или нормы их ввоза, при удобном случае, в каждом году должны быть перечислены в списках, составляемых местными соввластями с согласия центральных органов.

Ст. 15 протокола „А“ гласит: „Правительство Союза Советских Социалистических Республик гарантирует, что при установлении и утверждении списка, упомянутого в статье IX рыболовной конвенции, будут полностью приняты во внимание действительные потребности рыболовных промыслов японских подданных“.

Согласно вышеуказанных установлений, предметы необходимые для промыслов, при ввозе освобождаются от обложений, но установление номенклатуры, количества или норм предметов, требует санкции центральных органов СССР, через местные соввласти.

Приняв во внимание эти пункты японские рыбопромышленники составили подробный список предметов, необходимых для промыслов и представили таковой советскому правительству через наше правительство. Несмотря на истечение почти 2 лет со дня представления списка, до сего времени некоторые предметы, помещенные в списке, не были разрешены к ввозу.

Доверяя всецело конвенции, японские рыбопромышленники имели твердое убеждение в утверждении представленного списка товаров для промыслов полностью, без всяких промедлений и в свое время сообщали местным соввластям об отправке предметов, необходимых для промыслов, опасаясь опозданий в подготовке к сезону. Однако, соввласти умышленно продолжали задерживать выдачу разрешений и среди них наблюдалось стремление к обложению высокой пошлиной, ввозимых на промысла товаров.

Эти действия соввластей не только направлены к нарушению конвенции, но и явно в ущерб интересам Японии. Как относится к этому наше правительство?

3. ОБ ИЗМЕНЕНИИ КОНСТРУКЦИИ „ТАТЭ-АМИ“ И ОГРАНИЧЕНИИ УПОТРЕБЛЕНИЯ КРАБОЛОВНЫХ СЕТЕЙ.

А) В конвенции и сопроводительных официальных документах не предусмотрено никаких ограничений в отношении „татэ-ами“ и краболовных сетей, тем не менее соввласти предъявляют требования об изменении конструкции „татэ-ами“ и ограничении употребления краболовных сетей, при чем не подчиняющиеся этим требованиям привлекаются к строжайшей ответственности. Это является не только нарушением конвенции, но и прямой угрозой для японских рыбопромышленников. Как смотрит на это японское правительство?

ревизия полностью была окончена только 2 октября. За это время общественное мнение в Японии сильно обострилось под влиянием действий соввластей и некоторое успокоение наступило только после 2 октября, хотя и временно.

17 февраля 1931 г. Владивостокское отделение Чосен банка получило распоряжение от Финотдела Далькрайисполкома о составлении отчетности для ликвидации своей деятельности в 3 месячный срок. Кроме того банком было получено предписание о немедленном взносе дополнительного налога в сумме 2.610.000 руб. Одновременно с этим директор Владивостокского отделения Чосен банка г. Арикадо и три служащих банка были арестованы соввластями.

До этого, японское правительство через зам. посла Японии в Москве г. Амо предъявило официальный протест правительству СССР по поводу обыска и ревизии деятельности отделения Чосен банка во Владивостоке. К этому времени относится возникновение дипломатических переговоров об урегулировании данного вопроса и во время ведения этих переговоров, задолго до окончания их, соввласти сделали распоряжение о закрытии Владивостокского отделения Чосен банка. Такое отношение соввластей к Чосен банку привело к общему ухудшению мнения японцев. В то же время Чосен банком было принято решение о заявлении протеста соввластям и предъявлении иска против незаконного обложения дополнительным налогом.

Давление, оказанное в данном случае соввластями на Чосен банк имело теснейшую связь с конфликтами, возникавшими на рыбоучастках в водах Камчатки. Под предлогом просмотра банковских книг, представители местных соввластей стремились вынудить Чосен банк отказаться от производства операций по покупке и продаже соввалюты и тем самым вытеснить японских рыбопромышленников.

Выяснив истинные цели совстороны, Чосен банк со своей стороны начал усиленно готовиться к принятию соответствующих мер.

Впоследствии зам. японского посла в Москве г. Амо (до приезда в Москву посла г. Хирота) вступил в переговоры с советским правительством об урегулировании нижеследующих вопросов:

1. Об отмене распоряжения о ликвидации Владивостокского отделения Чосен банка.
2. Об отмене распоряжения о взносе Чосен банком подоходного и дополнительного налогов.
3. О немедленном разрешении вопроса, касающегося привлечения служащих Владивостокского отделения Чосен банка к ответственности и предании их суду.
4. О самостоятельном составлении банком соответствующего отчета.

Однако, совправительство не проявило никакой уступчивости в вопросе о закрытии Владивостокского отделения Чосен банка и друг., твердо придерживаясь своей первоначальной позиции, в результате чего переговоры не продвинулись ни на шаг. В особенности по вопросу об установлении обменной нормы рубля, сразу стороны не могли достигнуть соглашения, упорно отказываясь от проявления над-

лежащих уступок, что неблагоприятно отражалось на переговорах о Чосен банке. Но 7 апреля длительные переговоры между сторонами были закончены и в Москве между г. Хирота и г. Караханом, было достигнуто соглашение, приблизительно на следующих условиях:

1. Владивостокское отделение Чосен банка самостоятельно составляет отчет о своей деятельности и своих банковских операциях.
2. Советская сторона соглашается отменить свое распоряжение о взносе Чосен банком налогов и освобождает служащих банка от судебной ответственности.

На основании данного соглашения, Чосен банк составил отчет депозитного отдела и 15 июля 1931 г. полностью закончил все работы по своей ликвидации, произведя эвакуацию на родину всего штата служащих.

Таким образом Владивостокское отделение Чосен банка, существовавшее в течение целого ряда лет, являясь единственным иностранным банком в Сибири, организованным по советским законам и оказывавшее большое содействие в деле развития японо-советских взаимоотношений, выполнив возложенную на него миссию, было вынуждено прекратить свою деятельность.

III. Рыболовные вопросы на 59 очередной сессии парламента.

Одними из наиболее характерных событий, возникавших в 1931 г., справедливо считаются те, которые были связаны с японо-советскими рыболовными вопросами и по поводу коих в Верхней и Нижней Палатах Японии, как являющихся одними из важнейших политических и дипломатических вопросов, был поднят небывалый доселе большой шум.

Депутаты находившиеся в то время в оппозиции к партии Сейюкай, главным образом, на заседаниях 59 очередной сессии парламента обрушивались с самыми яростными атаками на премьер-министра г. Хамагучи, Мининдела г. Шидехара и друг. заинтересованных министров по поводу японо-советских рыболовных вопросов. Благодаря этим выступлениям, резолюции об укреплении японских интересов по рыболовным концессиям в северных водах, 16 марта были приняты единогласно, а затем 28 марта в Нижней Палате—в виде проекта резолюции.

Кроме того на 59-й очередной сессии Парламента, по инициативе депутата партии Сейюкай Д. Суналы, на одном из главных заседаний было представлено заявление от 20 марта по рыболовным вопросам, за подписями г. К. Аояма и 34 друг. депутатов. На это заявление премьером г. Хамагучи был дан соответствующий ответ.

Происшедший обмен заявлениями важен в том отношении, что эти заявления представляют рельефно сущность рыболовных вопросов, поэтому взамен резолюции Верхней Палаты и проекта резолюции Нижней Палаты, занимающих большое число страниц, мы здесь ограничимся приведением текстов заявлений, характеризующих указанные вопросы.

1 рубль, как временное соглашение, действительное в течение 1 года.

На проявленную уступку японское правительство обратилось к совсторе с контр-предложением в том смысле, что японские рыбопромышленники внесут предварительно по разменной норме в 30 сен за 1 рубль-арендную плату за рыбоучастки, паушальную плату, а также друг. обложения рыбоучастков при заводах, а взамен этого японцам должны быть предоставлены права на участие в торгах, за это же время правительства обоих государств не должны прекращать переговоры и достигнуть соглашения.

Но это обращение также осталось безрезультатным и таким образом стороны опять не достигли компромисса, несмотря на существование разницы только в размере 5 сен.

4. ОБОСТРЕНИЕ ОБЩЕСТВЕННОГО МНЕНИЯ В ОБОИХ ГОСУДАРСТВАХ.

При создавшейся обстановке, японские рыбопромышленники приняв категорическое решение о выступлении со „свободным“ рыболовством вели лихорадочные приготовления к реализации своего решения. Вместе с тем и общественное мнение, выражаемое на страницах крупнейших газет Японии стало обостряться с каждым днем, как никогда раньше. С другой стороны и в СССР „Известия“ производили резкие нападки на японских рыбопромышленников, называя их не иначе, как „грабителями“ и на VI съезде советов СССР, делегат Дальневосточного края Бородавкин выступил с резкой критикой Японии. При таком крайнем обострении общественного мнения в Японии и СССР вокруг рыболовного вопроса, непредвиденное событие, происшедшее утром 16 марта 1931 г., а именно покушение японца Нобукацу Сато на жизнь Торгового Представителя СССР в Японии г. Аникеева, только подлило масло в огонь. Это прискорбное событие вызвало большое возмущение в СССР и отодвинуло разрешение рыболовного вопроса на неопределенное время.

При создавшейся напряженной обстановке 20 апреля были произведены вторичные торги на рыбоучастки без участия японцев в них. В опубликованных затем результатах вторичных торгов, одновременно с таковыми же первых торгов, значился участок кеты, горбуши и сельди в водах Приморья, приобретенный с торгов вышеназванным японцем Сигесаку Миякоси.

По поводу этих односторонних торгов, также как и во время первых, японское правительство заявило соответствующий протест правительству СССР. После предъявления протеста японским правительством, на страницах газеты „Известия“ появилась статья, содержание которой сводилось к тому, что раз в торгах принял участие японец, хотя бы в единственном числе и каким бы человеком он не являлся, проведенные торги на рыбоучастки ни в коем случае не могут быть признаны односторонними.

Между прочим, в связи с упущением сезона рыбной ловли в водах Приморья и наступлением сезона рыболовства в водах Камчатки, реши-

мость японских рыбопромышленников к выступлению со „свободным“ рыболовством стала со дня на день до крайности усиливаться. В соответствии с этим, японское правительство, стремясь к скорейшему разрешению спорных вопросов, через японского посла в Москве г. Хирота 20 апреля обратилось к правительству СССР с предложением об установлении разменной нормы в 31 с пол. сен за 1 руб., на что г. Карахан на другой день, т.е. 21 апреля ответил согласием на уступку до 34 сен.

5. ДОСТИЖЕНИЕ КОМПРОМИССА.

Наряду с ведшимися в Москве переговорами и в Токио открылись окончательные переговоры между Полпредом СССР в Японии г. Трояновским и Мининделом Японии бароном Шидехара, и наконец 26 апреля после свыше шестимесячного срока со дня начала переговоров, был достигнут компромисс, заключающийся в следующем:

1. Арендную плату за 1931 г. японские рыбопромышленники вносят из расчета 22 с пол. сены за 1 рубль в облигациях „АКО“.

2. Визы на въезд на промысла беспрепятственно выдаются японским рыбопромышленникам, внесшим полностью арендную плату за рыбоучастки по указанной выше норме.

3. Япония признает справедливыми торги на рыбоучастки, состоявшиеся 20 апреля, но взамен этого СССР производит дополнительные торги с допущением к участию в них японских рыбопромышленников.

4. Из 28 рыбоучастков, возвращения коих требует СССР, для передачи в эксплуатацию своим госпредприятиям, 17 участков передаются советской стороне, а в отношении остальных 11 участков, переговоры подлежат продолжению.

В то же время Акционерное о-во „Ничиро Гиогю Кабусики Кайша“, в связи с наступлением рыболовного сезона, не рассчитывая на благоприятное разрешение проблемы „рубля“ в ближайшем времени, снарядив свой пароход „Дай-ичи Синано Мару“ к выступлению на промысла, было вынуждено отправить его из порта Хакодате без надлежащей визы. Но данный пароход в пути на промысла узнав о благоприятном исходе переговоров между правительствами Японии и СССР, успел заручиться соответствующей визой, выданной таможенными властями СССР в Кишке, на западном побережье Камчатки и без дальнейших препятствий приступил к рыболовству.

II. О закрытии Владивостокского отделения Чосен банка.

Инцидент, происшедший в связи с закрытием Владивостокского отделения Чосен банка, представляет собой один из важнейших моментов в японо-советских дипломатических отношениях за 1930-31 г.г. Возникновению данного события предшествовала ревизия всех документов, книг и операций Владивостокского отделения Чосен банка представителями местных соввластей, имевшая место 12 августа 1930 г. Эта

2. ОСЛОЖНЕНИЕ ПЕРЕГОВОРОВ В ТОКИО.

Вышеназванные переговоры, вследствие того, что новый посол Японии в СССР г. Хирота еще не прибыл в Москву носили предварительный характер и велись между советником японского посольства в Москве г. Амо и зам. Наркоминдела СССР г. Караханом.

Между тем, Полномочный Представитель СССР в Японии г. Трояновский посетив 12 декабря 1930 г. Мининдела Японии барона Шидехара сделал заявление о получении им полномочий от своего правительства на ведение переговоров по вопросу „о рубле“ в Токио и об установлении продажных цен на облигации займов СССР на 25% ниже официального курса соввалюты, т.-е. приравнении разменного курса соврубля к 75 сенам японской иены. Японская-же сторона в ответ на предложение г. Трояновского со своей стороны выдвинула контр-предложение об установлении соотношения 1 рубль-20 сен.

После этого г. Трояновский 20 декабря вновь посетив Мининдела Японии барона Шидехара, настаивал в первую очередь на установлении пропорционального отношения облигаций, на что г. Шидехара выразил свое принципиальное согласие, но вследствие того, что между разменными нормами: 1 рубль-75 сен и 1 рубль-20 сен существовала большая разница, достигающая 55 сен, стороны были лишены возможности достигнуть соглашения и г. Шидехара предложил г. Трояновскому сделать по возможности новые уступки. Через несколько дней, а именно 23 декабря г. Трояновский при имевшем место свидании с бароном Шидехара сделал уступку до 50 сен за 1 рубль. Между тем 2 января 1931 г. наступал срок внесения арендной платы за рыбоучастки за 1 полугодие 1931 г., но вследствие отсутствия соглашения об установлении разменного курса советской и япвалюты, взнос арендной платы был отсрочен на несколько дней, по взаимному соглашению сторон. Усиленные переговоры, ведшиеся между японскими и советскими представителями, даже во время новогодних каникул, закончились безрезультатно.

Впоследствии г. Трояновский усомнившись в расчете эксплуатации Акционерного О-ва „Ничиро Гиогио Кабусики Кайша“ и указав на состояние его хозяйства, твердо придерживался своей позиции, т.-е. твердо придерживался установления разменного соотношения в размере 50 сен за 1 рубль. В то же время, главный директор Акционерного О-ва „Ничиро Гиогио Кабусики Кайша“ г. Каваками ознакомив подробно г. Трояновского с книгами и документами возглавляемого им общества, обрисовал действительное положение японской стороны. В результате, г. Трояновский 17 января в третий раз согласился на уступку до 40 сен за 1 рубль, что не могло удовлетворить японскую сторону и последняя высказала пожелание об установлении разменного соотношения в размере 30 сен за 1 рубль. Таким образом, переговоры снова очутились в тупике.

В это время другая часть рыбопромышленников Японии, за исключением О-ва „Ничиро Гиогио Кабусики Кайша“, считая, что ей выгоднее внести арендную плату за рыбоучастки в соввалюте, приобретен-

ной ими легальными путями, еще при существовании Владивостокского отделения Чосен банка, до 2 февраля внесла полностью 520 тыс. руб. советской стороне. Впоследствии действия этой части рыбопромышленников были объяснены отсутствием надлежащего контроля над рыбопромышленниками, но это в действительности не соответствовало настоящему положению вещей, упомянутые рыбопромышленники, предположив, что в том случае, если переговоры примут затяжной характер, они могут потерять единство и между ними появятся такие, которые согласятся внести свыше 30 сен, были вынуждены умышленно принять шаги, приведенные выше.

3. ВОКРУГ ТОРГОВ НА РЫБОЛОВНЫЕ УЧАСТКИ.

С другой стороны, под влиянием безуспешности переговоров о рубле, несмотря на приближение срока открытия торгов на рыбоучастки, назначенных на 25 февраля, среди японских рыбопромышленников стали высказываться мнения о неизбежности производства „свободного“ лова рыбы в конвенционных водах.

В конце концов, переговоры опять были переведены в Москву, но неоднократные свидания зам. Наркоминдела СССР г. Карахана с японским послом в Москве г. Хирота окончились также безрезультатно; японская сторона все еще настаивала на установлении разменного курса в 30 сен, а совсторона-в 40 сен.

При создавшемся положении, Союз рыбопромышленников Японии „Рорио Суйсан Кумиай“, находя для японских рыбопромышленников неприемлемым участие в торгах на рыбоучастки, 18 февраля на собрании Союза, принял решение о сохранении за собой прав на участие в торгах до дня, когда обстоятельства позволят принять участие в них, после окончательного разрешения проблемы о рубле.

Кроме того, советское правительство во время осложнения вопроса о рубле предложило японской стороне передать дополнительно 28 рыболовных участков, для нужд советской рыбопромышленности, но японская сторона отказалась от удовлетворения советского предложения, до времени полного разрешения вопроса о 18 спорных рыбоучастках.

В это время вокруг срока торгов на рыбоучастки, переговоры между г. Хирота и г. Караханом велись почти ежедневно, но не привели к какому либо компромиссу, в силу упорной неуступчивости сторон. Несмотря на все это, СССР 25 февраля в решительной форме, произвел торги на рыбоучастки, в которых из японцев только один Сигесаку Миякоси принял непосредственное участие, а остальные японские рыбопромышленники предпочли уклониться от участия. Но в результате требования японской стороны, открытие торгов было отложено, вследствие чего СССР не потерял своего лица и вместе с тем проявил уступчивость к Японии.

В дополнение к сказанному, впоследствии советская сторона через зам. Наркоминдела г. Карахана поставила в известность г. Хирота о своем согласии на предоставление дальнейшей уступки до 35 сен за

Токио, при Мин-ве Народного Просвещения.

Председатель Р. Фукухара.

„Кokusай Бижуцу Киокай“ (Международное Художественное О-во).

Токио, Коджимачи, Саннен-чо, 2.

Президент князь Т. Комацу.

„Нихон Пролетария Бижуцука Домей“ (Японский пролетарский художественный союз).

Токио-сигаи, Нагасаки мачи, Овада.

Председатель ЦИКа-Я. Хасиура.

9. Юридические.

„Сякай Риппо Киокай“ (Общественно-законодательное О-во).

Токио, Сiba коэн, Кио-чо Кайкан.

Председатель Э. Ядзукури.

„Токио Бенгоси Кай“ (Токиосское О-во адвокатов).

Токио, Ниси Хибия, 1.

Президент М. Ямаока.

10 Другие :

„Джапан Турист Бюро“ (Японское Бюро Туристов).

Токио, при Токийском вокзале.

„Нихон Канко Киокай“ (японское о-во для экскурсий).

Киото, Оказаки, Хейан.

Представитель — барон Фуджимура.

„Нихон Киин“ (японская Лига шахматистов).

Токио, Коджимачи, Нагата чо, 2-1.

Президент-граф С. Макино.

„Нихон Каки Гейджуцу Кенкию Кай“ (Институт по изучению цветоводства).

Токио, Аояма, Китамачи, 6.

Представитель Ч. Адачи.

Часть II Японо-Советские отношения.

ИТОГИ ЯПОНО-СОВЕТСКИХ ОТНОШЕНИЙ ЗА 1931 г.

I. Процесс переговоров по вопросу о рубле.

1. НАЧАЛО ДИПЛОМАТИЧЕСКИХ ПЕРЕГОВОРОВ.

Японо-советские отношения в 1931 г. начались с переговоров о проблеме рубля. Дипломатические органы Японии и СССР, в частности руководители Министерства Иностранных Дел Японии, вследствие переноса переговоров в Токио, отказавшись от использования отдыха даже во время каникул в конце года и на Новый Год, вели усиленное изучение данного вопроса, ведя соответствующие переговоры.

До этого времени, японские деловые круги, при существовавшей привилегии свободной купли-продажи советской валюты, имели возможность приобретать ее по низким ценам и производить все взносы и расчеты, связанные с рыболовством с надлежащими органами СССР в советской валюте.

Но в конце концов, вследствие наложения советскими властями запрета на производство свободной купли-продажи советской валюты, японские заинтересованные промышленники, ведущие дела с СССР, лишившись возможности приобретать соввалюту не иначе, как по официальному курсу, превышающему в 5-6 раз ее рыночную стоимость, внезапно очутились в весьма тяжелом положении, при котором им нельзя было вести рентабельных операций.

Приняв во внимание создавшееся положение, японское правительство выразило желание разрешить данный вопрос, избрав один из двух путей, т.-е. снижения арендной платы за рыбоучастки или снижения отношения соввалюты к японской валюте, обратившись с соответствующим предложением к правительству СССР. Правительство же СССР согласившись на смягчение соотношения советской и японской валюты, каким либо методом, в качестве одного из конкретных способов, выразило принципиальное согласие, по примеру облигаций Уссурийск. ж. д., на снижение продажных цен облигаций займов выпускаемых совправительством и на выпуск их в обращение по номинальным, ценам в конце октября 1930 г., вступило в переговоры в Москве об установлении отношения между советской и япвалютой.

- „Хогаку Киокай“ (Общество правоведения).
Токио, при Имперском университете.
Председатель-профессор С. Ходзуми.
- „Токио Чигаку Киокай“ (Токийское Геологическое О-во).
Токио, Коджимачи, Симо-Нибанчо, 48.
Председатель-князь Г. Хосокава.
- „Токио Тоокей Киокай“ (Токийское Статистическое О-во).
Токио, Киобаси, Гинза, Ниси 3-1.
Председатель виконт И. Сакатани.
- „Киото Тейкоку Дайгаку Кейзай Гакукай“ (Экономический Институт при Киотоском Имперском Университете).
- „Нихон Тенмон Гакукай“ (Японский Астрономический Институт).
Токио-фу Митака мура.
- Суйсан Гакукай“ (Институт для исследования водных продуктов).
Токио-фу, Мегуро мачи, Камимегуро, 1373.
Председатель К. Ито.
- „Кенчику Гакукай“ (Архитектурный Институт).
Токио, Гинза, Ниси, 3-1.
Председатель-К. Окума.
- „Добоку Гакукай“ (Инженерно-строительный Институт).
Токио, Маруноучи.
Ректор - М. Нава.
- „Денки Гакукай“ (Электро-технический Институт).
Токио, Коджимачи, Юраку-чо.
Ректор : К. Такацу.
- „Тейкоку Хацумей Киокай“ (Имперское о-во по изобретениям).
Токио, Маруноучи, 1-10.
Председатель-Д-р Т. Такамацу.
- „Дайнихон Кокуси Кай (О-во по составлению японской истории).
Токио, Акасака, Аояма.
Председатель И. Токутоми.
- „Минзоку Гакукай“ (Институт по исследованию быта и нравов наций).
Токио, Канда, Кита-Кога-чо, 4.
Представитель : М. Коидзуми.
- „Саппоро Норин Гакукай (Саппороский Институт Земледелия и Лесного Хозяйства).
г. Саппоро, при Имперском университете.
- „Нихон Сякай“ (Японский Институт Обществоведения).
Токио, при Имперском университете.
Председатель-д-р Т. Тода.
- „Охара Сякай Мондай Кенкиюджио“ (Институт по исследованию общественных вопросов имени Охара).
Осака, Теннодзи, Рейдзин-мачи.
Директор д-р И. Такано.
- „Нихон Эсперанто Гакукай“ (Японский Институт Эсперантистов).
Токио, Усигоме, Син'огава мачи.

- Представитель В. Оиси.
- „Пролетария Кагаку Кенкиюджио“ (Институт по изучению пролетарских наук).
Токио, Канда, Имагавакоджи.
Председатель У. Акита.
- „Нихон Биори Гакукай,, (Японский Патологический Институт).
Токио при Имперском университете.
- „Нихон Якугакукай“ (Японское Фармакологическое О-во).
Токио, Усигоме, Симомиаби-чо, 8.
Председатель : д-р Р. Икегучи.
- „Нихон Исикай“ (Японское о-во врачей).
Токио, Сиба-ку, Тамура-чо, 69.
Председатель : д-р Т. Китадзима.
- 7. Педагогические :**
- „Тейкоку Киоикюкай“ (Имперское Педагогическое О-во).
Токио, Канда, Хитоцубаси.
Президент-граф Х. Хаяси
- „Сиогю Киоикюкиокай“ (Общество Коммерческого воспитания).
Осака, Наканосима, Осака Билдинг.
Почетн. председатель профессор З. Сано.
- 8. Художественные :**
- „Бунгейка Киокай“ (Ассоциация писателей).
Токио, Киобаси, Кобики-чо, 4-9.
Представитель К. Кисида.
- „Дова Сакка Киокай“ (Ассоциация писателей детских сказок).
Токио-фу, Симо-Очиаи, 1510.
Представитель-М. Огава.
- „Нихон Буио Киокай“ (Японская Ассоциация танцмейстеров).
Токио, Киобаси, Кобики чо, при театре „Кабуки“.
- „Роно Гейлжуцука Ренмей“ (Ассоциация рабочих и крестьянских художников).
Токио, Канда, Кудан-сита Билдинг.
- „Токио Синцукидзи Гекидан“ (Театральная организация нового направления).
- „Нихон Пролетария Эйга Домей“ (Японский пролетарский кино-союз).
Токио-фу, Камочиан, 640.
Председатель ЦИКа Т. Ивасаки.
- „Нихон Бижуцу Ин“ (Японский Художественный Институт).
Токио, Ситая, Янака, Ками-Мисаки, Минами мачи, 52.
Председатель-Т. Иокояма.
- „Нихон Бижуцу Киокай“ (Японское Художественное О-во).
Токио, Уэно-коэн, Сакурагаока.
Президент Виконт К. Канеко.
- „Тейкоку Бижуцу Ин“ (Имперский Художественный Институт).

- „Нихон Хосо Киокай“ (Японская радио-Ассоциация).
Токио, Коджимачи, Учиямасита-чо, 2.
Президент - К. Ивахара.
- „Тейкоку Кайдзи Киокай“ (Имперская Ассоциация по морским делам).
Токио, Коджимачи, Маруноучи, 1.
Председатель - барон Ч. Сиба.
- „Тейкоку Тешудо Киокай“ (Имперская жел. дор. Ассоциация).
Токио, Коджимачи, Маруноучи, 3-4.
Президент С. И д е.
- „Нихон Дзидося Киокай“ (Японская Автомобильная Ассоциация).
Токио, Сиба, Котохира-чо, 1.
Председатель - Т. Г о м и.
- „Тейсин Киокай“ (Почтово-телеграфная Ассоциация).
Токио, Коджимачи-ку, Отемачи, 2.
Президент - С. Инада.
- „Тейкоку Но Кай“ (Имперское Сельско-хозяйственное Общество).
Токио, Коджимачи, 3-1.
Президент-профессор Э. Ядзукури.
- „Чуво Чикусан-Кай“ (Центральное О-во Скотоводства).

Рабочие и крестьянские Союзы:

- „Нихон Родо Курабу“ (Японский рабочий клуб).
Кобе, Кайган дори, 3.
Представитель - К. Хамада.
- „Нихон Родо Содомей“ (Японское Объединение рабочих союзов).
Число членов: 42.638 челов.
Токио, Сиба, Мита, Сикоку мачи, 4.
лидер К. Мацуока.
Советник Б. Судзуки.
- „Зенкоку Родо Кумиай Домей“ (Всеяпонское объединение рабочих союзов).
Число членов: 47.750 челов.
Токио, Канда, Хигаси-Фукуда чо, 3.
Председатель ЦИКа С. Ооя.
- „Нихон Родо Кумиай Соренго“ (Японская ассоциация рабочих союзов).
Число членов: 17.651 челов.
Токио, Сиба, Мита Сикоку мачи, 15.
Председатель ЦИКа - К. Сакамото.
- „Зенкоку Родо Кумиай Дзию Ренгокай“ (Всеяпонская ассоциация свободных рабочих союзов).
Число членов: 8.000 челов.
Токио, Киобази, Кобики чо.
- „Нихон Родо Соренмей“ (Японская Лига рабочих).
Осака, Китаку, Анои чо, 63.
Председатель С. Я г и.

„Кангио Родо Содомей“ (Ассоциация Союзов рабочих государственных предприятий).

Число членов: 16.569 челов.

Осака, Хигаси-ку, Эццуомачи, 860.

„Кайгун Родо Кумиай Ренмей“ (Лига союзов рабочих морских заводов)

Число членов: 36.000 челов.

г. Куре, Хондори, 12.

Преседатель ЦИКа - К. Осава.

„Нихон Зосен Родо Ренмей“ (Японская Лига союзов судостроительных рабочих).

Число членов: 8.400 челов.

г. Иокогама, Накаку, Тачибана чо, 3-6.

Председатель ЦИКа К. С а т о.

„Нихон Кован Дзиюгиоин Кумиай Ренмей“ (Японская Лига союзов портовых служащих).

Число членов: 2.200 челов.

г. Кобе, Кайган дори, 3-26.

Председатель К. Хамада.

„Нихон Коцу Родо Соренмей“ (Японская Лига союзов трамвайных и автомобильных служащих).

Число членов: 25.000 челов.

Токио, Коджимачи, Учисайвайчо.

„Нихон Сейтецу Родо Кумиай“ (Японское объединение союзов железнодорожных рабочих).

Число членов: 7.000 челов.

г. Явата, Татемачи.

„Асио Дозанко-шокуфу-кумиай Соренгокай“ (Объединение союзов шахтеров Асиосских медных копей).

Число членов: 3.640 челов.

„Буио Энден Родо Кумиай Ренгокай“ (Объединение Союзов рабочих Буиосских соляных полей).

Число членов: 1.200 челов.

Префектура Токусима, гор. Буио.

„Номин Ренмей“ (Крестьянская Лига) число членов 50.000 челов.

„Нихон Номин Кумиай“ (Японский Крестьянский Союз).

Число членов: 10.000 челов.

„Зенкоку Номин Кумиай“ (Всеяпонский крестьянский союз).

Число членов: 45.815 челов.

г. Осака, Конохана-ку, Сикандзима.

6. Научные;

„Тейкоку Гакусин“ (Имперская Академия Наук).

Токио, парк Уэно.

Президент: профессор З. Сакураи.

„Рикагаку Кенкию-сио“ (Химико-физ. Исследовательский Институт).

Токио, Хонго-ку, Комагоме, Камифуджимае.

Президент: Принц Фушими.

- г. Дайрен, Киймачи, 91.
 „Манмо Кенкиюкай“ (Общество Изучения Маньчжурии и Монголии).
 г. Дайрен, Сикисима мачи.
 „Ничибей Киокай“ (Японо-Американское Общество)
 г. Токио, Коджимачи, Учиямасита чо.
 Президент-Принц И. Токугава.
 „Ничизэй Киокай“ (Японо-Английское Общество).
 г. Токио, Коджимачи, Маруноучи, Накадори, 13.
 „Ничифуцу Киокай“ (Японо-Французское Общество).
 г. Токио, Канада, Суругадай, Судзуки-чо, 26.
 Президент-Принц Кан'ин
 „Ничидоку Киокай“ (Японо-Германское Общество).
 г. Осака, Кита-ку, Доозима, Хамадори, 3.
 „Ничиро Киокай“ (Японо-Советское Общество).
 г. Токио, Коджимачи, Учисайвайчо 1-17.
 Председатель-Виконт М. Сайто.
 „Совет-но-томо-но-кай“ (Общество „Друг СССР“).
 г. Токио, Киобаси, Гинза, 2.
 Председатель - У. А к и т а.
 „Ничиро-Цусин“ (Японо-Советское Информационное Бюро).
 г. Токио, Коджимачи, Юраку-чо, здание Мицубиси № 21.
 Директор - М. У э д а.
- 4. Промышленные и торговые :**
- „Дзенкоку Шосикумиай“ (Всеяпонская Ассоциация потребительских и кооперативных Союзов).
 г. Токио, Усигоме, Агеба-чо, 21.
 „Сангио Догио Кумиай“ (Центральная Ассоциация Союзов шелко-прядильной промышленности).
 г. Токио, Коджимачи, Маруноучи, 2.
 Президент-Виконт Т. Макино.
 „Тейкоку Иосан Кумиай“ (Имперское Общество Шелководства).
 г. Токио, Акасака, Тамейке, 1.
 Президент-барон И. Фулжимура.
 „Тейкоку Синрин Кай“ (Имперское Лесное Общество).
 г. Токио, Акасака, Тамейке, 1.
 Председатель-профессор С. Хонда.
 „Тейкоку Суйсанкай“ (Имперское Воднопromышленное Общество).
 г. Токио, Акасака, Тамейке, 1.
 Президент-виконт М. Номура.
 „Нихон Дзинкен Ренгокай“ (Японская Ассоциация искусственно-шелковой промышленности).
 г. Осака, Ниси-ку, Тосабори-Дори, 1.
 „Дайнихон Боосеки Ренгокай“ (Всеяпонская Ассоциация прядильных фабрик).
 г. Осака, Китаку, Наканосима, 2.
 Президент-Ф. А б е.

- „Нихон Менка Догио Кай“ (Японская хлопчатобумажная Ассоциация)
 г. Осака, Кита-ку, Наканосима, 2.
 Президент-С. Н о с е.
 „Нихон Иомо Когио Кай“ (Японское Шерстепромышленное Общество).
 г. Осака, Хигаси-ку, Бингомачи, 2.
 „Кагаку Когио Киокай“ (Ассоциация Химической промышленности).
 г. Токио, Коджимачи, Маруноучи, 3.
 Президент-К. У ч и д а.
 „Нихон Когио Кай“ (Японское Горнопромышленное Общество).
 г. Токио, Киобаси, Гинза, Ниси, 8-7.
 Президент-Б. Кацура.
 „Денки Киокай“ (Электрическая Ассоциация).
 г. Токио, Коджимачи, Юраку-чо, 1-3.
 Президент Х. Т а н а к а.
 „Нихон Сейси Ренгокай“ (Японская бумагопромышленная Ассоциация).
 г. Токио, Коджимачи, Маруноучи, 2-10.
 Председатель-К. Такасима.
 „Нихон Кандзуме Киокай“ (Японская Ассоциация консервной промышленности).
 г. Токио, Нихонбаси, Эдобаси, 1.
 „Дайнихон Сейнью Киокай“ (Японская Молочная Ассоциация).
 г. Токио, Акасака, Тамейке.
 Председатель - Х. Мацузаки.
 „Нихон Боэки Киокай“ (Японская Внешнеторговая Ассоциация).
 Токио, Киобаси, Гинза, Ниси, 7-3.
 Президент-И. Моримура.
 „Боэки Шорейкай“ (Общество поощрения внешней торговли).
 г. Токио, Нихонбаси, Хон-чо, 2-1.
 Президент-Т. М а с у д а.
 „Таиро Юсюцу Кумиай“ (Союз экспортеров Японии в СССР).
 Токио, Коджимачи, Учисайвайчо.
 „Нихон Кококу Курабу“ (Японский клуб рекламодателей).
 Токио, Киобаси, Гинза, 6.
 Председатель-Д. Цумура.
 „Токио Гинко Курабу“ (Токийский клуб банкиров).
 г. Токио, Коджимачи, Маруноучи, 1-8.
 „Дзенкоку Сангио Дантай Ренгокай“ (Всеяпонская Ассоциация промышленных предприятий).
 Токио, Коджимачи, Маруноучи.
 Президент-барон С. Гоо.
 „Зоосен Киокай“ (Ассоциация судостроительных о-в и фирм).
 Токио, Коджимачи, 3.
 „Тейкоку Хико Киокай“ (Имперское Авиационное Общество).
 Токио, Сиба, Сакурада, Хонго-чо, 7.
 Президент И. Сакатани.

Кино-фильмы о „Кенгеки“ (игра мечами) уже вышли из моды и их заменяют успешно фильмы из жизни уличных люмпен-пролетариев. Известное время тому назад тенденциозные кино-фильмы пролетарско-идеологического характера пользовались огромной популярностью, но строгая цензура по отношению к идеологическим фильмам, вынудила владельцев кино-предприятий заняться производством, так называемых фильмов исключительно из жизни „люмпен-пролетариата“.

Другой характерной чертой на кино-фронте за упомянутый период времени является демонстрация кино-фильм под аккомпанимент песен и граммофона, передающих общий смысл демонстрируемой картины, что, конечно, проводится под влиянием американских говорящих кино-фильм.

Производство говорящих фильм находится пока в стадии пробных опытов.

Для производства кино-фильм, могущих конкурировать с американскими говорящими фильмами, прежде всего, требуется вложение крупных капиталов и оборудование кино-предприятий новейшими машинами, сделанными по последнему слову техники. Одними из более или менее удачных говорящих фильм, выпущенных в Японии, считаются: „Комори ута“ („Колыбельная песня“), „Моноивану хана“ („Не говорящий цветок“), „Воздушный флот“, „Дама и баба“ и друг.

Что касается заграничных говорящих фильм, появившихся в Японии, главным образом, язык послужил большим препятствием к популяризации этой категории фильм, поэтому американские кино-студии для устранения этого препятствия, начали печатать на фильмах японский язык, непосредственно по голосу, разъясняющего во время сеанса оратора-японца и снабжать американские фильмы надписями на японском языке.

За упомянутый период на экранах Японии были продемонстрированы 4 кино-фильма советской продукции: „Потомок Чингис хана“, Турксиб, „Весной“ и „Генеральная линия“, из которых на долю фильм „Потомок Чингис хана“ выпал наибольший успех. Эта фильма впоследствии будучи переделана в пьесу одно время пользовалась большим успехом на сценах некоторых больших театров Японии. За данный период времени, общий метраж японских фильм, подвергнутых цензуре, выразился в 2.080 тыс. метров, а общий метраж запрещенных к демонстрации цензурой фильм, достиг 10.894 метров, и метраж запрещенных цензурой американских фильм составил 1.799 метров и германских—1.358 метров. В общем цензура в Японии относится строже к идеологическим фильмам, чем к фильмам эротического характера.

Общее число кино-театров во всей Японии в марте 1931 г. выразилось в следующих цифрах:

Театры, ставящие исключительно заграничные фильм	63
Театры, ставящие отечественные и заграничные фильм	1.422
В с е г о	1.485

СПИСОК ПОЛИТИЧЕСКИХ, ВОЕННЫХ, ПРОМЫШЛЕННЫХ, КУЛЬТУРНЫХ И МЕЖДУНАРОДНЫХ СОЮЗОВ, ОБЩЕСТВ И ГРУППИРОВОК В ЯПОНИИ.

1. Политические :

- „Дайнихон-Сейсан-то“ (Японская производственная партия).
Пока не имеет места в Парламенте.
г. Осака, 2, Китахама Билдинг. Председатель г. Р. Учида.
„Токио Сейджи Кенкюджио“ (Токийский Институт исследования политики и экономики).
г. Токио, Сиба, Котохира-чо, Фуджия Билдинг.
Председатель-С. Рояма
„Риккен Исинто“ (Конституционная партия реформистов).
Пока не имеет места в Парламенте.
г. Токио, Киобаси, Гинза, Синбаси.
Председатель : С. Я м а т о

2. Военные :

- „Тейкоку Гунзин Кознкай“ (Имперское Общество помощи солдатам и офицерам).
г. Токио, Усигоме-ку, Вакамацу-чо.
Президент граф К. Киоура
„Тейкоку Зайго Гунзин Кай“ (Имперское Общество ополченцев).
г. Токио, Усигоме, Хара мачи, 3.
Президент генерал Х. Ичиноэ.
„Кайгун Киокай“ (Морская Ассоциация)
г. Токио, Коджи мачи, Учисайвай-чо, 1.
Президент К. У ч и д а.

3. Международные :

- „Кокусай курабу“ (Международный клуб).
г. Токио, Коджи мачи, Саннен-чо, 2.
Почетный президент князь Т. Комацу.
„Кокусай Ренмей Киокай“ (Отделение Лиги Наций в Японии).
г. Токио, Коджимачи, Маруноучи, 210.
Президент : Виконт И. Сакатани.
„Тайхейио Мондай Чиосакай“ (Общество исследования Тихоокеанских вопросов).
г. Токио, Киобаси, Гинза, Ниси, 7.
Председатель : профессор И. Нитобе.
„Тоа Чиосакай“ (Общество исследования Восточн. Азии).
г. Осака, Кита-ку, Доозима, 2-3.
Председатель-Х. Мотояма.
„Тоио Киокай“ (Общество Востоковедения).
г. Токио, Коджимачи, Учисайвайчо
Председатель-Р. Мидзуно.
„Чуници Бунка Киокай“ (Японо-Китайское Культурное Общество).

ИСКУССТВО.

На литературном фронте.

Из числа существующих в настоящее время в Японии наиболее влиятельных группировок представителей литературных кругов, дающих возможность составить точное представление о главном течении, преобладающем в современной Японской литературе, необходимо указать на следующие:

1. Группировка „Гейжуцуха“ (Чисто художественная школа, посвященная в исключительно искусству). В состав этой группировки входят, так называемые виртуозы современной японской литературы, как напр. Дзюиичиро. Танизаки, Тон Сатоми, Тосон Симазакки, Хакуцую Масамуне, Сюсей Токуда и друг. За 1930-31 г. г. романы Т. Симазакки „Иоакэ маэ“ („Перед рассветом“) и „Братья Андзю“ - Т. Сатоми, произвели настоящую сенсацию, пользовались большим успехом и признаны наилучшими произведениями этой школы писателей, но говоря в общем, среди писателей этой школы замечается какая-то усталость и вялость. Это явление объясняется, по видимому, тем, что они писатели прошлого, а не настоящего времени.

2. Группировка „Синко Гейжуцуха“ (Новая чисто художественная школа посвященная исключительно искусству). Несмотря на свои неоднократные обещания проявлять максимальную активность в творческой работе, плодотворность этой школы в последнее время весьма ослабела. Наиболее активными из писателей этой школы считаются: Р. Рютандзи, Т. Куно, Р. Асахара, М. Ибусе, И. Накамура и друг.

3. Группировка „Синканкакуха“ (Школа нео-сенсуализма). В 1930-31 г. г. наряду с пролетарскими писателями, неосенсуалисты проявляли максимум энергии, работая на общем литературном фронте, в особенности г. Риичи Иокомицу, выдвинулся значительно вперед со своим замечательными романами: „Машина“ и „Время“. Вслед за ним выступили г. г. Иоичи Накагава, Хидео Хори, Косей Кавабата и друг. своими активными произведениями и вокруг имени каждого из них, среди критиков, был поднят небывалый доселе шум.

4. „Мусанха Бунгакуха“ (группа пролетарской литературы). Входящие в состав этой группировки Такидзи Кобаяси, Сунао Токунага и Сигедзи Накао, написали прекрасные вещи, в особенности роман „Сверх красной любви“ г. Токунага, имел большой успех и поднял шум среди критиков.

Известная японская писательница Юрико Чудзю по возвращении из СССР официально вступила в НАПФ (японская федерация пролетарских художественных союзов) и посвятила большинство своих трудов современной советской литературе. Г-жа Инэко Кубокава является активной женщиной-борцом на пролетарском литературном фронте. Упомянутый „НАПФ“ выпускает свой орган „НАПФ“.

5. Группировка „Бунсен-ха“ (Литературный фронт). Как федерация „НАПФ“, так и группировка „Бунсен-ха“ ставят своей целью широкую

популяризацию пролетарской литературы, внедрение последней в массы и дальнейшее завоевание крестьянских читательских кругов. В связи с поднятым анти-религиозным движением, появился роман „Камень“ г. Томоя Цуруда, посвященный трактованию вопроса о возникновении анти-религиозного движения в деревне. Группировка „Бунсенха“ в противоположность „НАПФ“-у примыкает к правому крылу пролетарских писателей. Группировка „Бунсенха“ имеет своей орган „Бунсен“.

6. Группировка „Тайшу Шосецуха“ (круг писателей для масс). Писатели, примыкающие к этому кругу, охотно пользуются материалами для своих произведений из феодальной жизни. Главными лидерами этой школы считаются: М. Наоки, Д. Осараги, К. Наказато и друг. Произведения названных писателей почти всегда печатаются в главнейших столичных газетах, т-к. они имеют свои широкие читательские круги. За произведения этих писателей, последним газеты и журналы выдают приличные гонорары.

7. Группировка „Тантей Шосецука“ (круг писателей дидективных романов). До недавнего времени дидективная литература в Японии, состояла преимущественно из переводов с иностранных источников. Только за последнее время в стране начали появляться увлекательные дидективные романы, принадлежащие перу известных японских писателей. Несмотря на истощение своих идей в переживаемый момент, все еще имя писателя Ранпо Эдогава пользуется в Японии громадной популярностью. Писатели С. Хамао, У. Осита и С. Кога время от времени выпускают увлекательные произведения.

В заключение, необходимо отметить, что в последнее время на литературном фронте Японии наблюдается полнейшее затишье и безактивность, приводящие в упадок даже некоторые чисто литературные журналы. Даже в журнале „Синчио“ („Новое течение“), имеющем старую историю, как чисто литературный журнал, редакция была вынуждена изменить свою программу, чтобы получить возможность приспособиться и угодить вкусам и запросам общества, помещая материалы о эротизме и „nonsense“.

На кинофронте.

С начала 2-го полугодия 1930 г. до 1-го полугодия 1931 г., буря экономического кризиса, разразившаяся над всем миром коснулась и японской кинопромышленности. Снижение входной платы, сокращение жалованья кино-звездам, забастовка служащих кино-фабрики „Макино“ на почве задержек в уплате жалованья и т. п. свидетельствовали об отражении кризиса в области кинопромышленности. Но несмотря на это, с точки зрения, размеров импорта заграничных фильмов в 250 шт и продукции японских предприятий в 650 кино-фильм за год, нельзя сказать, чтобы этот период прошел скучным для кино-любителей, хотя надо указать, что надежды кино-предпринимателей на получение больших доходов, совсем не оправдались.

1930 г. 326,8 65,8
 97,3 * 23,5 34,9 *

Примечание: * -означает ткани из искусственного шелка.

Что касается производства сахара в собственно Японии, то таковой производится в районе Окинава, Хоккайдо и друг., составляя лишь только 13-14% общего количества потребления. Потребность в сахаре собственно Японии, удовлетворяется большей частью ввозом Формозского сахара, ввоз которого в 1929 г. выразился около 750 тыс. клгрм. на сумму около 140 млн. иен. Средняя норма потребления сахара 1 чел. населения в 1929 г. выразилась в 13,7 клгр. в год.

Из других с.-х. продуктов пенька, лен конопля и друг. в Японии культивируются весьма слабо и производятся в незначительном количестве, при чем общая продукция их выражается лишь в 5 с лишним млн. иен в год.

Данные о снабжении и потребности Японии в пеньке, выражаются в следующих цифрах:

	1927 г.	1928 г.	1929 г.	1930 г.
Урожай пеньки	4321	5002	5393	—
Импорт пеньки	23575	24174	26048	14.259
Производство пеньков. ткани	21082	18740	18747	—
Импорт	930	975	685	520
Экспорт	442	570	836	643

Годовая норма потребления бобов в собственно Японии выражается приблизительно в 1 млн. тонн-клгрм. (около 7,8 млн. коку. а размеры годового урожая бобов составляют только около 40-50% общей потребности.

Хлопок в Японии производится в весьма малом количестве, т.-е. в собственно Японии урожай хлопка не превышает 200 тонн-клгр., составляющих только лишь 0,03% общей потребности в Японии, а в Корею урожай хлопка не превышает 30 тыс. тонн-клгр., составляющих только 5% общей потребности.

Касаясь последнего положения сельского хозяйства Японии, необходимо указать, что с.-х. Японии подверглось самому усиленному удару как в результате отмены эмбарго на золото, так и под влиянием мирового экономического кризиса. И в 1930 г. падение цен на с.-х. продукты значительно усугубилось, что привело к общему сокращению доходов сельского хозяйства Японии в сумме около 1,000 млн. иен.

Резкое падение цен на с.-х. продукты, без сомнения, оказало самое разрушительное влияние на сельское хозяйство Японии, ввергнув крестьянство в безпросветную нищету. Кроме того, впадению японского крестьянства в нищету способствует резкая разница между ценами на с.-х. продукты и на предметы, которые больше всего необходимы в крестьянском обиходе. Так напр. при сравнении индекса цен на с.-х. продукты (рис, хлеб, коконы и т. д.) и на предметы первой необходимости в крестьянском хозяйстве (соя, сахар, серно-кис-

лотная аммония, жмыхи, белый муслин, фосфорнокислотное удобрение, отбеленная бумажная материя и проч., получают следующие цифры:

	Цен на с. х. продукты.	Цены на предметы 1-й необходимости.
1925 г.	100	100
1926 г.	85,3	87,8
1927 г.	92,3	82,8
1928 г.	70,8	86,7
1929 г.	70,5	86,8
1930 г.	50,7	62,9

Крестьянство Японии много лет страдало от высокопроцентных займов, общая сумма которых, по приблизительному подсчету, достигает 4-5 млрд. иен (861 иена на 1 хозяйство в среднем).

Небывалое обострение с.-х. кризиса в Японии в корне потрясло всю деревню, а в особенности-жизнь бедноты, ускорив в тоже время процесс перехода средних и мелких крестьян в истинный пролетариат. И обострение нужды бедноты вызвало сильный рост ожесточенных земельных конфликтов, вокруг аренды земель.

Данные о числе земельных конфликтов в Японии, выражаются в следующем виде.

1917 г.	85 конфликтов
1918 г.	256 "
1919 г.	326 "
1920 г.	408 "
1921 г.	1.680 "
1922 г.	1.578 "
1923 г.	1.817 "
1924 г.	1.532 "
1925 г.	2.206 "
1926 г.	2.715 "
1927 г.	2.052 "
1928 г.	1.866 "
1929 г.	1.949 "
1930 г.	2.379 "

Число принимавших участие в конфликтах землевладельцев и безземельных крестьян, а также общая площадь земель, на почве аренды, которых возникали конфликты, выражаются в следующих цифрах:

	Число участников		Общая площадь земель
	Землевладельцы	Безземельные крестьяне	
1928 г.	19.474	75.136 чел.	48.693,7 чо
1929 г.	25.505	81.998 "	59.830,4 "
1930 г.	11.118	47.340 "	33.758,7 "

%% — ты земельн. фонда — 10 — 15
 Арендная плата за землю 14 — 19 —
 Колебание цен на 1 коку второсортного риса на рынках квартала Фукагава в Токио:

	Средн. цены в году		В декабре	
	Иен	сеп	Иен	сеп.
1915 г.	13	07	13	36
1919 г.	45	99	53	80
1923 г.	32	76	35	28
1925 г.	41	65	37	45
1926 г.	37	79	34	41
1927 г.	35	42	41	08
1928 г.	39	03	28	57

Производство друг. сельскохозяйственных культур имеет большое распространение во всей Японии, первое место из которых после риса занимают хлебные злаки. Заготовка хлебных злаков в собственно Японии достигает 22—23 млн. коку в год.

Данные об урожае отдельных хлебных злаков, представляются в следующем виде:

	(в тыс. коку)				
	Ячмень	Рожь	Пшеница	Овес	Итого
1926 г.	8.569	7.441	5.897	1.984	23.891
1927 г.	7.569	7.313	6.059	2.280	23.221
1928 г.	7.606	7.126	6.389	2.122	23.243
1929 г.	7.120	7.323	6.323	2.034	22.800
1930 г.	7.091	6.088	6.125	2.315	21.619

Данные о снабжении и потребности Японии в пшенице (включая пшеничную муку) выражаются в следующих цифрах: (в тыс. коку)

	1926 г.	1927 г.	1928 г.	1929 г.	1930 г.
Общие размеры заготовки пшеницы в соб. Японии	5.897	6.059	6.389	6.323	9.125
Импорт	6.226	3.617	4.900	5.451	3.655
Ввоз из колоний	18	8	1	46	4
Экспорт	963	735	1.392	1.797	1.161
Вывоз в колонии	502	536	634	588	469
Общ. потребность	9.628	8.413	8.264	9.435	8.155
Средн. размеры потребности на 1 чел. коку населения	0,10	0,14	0,13	0,16	0,13

Общая стоимость экспортируемой из Японии и импортируемой в нее пшеницы, выражается в следующих цифрах (в млн. иен):

	Пшеница		Пшеничная мука		Вывоз в колонии.
	Импорт	Экспорт	Импорт	Экспорт	
1926 г.	93,3	1,3	19,8	9,8	
1927 г.	53,9	2,9	14,3	9,1	
1928 г.	67,8	1,2	24,7	9,8	
1929 г.	70,9	1,0	26,8	10,0	
1930 г.	31,5	2,3	14,5	8,2	

Размол пшеничной муки в 1930 г. в Японии выразился приблизительно в размере 40 млн. мешков (1 мешок содержит 49 фун. муки), на что употреблено около 8,5 млн. коку пшеницы, т.-е. 80% общей потребности Японии в пшенице.

При производстве пшеничной муки, как побочный продукт получают отруби в количестве около 250 тыс. тонн-клогр., кроме того Японией отруби импортируются из Китая ежегодно в количестве превышающем 200 тыс. тонн-клогр. на сумму свыше 10 млн. иен.

Что касается шелководства, то Япония занимает одно из первых мест в мире по производству шелка. В последнее время, годовое производство шелка в Японии выражалось приблизительно в 42 тыс. тонн-клогр., что составляет 62% обще-мирового производства шелка. Из производимого в Японии шелка только около 20% находят потребление внутри страны.

Данные о числе шелководческих хозяйств и экспорте и импорте коконов, представляются в следующем виде:

	Число хоз-в. в тыс.	Разведение коконов количество в тыс. т.-клогр.	Стоимость в млн. иен	Экспорт в млн. иен	Импорт
1927 г.	2104	340,7	496,9	0,4	1,6
1928 г.	2165	351,9	551,7	0,1	1,5
1929 г.	2217	382,9	655,0	0,3	1,8
1930 г.	2216	399,2	304,2	0,4	0,9

Данные о производстве шелка в Японии и экспорте такового за границу, представляются в следующем виде:

	Производство количеств. в тыс. т.-клогр.	Сумма в млн. иен	Экспорт т.-клогр.	Сумма в млн. иен	Экспорт в САСШ	
					тыс. т.-клогр.	млн. иен
1913 г.	14,0	199,5	12,1	188,9	8,0	31,9
1926 г.	34,3	856,5	26,6	734,1	25,7	709,4
1927 г.	37,1	798,8	31,6	742,3	29,5	698,8
1928 г.	39,7	835,5	32,9	733,4	30,9	688,0
1929 г.	42,3	857,6	34,8	884,1	33,4	755,4
1930 г.	41,7 *	550,0 *	28,6	491,1	26,9	399,7

Примечание: * означает приблизительный подсчет.

Данные о производстве в Японии шелковых тканей и экспорте таковых за границу в млн. иен:

	Производство		Экспорт
	Шелк. ткани	шелково-хлопчатобумажн. ткани.	
1913 г.	120,3	30,5	39,3
1926 г.	426,9	97,5	133,1
1927 г.	411,1	58,3	139,6
1928 г.	482,2	58,0	134,1
1929 г.	445,5	48,3	150,0

1922 г.	1.662	1.541	2.239
1923 г.	1.664	1.835	2.239
1924 г.	1.725	1.631	2.275
1925 г.	1.725	1.525	2.297
1926 г.	1.732	1.508	2.314
1927 г.	1.737	1.496	2.329
1928 г.	1.748	1.482	в.344
1929 г.	1.707	1.478	2.359

Число крестьянских хозяйств, имевших собственные пахотные земли по отдельным размерам их площадей, выражались в следующих цифрах:

	1926 г.	1927 г.	1928 г.	1929 г.
Общее число	4.997	5.009	5.045	5.040
Число крестьян. хозяйств:				
Имевших менее 5 тан зем-				
ли	2.492	2.485	2.504	2.508
„ „ 1 чо	1.221	1.227	1.240	1.246
„ „ 3 „	889	904	910	899
„ „ 5 „	230	230	229	222
„ „ 10 „	114	114	113	113
„ более 10 „	50	50	49	49

Данные о числе крестьянск. хозяйств с отдельными размерами площадей, эксплуатировавшихся ими пахотных земель в 1927 г. из общего числа 5.561.608 крестьянских хозяйств, представляются в следующем виде:

Число хозяйств-экспл.		
менее 5 тан земли	1.944.523.	34,96%
от 5 тан до 1 чо	1.895.837.	34,09%
от 1 чо до 2 чо	1.295.333.	24,49%
„ 2 чо „ 3 „	321.741.	5,79%
„ 3 „ „ 5 „	136.661.	2,40%
более 5 чо	70.514.	1,27%

Общее число с.-х. рабочих в Японии, по данным 1920 г., выражается в следующих цифрах:

	Рабочие, выполняющие только 1 работу.	Выполняющие более 2 раб.	Итого
Постоянные	74.482	310.454	384.936 чел.
Сезонные	95.828	823.878	919.706 „
Поденные	202.714	1.610.226	1.812.940 „
Всего	373.024	2.744.558	3.117.582 „

Общее число с.-х. рабочих, т.-е. около 3.110.000 чел. составляет 16% общего числа — 19.140.000 чел. трудящихся, занимающихся сельским хозяйством.

Из сельско-хозяйственных продуктов в собственно Японии производится главным образом рис, ежегодный урожай которого выражается приблизительно около 60 млн. коку в среднем, а годовая потребность Японии в рисе выражается в 69 млн. коку приблизительно.

Данные о снабжении и потребности Японии в рисе за последние 5 лет, представляются в следующем виде в тыс. коку:

	1927 г.	1928 г.	1929 г.	1930 г.	1931 г.
Рис заготовки предыдущего года	55.593	62.103	60.303	59.558	66.882
Остатки риса от прошлго года	5.968	5.766	7.840	6.028	5.717
Превышение импорти. риса	4.094	1.714	1.246	1.147	190
Превышение риса, ввезенного из колоний	7.292	8.556	7.125	6.915	9.898
Запасы риса в отчетном году	5.766	7.840	7.028	5.717	11.108
Общая потребность в рисе	67.181	70.298	69.486	68.931	71.579
Среднее количество потребности риса на 1 чел. населения	1,10	1,13	1,10	1,8	1,14 к.

(Примечание: Данные за 1931 г. базируются на предположениях).

Данные о снабжении и потребности в рисе Кореи и Формозы. (в тыс. коку)

Корея.

	Рис заготовки предыдущего года.	Импорт	Экспорт.	Потребность
1927 г.	15.301	891	6.166	10.025
1928 г.	17.299	498	6.716	11.080
1929 г.	13.512	655	5.541	8.626
1930 г.	13.532	532	5.014	9.219
1931 г.	19.183	-около	8.000	—

Формоза.

1927 г.	6.037	815	2.987	4.464
1928 г.	6.841	326	2.409	4.759
1929 г.	6.451	561	2.320	4.692
1930 г.	7.111	74	2.179	5.007
1931 г.	около 7.371	—	около 2.378	—

Себестоимость 1 коку риса в Японии в 1926 г. выразилась в следующих цифрах:

	У безземельн. крестьян.		У закигочн. крестьян.	
	Иен	сен	Иен	сен
Общая себестоимость заготовки 1 коку риса	33	— 84	33	— 67
Из которых:				
Зарплата	10	— 48	10	— 57
Стоимость удобрения	5	— 87	4	— 74
Друг. расходы	—	28	4	— 78

ДААННЫЕ О СНАБЖЕНИИ И ПОТРЕБЛЕНИИ
КАМ. УГЛЯ В ЯПОНИИ.

(в 1 млн. тонн-клогрм).

	Добыча в собствен. Японии.	Импорт	Экспорт	Потребление
1912 г.	19.6	0.3	3.5	26.4
1916 г.	22.9	0.6	3.0	20.5
1921 г.	26.2	0.8	2.4	24.6
1926 г.	31.4	2.4	2.9	30.9
1927 г.	33.5	3.0	2.5	34.0
1928 г.	33.9	2.7	2.2	34.4
1929 г.	34.3	3.2	2.0	35.5
1930 г.	31.5	2.7	2.1	32.1

Виду того, что добыча нефти в Японии слишком мало удовлетворяет потребность в ней, выражаясь лишь только в размере 17% необходимого количества, Япония вынуждена импортировать нефть и нефтепродукты из заграницы, так напр. в 1929 г. в собственно Японию нефти и нефтепродуктов импортировано на 93 млн. иен, а в 1930 г.—на сумму около 90 млн. иен. Помимо этого, импорт нефти и друг. нефтепродуктов в колонии Японии достигает 7,5—7,6 млн. иен в год, так напр. в 1920 г. в Корею импортировано нефти и друг. нефтепродуктов на сумму 4,5 млн. иен и в пределы Формозы на 3,1 млн. иен.

годовая потребность Японии, в нефти, выражается в следующих цифрах:

(В 1 млн. ам. галлонов).

Добыча нефть.

	Собствен. Япония	Формоза	Итого	Импорт нефти	Всего
1912 г.	69.5	0.2	69.7	1.1	70.8
1916 г.	123.7	0.8	124.5	0.8	125.3
1921 г.	93.5	0.3	93.8	6.0	98.8
1926 г.	71.2	3.8	75.0	78.3	153.3
1927 г.	69.1	6.0	75.1	86.4	161.5
1928 г.	77.2	4.5	81.8	127.6	209.2
1929 г. *	82.2	3.5	85.7	136.7	222.4

Примечание: —* означает приблизительные данные.

Данные о фактических размерах снабжения нефтепродуктами Японии, выражаются в следующих цифрах:

(в 1 млн. ам. галлонов).

	1927 г.	1928 г.	1929 г.
Бензин	68.9	93.8	122.6
Керосин	39.5	44.0	45.5
Легк. керосин	42.2	54.7	55.2
Машин. масло	39.3	4.5	49.5
Петролеум неочищ.	84.1	128.4	157.7

Данные об общих размерах снабжения нефтепродуктами Японии,

выражаются в следующих цифрах:

(в 1 млн. ам. галлонов).

	1927 г.	1928 г.	1929 г.
Обработан. из нефти отечествен. произв.	63.2	64.8	75.3
Обработан. из импорти. нефти	70.3	100.0	107.2
Импорти. продукты	154.2	209.3	260.9
Продукты, ввезенные из колоний	0.4	0.2	0.3
Экспорти. продукты	1.7	2.0	0.9
Продукты, вывезенные в колонии	9.5	9.0	12.3
Фактич. итоги снабжения	277.0	363.2	430.5

XI. СЕЛЬСКОЕ ХОЗЯЙСТВО.

Общая площадь пахотной земли в Японии в 1927 г. исчислялась в 6.080.155 чо, составляющих около 15% общей площади всей страны. Площадь пахотной земли, принадлежащей собственникам равнялась 3.298.111 чо и сдаваемой в аренду—2.782.044 чо, т.-е. около 46% общей площади пахотной земли в Японии принадлежит землевладельцам.

По данным Министерства Земледелия и Лесного Хозяйства, общая площадь пахотной земли в Японии за время с 1921 по 1929 г. выражалась в следующих цифрах:

(в тыс. чо).

	Общая площадь	Собствен. земли	Арендные земли
1921 г.	3.057	3.275	2.821
1922 г.	3.090	3.265	2.824
1923 г.	6.039	3.231	2.808
1924 г.	6.063	3.278	2.785
1925 г.	6.067	3.286	2.780
1926 г.	6.080	3.295	2.784
1927 г.	6.078	3.297	2.781
1928 г.	6.085	3.297	2.788
1929 г.	5.897	3.084	2.812

В 1927 г. в Японии было 5.561.708 крестьянских хозяйств, из них считалось 1.737.193 зажиточных хозяйств (31%), 2.328.739 хозяйств занимавшихся за недостатком собственной, эксплуатацией арендной земли (42%) и 1.495.676 безземельных хозяйств (27%).

Общая численность крестьянских хозяйств в Японии за время с 1921 по 1929 г., выражалась в следующих цифрах:

(в 1.000 хоз).

	Число зжиточн. хозяйств	Число безземельн. хозяйств	Совм. число зжит. и без. хозяйств.
1921 г.	1.669	1.554	2.231

1924 г.	0,0	4,1	4,1	0,0	—	0,0	имп.	4,1
1925 г.	0,0	0,2	0,2	22,1	0,2	22,3	экс.	22,1
1926 г.	0,1	1,5	1,6	32,1	3,8	35,9	"	34,3
1927 г.	0,0	8,5	8,5	36,1	13,6	49,7	"	41,2
1928 г.	0,4	2,3	2,7	—	3,4	3,4	"	0,7
1929 г.	0,5	0,2	0,6	—	3,5	3,5	"	2,9
1930 г.	9,0	0,6	9,7	308,6	2,4	311,0	"	301,3

Как известно, платина является одним из самых драгоценных металлов, но добывается она во всем мире в весьма незначительном количестве, между в Японии добывается в россыпях на острове Хоккайдо, где в 1926 г. было добыто—6,2 клгр., в 1927 г.—1,5 клгр. и в 1928 г.—3,1 клгр. Ежегодно Японией платины импортируется из заграницы на сумму 2 или 3 млн. иен.

Медь, свинец, цинк, олово и алюминий являются также весьма важными металлами, имеющими самое широкое распространение во всем мире, но в Японии одна медь добывается в более или менее достаточном количестве, тогда как свинец, цинк и олово разрабатываются в весьма ограниченных размерах, что же касается алюминия, то такого совсем не добывается в Японии.

Данные о снабжении и потреблении меди в Японии.

(в тыс. тонн-клгр.)				
	Добыча	Импорт	Экспорт	Снабжение
1913 г.	66,5	0,4	42,5	24,4
1917 г.	108,0	5,6	79,1	34,5
1921 г.	55,0	13,2	10,9	57,3
1926 г.	67,4	16,5	2,5	81,4
1927 г.	66,6	13,1	2,8	76,9
1928 г.	68,2	20,5	3,0	85,7
1929 г.	75,5	8,5	8,3	75,7
1930 г.	81,0	2,5	33,2	50,3

Данные о добыче меди, свинца, цинка, олова и висмута в Японии.

	1928 г.		1929 г.	
	Количество в тонн-клгр.	Стоимость в тыс. иен.	Количество в тонн-клгр.	Стоимость в тыс. иен.
Медь	63.233	55.272	75.469	69.400
Свинец	3.653	848	3.374	858
Цинк	19.177	6.340	22.099	7.197
Олово	745	1.523	802	1.790
Висмут	32	288	50	357

Данные о снабжении и потреблении чугуна в Японии.

(в тыс. тонн-клгр.)				
	1927 г.	1928 г.	1929 г.	1930 г.
Выплавлено в Японии	895,2	1.092,5	1.087,1	1.195,0
Ввезено из Кореи	102,7	139,8	137,6	109,4
Импорт	478,0	572,9	657,2	408,6
Экспорт за границу в				
вывоз в колонии	4,2	4,9	3,8	5,4
Снабжение	1.471,7	1.800,3	1.878,1	1.707,6

Данные о снабжении и потреблении стальных продуктов в Японии.
(в тыс. тонн-клгр.)

	1927 г.	1928 г.	1929 г.	1930 г.
Производство в Японии	1.440,4	1.703,8	2.703,2	1.964,7
Ввоз из Кореи	—	—	—	—
Импорт	802,1	805,1	774,8	429,3
Экспорт за границу				
и вывоз в колонии	127,4	180,9	180,7	179,4
Снабжение	2.115,1	2.328,9	2.631,4	2.214,6

Данные об импорте Японией железа в отдельности по каждому роду.

Примечание : (А)-Количество-в 1.000 тонн клгм.

(Б)-Стоимость-в 1 млн. иен.

	Железн. руда	Чугун	Кусков. оталь	Стальн. прод.	Лом	Итого
1927 г. (А)	937,5	478,0	88,1	802,2	228,2	—
(Б)	9,1	22,0	6,0	78,8	8,4	144,3
1928 г. (А)	1617,0	572,9	90,0	805,1	805,1	—
(Б)	16,2	26,1	7,1	102,8	14,4	165,6
1929 г. (А)	1944,8	657,2	166,3	774,8	496,5	—
(Б)	19,3	29,1	12,6	99,6	18,3	179,0
1930 г. (А)	1973,6	408,6	69,8	429,3	488,9	—
(Б)	19,0	16,5	4,5	55,3	17,3	112,6

Производство чугуна в Японии, включая Корею и Маньжурию в 1928 г. выразилось в 1.520.000 тонн-клгрм., в 1929 г.—в 1.750.000 тонн-клгрм. и в 1930 г.—в 1.668.000 тонн-клгрм.

Кусковой стали в 1928 г. было произведено—1.967.000 тонн-клгрм. в 1929 г.—2.286.000 тонн-клгрм. и в 1930 г.—2.210.000 тонн-клгрм. приблизительно.

Железной руды в 1927 г. в собственно Японии было добыто—159.000 тонн-клгрм., в 1928 г. в собственно Японии—158 тыс. и в Корею—433.000 тонн-клгр. и в 1929 г. в собственно Японии—около 150.000 тонн-клгрм.

Что касается каменного угля, то годовая добыча его в собственно Японии за последние годы колеблется от 33 до 34 млн. тонн-клгрм. на сумму около 250 млн. иен.

Данные о добыче каменного угля в Японии по отдельным районам его месторождения, представляются в следующем виде :

(в 1 млн. тонн-клгрм.)				
	1927 г.	1928 г.	1929 г.	1930 г.
Собственно Япония	38,5	33,9	34,3	31,5
Сахалин	0,4	0,5	0,5	—
Формоза	1,8	1,6	1,6	—
Корея	0,7	0,8	0,8	—
Итого	36,4	36,8	37,2	34,4

Примечание : Данные о добыче кам. угля за 1930 г. представляют предварительные подсчеты.

1923 г.	647	68.814	270 случ.	36.259 чел.
1924 г.	933	99.047	333 "	54.526 "
1925 г.	816	89.391	293 "	40.742 "
1926 г.	1.260	127.267	495 "	67.234 "
1927 г.	1.202	103.350	383 "	46.672 "
1928 г.	1.021	101.893	397 "	46.252 "
1929 г.	1.420	172.144	576 "	77.444 "
1930 г.	2.289	191.805	906 "	81.329 "

Число стачечных конфликтов в 1930 г. по отдельным предприятиям.

Металлургическ.	621 сл.
Химические	373 "
Печатные и предприятия по выделке деревян. и бамбук. изделий	357 "
Текстильные	317 "
Транспортные	258 "
Строительные	97 "
Пище-продуктовые	46 "
Горные	41 "
Корреспондентск.	8 "
Газово-электрическ.	5 "
Проч.	166 "

Число забастовок, саботажей и закрытия заводов.

Отрасли промышленности	Число случаев	Число участников
Металлургическ.	246	14.927
Химическая	157	12.139
Текстильная	164	26.022
Пищевая	12	438
Печатная и пром. по выделке деревян. изделий	146	6.153
Горная промышленность	12	1.399
Газово-электрическ.	1	10
Транспортн. предприятия	66	17.080
Корреспондентск. "	5	228
Строит. "	29	4.776
Проч. "	67	2.199
Итого	906	81.329

Х. ГОРНОПРОМЫШЛЕННОСТЬ ЯПОНИИ.

Согласно имеющимся данным, общая стоимость годовой продукции горнопромышленности Японии в 1928 г. выразилась в сумме—378.305 тыс. иен. Общее число всех рабочих в горных предприятиях Японии в конце 1930 г. достигало 225.862 чел., в том числе 191.539 мужчин и 34.323 женщин.

Добыча горнопродуктов в Японии, по данным Министерства Торговли и Промышленности, выражается в следующих цифрах:

	Золото	Серебро	Медь	Железо	Камен. уголь	Нефть
1922 г.	7.526	123.152	54.126	78.457	27.701 клг.	324.500 литр.
1923 г.	7.691	111.890	59.345	113.141	28.948 "	284.300 "
1924 г.	7.600	110.178	63.056	73.549	30.110 "	285.100 "
1925 г.	8.463	126.194	66.486	66.068	31.459 "	295.300 "
1926 г.	9.098	139.252	67.365	104.465	31.426 "	269.900 "
1927 г.	9.606	140.946	66.571	105.135	33.530 "	2.615 "
1928 г.	10.390	160.023	68.232	117.817	33.860 "	292.200 "
1929 г.	10.422	160.604	75.469	112.430	34.257 "	311.300 "

Судя по имеющимся данным, мировая добыча золота выражается в 600 тонн-клар. в год на сумму около 800 млн. иен, тогда как в Японии, включая колонии, добыча золота в последние годы составляет менее 16 тонн-клар. в год на сумму около 23-24 млн. иен и все добытое золото идет на технические нужды.

Во всей Японии в 1927 г. золота было добыто 15,3 тонн-клар., из которых—9,6 т.-клар. в собственно Японии, 5,3 т.-клар.—в Корее и 0,4 т.-клар.—на Формозе. В 1928 г. добыча золота в Японии выразилась в 15,8 т.-клар., из которых 10,4 т.-клар.—в собственно Японии, 5,1 т.-клар.—в Корее и 0,3 т.-клар.—на Формозе.

Годовые размеры добычи серебра в Японии в последнее время выражаются в количестве около 160 т.-клар., на сумму около—6.140.000 иен (1929 г.), т.-е. в 1927 г. в Японии было добыто серебра в количестве 143,2 т.-клар., из которых 141,0 т.-клар. добыто в собственно Японии,—1,6 т.-клар.—в Корее и 0,6 т.-клар.—на Формозе. В 1928 г. добыча серебра в Японии выразилась в 162,1 т.-клар., из которых 160,0 т.-клар. было добыто в собственно Японии,—1,7 т.-клар.—в Корее и 0,4 т.-клар.—на Формозе.

Вследствие почти полного отсутствия в Японии чисто серебряной руды, серебро большей частью добывается как побочный продукт при очищении медной руды.

Что касается экспорта и импорта золота и серебра, то эти операции в Японии производятся, главным образом, в целях погашения иностранных векселей, почему общая сумма их остается неопределенной.

Имеющиеся данные об экспорте и импорте золота в Японии представляются в следующем виде, при этом в результате последовавшей в январе 1930 г. отмены эмбарго на золото, таковое было вывезено за границу только правительством в сравнительно незначительных размерах.

	Импорт			Экспорт			Превышение
	Золото	Серебро	Итого.	Золото	Серебро	Итого	
1912 г.	10,4	1,2	11,6	21,2	7,1	28,3	экс. 16,7
1913 г.	1,0	0,1	1,1	20,7	6,4	27,1	" 26,0
1914 г.	7,1	2,0	9,1	26,0	3,6	29,6	" 20,5
1915 г.	24,2	0,1	24,3	40,7	3,9	44,6	" 20,3
1916 г.	99,9	1,1	101,0	22,4	5,7	28,1	имп. 72,9
1917 г.	387,0	5,2	392,2	150,6	3,1	153,7	" 238,5
1918 г.	0,8	4,2	5,0	0,9	0,0	0,9	" 4,1
1919 г.	325,8	1,7	327,5	1,5	3,6	5,7	" 322,4
1920 г.	392,3	12,4	404,7	0,0	3,9	3,9	" 400,8
1921 г.	130,1	8,6	138,6	—	—	—	" 138,6
1922 г.	0,9	0,7	1,7	—	2,2	2,2	экс. 0,5
1923 г.	0,1	0,1	0,2	0,3	5,2	5,5	" 5,3

Самое минимальное число рабочих дней в месяц установлено в спичечных и резиновых предприятиях, где число их выражается в 20 дней с лишним; на втором месте стоят переплетные предприятия—21 день с лишним и металлургические предприятия—21,8 дня с лишним. В горнопромышленности самым минимальным числом рабочих дней отличаются каменно-угольные предприятия—24,5 дня.

Что касается положения с зарплатой в предприятиях, то индекс зарплат по отдельным отраслям промышленности, по данным Госбанка Японии, характеризуется следующими цифрами:

(Зарплата в 1926 г. определяется в 100).

	Декабрь 1928 г.	Декабрь 1930 г.	%-г сокра- щения
Общий Мужчины	108,0	94,9	12,1
Индекс Женщины	100,6	82,1	18,2
Отрасли промышленности.			
Шелковая	96,9	77,9	19,6
Прядильная	102,0	79,7	21,1
Ткацкая	98,1	77,9	20,6
Красильн.	97,3	90,7	6,7
Машиностр.	110,1	94,3	19,3
Судостроит.	109,7	89,5	18,4
По произв. подвижн. состава	108,2	91,4	15,5
По произв. различн. инструментов	104,1	88,1	15,3
По произв. металли- чesk. изделий	108,4	94,5	12,8
Силикатная	102,3	86,1	15,8
Бумажная	102,4	99,6	2,7
Фармацевтичesk.	101,3	93,8	7,4
Резиновая	108,4	96,7	10,8
Компостн.	99,4	94,7	4,7
Пищевая	99,9	95,3	4,6
Печатн. и переплетн.	109,7	98,8	9,9
Лесная и мебельн.	99,3	83,7	15,7

Ставки зарплат (включая жалованье, денежные пособия, прибавки, наградные и друг.), по данным Статистического Бюро при кабинете министров, фабричных рабочих в 1928 г. выражались в 203 сены в среднем в день, а в сентябре 1930 г. понизились до 196 сен.

Зарплата мужчин пала на 11 сен (средняя зарплата—279 сен) и—женщин—на 23 сены (средние ставки зарплат—87 сен).

Зарплата транспортных рабочих в 1928 г. составляла в среднем в день 183 сены, а в июле 1930 г. понизилась до 178 сен (средние ставки зарплат мужчин—202 сены и женщин—104 сены).

Зарплата горнорабочих в 1928 г. выражавшаяся в 180 сен в 1930 г. понизилась до 165 сен, при чем зарплата мужчин в среднем составляла 175 сен и женщин—96 сен.

Из установленных ставок зарплат в отдельных предприятиях в

1930 г. наиболее высокими являлись ставки в кожевенных и роговых—294 сены в день, в металлургических—289 сен, далее идут строительные—212 сен, силикатные—201 сена, химические—197 сен, печатные и переплетные—195 сен, бумажные—188 сен, а самые низкие ставки зарплат установлены в текстильных предприятиях—96 сен в день в среднем, при этом средние ставки зарплат женщин выражаются в 78 сен, зарплата же рабочих не достигших 17 лет—только в 57 сен. Но в действительности, вследствие временного закрытия или сокращения предприятий, во многих отраслях промышленности зарплата не достигает даже половины приведенных ставок. Так напр. в губ. Нагано в конце 1930 г. минимальные ставки зарплат были установлены в 35 сен в день, но фактически выражались лишь в 10-15 сен в день.

Зарплата поденных рабочих в крупных городах Японии составляет лишь около 30 сен в день в среднем.

Ниже для сведения помещаются данные о стачечном движении в Японии.

В 1917 г. было зарегистрировано 417 конфликтов, возникших между предпринимателями и рабочими, а в 1919 г. число конфликтов сильно возросло достигши—2.388 случаев, в которых приняли участие 335.225 чел. Это явление объясняется пробуждением сознания в рабочем классе Японии в результате прокатившейся волны международного революционного движения. В 1920 г. число конфликтов, по сравнению с предыдущим годом сократилось наполовину, но в 1923 г. число возникших конфликтов было зарегистрировано 647 случаев, в которых приняло участие до 68.814 чел. Это объясняется как временной стабилизацией, так и слабой сплоченностью рабочего класса Японии. Но впоследствии, в связи с разразившимся мировым экономическим кризисом стачечное движение в Японии стало снова возрастать. В 1929 г. было зарегистрировано 1.420 конфликтов, в которых приняло участие до 172.144 чел.; в 1930 г. возникло 2.289 конфликтов с числом участников в 191.805 чел.

Что касается только забастовок, саботажа и закрытия заводов, то в 1919 г. из общего числа конфликтов (2.388 сл.) число первых выразилось в 497 случаев, а в 1926 г. несмотря на сокращение общего числа конфликтов (1.260 случ.), число первых также выразилось в 495 случаев. В 1929 г. число данного рода конфликтов, из общего числа (1.420 случ.) составило 576 случ. и в 1930 г. из общего числа конфликтов (2.289 сл.) данное число выразилось в 906 случ., т.е. вдвое больше чем в 1919 г.

По данным Общественного Департамента Минвнутдел, общее число конфликтов, забастовок, саботажа и случаев закрытия заводов за время с 1919 по 1930 г. выражается в следующих цифрах:

	Общ. число конфликт.	Число участн.	Число забастов, саботажа и за- крытия заводов	Число участн.
1919 г.	2.388	335.225	497 случ.	63.137 чел.
1920 г.	1.069	127.491	282 "	36.371 "
1921 г.	897	170.889	246 "	56.225 "
1922 г.	584	85.909	250 "	41.503 "

Каучук	—	—	—
Л е с *	50,9%	52,4%	52,0%
Парпу	88,4%	88,6%	88,5%
Искусствен. шелк	92,9%	98,8%	98,4%
К о ж а *	73,5% (76,0)	71,9% (75,6)	51,9% (57,0)
Коконы	99,7%	99,5%	99,8%
Хлопок	— (0,8)	— (1,2)	— (0,9)
Шерсть	—	—	—
Конопля *	81,5%	84,1%	84,5%
Семена для выжимки масла *	37,3%	36,5%	40,2%
Сахар	13,7% (56,0)	14,3% (94,0)	13,5% (98,0)
Соль	71,0 (75,0)	70,2 (74,9)	64,7 (71,1)
Бобы	42,1 (60,7)	37,4 (54,8)	31,5 (4,77)
Пшеница	65,6%	56,8%	53,8%

ДАнные о численности заводов и трудящихся в них
в каждой отдельной отрасли промышленности.

Отрасли промышленности.	Число зав.-в. (в 1000)	Численность трудящихся (в 1000 чел.)				Итого
		Мужч.	Женщ.	Проч. тру- дящихся	Итого	
Прядильная	19.7	183.2	814.5	79.8	1.000.5	
Металлургическая	3.8	83.3	7.7	15.7	106.7	
Машиностроительн.	5.3	177.8	12.3	49.8	234.9	
Снликатная	3.3	12.8	70.1	9.9	92.8	
Химическая	3.2	81.7	40.6	25.6	147.9	
Пром. по выделке деревян. изделий	4.7	54.1	4.9	11.2	70.2	
Печатная и книжн.	2.6	6.5	52.0	12.4	70.9	
Пищевая	11.9	121.7	21.3	26.9	169.9	
Газ.-электричesk.	0.5	8.0	0.1	3.0	11.1	
Проч.	5.0	42.7	49.2	12.3	104.2	
Итого	59.7	855.2	969.8	241.6	2.086.1	

* В это число входит технический, конторский и друг. персонал заводов.

ДАнные о численности рабочих, кроме состоящих на
заводах, в конце декабря 1930 г.

	Мужчин.	Женщин.	Итого
Горнорабочие	191.539	34.323	225.862 чел.
Транспортные и почто- вые рабочие	462.640	44.056	506.696 "
Поденные и др. раб.	1.469.464	434.975	1.904.439 "
Всего	2.123.643	513.354	2.636.997 "

Экономический кризис охвативший весь мир, в последние годы вынудил и Японию по инициативе капиталистов, провести рационализа-

цию предприятий всех отраслей промышленности. Проведение рационализации вызвало ограничение производства в предприятиях всех отраслей промышленности, что в свою очередь привело к массовой безработице в стране.

Ограничение производства в важнейших предприятиях Японии в январе 1931 г. выразилось в следующих цифрах:

Хлопчато-бумажная пряжа	34,4%
Искусственный шелк	20
Шелковая пряжа	35
Муслин	20
Каменный уголь	22
М е д ь	12
Цемент	58
Иностранная бумага	35
С о д а	45

Численность безработных во всей Японии, по данным Общественного департамента Министерства Внутренних Дел в августе 1930 г. выражалась в 386 тыс. челов., а в октябре того-же года превышала 400 тыс. челов.

По сведениям, помещенным в журнале „Экономист“ от 1 апреля 1931 г., безработных во всей Японии насчитывалось свыше 2 млн. челов., т.-е. по подсчетам этого журнала число безработных в конце 1928 г. равнялось 830 тыс. чел., из которых 635 тыс. чел. составляли излишки рабсилы, оставшейся неиспользованной за время с 1922 по 1928 г. и 238 тыс. чел. являются корейцами, переселившимися из Кореи в собственно Японию в тот-же период времени. Сокращение численности рабочих занятых какой-либо работой в 1929 и 1930 г. выразилось в 330 тыс. чел., а естественный прирост рабсилы в 1923 и 1930 г. выразился в 450 тыс. чел.

Численность трудящихся, занятых в кустарной промышленности по приблизительным подсчетам достигает 1.134.000 чел., что же касается безработных в этой отрасли промышленности, то точное число их остается неизвестным, но судя по имеющимся данным, можно предполагать о большем проценте безработных, чем среди рабочих, занятых на заводах механизированной промышленности.

Число поденных и проч. рабочих, занятых на строительных работах по приблизительным подсчетам достигает 1,0—1,5 млн. чел., из которых без работы остается приблизительно около 700 тыс. чел.

Что касается рабочего дня, то по данным Госбанка Японии, его продолжительность в частных предприятиях в январе 1930 г. в среднем составляла 9 час. 34 мин., в январе 1931 г.—9 ч. 26 м., а в горных предприятиях—в ноябре 1930 г.—также 8 ч. 52 м. Необходимо заметить, что в мелких предприятиях рабочий день длиннее, нежели в крупных.

Число рабочих дней в месяц в частных предприятиях в январе 1930 г. выражалось в 23,7 дня в среднем и январе 1931 г.—в 23,9 дня, а в горных предприятиях в ноябре 1929 г.—27 дней и в ноябре 1930 г.—26,1 дня.

По национальностям :

Япония	40.061	39.955
Англия	8.563	8.500
САСШ	3.630	3.654
Германия	1.580	1.569
Голландия	1.259	1.255
Норвегия	952	948
Друг. 9 стран	2.438	2.444
Итого	58.483	58.325

IX. ПРОМЫШЛЕННОСТЬ ЯПОНИИ.

Вследствие отсутствия у населения необходимым средств к существованию, в особенности ощущающегося недостатка в натуральных продуктах, как напр. железе, каменном угле, нефти, лесе и проч. и к тому же крайней ограниченности надлежащего технического оборудования, вообще промышленность Японии значительно отстает от промышленности других стран.

В настоящее время в Японии насчитывается много предприятий разных категорий малых размеров.

Общее число всех заводов и занятых в них рабочих в конце 1929 г., по данным Министерства Торговли и Промышленности, выражалась в нижеследующих цифрах :

	Заводы		Рабочие	
	Фактическ. число	%-ное отношен.	Фактическ. число	%-ное отношен.
Заводов, имеющих свыше 5 и менее 10 рабочих	33.187	55,3	225.200	10,9
Заводов, имеющих свыше 10 и менее 15 рабочих	8.008	13,5	105.700	5,1
Заводов, имеющих свыше 15 и менее 30 рабочих	9.279	15,5	210.200	10,2
Заводов, имеющих свыше 30 и менее 50 рабочих	3.917	6,5	167.100	8,1
Заводов, имеющих свыше 50 и менее 100 рабочих	2.831	4,7	218.400	10,6
Заводов, имеющих свыше 100 и менее 500 рабочих	2.170	3,6	493.900	23,8
Заводов, имеющих свыше 500 и менее 1000 рабочих	295	0,5	232.400	11,3
Заводов, имеющих свыше 1.000 рабочих	200	0,3	413.800	20,0
Итого	59.887	100,0	2.066.700	100,0

По данным Министерства Торговли и Промышленности продукция различных отраслей промышленности Японии, характеризуется следующими цифрами :
(в 1.000.000 иен)

	1927 г.	1928 г.	1929 г.
Прядильная промышлен.	2.677	2.848	2.998
Металлургич. "	467	545	690
Машиностроит. "	583	630	880
Силикатная "	192	203	244
Химическая "	846	936	1.078
Пром. по выделке деревян. изделий	187	194	194
Печатная и переплетная	193	184	183
Пищевая пром.	1.073	1.137	1.124
Газовая и электр.	149	173	—
Др. отр. пром.	224	252	247
Расходы по ремонту и т. д.	304	277	302
Итого	6.895	7.378	7.939

Пропорциональное отношение платы за сырье (А) и зарплаты (Б) к общей стоимости продукции в каждой отрасли промышленности, характеризуется следующими цифрами :
(в 1929 г.)

Отрасли промышленности	А.	Б.
Прядильная	77%	10%
Металлургическая	60	10
Машиностроительная	30	16
Силикатная	35	13
Химическая	54	6
Пром. по выделке дер. изделий	78	19
Печатная	55	19
Пищевая	57	4
Друг.	64	13
В среднем	62	9

Пропорц. отношение сырых материалов отечественного производства к общему количеству, ввезенных из заграницы, потребляемых главными отраслями промышленности Японии, характеризуется следующими цифрами :

Примечание : Цифры в скобках означают ввоз из Кореи и Формозы.
(Знак X является показателем сравнения стоимости).

	1927 г.	1928 г.	1929 г.
Железо	12,5% (26,8)	8,0% (19,2)	6,5% (19,5)
Чугун	60,8% (67,9)	60,6% (68,5)	65,7%
Сталь	72,4%	79,3%	83,1%
Медь	86,5%	78,5%	93,0%
Свинец	5,7%	5,5%	5,3%
Цинк	35,8%	31,6%	39,2%
Олово	15,1%	15,4%	16,5%
Легкое серебро	—	—	—
Каменный уголь	98,5%	98,3%	99,6%
Сырая нефть	42,7% (46,4)	37,0% (39,1)	37,1% (38,6)
Фосфор	15,6%	11,1%	2,5%
Серный колчедан	100,0%	100,0%	100,0%

цифрах :

	(в тыс. иен)			
	Экспорт	Импорт	Итого	Превышение
1868 г.	15.553	10.693	26.246	Экс. 4.860
1877 г.	23.348	27.420	50.769	Имп. 4.072
1887 г.	52.407	44.304	96.711	Экс. 8.103
1897 г.	163.135	219.300	382.435	Имп. 56.165
1902 г.	258.303	271.731	530.034	„ 13.428
1907 г.	465.362	515.358	978.640	„ 51.922
1912 г.	526.982	618.992	1.145.974	„ 92.010
1916 г.	1.198.677	804.964	2.006.671	Эксп. 390.713
1918 г.	2.072.317	1.775.974	3.848.291	„ 296.342
1919 г.	2.235.886	2.385.466	4.621.352	Имп. 149.580
1920 г.	2.097.910	2.535.199	4.633.119	„ 437.288
1921 г.	1.353.023	1.793.538	3.146.561	„ 400.515
1922 г.	1.637.451	1.890.308	3.527.759	„ 252.857
1923 г.	1.447.750	1.982.230	3.429.980	„ 534.480
1924 г.	1.807.034	2.453.402	4.260.436	„ 646.367
1925 г.	2.305.589	2.572.657	4.878.247	„ 267.068
1926 г.	2.044.727	2.377.484	4.422.212	„ 332.756
1927 г.	1.992.086	2.117.325	4.109.411	„ 125.239
1928 г.	1.971.955	2.196.314	4.168.269	„ 224.359
1929 г.	2.148.619	2.216.240	4.364.859	„ 67.621
1930 г.	1.469.852	1.546.051	3.015.903	„ 76.199

Внешнеторговый оборот Японии за 1 полугодие 1931 г. по данным Министерства Финансов, выражается в следующих цифрах: (в тыс. иен)

	1 полугод. 1931 г.		По сравнению с 1 полугод. 1930 г.	
	Экспорт	Импорт	сокр. на	„ „
Итого	577.388	670.925	154.806	265.134
Превышение имп.	1.268.313	116.537	сокр. на 419.940	„ „ 110.328

Судя по приведенным выше цифрам, превышение импорта над экспортом в 1 полугодии 1931 г., по сравнению с соответствующим периодом 1930 г. показывает сокращение почти в половинном размере, что доказывает сравнительную оживленность внешней торговли Японии в указанном полугодии, несмотря на испытываемый финансовым миром страны жесточайший кризис.

По данным Министерства Торговли и Промышленности внешняя торговля Японии, Англии и САСШ в 1931 г. в течение 5 месяцев с января по май, по сравнению с соответствующим периодом 1930 г., представляется в следующем виде: т.-е. сокращение внешней торговли выражается в 36% с лишним, Англии также — на 34% с лишним и Японии тоже — в размере не превышающем 25%, что подтверждают помещаемые ниже цифры:

		За 5 м-цев		Процент сокращения
		1931 года	1930 года	
Япония	Экспорт	477.000.000	633.000.000 иен	24,7%
	Импорт	585.000.000	830.000.000 иен	29,5%

Англии	Экспорт	199.000.000	303.000.000 ф.с.	34,3%
	Импорт	350.000.000	458.000.000 ф.с.	23,6%
САСШ	Экспорт	1.133.000.000	1.781.000.000 дол.	36,4%
	Импорт	938.000.000	1.486.000.000 дол.	36,9%

Численность и общий тоннаж судов коммерческого флота Японии на июнь 1929 г., по данным Министерства Почт и Телеграфов, выражались в следующих цифрах:

Судов водоизмеще- ние:	Число судов	Общее водо- измещение	Процентное отношение
Менее 1.000 тонн	2.674	404.000 тонн	9,6%
От 1 до 3.000 тонн	481	912.000 „	21,8%
От 3 до 5.000 тонн	265	1.007.400 „	24,1%
От 5 до 7.000 тонн	210	1.229.700 „	29,4%
От 7 до 10.000 тонн	64	507.800 „	12,1%
Свыше 10.000 тонн	11	127.700 „	3,9%
Итого	3.705	4.188.600 тонн	100%

Данные о судостроительных заводах и судостроительстве Японии:

	Численность построенных						
	Число су- достр за- водов	пароходов		парусных судов		Итого	
		число	тоннаж	число	тоннаж	число	тоннаж
1897 г.	81	112	12.431	66	4.391	178	16.822
1907 г.	224	76	28.838	220	16.841	296	40.676
1912 г.	228	168	48.155	372	23.899	540	72.054
1921 г.	352	69	226.081	12	1.711	81	226.081
1926 г.	324	27	51.303	5	560	35	51.865
1927 г.	358	31	51.658	4	815	35	52.473
1928 г.	401	46	112.083	5	649	51	112.732
1929 г.	405	63	164.622	16	2.743	79	167.365

Примечание: с 1921 г. в данной таблице не приводится численность судов водоизмещением ниже 100 тонн.

Данные об общем тоннаже грузов экспорта и импорта Японии (в 1.000 тонн). В тоннаж включаются вес и объем грузов.

	Импорт	Экспорт
1924 г.	16.795	4.351
1925 г.	14.731	5.918
1926 г.	16.987	6.090
1927 г.	20.182	6.485
1929 г.	21.181	6.206
1930 г.	18.634	6.246

Данные об общем тоннаже судов, посетивших различные порт Японии в 1930 г. (в 1.000 тонн)

Порты	Заход	Уход
Кобе	15.173	15.055
Иокогама	10.390	10.153
Модзи	7.803	7.993
Осака	6.317	1.673
Друг. 39 портов	18.800	23.451
Итого	58.483	58.325

кризиса немало способствовала отмена золотого эмбарго. Эти причины, дают возможность предвидеть, какой застой ожидает японскую торговлю в будущем.

Приведенные выше цифры, показывают резкое падение внешней торговли Японии лишь в ценностном отношении, но в количественном отношении дело обстоит совершенно иначе, т.к. по данным Спешли банка, количество экспортных товаров в 1930 г. показало сокращение на 4,7%, против предыдущего года и количество импортных товаров также сокращение на 12,9%, а всего на 9%.

Из экспортных товаров Японии в 1930 г. самое значительное сокращение составили сырой шелк, хлопчатобумажные и шелковые ткани. В ценностном отношении экспорт сырого шелка сократился на 46%, хлопчатобумажных тканей—на 34% и шелковых тканей—на 32%.

Из импортных товаров наибольшее сокращение составили хлопок—на 35%, железо—на 41%, лес—на 40% и машины—на 29%.

Главными странами, в которые экспортировались японские товары, являются САСШ, Китай и Индия.

Экспорт Японии в САСШ в 1930 г. выразился в 506 млн. иен, что по сравнению с предыдущим годом показывает сокращение на 45%, в Китай—в 270 млн. иен или сокращение на 25%, а в Индию—в 130 млн. иен—или сокращение на 35%.

При этом необходимо заметить, что одновременно с сокращением японского экспорта в главные страны, экспорт в Африку, стрейтс-септмент и СССР продолжал повышаться.

Импорт Японии из САСШ в 1930 г. также показал сокращение на 32%, выразившись в сумме 422 млн. иен, из Индии—сокращение на 37%—выразившись в сумме 108 млн. иен.

Данные об экспорте и импорте Японии по отдельным странам в 1930 г., представляются в следующем виде: (в млн. иен)

	Импорт Японии	Экспорт Японии
Квантунская обл.	121,4	86,8
Китай	161,7	260,8
Гонконг	0,6	55,6
Британская Индия	180,4	129,3
Стрейт-септмент	28,9	26,9
Голландская Индия	60,0	66,0
Французск. Индо-Китай	7,9	2,4
Азиатская часть СССР	37,2	27,0
Филиппины	10,8	28,4
Сиам	18,8	9,5
Друг. страны Азии	4,7	5,1
Итого	632,4	704,0
Англия	92,6	60,7
Франция	16,6	26,3
Германия	106,2	11,1
Др. страны Европы	64,4	27,3
Итого	279,8	125,4

САСШ	442,9	506,1
Канада	46,2	17,9
Страны Южн. Америки	6,8	16,4
Страны Центр. Америки (включая Мексику)	0,4	4,7
Итого	496,3	545,1
Египет	16,2	29,0
С.Ш. Южн. Африки	1,6	14,2
Вост. Африка	4,5	10,7
Друг. части Африки	1,7	3,2
Итого	24,0	57,0
С.Ш. Австралии	94,3	25,5
Друг. части Австралии	3,9	10,1
Итого	98,2	35,6
Друг.	15,4	2,7
Всего	1.546,1	1.469,9

Данные об оборотах по внешней торговле Японии в 1930 г. по отдельным месяцам, представляются в нижеследующем виде: (в тыс. иен)

	Экспорт	Импорт	Превышение
Январь	146.004	182.751	Имп. 36.747
Февраль	118.933	160.296	„ 41.363
М а р т	135.911	182.746	„ 46.835
Апрель	117.294	148.484	„ 31.190
М а й	115.103	155.527	„ 40.424
Июнь	98.949	126.234	„ 27.285
Июль	117.296	104.623	Эксп 12.673
Август	127.683	96.014	„ 31.669
Сентябрь	130.683	92.341	„ 38.342
Октябрь	128.512	102.598	„ 25.914
Ноябрь	117.476	95.687	„ 21.788
Декабрь	116.009	98.749	„ 17.260

Данные о важнейших товарах, экспортированных из Японии в 1930 г. за границу и приблизительное ценностное выражение их, представляются в следующем виде:

Рис очищенный и неочищенный	19.583	Шерсть	73.610
Пшеница	41.509	Л е с	53.024
Б о б ы	49.784	Парпу для пряжи	12.084
Сахар	25.973	Шерстяная пряжа	14.149
Семена на масло	19.969	Чугун	15.846
Каменный уголь	34.204	Проч. железо	77.762
Каучук	17.931	Свинец	11.117
Сернистая аммония	29.624	Цинк	4.995
Хлопок-сырец	362.047	Нефть	37.867
Жмыхи	66.417	Шерстяные ткани	11.434
		Машины	85.714

Внешне-торговые обороты Японии в каждом году в отдельности, начиная с 1868 г. (года реформы „Исин“) выражаются в следующих

Если проследить создавшееся положение в отношении цен на товары, то средний индекс цен на оптовые товары, составленный Государственным банком Японии „Нихон Гинко“ в декабре 1930 г. составил 128, тогда как в апреле 1929 г. данный индекс составлял—167.

Такое резкое падение цен на оптовые товары имеет мало прецедентов в истории современной Японии.

Необходимо заметить, что после октября 1930 г. депрессия в финансовом мире Японии, хотя временно и ослабла, но цены на товары продолжали падать, правда в незначительной степени, показав в марте 1931 г. даже некоторое повышение.

Индекс курса акций после октября 1930 г. каждый месяц продолжал постепенно повышаться и в мае 1931 г. составлял—57,3. К тому же в то время развивавшаяся сравнительно благоприятно внешняя торговля, немало способствовала устранению финансовых затруднений Японии.

Устранению финансовых затруднений способствовало также в значительной степени проведение ограничения производства и достигнутое между картелями соглашение о сбыте товаров.

Концентрация постоянного капитала и оставление его в состоянии бездеятельности, вследствие сокращения операций в предприятиях, вызывает неминуемое повышение себестоимости товаров.

Ввиду отсутствия надежд на изменение к лучшему депрессивного положения финансового мира САСШ, на восстановление китайского рынка и на отмену заградительных пошлин в Индии и Австралии, незначительное успокоение, наступившее в финансовом мире Японии в 1 полугодии 1931 г., вероятно продержится весьма недолго.

Вслед за отменой эмбарго на золото, общая сумма звонкой монеты, вывезенной за границу в 1 полугодии 1931 г. составила около 300 млн. иен. Но это обстоятельство, вследствие использования свободных фондов и резкого сокращения обращения капитала на денежном рынке, не оказало непосредственного влияния на состояние финансового мира Японии, отразившись лишь на обращении денежных знаков, хождение которых значительно сократилось.

Сокращение средней месячной эмиссии денежных знаков после июня 1930 г., по сравнению с предыдущим годом выразилось в сумме 150-170 млн. иен.

Одновременно вклады в частных банках всей Японии уменьшились в значительных размерах, создав затруднение для различных предприятий в денежных оборотах.

При создавшемся затруднительном положении, по инициативе крупных и виднейших финансистов была создана „Ассоциация финансовой помощи предприятиям“. Результаты сказались в дальнейшем повышении содействия крупнейших финансистов различным предприятиям и укреплении гегемонии финансового капитала.

При сложившейся в дальнейшем конъюнктуре казалось, что колебания в финансовом мире Японии в будущем устранены надолго. Но вместе с этим появилась тенденция к перемещению вкладов из банков в почтовые учреждения, т.к. процент в банках оказался ниже процентов в полевых.

Под влиянием усиливающейся конъюнктуры и настойчивых требований банкиров, правительство в августе 1930 г. вынуждено было прибегнуть к понижению процентов по почтовым вкладам на 0,6%, т.е. с 4,8% до 4,2% в год. Впоследствии, вялость денежных оборотов в течение 1 полугодия 1930 г., вынудила Государственный банк снизить дневную процентную ставку в размере 0,1 сены на каждые 100 иен в день по всем операциям в октябре того же года.

Усилившаяся вялость денежных оборотов с наступлением 1931 г., способствовала появлению небывало низких процентов.

С последовавшей затем временной отменой золотого стандарта в Англии, Госбанк Японии в октябре 1931 г. повысил учетный процент в размере 0,2 сен на каждые 100 иен в день по всем операциям, чтобы предотвратить дальнейшую утечку золота за границу.

После отмены эмбарго на золото, утечка такового за границу в течение 1930 г. в итоге выразилась приблизительно в 267 млн. иен, а в 1931 г., вследствие закупки золота, добытого в Японии и ввезенного из Китая и Сибири, золотой запас Государственного банка пополнился на 25 млн. с лишним иен.

Согласно баланса Госбанка на 20 июля 1931 г., выпуск денежных знаков выразился в сумме 984 млн. иен, а запасный фонд составлял—849 млн. иен.

VIII. ВНЕШНЯЯ ТОРГОВЛЯ ЯПОНИИ.

Вследствие ощущающегося у населения недостатка в средствах к существованию, в Японии импорт всегда превалировал над экспортом. Как исключение, лишь во время мировой войны экспорт превысил импорт, но по окончании войны положенное вновь вернулось к старому.

Внешняя торговля Японии в 1930 г. выразилась по экспорту в 1.469 млн. иен и по импорту — в 1.546 млн. иен, составив в общем обороте 3.016 млн. иен. По сравнению с предыдущим годом экспорт сократился на 679 млн. иен или 31,6%, импорт — на 670 млн. иен или 30,2% а в общем итоге сокращение внешней торговли Японии за 1930 г. выразилось в сумме 1.349 млн. иен или 39%.

Падение внешней торговли наблюдается не только в Японии, но в международном масштабе. Падение внешней торговли объясняется сокращением рынков сбыта под влиянием резкого падения цен на товары и возникновения ожесточенной борьбы вокруг таможенных пошлин.

По данным Министерства Торговли и Промышленности Японии, процент сокращения внешней торговли Японии, Англии и САСШ в 1930 г. против предыдущего года, выражается в нижеследующих цифрах:

	%-т сокращен. экспорта.	%-т сокращен. импорта.
Япония	31,6	30,2
Англия	21,6	14,4
САСШ	26,7	30,1

Как видно из приведенной таблицы, процент сокращения внешней торговли Японии значительно выше, чем таковой же в Англии и САСШ. Падению внешней торговли Японии, помимо мирового экономического

ное распределение вкладных фондов в крупных банках и способствует росту кадров безработных.

Ряд указанных причин, привел японское правительство к принятию политики рационализации народного хозяйства и отмены эмбарго на вывоз золота за границу. Но эти мероприятия правительства вызвали лишь повышение капиталистических прибылей, рабочим-же, крестьянам и всем трудящимся вообще, наоборот, принесли крайнюю нужду, обнищание и усиленную эксплуатацию.

При создавшемся, крайнем, экономическом кризисе, японское правительство было вынуждено принять политику строгой экономии. Так напр. фактический госбюджет за 1930 г., правительством был урезан, а некоторые статьи его отсрочены исполнением в сумме — 60.510.000 иен, а при составлении госбюджета на 1931 г. произведено сокращение сметы, по сравнению с фактическим госбюджетом предыдущего года на 160.630.000 иен. Затем были понижены, хотя и в незначительной степени акцизные ставки на некоторые предметы, а в мае 1931 г. проведено сокращение окладов жалованья всех чиновников.

Кроме того, правительство, при полупаническом состоянии экономического мира страны во втором полугодии 1930 г. вынудило Ипотечный банк предоставить чрезвычайную ссуду в сумме нескольких тыс. иен, в целях предотвращения банкротств различных предприятий и обществ.

Деревне, разорившейся под влиянием резкого падения цен на рис и шелк-сырец, правительство не раз приходило на помощь, путем предоставления некоторых ссуд по низким процентам из запасного фонда Вкладного отдела. Затем правительство провело ограничение ввоза заграничного риса, повышение таможенных тарифов на ввозимый в Японию рис, улучшение сбыта японского риса на заграничных рынках и закупку риса на внутренних рынках.

В качестве соответствующего мероприятия для борьбы с возрастающей безработицей, правительство утвердило выпуск провинциального займа и само выпустило госзаймы для разрешения проблемы безработицы, образовав фонд денежной помощи а в предприятиях, организованных в целях борьбы с безработицей.

Путем принятия приведенных мероприятий, японское правительство стремилось найти выход из тяжелого положения.

В связи с переживаемым тяжелым моментом и госбюджет на 1931 г. был составлен в рамках режима строгой экономии, при чем общая сумма его выразилась в 1.489.274.542 иены—цифра небывалая за время с 1922 г.

Данные о сметах годовых расходов на 1931 г. по отдельным министерствам, выражаются в следующих цифрах:

	(в тыс. иен)	
	Обыкновен. часть	Чрезвычайн. часть
Дворцовые расходы	4.500	—
Мин-во Иностран. Дел	15.175	2.400
— Внутрен. Дел	44.543	61.756
— Финансов	310.479	14.684
— Военное	172.275	16.108

— Морское	141.209	69.131
— Юстиции	31.769	497
— Нар. Просв.	131.295	7.469
— Земледелия	28.740	26.130
— Торг. и Пром.	4.912	6.008
— Почт и Телегр.	292.467	40.127
— Колоний	2.407	24.428

Вне-госбюджетные ассигнования на 1931 г. (в тыс. иен)

	Год. доходы	Год. расходы
Корейское генерал-губернаторство	238.572	238.572
Формозское генерал-губернаторство	114.964	114.964
Департамент табачной монополии	368.741	172.632

Сумма годового расхода обыкновенной части госбюджета за последние 10 лет, распределяется между административным (А) и военными (Б) издержками, а также фондом, предназначенным на погашение госзаймов (В), в следующем виде:

	А.	Б.	В.	Итого.
1921 г.	647.259.950	730.568.376	112.027.287	1.489.855.613
1922 г.	709.714.705	604.801.186	115.173.731	1.429.689.622
1923 г.	858.796.558	499.071.426	163.182.321	1.521.050.305
1924 г.	981.891.372	455.192.998	187.939.703	1.625.024.073
1925 г.	859.718.381	443.808.181	221.462.028	1.524.988.590
1926 г.	911.358.720	434.248.885	223.218.820	1.578.826.425
1927 г.	991.949.604	491.639.932	282.133.544	1.765.723.080
1928 г.	1.011.916.799	517.237.674	285.700.539	1.814.855.012
1929 г.	961.054.192	494.920.075	280.342.788	1.736.317.055
1930 г.	863.672.524	473.724.180	271.242.260	1.608.638.964

Для сведения.

Приблизительная смета годовых доходов и расходов обыкновенной части госбюджета на последующие 10 лет с 1931 г. (По данным Министерства Финансов), выражается в нижеследующих цифрах: (в тыс. иен)

	Годовые доходы			Годовые расходы		
	Обыкновен. часть	Чрезв. часть	Итого	Обыкновен. часть	Чрезв. часть	Итого
1931 г.	1.394.295	64.476	1.458.772	1.179.777	268.751	1.448.528
1932 г.	1.366.429	65.270	1.431.700	1.175.634	254.145	1.429.780
1933 г.	1.367.156	57.516	1.424.672	1.176.578	243.675	1.420.254
1934 г.	1.375.284	52.219	1.427.503	1.175.853	250.287	1.426.141
1935 г.	1.381.700	51.841	1.433.541	1.177.066	253.632	1.430.699
1936 г.	1.381.266	51.027	1.432.294	1.179.291	251.425	1.430.716
1937 г.	1.385.776	45.404	1.431.182	1.182.899	247.246	1.430.146
1938 г.	1.385.238	31.387	1.416.625	1.173.364	237.252	1.410.617
1939 г.	1.385.273	30.618	1.415.891	1.170.791	212.532	1.383.324
1940 г.	1.384.865	30.461	1.415.326	1.168.134	191.704	1.359.838

Кризис в финансовом мире САСШ, наступивший немедленно вслед за финансовой катастрофой, разразившейся на Нью-Йоркской фондовой бирже в октябре 1929 г., поставил в аналогичное положение, с наступлением 1930 г., все страны мира. При этом Япония, отменившая эмбарго на золото, вопрос о котором оставался неразрешенным много лет, и проводящая коренную реформу по урегулированию финансов, очутилась в сравнении с другими странами в наихудшем депрессивном положении.

Таблица № 3.

Общее водоизмещение 8 судов, неограниченных постройкой 281.093 тони

Таблица № 4.

Общее водоизмещение 8 судов особого назначения 39.250 „
Технические материалы для военно-морского воздушного флота.
Гидропланы, находящиеся в распоряжении эскадр.

а) Гидропланы, принадлежащие прибрежному воздушному флоту, в число которых не входят гидропланы, употребляемые для практического и технического обучения.

Общее число гидропланов 472.

Общая мощность моторов этих гидропланов 350.370 лошади. сил.

б) Общее число гидропланов на авио-матках 329.

Мощность моторов 169.120 лошади. сил.

Примечание: В это число входят гидропланы, постройка которых только пока намечена.

РАСХОДЫ ВОЕННО-МОРСКОГО ФЛОТА.

Общая сумма расходов морского министерства в 1929/30 г. 267.665.067 иен.

Примечание: В эту сумму включены.

а) Расходы на содержание воздушного флота.

б) Расходы на тот же год и из тех же сумм, которые предназначены для распределения на определенный срок.

Расходы предназначенные для распределения на определенный срок после истечения 1931 г.

Общая сумма 288.530.726 иен

Максимальная сумма годовой доли 85.274.160 „

VI. ОБРАЗОВАНИЕ.

Учебных заведений всех категорий в Японии в марте 1929 г. насчитывалось 46.906 с общим числом учащихся—324.000 чел. и учащихся—12.395.000 чел. Приведенное общее число учащихся составляет свыше 20% общей численности населения собственно Японии в том же году.

В число вышеприведенных учебных заведений входят: 1.294 детских приюта, 25.806 начальных школ, 546 мужских и 940 женских гимназий, 31 высшая гимназия, 40 университетов, 102-высших специальных учебных заведения, 104-учительских семинарий, 4 педагогических института, 66-учительских школ, 649 коммерческих училищ (А), 212 коммерческих училищ (Б), 51 торгово-промышленное специальное училище, 15.297 торговопромышленных дополнительных училищ, 119 школ для слепых и глухонемых и 1.795 различных учебных заведений.

Процент неграмотных японцев, в связи с введением обязательного начального обучения, в последние годы сильно понизился.

По предположениям численность неграмотных мужчин составляет менее 6%, хотя неграмотность среди женщин гораздо большая, чем среди мужчин.

Процент неграмотных среди призванных на военную службу молодых людей в 1929 г. выразился лишь в 0,52%.

Общая сумма ассигнований правительства, губернских, городских и друг. местных органов на образование в 1928 г. выразилась в 536.471.000 иен, из которых сумма ассигнований на обязательное начальное обучение составила 329.147.000 иен.

Что касается организаций юной и совершеннолетней молодежи обо-го пола, то на 1 июня 1930 г. таких организаций для малолетних насчитывалось 732 с охватом 71.888 чел. членов.

Число организаций молодежи юношеского и совершеннолетнего возраста выразилось в 16.289 с числом членов в 2.577.420 чел.

Число организаций юной и совершеннолетней молодежи женского пола на 30 апреля 1930 г. достигало 14.256 с числом членов в 1.616.684 чел.

В марте 1929 г. общее число организаций для допризывной подготовки молодежи достигало 15.766 с охватом 843.702 чел. членов, причем число окончивших полный курс обучения в этих организациях в том-же году выразилось в 112.375 чел.

Число библиотек в Японии в 1929 г.

Казенных	1
Муниципальных	3.152
Частных	1.337
Всего	4.490
Общее число книг	8.592.000 экз.
Общее число читателей в 1929 г. достигало	22.847.000 чел.

VII. ФИНАНСОВОЕ И ЭКОНОМИЧЕСКОЕ ПОЛОЖЕНИЕ.

Капитализм Японии, выросший быстрым темпом за время мировой войны, подвергся чувствительным ударам при ряде финансовых паник, возникавших после войны в 1923, 1927 и 1929 г. г. Тем не менее его производительность продолжает значительно повышаться, свидетельствуя о достижении капитализмом в Японии командных высот.

Но основное противоречие, существующее между его производительностью и рыночной конъюнктурой попрежнему остается неустранимым. На внешних рынках Японии, как напр. на китайском, являющимся особо-важным для японского капитализма, организованное анти-японское движение и выступления английского и американского капиталов, поставили японский капитализм в настоящее время в безвыходное положение. На внутренних рынках вследствие депрессивного и даже критического положения сельских хозяйств, а также относительного понижения заработной платы рабочих, покупательная способность населения постепенно ослабевает.

Таким образом, отсутствие рынков, соответствующих развитию производственных сил, вызвало и вызывает дальнейшее сокращение производства, задержку в сбыте остающихся в запасе товаров, неравномер-

Регулярная армия Японии состоит из 17 дивизий, Формозского и Квантунского гарнизонов, подразделяясь по родам оружия на следующие:

Пехота	70 полков и 6 батальонов
Кавалерия	25 "
Артиллерия полев.	15 "
Горная артиллерия	4 полка и 1 дивизион
Конная артиллерия	1 дивизион
Тяжелая полев. артиллерия	8 полков
Тяжелая артиллерия	3 полка и 8 дивизионов
Саперные части	17 батальонов
Жел.-дорожн. части	2 полка
Телеграфн. части	2 полка
Военно-воздушный флот	8 полков
Аэростаты	1 отряд
Обозные части	15 батальонов
Танковые части	1 отряд
Артиллерия для стрельбы по воздушному флоту	1 полк

Согласно сведений, приготовленных к предстоящей международной конференции по разоружениям, открытие которой предположено в феврале 1932 г., представленных 17 сентября в Бюро Лигий Наций, через японского посла во Франции г. Иосизава и опубликованных Министерством Иностранных Дел 16 сентября, т.е. накануне представления сведений в Лигу Наций, данные о состоянии вооруженных сил Японии в настоящее время, представляются в нижеследующем виде:

ОБЩИЙ СОСТАВ ЯПОНСКОЙ АРМИИ.

1. Общий состав японской армии в среднем в год.
 - а) Общая численность военнослужащих, за исключением воздушного флота военного ведомства—259.304 чел., в том числе 17.343 офицера.
 - б) Общая численность чинов военно-воздушного флота—6.944 чел.
 В общее число военно-служащих входят, состоящие на действительной службе:
 - а) Офицеры, зауряд-офицеры, унтер-офицеры и нижние чины.
 - б) Те же, состоящие в ополчении 1 и 2 разряда, призываемые в ряды армии в необходимых случаях, на основании существующих законоположений.
 - в) Юнкера военных училищ и т. д.

ВОЕННО-ВОЗДУШНЫЙ ФЛОТ.

Общее число самолетов военно-воздушного флота—858, из которых 254 аппарата являются запасными.

Примечание: В указанное число не входят аппараты, употребляемые для практического обучения.

ВОЕННЫЕ РАСХОДЫ.

Суммы ассигнований, отпущенных Военным Министерством на разные расходы на 1 год, начиная с 1 апреля 1929 г. по март 1930 г., выражаются в нижеследующих цифрах:

Расходы обыкновенной части	227.255.007 иен
В том числе расходы, предназначенные на определенный срок	39.179.895 „
Расходы на военно-технические материалы	32.751.441 „
В том числе расходы, предназначенные на определенный срок	13.362.369 „

Примечание: В обыкновенную часть включены расходы на содержание военно-воздушного флота и расходы на покупку различных материалов для военных нужд.

Суммы расходов, предназначенных к распределению на известный срок в последующие, начиная с 1931 года, выражаются в нижеследующих цифрах:

	Общая сумма	Максимальн. доля годовой суммы.
Из суммы расходов обыкновенной части	523.749	84.599
Из расходов на различные военные материалы	307.149	56.347

ВОЕННО-МОРСКОЙ ФЛОТ ЯПОНИИ.

Численный состав чинов, судов, общее водоизмещение судов и все вооружения военно-морского флота Японии приводятся на основании данных на 1 июля 1931 г.

1. Общая численность военных моряков, в среднем в год — 88.199 чел. Из них находятся в составе военно-морского воздушн. флота 9.877 чел.

Примечание: В общее число моряков входят:

- а) Состоящие на действительной службе офицеры, старшие зауряд-офицеры, зауряд-офицеры унтер-офицеры и матросы.
 - б) Те же, призываемые из ополчения 1 и 2 разряда, в необходимых случаях, на основании существующих законоположений.
 - в) Гардемарины военно-морских училищ.
- Постоянный состав (кадр) военно-морского флота — 138.026 чел.

Таблица № 1.

Общее водоизмещение военно-морских судов флота Японии 850.328 тонн

Таблица № 2.

Общее водоизмещение судов, ограниченных постройкой:

1.—10 броненосных судов	298.400 тонн
2.—4 авио-маток	68.870 „
3.—Общее водоизмещение крейсеров:	
Вооруженных пушками калибром в 155'— 14 крейсеров	124.120 „
Вооруженных пушками калибром меньше 155"—24 крейсеров	127.375 „
4.—119 контр-миноносцев	142.021 „
5.—Подводных лодок	89.542 „

кабинета партии Минсейто и ожидающемся его падении с минуты на минуту.

УХОД В ОТСТАВКУ КАБИНЕТА МИНСЕЙТО. В связи с создавшимся безвыходным положением, в результате поднятого г. Адачи вопроса о создании коалиционного кабинета, пленарное заседание кабинета министров Японии, для разрешения своей дальнейшей судьбы, было назначено в 9 час. утра 11 декабря в официальной резиденции премьер-министра при участии Министра внутренних дел г. Адачи.

Перед созывом заседания, кабинетом министров было принято предварительное решение, в том случае, если г. Адачи не изменит своей непреклонной позиции, уйти в отставку в полном составе.

Вопрос об уходе в отставку должен был быть разрешенным окончательно после тщательного обсуждения на официальном заседании кабинета. Но г. Адачи в 8 ч. 40 м. утра, перед созывом назначенного заседания, через г. Кавасаки—генсекретаря кабинета министров сообщил премьер-министру, что он по болезни лишен возможности принять участие в заседании.

Вследствие отказа г. Адачи, назначенное пленарное заседание кабинета не состоялось и в 11 час. утра открылось сразу официальное заседание кабинета, без участия г. Адачи.

Открыв заседание премьер-министр барон Вакацуки обратился с речью к министрам, не состоящим членами партии Минсейто, в которой подробно обрисовал весь процесс движения за создание коалиционного кабинета, возникшего по инициативе группы известных политических деятелей, во главе с г. Адачи и охарактеризовал создавшееся положение.

Закончив свою речь, премьер-министр предложил подвергнуть всестороннему обсуждению вопрос о создании коалиционного кабинета.

В результате обсуждения и обмена мнениями, все участники заседания пришли к заключению, что вследствие непреклонно твердой позиции г. Адачи, в дальнейшем кабинет министров в теперешнем виде и составе не может оставаться у власти и вынужден подать в полном составе в отставку, приняв всецело на себя ответственность за возникновение разногласий, отсутствие единения внутри кабинета и за все последствия настоящего шага правительства.

Таким образом окончательное решение о подаче кабинета партии Минсейто в отставку было официально принято на заседании кабинета министров 11 декабря 1931 г.

В тот же день вечером о подаче в отставку, премьер-министром бароном Вакацуки было опубликовано пространное заявление.

После ухода в отставку кабинета министров партии Минсейто, формирование нового кабинета **ВЫСОЧАЙШИМ** Указом было возложено на президента партии Сейюкай г. Инукай и 13 декабря в 2 часа дня во дворце состоялась торжественная церемония назначения ЕГО ВЕЛИЧЕСТВОМ Императором Японии нового кабинета министров партии Сейюкай во главе с г. Инукай.

ВТОРИЧНОЕ НАЛОЖЕНИЕ ЭМБАРГО НА ЗОЛОТО.

Немедленно по сформировании и **ВЫСОЧАЙШИМ** назначении состоялось первое заседание нового кабинета министров, на котором после краткого обсуждения, было принято окончательное решение о вторичном наложении эмбарго на золото.

В силу принятого кабинетом министров решения о вторичном наложении эмбарго на золото, Министерством Финансов в тот же день было опубликовано нижеследующее распоряжение:

ПРИКАЗ МИНИСТЕРСТВА ФИНАНСОВ ОТ 13 ДЕКАБРЯ 1931 Г.

1. Лицам, желающим вывезти за границу из Японии золото в монете или слитках, надлежит получить соответствующее разрешение от Министра Финансов.
2. Лица, виновные в нарушении данного приказа будут привлечены к законной ответственности и подвергнуты взысканию: заключению в тюрьму на срок не свыше 3 месяцев или денежному штрафу в сумме не превышающей 100 иен.
3. Лица виновные в укрывательстве, перечеканке или переплавке, без надлежащего разрешения будут привлечены к законной ответственности и подвергнуты тем же взысканиям, которые перечислены в параграфе 2 настоящего приказа.

Примечание: настоящий приказ вступает в силу со дня опубликования.

V. ОБОРОНА СТРАНЫ.

Все государства мира, задыхаясь под бременем чрезмерно больших расходов на содержание вооруженных сил, в последнее время стремятся принять такую политику в отношении гособороны, которая могла бы дать возможность сократить в значительной степени наличные вооруженные силы в мирное время, а в случае крайней необходимости или возникновения войны, легко мобилизовать весь народ страны, вооружив его по последнему слову военной техники. В этих целях почти во всех странах введено обязательное военное обучение молодежи. В этом отношении Япония также не составляет какого-либо исключения.

Общая сумма расходов Японии на военные нужды в промежутки времени с 1923 по 1931 г., выражается в нижеследующих цифрах:

(в млн. иен)

	Армия.	Военно-морской флот.	Итого.	%% отношен. к общим госрасходам.
1923 г.	223,9	275,1	499,0	32,8%
1929 г.	227,3	267,7	496,0	28,6%
1930 г.	210,8	262,9	473,7	29,5%
1931 г.	188,7	210,3	398,7	27,6%

Нынешнее состояние вооруженных сил Японии представляется в нижеследующем виде:

РИККЕН СЕЙЮКАЙ—политическая партия, основанная в 1900 году князем Ито. Лидерами Риккен Сейюкай были: Ито, Сайондзи, Хара, Такахаси, Танака и ныне Инукай.

Партия Риккен Сейюкай представляет интересы землевладельцев и части крупной промышленной и финансовой буржуазии.

С 1928 г. на арену легальной политической борьбы выступили рабочие партии, которые на парламентских выборах того же года получили 8 депутатских мест, а вслед затем за ними осталось 7 мест, т.к. один из депутатов левой пролетарской партии г. Ямамото стал жертвой террористического акта со стороны японских фашистов, во время сессии Парламента в 1929 г.

В настоящее время рабочим партиям в Парламенте принадлежит только 5 мест-депутатам правого крыла.

Кроме того в парламенте имеет места партия Какусинто (партия реформ) и беспартийные.

РИККЕН МИНСЕЙТО—партия Риккен Минсейто создана из реорганизованной партии Кенсей-кай, основателем которой был умерший виконт Като. В настоящее время Риккен Минсейто представляет, главным образом, интересы финансового капитала.

Лидером партии Риккен Минсейто до последнего время состоял скончавшийся осенью 1931 г. г. Хамагучи Юкоо, который вследствие серьезного ранения, нанесенного ему при покушении на его жизнь 14 ноября 1930 г. на станции Токио, еще в апреле 1931 г. был вынужден выйти в отставку и оставить как пост лидера партии, так и пост премьер-министра. По уходе в отставку г. Хамагучи, на пост премьер-министра Японии вступил барон Вакацуки Рейдзироо, являющийся в настоящее время лидером партии Риккен Минсейто.

В парламенте партия проводит программу разрешения рабочего вопроса, путем согласования интересов правых рабочих и предпринимателей; в финансовых вопросах-проводила политику отмены эмбарго на золото и строгого режима экономии.

Из партии Риккен Минсейто в 1928 г. вышел второй ее лидер Токонами—бывш. министр внутренних дел и лидер Сейю-Хонто, который образовал свою самостоятельную партию Синто-Курабу. Эта партия просуществовала, однако, недолго и после того как пал кабинет барона Танака, распалась окончательно, при чем часть членов ушла в Сейюкай, часть же в другие партии.

Кабинет партии Риккен Минсейто, пришедший к власти после падения кабинета г. Танака 2 июля 1929 г. просуществовал до 11 декабря 1931 г.

Уходу в отставку кабинета барона Вакацуки, предшествовали нижеследующие события:

По поводу поднятого вопроса о создании коалиционного кабинета министров, энергично поддерживаемого Министром Внутренних Дел г. Адачи, несмотря на временное прекращение активного движения в стране за осуществление данного проекта, 10 декабря 1931 года, г. Томита—член президиума партии Минсейто произвел громадную сен-

сацию своим выступлением о необходимости создания объединенного кабинета министров.

Названный г. Томита в 1 час дня 10 декабря, имея при себе надлежащую резолюцию группы единомышленников за создание объединенного кабинета, неожиданно посетил премьер-министра барона Вакацуки в его официальной резиденции и на имевшем место свидании твердо настаивал на необходимости сформирования в кратчайший срок нового кабинета министров, принимая во внимание переживаемый момент.

Немедленно по совещании с г. Томита, премьер-министр барон Вакацуки, учитывая важность создавшегося положения и всю серьезность поднятого вопроса, созвал на своей официальной квартире заседание всех членов кабинета и по открытии заседания внес на обсуждение вопрос о создании коалиционного кабинета. При обсуждении этого вопроса все члены кабинета, за исключением Министра Внутренних Дел г. Адачи твердо возражали против создания нового кабинета и твердо настаивали на необходимости оставления кабинета в старом виде. Но во время прений, один г. Адачи—Минвнутдел твердо придерживался взгляда о необходимости безотлагательного создания коалиционного кабинета, в целях, как он доказывал, укрепления положения государства и устранения всех возникших перед тепершним правительством затруднений. Но вопреки всем стараниям, заявление г. Адачи было оставлено без внимания всеми остальными министрами, отнесшимися отрицательно к мысли о создании коалиционного кабинета и в заключение все министры потребовали от г. Адачи прекращения всякого движения, угрожающего существованию кабинета.

В ответ на последнее требование г. Адачи категорически отказался от изменения своего взгляда на создавшееся положение, выразив при этом уверенность в неизбежном падении кабинета Минсейто, необходимым, по его мнению, для блага государства и всего японского народа.

В конце концов, в результате длительных дебатов, все члены кабинета предложили г. Адачи, в том случае, если он не согласится на изменение своего взгляда и будет твердо настаивать непременно на необходимости создания коалиционного кабинета, немедленно уйти единолично в отставку. На это предложение г. Адачи обещал представить решительный ответ в тот же день и немедленно оставил заседание, дав слово возвратиться через некоторое время. Но вопреки всем ожиданиям в назначенный срок г. Адачи не явился и заседание кабинета министров уже без его участия продолжалось до 3 час. утра следующего дня.

По возвращении в свою резиденцию, вопрос о создании коалиционного кабинета г. Адачи подверг тщательному обсуждению с вызванными им своими главными единомышленниками: г. г. Томита, Ямадзи-генсекретарем партии Минсейто и Накано—членом президиума названной партии.

В результате длительного обсуждения упомянутого вопроса участниками совещания, во главе с г. Адачи, было принято окончательное решение об осуществлении проекта о создании коалиционного кабинета.

В тот же день японская печать сообщила о критическом положении

МИНИСТЕРСТВО ЖЕЛЕЗНЫХ ДОРОГ.

Министр Железных Дорог	—Токонами Такедзиро
Товарищи министра :	—Вакао Сиохачи
	—Кубота Кейичи
Член коллегии	—Нода Сюнсаку

МИНИСТЕРСТВО КОЛОНИЙ.

Министр колоний	—Хата Тоносукэ
Товарищи министра :	—Като Кумесиро
	—Хорикири Дзэндзиро
Член коллегии	—Макино Сидзуо

Председатель Законодательной Палаты	—Симада Тосио
Начальник Главного Полицейского Управления	—Оно Рокунчиро
Генерал-губернатор Кореи	—Угаки Иссей
Начальник Политического управления при Корейском генерал-губернаторстве	—Имаида Сейтоку
Генерал-губернатор Формозы	—Минами Хироси
Начальник Управления Квантунской области	—Ямаока Манносукэ
Начальник Управления Южного Сахалина	—Кисимото Масао
Президент Южно-Маньчжурской железной дороги-граф Учида Коосай	
Вице-президент Ю.М.ж.д.	—Эгучи Тейдзи

СОСТАВ МИНИСТЕРСТВА ИНОСТРАННЫХ ДЕЛ ЯПОНСКОГО ПРАВИТЕЛЬСТВА.

Министр Иностранных Дел	—Иошизава Кенкичи
Товарищи министра :	—Ивасиро Риютоку
	—Нагаи Мацузoo
Член коллегии	—Такахаси Кумазиро

Канцелярия Министерства.

Секретарь Министерства	—Киси Курамацу
Отдел Личного персонала Заведующий	—Митани Таканобу
Канцелярский отдел Заведующий	—Курихара Таласи
Счетный отдел Заведующий	—Мацумия Дзюн
Переводный отдел Заведующий	—Курихара Таласи
Отдел телеграфных сообщений Заведующий	—Сакума Макото

ДЕПАРТАМЕНТ, ВЕДАЮЩИЙ СНОШЕНИЯМИ С ГОСУДАРСТВАМИ АЗИИ.

Начальник Департамента	—Тани Масаюки
Первый отдел Заведующий	—Морисима Гороо
Второй отдел Заведующий	—Миура Такеми

ДЕПАРТАМЕНТ, ВЕДАЮЩИЙ СНОШЕНИЯМИ СО СТРАНАМИ ЕВРОПЫ И АМЕРИКИ.

Начальник Департамента	—Мацусима Хадзимэ
Заведующие : Первым отделом	—Миязаки Кацутаро
Вторым отделом	—Окамото Суэмаса

ТОРГОВЫЙ ДЕПАРТАМЕНТ.

Начальник Департамента	—Такетоми Тосихико
Заведующие : Первым отделом	—Ниси Харухико
Вторым отделом	—Усами Чинхико
Третьим отделом	—Сакамото Риуки

ПРОТОКОЛЬНЫЙ ДЕПАРТАМЕНТ.

Начальник департамента	—Мацуда Мичиичи
Заведующие : Первым отделом	—Харима Тосихару
Вторым отделом	—Терасима Хиробуми
Третьим отделом	—Сато Шоосироо

ДЕПАРТАМЕНТ ПЕЧАТИ И ИНФОРМАЦИИ.

Начальник Департамента	—Сиратори Тосио
Заведующие : Первым отделом	—Амаги Токудзи
Вторым отделом	—Цуцуи Киюси
Третьим отделом	—Цуцуи Киюси

ОТДЕЛ КУЛЬТУРНЫХ РАБОТ.

Заведующий отделом	—Цубоками Тейдзи
Заведующие : Первым отделом	—Цубоками Тейдзи
Вторым отделом	—Эдо Сентароо

ПАРЛАМЕНТ.

Парламент Японии состоит из двух Палат: Верхней (Кидзокуин-Палата Лордов) и Нижней (Сюгиин-Палата Общин). Обе Палаты имеют одинаковые права. Верхняя Палата состоит из 401 члена (на 15 августа 1931 г.), из них: 16 принцев Императорского Дома, 14 князей, 28 маркизов, 18 графов, 66 виконтов, 65 баронов, 124 члена, назначенные за особые заслуги Императором, 66 представителей высоких налогоплательщиков и 4 представителя Академии Наук.

Нижняя Палата состоит из 466 членов, избираемых на 4 года. Общее число избирателей в настоящее время достигает 13 млн. чел. Женщины избирательного права лишены. Целый ряд лиц, раньше лишенных избирательных прав, пользуется таковыми в настоящее время, как напр. народные учителя (свыше 125.000 чел.), лица духовного звания, студенты и т. д.

IV. Политические партии.

В настоящее время в Парламенте представлены следующие политические партии: Риккен Сейюкай, Риккен Минсейто, Какусинто и Мусанто (пролетарский блок).

II. Богатство страны и доходы населения.

Государственное богатство Японии, по данным Статистического Бюро при кабинете Министров в конце 1924 г. в ценностном выражении составляло 102.342.000.000 иен, а общая сумма доходов населения Японии, также в конце 1924 г., была исчислена в —12.883.000.000 иен.

Государственное имущество Японии (земли, лесные угодья, здания технические сооружения, машины, аппараты, суда военного и коммерческого флота, акции, права на эксплуатацию горных промыслов и т.д.) по данным Министерства Финансов в конце 1928 г. были исчислены в 7.836.900.000 иен.

III. Краткие сведения о государственном устройстве Японии и ее важнейших учреждениях.

Во главе Японской Империи стоит Император, именем которого Кабинет Министров управляет страной.

ВЕРХОВНЫЙ ТАЙНЫЙ СОВЕТ.

При Императоре состоит Верховный Тайный Совет (Сумицуин), как совещательный орган. Верховный Тайный Совет состоит из 26 членов, председателя и вице-председателя. На его заседаниях также имеют право присутствовать все министры. Одной из важнейших функций Верховного Тайного Совета является его право толкования спорных статей конституции и разбор вопросов внешней политики.

Председатель Верховного Тайного Совета барон Куратоми Юзабуро.

КАБИНЕТ МИНИСТРОВ.

Кабинет министров назначается Императором и является органом административной власти.

Нынешний состав Кабинета Министров и важнейшие чины Министерств по каждому в отдельности, представлены нижеследующими лицами:

Премьер-министр—Инукай Такеси, лидер партии Риккен Сейюкай.

Личный секретарь премьер-министра—Инукай Кен.

Управляющий делами Кабинета Министров—Мори Каку.

МИНИСТЕРСТВО ИНОСТРАННЫХ ДЕЛ.

Министр Иностранных Дел	—Иошизава Кенкичи
Товарищи министра :	—Ивасиро Рютоку
	—Нагаи Мацусо
Член коллегии	—Такахаси Кумадзиро

МИНИСТЕРСТВО ВНУТРЕННИХ ДЕЛ.

Министр Внутренних Дел	—Инукай Такеси
Товарищи министра :	—Мацуно Цурухей
	—Каварада Токичи
Член коллегии	—Фудзий Тацуя

МИНИСТЕРСТВО ФИНАНСОВ.

Министр Финансов	—Такахаси Корекиё
Товарищи министра :	—Хорикири Дзенбей
	—Курода Хидео
Член коллегии	—Ота Масатака

ВОЕННОЕ МИНИСТЕРСТВО.

Военный министр	—ген.-лейт. Араки Садао
Товарищи министра :	—Вакамия Садао
	—Коисо Кунихару
Член коллегии	—виконт Токи Акира

МОРСКОЕ МИНИСТЕРСТВО.

Морской министр	—адмирал Осуми Кинсей
Товарищи министра :	—граф Хотта Масацуне
	—Саконси Масазо
Член коллегии	—Нисимура Сигеру

МИНИСТЕРСТВО ЮСТИЦИИ.

Министр Юстиции	—Судзуки Кисабуро
Товарищи министра :	—Кумагай Наота
	—Минакава Харухиро
Член коллегии	—Нагава Каничи

МИНИСТЕРСТВО НАРОДНОГО ПРОСВЕЩЕНИЯ.

Министр Народного Просвещения	—Хатояма Ичиро
Товарищи министра :	—Андо Масазуми
	—Авая Кен
Член коллегии	—Ямасита Танизи

МИНИСТЕРСТВО ЗЕМЛЕДЕЛИЯ И ЛЕСНОГО ХОЗЯЙСТВА.

Министр Земледелия и Лесного Хозяйства	—Ямамото Дейдзиро
Товарищи министра :	—Сунада Сигемаса
	—Исигуро Тадацу
Член коллегии	—Имай Кенхико

МИНИСТЕРСТВО ТОРГОВЛИ И ПРОМЫШЛЕННОСТИ.

Министр Торговли и Промышленности	—Маеда Ионезо
Товарищи министра :	—Накадзима Чикухей
	—Иосино Синдзи
Член коллегии	—Като Риогоро

МИНИСТЕРСТВО ПОЧТ И ТЕЛЕГРАФОВ.

Министр Почт и Телеграфов	—Мицучи Чузо
Товарищи министра :	—Учида Син'я
	—Охаси Хачиро
Член коллегии	—Сакай Дайсукэ

5. Ответ правительства	60
IV. Осложнение вопросов при послесезонной эвакуации японских рыбопромышленников ...	61
V. Японское рыболовство в открытых водах северных морей	62
VI. Новые дипломатические переговоры о рыболовных вопросах	64
Маньчжурские события и японо-советские дипломатические отношения	65
Обращение СССР к Японии с предложением о заключении пакта о ненападении	71
Отклики предложения Советского правительства в правительственных кругах Японии	72
Дипломатические представители СССР в Японии	73
Японские дипломатические представители в СССР	75
ИТОГИ ЯПОНО-СОВЕТСКИХ ЭКОНОМИЧЕСКИХ ОТНОШЕНИЙ ЗА 1931 Г.	
I. Итоги Японо-Советской торговли за 1931 г.	76
Торговый оборот между Японией и СССР за 9-цев 1931 г. по данным таможенных управлений Японии	78
II. Вопрос о кредите.	
1. Японо Советская торговля в переходном периоде	80
2. Важность вопроса о кредите	81
3. Тенденции и события	82
Торговое Представительство СССР в Японии	83
Список ответственных сотрудников Торгпредства	84
Список японских фирм и обществ, имеющих связи с СССР	85
ИТОГИ ЯПОНО-СОВЕТСКИХ КУЛЬТУРНЫХ ОТНОШЕНИЙ ЗА 1931 Г.	
1. Факторы развития культурной связи	90
2. Укрепление взаимоотношений при посредстве музыки	91
3. Импорт советских кино-фильм	92
4. Процесс сближения Японии и СССР при содействии японской техники	94
5. Издания посвященные СССР	95
6. На театральном фронте	96
7. Создание „Общества Друзей СССР“ и его деятельность	97
8. Друг. Японо-Советские отношения	98

Часть I. О Японии.

КРАТКИЕ СВЕДЕНИЯ О ЯПОНИИ.

I. Географическое положение и население.

Япония расположена на узкой полоске островов в пределах восточного побережья Азии от $50^{\circ}56''$ северной широты и $156^{\circ}30''$ восточной долготы на севере, до $21^{\circ}45''$ северной широты и $119^{\circ}18''$ восточной долготы на юге.

Территория Японии составляет из собственно Японии, состоящей из четырех больших островов: Хондо, Сикоку, Киусиу и Хоккайдо и свыше 400 малых островов, полуострова Кореи на азиатском материке, острова Формозы, южной части острова Сахалина, Квантунской области (в Китае), находящейся в арендном пользовании у Японии и мандатной территории-островов на Тихом океане.

Общая площадь Японии, включая колонии исчисляется в 674,7 тыс. квадратных километров.

Общая численность японского населения, по данным всенародной переписи 30 г. достигала 90.395.000 челов., в том числе—45.674.734 челов. мужчин и 44.720.307 челов. женщин, исключая общее число японцев, проживающих за границей (на 1 октября 1928 г. около 1.310 тыс. чел., включая корейцев и формозцев). Население это по своему территориальному составу делится на 6 следующих основных групп: население собственно Японии, население Кореи, население Формозы, население Южного Сахалина, население южно-океанских островов и население Квантунской области.

Из приведенной цифры населения Японии, при всенародной переписи население Кореи составляло 21.058.305 челов. и население острова Формозы—4.594.161 челов. Население собственно Японии делится на городское и сельское. В процентном отношении это деление выражается следующим образом: городского населения около 36% и около 64% сельского населения.

По тем же данным средняя плотность населения Японии составляла тогда около 135 челов. на 1 кв. километр. Прирост населения Японии за последние 5 лет (до 1930 г.) выражается в среднем по 940.000 челов. в год.

ПРЕДИСЛОВИЕ.

В промежуток времени со дня выпуска „Ежегодника Японо-Советских отношений“ на 1931 г. до составления такового на 1932 г., как у нас в Японии, так и во всем мире произошли небывало крупные изменения.

Одними из числа такого рода изменений мы считаем возникновение Маньчжурских событий и последовавшее вслед за ними обострение положения в Маньчжурии. Вторым является усиливающееся углубление мирового экономического кризиса и третьим — успешное выполнение 5-ти летнего плана в СССР со всеми вытекающими из этого последствиями.

Задержка в выпуске настоящего „Ежегодника“ на 1932 г. произошла вследствие позднего поступления точных данных о положении возникновения вышеупомянутых событий, давших богатый материал для составления японской части „Ежегодника“ и последовавшего изменения хозяйственного года с 1931 г. в СССР.

Хотя задержка в своевременном выпуске настоящего „Ежегодника“ произошла и не по нашей простой вине, но все же мы считаем своим неперменным долгом принести свои глубокие извинения перед уважаемыми г. г. читателями и подписчиками, ожидавшими с большим нетерпением появления „Ежегодника“, за происшедшее опоздание в его выпуске.

Однако, благодаря непредвиденной задержке в выпуске, мы имели возможность включить в японскую часть „Ежегодника“, не только все исчерпывающие итоги за истекший год, но по возможности и данные по апрель или даже май 1932 г.

Последние данные обогатили содержание японской части настоящего „Ежегодника“, дав возможность выпустить ее в увеличенном объеме.

Это, как мы полагаем, покрывает значительную часть погрешности в отсрочке срока выпуска.

Теперьшняя объективная обстановка, создавшаяся на пути Японо-Советских отношений требует более правильного понимания нашего народа о СССР и в свою очередь большего углубления знаний советских граждан об Японии для дальнейшего укрепления дружественных отношений между народами обеих стран.

Несмотря на обогащение содержания, между прочим японской части настоящего „Ежегодника“ за счет вышеупомянутых событий, снижение его стоимости на половину, сделано редакцией в стремлении пойти максимально навстречу насущным требованиям и запросам наших читательских кругов, интересующихся данными о переживаемом исключительно ответственным моменте.

Токио, 29 мая 1932 год.

„Ничиро-Цусин“

ОГЛАВЛЕНИЕ РУССКОЙ ЧАСТИ.

I ЧАСТЬ. О ЯПОНИИ.

КРАТКИЕ СВЕДЕНИЯ О ЯПОНИИ.

I. Географическое положение и население	1.
II. Богатство страны и доходы населения	2
III. Краткие сведения о государственном устройстве Японии и ее важнейших учреждениях:	3
IV. Политические партии	5
V. Оборона страны	9
VI. Образование	12
VII. Финансовое и экономическое положение	13
VIII. Внешняя торговля Японии	17
IX. Промышленность Японии	22
X. Горнопромышленность Японии	28
XI. Сельское хозяйство	33
XII. Искусство	40
XIII. Список политических, военных, промышленных, культурных и международных союзов, обществ и группировок в Японии.	43

II ЧАСТЬ. ЯПОНО-СОВЕТСКИЕ ОТНОШЕНИЯ.

ИТОГИ ЯПОНО-СОВЕТСКИХ ДИПЛОМАТИЧЕСКИХ ОТНОШЕНИЙ ЗА 1931 г.

I. Процесс переговоров по вопросу о рубле.

1. Начало дипломатических переговоров	51
2. Осложнение переговоров в Токио	52
3. Вокруг торгов на рыболовные участки	53
4. Обострение общественного мнения в обоих государствах	54
5. Достижение компромисса	55

II. О закрытии Владивостокского отделения

Чосен банка	55
--------------------	----

III. Рыболовные вопросы на 59-й очередной сессии

Парламента	57
1. Анкета, представленная депутатом г. Сунада	58
2. О пошлинах	59
3. Об изменении конструкции „татэ-ами“ и ограни- чении употребления крабовых сетей	59
4. Вопрос о рубле	60

ФАБРИКА РЫБОЛОВНЫХ СЕТЕЙ
„ОНОГИОМО СЕИДЗО КАЙША“

Префектура Миэ, г. Томита.

Почтовый ящик № 20, Томита.

Фабрика основана в 1932 г.

Производство и экспорт бумаж-
ных, льняных и шелковых
рыболовных сетей.



Акционерное Общество
Чаепромышленности

„Фудзи-Сейча“

ЭКСПОРТЕР ЯПОНСКОГО ЧАЯ.

Учреждено в 1888 г.

Главная контора : г. Сидзуока.



THE FUJI CO. Ltd.

Established 1887.

Exporters of Japan Tea.

Shidzuoka, Japan.

ТОРГОВАЯ и ФАРМАЦЕВТИЧЕСКАЯ ФИРМА

ТОМОДА и КО.

—(Основана в 1879 г.)—

Токио, Нихонбаси-ку, Хон-чо 4 чиоме.

Телефоны: Нихонбаси №№ 280, 281, 747, 748 и 749.

Производство и продажа единственного средства для
быстрого и верного излечения гонорей-триппера

„УРАЛГОЛ“

Подробная литература по требованию высылается бес-
платно.

Патентованные медицинские и химические препараты,
аптекарская стеклянная посуда, гигроскопическая вата
и бандажи разные.

Лаборатория : Токио, Минами-Синагава, № 1114.

Телефон: № 1256.



Общество непосредственного экспорта
Японского чая.

„Нихон-ча Чоку-юсюцу Кумиай“

ГЛАВНАЯ КОНТОРА: г. Сидзуока, Кита-банчо 75.

THE JAPAN TEA DIRECT
EXPORTING COOPERATION

Shidzuoka-shi, Kita-bancho 75.

ТОРГОВАЯ  МАРКА

ТОХО СУЙСАН КАБУСИКИ КАЙША

ДОБЫЧА МОРСКИХ ПРОДУКТОВ - - -

- - - И ПРОИЗВОДСТВО КОНСЕРВОВ.

Главная контора : Хакодате, Нисихама-чо.

東邦水産株式会社

水産業・罐詰業

本社所在 函館市西濱町